

教育課程

(履 修 要 項)

(令和7年度)



SEITOKU

聖徳大学

教育課程(履修要項)(令和7年度) 聖徳大学

目次

はじめに

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 教育課程の使い方 | 1 |
| 2. 学習の流れと履修にあたっての注意事項 | 1 |

聖徳大学

- | | |
|---------------------------|---|
| 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) | 5 |
| 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) | 6 |
| 入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー) | 7 |

I 全学共通科目

II 教育学部

① 児童学科 全学共通科目(A類)履修要項、配当表

- | | |
|-------------------------------------|----|
| 児童学科 全学共通科目 履修要項 | 16 |
| 聖徳教育科目配当表(別表Ⅱ-1) | 17 |
| 教養科目配当表(別表Ⅱ-2) | 17 |
| 外国語科目配当表(別表Ⅱ-3) | 18 |
| 健康教育科目配当表(幼稚園教員、保育士、医療保育コース)(別表Ⅱ-4) | 19 |
| 健康教育科目配当表(児童心理コース、児童文化コース)(別表Ⅱ-5) | 19 |
| 情報活用科目配当表(別表Ⅱ-6) | 19 |
| 帰国子女科目配当表(別表Ⅱ-7) | 19 |

② 児童学科 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)

- | | |
|----------------------|----|
| 児童学科 幼稚園教員コース(別表Ⅱ-8) | 21 |
| 保育士コース(別表Ⅱ-9) | 29 |
| 児童心理コース(別表Ⅱ-10) | 37 |
| 児童文化コース(別表Ⅱ-11) | 45 |
| 医療保育コース(別表Ⅱ-12) | 53 |
| ピアヘルパー受験資格(別表Ⅱ-13) | 60 |

③ 教育学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表

- | | |
|--------------------------------------|----|
| 教育学部 全学共通科目 履修要項 | 61 |
| 聖徳教育科目配当表(別表Ⅱ-14) | 62 |
| 教養科目配当表(別表Ⅱ-15) | 62 |
| 専門基礎科目配当表(別表Ⅱ-16) | 63 |
| 外国語科目配当表(別表Ⅱ-17) | 63 |
| 健康教育科目配当表(小学校教員養成、特別支援教育コース)(別表Ⅱ-18) | 64 |
| 健康教育科目配当表(スポーツ教育コース)(別表Ⅱ-19) | 64 |
| 情報活用科目配当表(別表Ⅱ-20) | 64 |
| 帰国子女科目配当表(別表Ⅱ-21) | 64 |

② 教育学部 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)

- | | |
|-------------------------|----|
| 教育学部 小学校教員養成コース(別表Ⅱ-22) | 66 |
| 特別支援教育コース(別表Ⅱ-23) | 72 |
| スポーツ教育コース(別表Ⅱ-24) | 78 |
| 特別支援学校教諭免許状関係科目(別表Ⅱ-25) | 83 |

III 心理・福祉学部

① 心理・福祉学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表

- | | |
|--------------------------|----|
| 心理・福祉学部 全学共通科目 履修要項 | 91 |
| 聖徳教育科目配当表(別表Ⅲ-1) | 92 |
| 教養科目配当表(別表Ⅲ-2) | 92 |
| 外国語科目配当表(別表Ⅲ-4) | 94 |
| 健康教育科目配当表(心理学科)(別表Ⅲ-5) | 95 |
| 健康教育科目配当表(社会福祉学科)(別表Ⅲ-6) | 95 |
| 情報活用科目配当表(別表Ⅲ-7) | 95 |
| 帰国子女科目配当表(別表Ⅲ-8) | 95 |

② 心理・福祉学部 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、
カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)

心理学科 (別表Ⅲ－9)	97
社会福祉学科 社会福祉コース(別表Ⅲ－10)	104
社会福祉学科 介護福祉コース(別表Ⅲ－11)	113
社会福祉学科 養護教諭コース(別表Ⅲ－12)	121
教職課程履修について 高等学校一種免許状(福祉) (別表Ⅲ－13、14)	129
教職課程履修について 養護教諭一種免許状 (別表Ⅲ－15、16)	130

IV 文学部

① 文学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表

文学部 全学共通科目 履修要項	135
聖徳教育科目配当表 (別表Ⅳ－1)	136
教養科目配当表 (別表Ⅳ－2)	136
専門基礎科目配当表 (別表Ⅳ－3)	136
外国語科目配当表 (別表Ⅳ－5)	137
健康教育科目配当表 (別表Ⅳ－6)	137
情報活用科目配当表 (別表Ⅳ－7)	138
帰国子女科目配当表 (別表Ⅳ－8)	138

② 文学部 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、
カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)

国際文化コミュニケーションコース (別表Ⅳ－9)	140
教職課程履修について 中学校教諭一種免許状、高等学校一種免許状(英語) (別表Ⅳ－10、11)	142
日本語・日本文学コース (別表Ⅳ－12)	148
教職課程履修について 中学校教諭一種免許状、高等学校一種免許状(国語) (別表Ⅳ－13、14)	150
歴史文化コース (別表Ⅳ－15)	156
教職課程履修について 中学校一種免許状(社会) (別表Ⅳ－16、17)	158
教職課程履修について 高等学校一種免許状(地歴) (別表Ⅳ－18、19)	159
書道文化コース (別表Ⅳ－20)	165
教職課程履修について 高等学校一種免許状(書道) (別表Ⅳ－21、22)	167
図書館情報コース (別表Ⅳ－23)	173
教養デザインコース (別表Ⅳ－24)	180

V 人間栄養学部

① 人間栄養学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表

人間栄養学部 全学共通科目 履修要項	190
聖徳教育科目配当表 (別表Ⅴ－1)	191
教養科目配当表 (別表Ⅴ－2)	191
専門基礎科目配当表 (別表Ⅴ－4)	192
外国語科目配当表 (別表Ⅴ－5)	192
健康教育科目配当表 (別表Ⅴ－6)	192
情報活用科目配当表 (別表Ⅴ－7)	192
帰国子女科目配当表 (別表Ⅴ－8)	193

② 人間栄養学部 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、
カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)

人間栄養学科 (別表Ⅴ－9)	195
教職課程履修について 中学校一種免許状、高等学校一種免許状(家庭) (別表Ⅴ－10、11)	197
教職課程履修について 中学校一種免許状、高等学校一種免許状(保健) (別表Ⅴ－12、13)	198
教職課程履修について 栄養教諭一種免許状 (別表Ⅴ－14、15)	199

VI 看護学部

① 看護学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表

看護学部 全学共通科目 履修要項	205
聖徳教育科目配当表 (別表Ⅵ－1)	206
外国語科目配当表 (別表Ⅵ－2)	206
情報活用科目配当表 (別表Ⅵ－3)	207
帰国子女科目配当表 (別表Ⅵ－4)	207
教養科目配当表 (別表Ⅵ－5)	207
学部共通科目配当表 (別表Ⅵ－6)	207

② 看護学部 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、履修モデル、
カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)

看護学科 (別表Ⅵ－8)	209
--------------	-----

Ⅶ 音楽学部

① 音楽学部 全学共通科目(A類)履修要項、配当表

音楽学部 音楽学科 全学共通科目 履修要項	218
聖徳教育科目配当表 (別表Ⅶ-1)	219
教養科目配当表 (別表Ⅶ-2)	219
外国語科目配当表 (別表Ⅶ-3)	220
健康教育科目配当表 (別表Ⅶ-4)	221
情報活用科目配当表 (別表Ⅶ-5)	221
帰国子女科目配当表 (別表Ⅶ-6)	221

② 音楽学部 音楽学科 専門教育科目(B類)履修要項、配当表、 カリキュラムマップ、学びで得られる成果(Learning Outcomes)

音楽学科 (別表Ⅶ-7)	223
音楽療法士(1種)資格取得に関する科目配当表(別表Ⅶ-8)	226
認定音楽療法士受験資格に関する科目配当表(別表Ⅶ-9)	227
教職課程履修について 中学校教諭一種免許状(音楽) 高等学校一種免許状(音楽)(別表Ⅶ-10、11、12)	228

Ⅷ 資格関係科目について

各種免許・資格関係課程の履修について	236
司書および学校図書館司書教諭関係科目配当表 (別表Ⅷ-1)	238
社会教育主事任用資格関係科目配当表 (別表Ⅷ-2)	239
学芸員関係科目配当表 (別表Ⅷ-3)	240
レクリエーション関係科目配当表 (別表Ⅷ-4)	241
日本語教員養成講座 (別表Ⅷ-5)	242

はじめに

この教育課程（履修要項）は、令和7年度に入学された学生の皆さんを対象に、履修にあたっての諸注意、履修の方法について説明が記載されています。本冊子は入学時に一度しか配布しませんので、紛失しないように大切に扱ってください。また、必要箇所については熟読し、理解を深めていただき、授業に臨んでください。

1. 教育課程の使い方

所属する学部・学科・コースの履修要項の指示に従い、該当の別表より履修する科目を確認してください。

別表の種類

別表は、次の3つに分類されます。

- (1) 全学共通科目（A類）＝聖徳教育科目・教養科目・（基礎専門科目）・外国語科目・健康教育科目・情報活用科目・（帰国子女科目）
- (2) 専門教育科目（B類）＝各学科・コースに設置された専門教育科目
- (3) 教職・資格関係科目＝免許・資格を取得するための科目で、原則として、卒業単位数に含まれない科目

特に（1）、（2）については必修科目（卒業する為に必ず履修しなければならない科目）や選択必修科目（卒業するために、必ず決められた条件により必要な単位数を修得しなければならない科目）が多数含まれているので履修にあたってはよく確認してください。

2. 学習の流れと履修にあたっての注意事項

みなさんの年間の学習の流れをここに分かりやすくまとめました。併せて学生便覧の「学習について」の項目も熟読して学習に取り組んでください。

学期	春学期												秋学期										
項目	入学・新学年	⇒	春学期授業開始	⇒	履修登録・確認	履修取消	⇒	課程登録	⇒	試験	⇒	成績発表・追再試	⇒	秋学期授業開始	⇒	履修登録・確認	履修取消	⇒	試験	⇒	成績発表・追再試	⇒	進級・卒業
時期			4月上旬		4月下旬	5月10日		6月中		7月下旬		8月下旬		9月下旬		10月下旬	11月10日		1月下旬		3月中旬		3月下旬

①学期

1年間の学期は、春学期（4月～9月末）・秋学期（9月末～3月末）の2学期に分かれ、それぞれの学期で授業期間、定期試験期間などが設定されています。本学で設置されている科目は、一部の通年科目を除いて春学期・秋学期の学期毎に開講されています。授業期間や行事等は「学生便覧」の学事日程で確認しておいてください。

②単位制と単位認定について

大学では、単位制が採用されています。単位制とは一定の学習量を単位として表わし、所定の期間で量的修得を卒業の判定基準とする方式です。各授業科目の単位修得の認定は、一定時間以上の

授業に出席し、かつ、科目担当教員の試験等に合格したものにその単位が与えられます。授業科目の授業方法や修得できる単位数については各自別表で確認してください。

授業科目を履修し、試験を受けると、成績の評価がなされます。成績評価は、100点を満点として60点以上（S・A・B・C評価）の場合には合格として所定の単位が与えられます。

③授業時間について

授業時間は90分を1授業時間として行われます。実験・実習・実技科目等の中には135分で行われるものもあります。

④履修登録

授業科目を履修するためには、各学期始めに必ず履修登録を行わなければなりません。登録をしなかった科目については、単位の修得は認められません。なお、履修年次配当で自分の学年より上級年次に配当されている科目は履修できません。

また、一度履修登録をした科目を他の科目に変更することは、原則として認められません。履修登録の方法については学期開始時にお知らせをいたします。

⑤履修取消について

履修取消のみ指定期間内に限り認めます（春学期：5月10日まで 秋学期11月10日まで いかなる理由であっても上記期間を過ぎた取消は認められません）。履修登録に際しては、慎重に履修計画をたてて臨むようにしてください。

⑥再履修について

前年度履修科目において不合格になった科目を翌年度以降に再度履修することを再履修といい、その年度にあらためて履修することが出来ます。登録方法は、「再履修許可願」を提出するとともに、履修登録をする必要があります。具体的な手続きについては各学期開始時に指示があります。

なお、再履修科目と必修科目の受講時間が重なる場合は、各学科の教務委員の先生または教育支援課に相談してください。

⑦履修登録の上限

各年次において履修登録できる単位数は、1年間で40単位を上限とします。ただし、教員免許状及び諸資格を取得する場合は、1年間で40単位を超えて履修登録することができます。

⑧進級基準について

2年次から3年次へ進級するには、卒業要件単位数のうち、以下に記載する単位を修得しなければなりません。成績表で修得単位数を必ず確認してください。

進級基準

2年次から3年次への進級

修得単位数	卒業要件単位数が50単位以上であること。
修得科目の要件	①聖徳教育Ⅲ（SEITOKU Academic Literacy I、SEITOKU Academic Literacy II）を修得していること。 ②人間栄養学部学生にあつては、①に加えて2年次までに修得すべき専門基礎分野および専門分野の卒業必修科目のうち、未修得科目が10科目以内であること ③看護学部学生にあつては①に加えて2年次までに修得すべき専門科目のうち、公衆衛生看護学総論を除く原論・総論の7科目及び実習4科目のうち1科目を修得していること。

⑨卒業要件について

卒業には次の要件を満たす必要があります。

- (1) 4年以上在学していること。（休学期間は含まれません。）
- (2) 卒業に必要な授業科目及び単位数を修得していること。
- (3) 本学で必須と定めた学校行事に参加する等の条件をみたしていること。
- (4) 授業料等校納金を完納していること。

この冊子に出てくる用語について解説します。

(出典 大学ポートレート、高等教育に関する質保証関係用語集 より)

・アクティブラーニング

教員による一方向的な講義形式の教育ではなく、学生の能動的な学習への参加を取り入れた学習方法です。例えば、グループ・ディスカッションやディベート、グループ・ワークなどを取り入れた授業のことです。学習者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図ります。

・アセスメント・テスト

ペーパーテスト等の直接評価により学生の知識、技能、態度等を測定する方法の総称。学習到達度を測る他の調査を組み合わせるなどして実施され、結果は教育効果や課題の確認に用いられる。また、学生個人の学習指導等に活用される場合もある。

・アドミッションポリシー

入学者の受入れ方針です。どのような学生を受け入れて、どのような教育を行い、どのような人材として社会に送り出すかは、大学の個性・特色の根幹ですが、アドミッションポリシーは、どのような学生を受け入れるかという方針です。大学やその学部等が、どのような教育活動を行い、また、どのような能力や適性等を有する学生を求めているのかなどの考え方をまとめたものであり、入学者の選抜方法や入試問題の出題内容等にはこの方針が反映されています。

・学習成果

学生が、授業科目、プログラム、教育課程等における所定の学習期間終了時に獲得し得る知識、技術、態度等の成果を指す。学位授与の方針において、具体的で測定可能な学習成果を定め、学習成果を評価し、その結果を公表することによって、大学の社会に対する説明責任が高まると考えられている。

卒業率、共通テストの成績、学生の満足度、学生による自己評価、就職率・進学率等によって、教育プログラムに関する学習成果を測定している。

・カリキュラムポリシー

教育課程編成・実施の方針です。どのような学生を受け入れて、どのような教育を行い、どのような人材として社会に送り出すかは、大学の個性・特色の根幹ですが、カリキュラムポリシーは、どのような教育を行うかという方針です。各大学が、カリキュラムポリシーを明確にすることで、教育課程の改善を図っていくことが求められています。

・コンピテンシー

知識や技能を有することに加えて、様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求(課題)に対応することができる力を指すことが多い。

・ディプロマポリシー

学位授与の方針です。どのような学生を受け入れて、どのような教育を行い、どのような人材として社会に送り出すかは、大学の個性・特色の根幹ですが、ディプロマポリシーは、どのような人材として社会に送り出すかという方針です。各大学が、ディプロマポリシーを明確にすることで、大学のいわゆる「出口管理」の強化を図っていくことが求められています。

・ポートフォリオ

学生が授業で作成したレポートや論文、課題達成のために収集した資料や成績表などの学修成果と、学修の過程において学んだ点や気付いた点などを記録していくものです。学期毎に自分が履修した授業の記録を残し、学期末に自分自身の成長を振り返って来学期の目標を立てるといように活用したり、大学における学修の記録をすべて残しておき、大学で何を学んだか、そのときにどのようなことを考えたかなどを振り返ることで、就職活動のときに、自分自身を振り返るために活用されます。

・ルーブリック

「学生が何を学習するのか」または「学習活動に応じた学習目標」を縦軸(評価規準)に置き、それに対し「学生が到達しているレベルを示す特徴を記述したもの」を数段階にわけて横軸(評価基準)に置き、マトリクスにしたものを使って学生の学習成果を評価する方法です。アメリカで開発された学習成果の評価方法の一つです。テストによる学習成果の評価では、知識や理解度は評価できますが、思考・判断、関心・意欲、態度、技能・表現については評価しづらかったために、このような評価方法が導入されています。あらかじめ評価の基準が示されていることから、評価する側と評価される側の認識が共有される、複数の評価者による評価のズレを防ぐことができるなどの長所があります。大学では、例えば、レポートの評価、学生の活動や作品・演出・実験の評価、プレゼンテーションやグループ活動の評価などで活用されることがあります。アメリカでは、複数の大学間で共通に活用することが可能な評価指標の開発が進められています。

聖徳大学

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

聖徳大学は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学は、この理念を社会に創造的に活かしながら、常に新しい教育に挑戦するとともに、時代を超えて求められる多様な他者への尊敬と共感を大切にする人間性を備えた女性を様々な世界に輩出しています。

現代社会は、政治・経済・文化のグローバル化が進み、個人・社会の価値観が多様化・複雑化し、きわめて多くの複合的な問題に直面しています。このような変化の激しい社会において、人間の尊厳を見失わず、自ら新たな問いを立て多様な他者と協働しながら新たな価値を生むための力の育成が求められています。

聖徳大学は、時代をリードする教育改革を進め、互いの価値観を共感的に受け止める確かな人間性、グローバルかつローカルな視点と学際的な洞察力、社会で発揮できる専門性の高い実践力をもつ人を着実に育成し、調和ある社会の発展に貢献しています。

聖徳大学は、上記の教育理念に基づいて、以下の四つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 他者を思いやる協調性ととともに、凜として生き抜いていくための確かな人間性を育成する。
2. 自己分析力、論理的思考力、自己管理能力を活かし、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力と多面的な問題発見・解決力を育成する。
3. 専門分野に関する理論・知識・技能を修得し、理論と実践を結びつけて社会で発揮できる専門性の高い実践力を育成する。
4. グローバルな視野を備え地域で活躍できる専門性の高い実践力を発揮して、自分なりの価値を見だし、自らの意思で一步を踏み出すことのできる女性を育成する。

聖徳大学では、こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学習成果】

1. 一流の文化・芸術がもつ普遍性と固有性を感受し、グローバルで多様な価値を受け止めることができる。
2. 思いやりと慎みの心をもって相手の立場に立ち、集団の中で自立した行動をとることができる。
3. 自己や事象を客観的かつ論理的に考察することができ、自己の生き方をデザインすることができる。
4. 個別学問領域を超えたアイデアや洞察力を活かし、自己の確立を図ることができる。
5. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学び、理論と実践を結びつけて主体的に課題を解決することができる。
6. 専門領域に関わる理論と知識と技能を結びつけて、グローバルかつローカルな視点をもって、多様な実際的かつ実践的な問題や課題に主体的に、かつ協働して取り組むことが

できる。

聖徳大学では、以上の学習成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

聖徳大学では、学習成果を体系的に達成するために、全学共通科目と専門教育科目の教育課程を以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

I 全学共通科目

全学共通科目は、「聖徳教育科目」、「教養科目」、「外国語科目」等から構成しています。

「聖徳教育科目」は「小笠原流礼法基礎講座」と「聖徳教育」から編成し、聖徳学園の建学の精神「和」に基づいた本学独自の人間教育を目的とし、確かな人間性を育成します。

「教養科目」は、文化、社会、自然、身体・精神などに関わるグローバルかつ複合的な諸現象や多様な問題状況に向き合い、個別学問領域を超えたアイディアや学際的かつ多面的な洞察力と学術を総合した問題解決力を育成します。

「外国語科目」等は外国語および的確な情報によるコミュニケーション・スキルを育成し、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を育成します。

II 専門教育科目

学科の教育目的を達成するために専門性の高い実践力を育成する教育課程を編成しています。その編成は次の基本方針に基づいています。

1. 学科の専門性を習得するために不可欠な学術的な基礎力を育成します。
2. 現代的課題に対応した専門的理論と知識を学び、問題・課題解決のための基礎力を育成します。
3. 充実した演習・実習科目を設定し、実際場面における問題・課題解決を通して実践力を育成します。
4. 専門職業人として自立し、優れた感性と表現力、柔軟な思考力と行動力を備え、卒業後の現場で生きる専門性の高い資質・能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

全学科において、全学共通科目と専門教育科目の学習成果を効果的に達成するために、授業計画（シラバス）を作成して以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 「到達目標」、「学習成果」、「評価の要点」を明示し、実施しています。
2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び他の授業科目との関連を明示しています。
3. 授業方法として能動的な学び（アクティブ・ラーニング）を導入し、深い学びを促進しています。
4. 毎時間の「身につく資質・能力」と「予習・復習」時間を明記し、その実施を促進しています。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

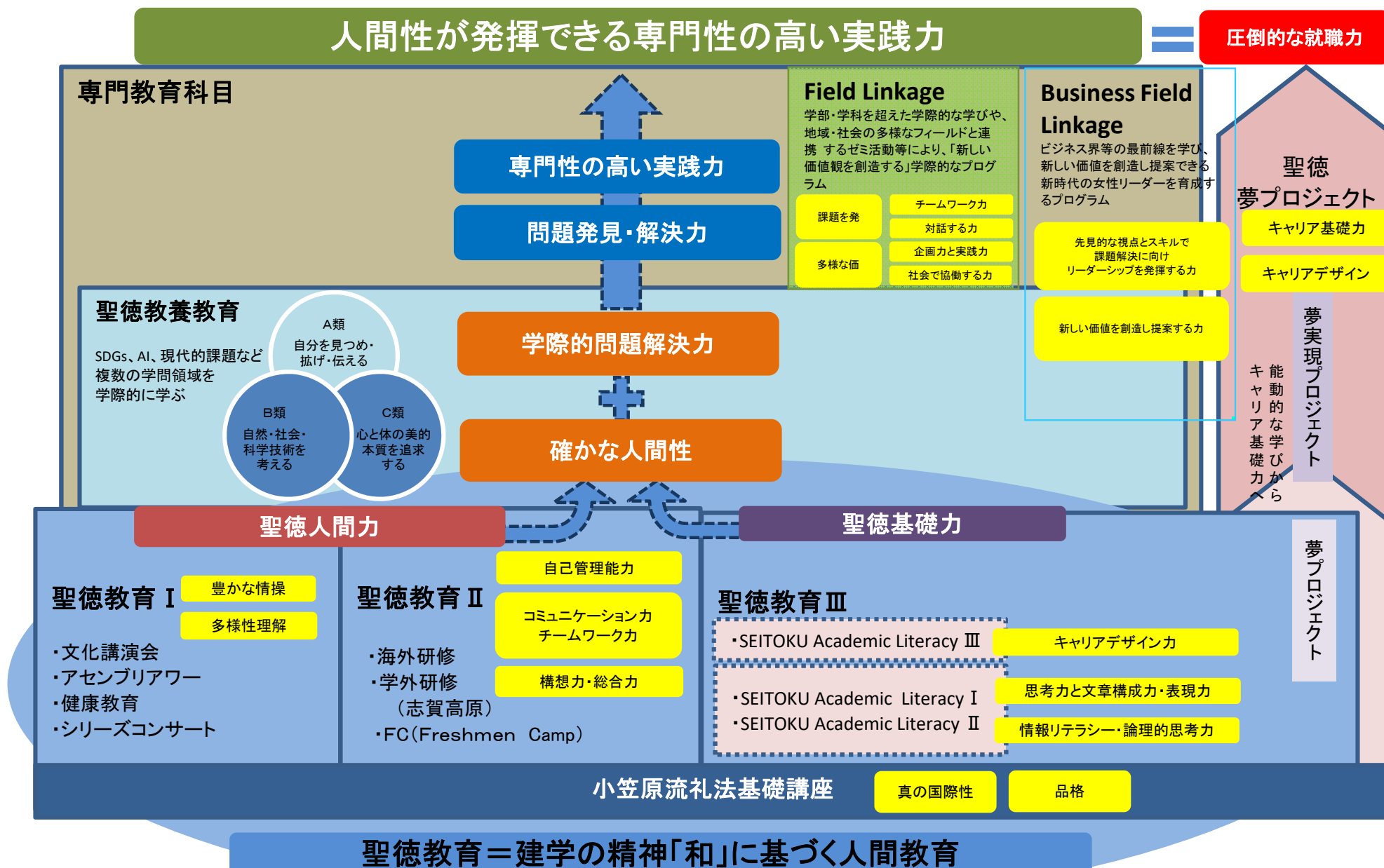
聖徳大学は、総合大学という特質を活かして、変化の激しい社会を生き抜いていくための確かな人間性、どのような社会であっても不可欠な自己分析力、論理的思考力、自己管理能力、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力と多面的な問題発見・解決力、そしてそれらを発揮して主体的にかつ協働して課題に取り組める、社会で発揮できる聖徳ならではの専門性の高い実践力をもつ人の育成を目指しています。

聖徳大学はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような人を求めています。

1. 学びを通して、自己の成長を実現したいという強い意欲をもっている人。
2. 学びを通して、社会に貢献する夢をもっている人。
3. 学内外に必要なコミュニケーション力などの基礎を備えている人。
4. 授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことができる人。

聖徳大学ではこのような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、各学科での学習に必要な技能、知識、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、実技試験、学力試験、面接などを組み合わせ総合的に評価します。

聖徳大学の教育プログラムと学びで得られる成果 (Student Learning Outcomes)



教育学部 児童学科

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

現代社会は急速な変化を続けており、乳幼児の成長に関する新たな問題が次々と生じています。乳幼児に関する深い知識や技能をもち、創造的な思考力等を身につけ、他と協働しながら様々な問題を解決できる力量が今日求められています。

聖徳大学では「保育の聖徳®」として主に幼稚園教諭・保育士の養成に全国トップクラスの実績をあげ日本の幼児教育の発展に寄与してきました。教育学部児童学科は、乳幼児をはじめとする子どもを多面的に研究する児童学をベースに、今後さらなる発展を目指します。乳幼児を取り巻く環境や、乳幼児の発達などの側面に光を当てながら、乳幼児やその保護者などから信頼される豊かな人間性と専門性の高い実践力を備えた人材の育成を目指して、次のような目標を掲げ教育を行います。

【教育目標】

1. 芸術や文化に関する教養を深め、礼節や思いやりをもって多様な価値観を受け入れられる人間性を育成する
2. 児童学の学びを通して、乳幼児の可塑性に富んだ活動に対応できる専門的な知識及び技能、豊かな創造性を育成する。
3. 高いコミュニケーション・スキルやリーダーシップ等を発揮し、他と協働しながら様々な問題に対応し解決できる実践力を育成する。

【学習成果】

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

1. 礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって乳幼児に接するとともに、自律的に学び続けながら教育・保育の発展に貢献することができる。
2. 乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、乳幼児に関する情報を分析し、論理的かつ創造的に考えることができる。
3. 身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で乳幼児とコミュニケーションを取るとともに、他者と協働しながら様々な問題に対して主体的に問題解決することができる。

以上の学習成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、学士（児童学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

教育学部児童学科は、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 学科共通科目群
 - (1) 児童学の学びを通して、乳幼児の多面的な活動に対する理解を深め、具体化するための技能を身につけます。

- (2) 学問的背景をふまえた折り紙や手遊び、ピアノなど多彩な表現力や教材作成の技能を身につけた上で実習を通して教育現場が求める実践力を磨きます。
- (3) 4年間の学び、そして卒業後の活躍を具体的にデザインするとともに、乳幼児及びその周辺に関する問題について、3年次ゼミ、4年次の卒業研究ゼミを通して専門的な問題解決力を高めます。

2. 学科専門科目群

(1) 基盤科目群

児童学に関わる基礎的教育のカリキュラムにおいて、講義・演習・実習等多様な形態の授業を通して、子どもについて「保育・教育」「心理」「健康」「文化」「福祉」等の視点から探求するために必要な知識と技能を修得します。

(2) 免許・資格取得者必修科目群

保育・幼児教育に関する理論を多角的観点から学び、さらに附属幼稚園や保育所をはじめとする乳幼児教育実践の場に臨み、子どもとその保護者をめぐる環境、社会、文化、および保育実践等について理論と実践の往還的な学びを深めます。

(3) 選択型専門プログラム群

グローバル、ダイバーシティ、サステナブルなど現代社会のニーズに合わせた様々な視点で子どもを見る力を身につけるため、多様な専門領域に深く特化したプログラムを選択し履修します。これによって、高い専門性に支えられた実践力や課題解決力及びリーダーシップを身につけます。

【教育課程実施の方針】

1. 学生が自ら主体的に学ぶ授業を展開するとともに、小集団での協働の学びを通して、学習成果の向上を図ります。
2. ルーブリック評価を導入し、評価結果を教員と学生で共有しながら学びを改善・充実します。
3. 幼児教育実習・保育実習では、本学教員並びに附属幼稚園教諭等による事前・事後指導を実施し、教育課題に即応できる実践力の向上を図ります。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

教育学部児童学科では、乳幼児に関わる専門的な実践力をもち、主体的に地域社会に貢献できる人材を育成するために、次のような能力をもつ入学者を求めています。

1. 乳幼児の成長や発達に関心があり、乳幼児及びその保護者の心に寄り添うことができる人。
2. 自分を見つめ、自己の課題に向き合い、よりよい自分になるよう努力する人。
3. 心身ともに健全で、乳幼児や保護者、地域の人などと積極的に交流するとともに、各種実習等を継続できる人。
4. 学科における専門教育を学べる素養を備えた人。

教育学部児童学科では、このような人を受け入れるために多様な受験機会を用意し、様々な入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学習に必要な意欲や学力、コミュニケーション力、課題解決力などについて、書類審査、作文や小論文、学力試験、面接などを多面的に組み合わせて総合的に評価します。

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の獲得状況を測る
手法と測定時期

自己評価

他者評価

学外研修ルーブリック	1春・夏、3秋
児童学科DPルーブリック	各学年春・4秋
実習ルーブリック	各実習後
各科目の振り返りシート	毎学期末
卒業論文・卒業研究ルーブリック	4 秋
豊かな乳幼児観を育む科目群のGPA	毎学期末
実習評価表	各実習後

卒業時に身に付く学習成果

1. 礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって乳幼児に接するとともに、自律的に学び続けながら教育・保育の発展に貢献することができる。

実習ルーブリック	各実習後
児童学科DPルーブリック	各学年春・4秋
各科目の振り返りシート	毎学期末
卒業研究・卒業論文ルーブリック	4 秋
乳幼児の心とからだの成長と発達を学ぶ科目群のGPA	毎学期末
実習評価表	各実習後

2. 乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、乳幼児に関する情報を分析し、論理的かつ創造的に考えることができる。

学外研修ルーブリック	1春・夏、3秋
児童学科DPルーブリック	各学年春・4秋
実習ルーブリック	各実習後
各科目の振り返りシート	毎学期末
卒業研究・卒業論文ルーブリック	4 秋
豊かな表現方法を学ぶ科目群のGPA	毎学期末
実習評価表	各実習後

3. 身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で乳幼児とコミュニケーションを取るとともに、他者と協働しながら様々な問題に対して主体的に問題解決することができる。

教育学部 教育学科

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

近年、学校や社会においては、高い専門性と豊かな人間性をもち、グローバル化と情報通信技術（ICT）の急速な発達による 社会の変化に対応する現場実践力を発揮できる人材が求められています。

教育学部教育学科は、学校や社会におけるこのような期待に応え、多様な子どもの発達を支援できる「教育学の理論と教科の専門性」、「高い英語指導力と ICT 活用能力」、「子どもの心身の発達に関する 科学的洞察力」、「多様性を有する 集団の中でリーダーシップを発揮できる力」を備えた教育者・指導者を育成します。

そのため、教育学部教育学科は、「小学校教員養成コース」「特別支援教育コース」「スポーツ教育コース」の 3 コースとし、教育学、特別支援教育学、スポーツ諸科学等をベースに、高い専門性と豊かな人間性を基盤とした現場実践力を備えた人材の育成を目指して教育を行います。

【教育目標】

1. 教育学の理論と教科の専門性、高い英語指導力と ICT 活用能力を修得することにより、グローバルかつローカルな視点に立った問題解決力と現場実践力を育成する。
2. 子ども の心身の発達に関する 科学的洞察力を修得することにより、子ども 一人ひとりの可能性を支援する現場実践力を育成する。
3. 多様性を有する集団の中でリーダーシップを発揮できる力を 修得することにより、思いやりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築く豊かな人間性を育成する。

【学習成果】

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

1. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学習した結果として、理論と実践を結びつけ、課題を主体的に解決し、現場実践力を発揮することができる。
2. 子ども の心身の発達に関する科学的洞察力を修得した結果として、グローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。
3. 多様性を有する集団の中でリーダーシップを発揮する力を修得した結果として、思いやりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築くことができる。

以上の学習成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した者に、卒業を認定し、学士（教育学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程編成の方針】

教育学部教育学科は、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目で教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 学科共通科目群

- (1) 教育学、特別支援教育学、スポーツ諸科学等の学びを通して、子どもの多面的な活動を理論的に深め、かつそれを具体化するための技能を身につけます。
- (2) 最新の理論と実践を踏まえた知識と技能並びに現場実践力を、演習および実習を通して磨きます。
- (3) 4年間の学びを、卒業後の活躍を具体的にデザインしながら、3年次ゼミと4年次の卒業研究ゼミを通して卒業研究としてまとめ、専門性を基盤とした高い問題解決力にまで高めます。

2. コース別専門科目群

(1) 小学校教員養成コース

中学校・高等学校等との系統性を重視し、高い英語指導力と情報通信技術（ICT）を活用できる教科指導力を身につける教育課程を編成します。また、3、4年次には教科等を選択して専門性を深めます。さらに、各教科等の内容と指導方法に加え、附属小学校での観察実習や公立小学校での教育実習を通して、高い授業力と教育課題を解決できる現場実践力を身につけます。

(2) 特別支援教育コース

通常学級に在籍する子どもを含め障害のある子どもを理解し、保護者に信頼され、地域社会と連携しながら適切に指導・支援ができる専門的な実践力を身につける教育課程を編成します。各種の障害についての理論と指導方法に加え、特別支援学校での実習を通して、高い授業力と教育課題を解決できる現場実践力を身につけます。

(3) スポーツ教育コース

子ども達にスポーツの楽しさを伝える実践力を身につけるとともに、資格・免許取得の可能な教育課程を編成します。ジュニア期（幼児期～児童期）の発育発達に応じた運動遊びやスポーツ指導に関する理論や技術を学び、児童期から生涯にわたる健康づくりを通して地域に貢献できる現場実践力を身につけます。

【教育課程実施の方針】

1. 学生が自ら主体的に学ぶ授業を展開するとともに、学生がともに学び合う対話的な授業を通して、学びの質的な向上を図ります。
2. ルーブリック評価を導入し、評価結果を教員と学生で共有しながら学生の学びを改善・充実します。
3. 教員免許取得に係る教育実習では、本学教員並びに関係諸機関の教員・指導者による事

前・事後指導を実施し、教育課題に即応できる現場実践力の向上を図ります。また、スポーツ系資格取得に係る現場実習では、本学教員並びに関係諸機関の指導者による指導を実施し、スポーツ現場の課題に即応できる現場実践力の向上を図ります。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

教育学部教育学科では、子どもに関わる専門性を基盤とした実践力をもち、地域社会に貢献できる人材を育成するために、次のような能力をもつ入学者を求めています。

1. 子どもの成長や発達に関心があり、子どもの心に寄り添うことができる人。
2. 自己の人間性や教養を高め、調和ある社会の発展に貢献しようとする人。
3. 心身ともに健全で、子どもや保護者、地域の人などと積極的に交流するとともに、教育実習等を継続できる人。
4. 学科における専門教育を学べる素養を備えた人。

教育学部教育学科では、このような人を受け入れるために多様な受験機会を用意し、様々な入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学習に必要な意欲や学力、コミュニケーション力、課題解決力などについて、書類審査、作文や小論文、学力試験、面接などを多面的に組み合わせて総合的に評価します。

教育学部 教育学科

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の獲得状況を
測る手法と時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

各科目の振り返りシート	毎学期末
実習ルブリック	各実習後
教職履修カルテ	毎学年末
卒業研究ルブリック	4每学期末
教育学の基礎を探究する科目群GPA	毎学期末
各コースの専門力・実践力を身に付ける科目群GPA 【小学校教員養成コース】魅力ある授業づくりと学級経営力を身に付ける 【特別支援教育コース】魅力ある授業づくりと学級経営力を身に付ける 特別支援教育を推進する専門力を身に付ける 【スポーツ教育コース】多様なスポーツ活動に対応できる資質を高める	毎学期末
現場実践力を養う科目群GPA	各実習後

1. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学習した結果として、理論と実践を結びつけ、課題を主体的に解決し、現場実践力を発揮することができる。

各科目の振り返りシート	毎学期末
教職履修カルテ	毎学年末
卒業研究ルブリック	4每学期末
子どもの心身の発達を学ぶ科目群GPA	毎学期末
学びの基礎力を身に付ける科目群GPA	毎学期末
キャリア・アセスメントテスト	3春

2. 子どもの心身の発達に関する科学的洞察力を修得した結果として、グローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

学外研修ルブリック	学外研修後
実習ルブリック	各実習後
卒業研究ルブリック	4每学期末
人間性を高める科目群GPA	毎学期末

3. 多様性を有する集団の中でリーダーシップを発揮する力を修得した結果として、思いやりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築くことができる。

教育学部 児童学科 全学共通科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、下表のとおりです。

コース名	全学共通科目 (A類)	専門教育科目 (B類)	計
幼稚園教員コース	30単位	94単位	124単位
保育士コース	30単位	94単位	124単位
児童心理コース	30単位	94単位	124単位
児童文化コース	30単位	94単位	124単位
医療保育コース	30単位	94単位	124単位

- ② 全学共通科目 (A 類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

全 学 共 通 科 目 (A類)				
聖徳教育 科目	教養科目、及び外国語科目	健康教育 科目	情報活用 科目	計
7	20	2	1	30

- ③ 全学共通科目 (A 類) については、別表Ⅱ－1、2、3、4、5、6、7のとおり履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目 (別表Ⅱ－1) はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目 (別表Ⅱ－2) は12単位以上が必修です。1年次秋学期から開講しますので、各学期2科目程度を、A類～C類まで一つの群に集中することなくバランスよく履修してください。D類の「日本国憲法」は、教員免許状・保育士資格を取得する者は必修です。
- ⑥ 外国語科目 (別表Ⅱ－3) は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ (4単位) 及び選択外国語として、英語、フランス語、ドイツ語のうち1ヶ国語 (4単位)、計8単位以上を修得してください。
- ⑦ 健康教育科目 (別表Ⅱ－4、Ⅱ－5) は、コースごとに別表Ⅱ－4または別表Ⅱ－5の欄外の受講区分に従い履修してください。
- ⑧ 情報活用科目 (別表Ⅱ－6) は別表Ⅱ－6の受講区分に従い履修してください。
- ⑨ 単位を修得した場合 (成績表にS・A・B・Cと表記される) には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類)

聖徳教育科目

別表Ⅱ-1

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	小笠原流礼法基礎講座		2	○		●	●						● 春学期または秋学期に開講 △ 聖徳教育の詳細については、学生便覧を参照すること。
☐	聖徳教育Ⅰ		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅱ	演	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅠ)		1	○	○								
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅡ)	演	1	○		○							
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅢ)	演	1	○			●	●					
	計		7										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教養科目

別表Ⅱ-2

チェック欄		授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	A 類	自分を見つめ・広げ・伝える(芸術領域)		2			○	○	○					△ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。(外国語は8単位以上必修)
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文学領域)		2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(歴史領域)		2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅰ)		2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える (文化領域Ⅱ・インターンシップ)	演	2						○	○			
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(看護領域)		2				○	○	○				
☐	B 類	自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			○	○	○					△ 教養科目は表中のA類、B類、C類 各類から1科目以上履修すること。
☐		自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(健康領域)		2			○	○	○					
☐	C 類	心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			○	○	○					△ 同じ科目(領域)を重複履修することはできません。
☐		心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)		2			○	○	○					
☐	D 類	日本国憲法		2		●	●							△ 日本国憲法は 教育職員免許状及び保育士資格を取得する者は必修。
		計		34										

Business Field Linkageプログラム

チェック欄	区分	授業科目	授業の方法	単 位	副 専 攻 必 修	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	共通	ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅠ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	●	●	●	●	●	●			
☐		アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	●		●		●		●		
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅠ		2				●		●				
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					●		●			
☐	価値増幅型 マネジメント副専攻	キャリア教育関連科目※												
☐		現代社会におけるビジネスリテラシー		2		●	●	●	●					
☐		法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			●		●					
☐		就活にも役立つメディアリテラシー		2		●		●						
☐		戦略的ビジネスマネジメント		2				●		●		●		
☐	グローバル人材育成 副専攻	AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		●	●	●	●	●	●			
☐		世界のニュースを読み解く ～国際社会問題を知る～		2				●		●		●		
☐		グローバルコミュニケーション		2				●		●		●		
☐		Practical English CommunicationⅠ		2			○							
☐		Practical English CommunicationⅡ		2					○					
☐	ビジネス 再生・創生 副専攻	Practical English CommunicationⅢ		2						○				
☐		新時代のリーダーシップデザイン		2			●		●					
☐		戦略的ビジネスプランニング		2		●		●		●		●		
☐		顧客価値を創出するマーケティング		2			●		●		●		●	
☐		SDGsを実現するGX&SXの基本		2			●		●		●		●	
☐	ビジネス・データ サイエンス 副専攻	WEBテクノロジーの基礎と応用		2			●		●		●		●	
☐		文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			●		●					
☐		ビジネス・データサイエンスⅠ		2		●		●		●				
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～1		2			●		●		●			
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～2		2		●	●	●	●	●	●	●	●	
☐	社会活性化・ 価値創造	ビジネス・データサイエンスⅢ		2			●	●	●	●	●	●		
☐		地域社会の価値を創造する実践論		2			●		●					
☐		行政の役割を体験するインターンシップ		2			●		●					
☐		行政の理解と試験対策		2			●		●		●			
☐		起業(事業創造)に向けた実践論		2			●		●		●			

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。

(但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ～1、Ⅱ～2、Ⅲ」及び「Practical English CommunicationⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は除く)

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。

※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。

修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件：①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

外国語科目

別表Ⅱ-3

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1	2	3	4					
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋					
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○							△ 外国語科目については、卒業必修科目として英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ(4単位)及び選択外国語として(英語Ⅴ～Ⅷ、フランス語Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語Ⅰ～Ⅳ)のうち1か国語(4単位)、計8単位以上必修。	
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	英語Ⅲ	演	1	○			○						
☐	英語Ⅳ	演	1	○				○					
☐	英語Ⅴ	演	1						○				
☐	英語Ⅵ	演	1							○			
☐	英語Ⅶ	演	1								○		
☐	英語Ⅷ	演	1								○		
☐	フランス語Ⅰ	演	1			○						△ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。	
☐	フランス語Ⅱ	演	1			○							
☐	フランス語Ⅲ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅳ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅴ	演	1						○				
☐	フランス語Ⅵ	演	1						○				
☐	フランス語Ⅶ	演	1							○			
☐	フランス語Ⅷ	演	1							○			
☐	ドイツ語Ⅰ	演	1			○						△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。	
☐	ドイツ語Ⅱ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅲ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅳ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅴ	演	1						○				
☐	ドイツ語Ⅵ	演	1						○				
☐	ドイツ語Ⅶ	演	1							○			
☐	ドイツ語Ⅷ	演	1							○			
			24										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履 修 年 次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

健康教育科目（幼稚園教員コース、保育士コース、医療保育コース）

別表Ⅱ-4

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	基礎専門体育Ⅰ	※	1	注	○				
☐	基礎専門体育Ⅱ	※	1	注		○			
			2						

【授業の方法】演：演習、無印：講義、※：講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

注 幼稚園教員コース、保育士コース、医療保育コースの学生は基礎専門体育Ⅰ・Ⅱを履修すること。

健康教育科目（児童心理コース、児童文化コース）

別表Ⅱ-5

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	スポーツと健康Ⅰ	※	1	注2	○				
☐	スポーツと健康Ⅱ	※	1	注2		○			
☐	基礎専門体育Ⅰ	※	1	注1	○				
☐	基礎専門体育Ⅱ	※	1	注1		○			
			2						

【授業の方法】演：演習、無印：講義、※：講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

注 1) 児童心理コース、児童文化コースで幼稚園教諭免許状または保育士資格を取得しようとする学生は基礎専門体育Ⅰ・Ⅱを履修すること。

2) 上記以外の学生はスポーツと健康Ⅰ、Ⅱを履修すること。

情報活用科目

別表Ⅱ-6

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○				△ 情報活用科目の受講区分は注のとおり
☐	情報活用演習(教職)	演	1	注		○			
☐	情報活用演習(応用)	演	1					○	
☐	情報活用演習(統計)	演	1				○		
☐	情報活用演習(表現)	演	1				○		
			5						

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

注 情報活用演習(基礎)が必修です。

教育職員免許状を取得する学生は、情報活用演習(基礎)・(教職)の両科目とも修得すること。

帰国子女科目

別表Ⅱ-7

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	日本語Ⅰ	演	1		○				△ 帰国子女科目は、教養科目又は外国語の単位に替えることができる。
☐	日本語Ⅱ	演	1			○			
☐	日本語Ⅲ	演	1				○		
☐	日本語Ⅳ	演	1					○	
☐	日本語Ⅴ	演	1					○	
☐	日本語Ⅵ	演	1					○	
☐	日本の社会と歴史Ⅰ		2					○	
☐	日本の社会と歴史Ⅱ		2					○	
			10						

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教育学部 児童学科 幼稚園教員コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上となります。
- ② 幼稚園教員コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門 教 育 科 目（B 類）		
必修科目	選択科目	B 類計
75	19	94

- ③ 幼稚園教員コースの専門教育科目（B 類）の必修科目については、別表Ⅱ－8 の卒業必修欄に○印の付いている科目 65 単位、必修専門プログラム科目の中からいずれか 1 プログラム 10 単位の合計 75 単位を履修してください。
- ④ 選択科目については、別表Ⅱ－8 の保育士資格取得者必修科目、選択専門プログラム科目、③で履修していない必修専門プログラム科目及び別表Ⅱ－9～13 に記載されている科目から 19 単位以上を履修してください。（同一科目を重複して履修することはできません）
- ⑤ 保育士の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、保育士欄に○印の付いている科目と、△印の付いている科目から、保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）又は保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）の組み合わせで 2 科目 3 単位選択履修してください。
- ⑥ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅱ－13 のとおり履修してください。（卒業所要単位数に選択科目として算入されます）
- ⑦ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑧ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 のとおり履修してください。（卒業所要単位数には算入されません）
- ⑨ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑩ 単位を修得（成績表に S・A・B・C）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

児童学科 専門教育科目（幼稚園教員コース）

別表Ⅱ-8

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備 考
							1		2		3		4		
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学部 共通 科目	☐ 現代教育課題論		2				○								
	☐ 教育法規概論		2							○					
	☐ 環境問題入門		2							●	●	●			
	☐ 情報科学入門		2									○			
	☐ 発達支援場面研究		2								●	●	●	●	
	(小計)		10												
学科 共通 科目	☐ 児童学概論		2	○			○	○							医療保育入門 食育入門 子育て支援ボランティア演習 地域支援ボランティア演習 幼児教育場面演習 保育場面演習
	☐ 3年次ゼミ	演	2	○							○	○			
	☐ 卒業研究ゼミ		3	○									○	○	
	☐ キャリアデザインⅠ	演	1	○				○							
	☐ キャリアデザインⅡ	演	1	○					○						
	☐ 児童学特論Ⅰ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 児童学特論Ⅱ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 児童学特論Ⅲ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 児童学特論Ⅳ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 児童学特論Ⅴ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 児童学特論Ⅵ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 児童学特論Ⅶ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	
☐ 児童学特論Ⅷ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●		
	(小計)		20	9											
基 盤 科 目	☐ 幼児と健康		1	○	○		○								
	☐ 幼児と人間関係		1	○	○					○					
	☐ 幼児と環境		1	○	○		○								
	☐ 幼児と言葉		1	○	○					○					
	☐ 教職入門		2	○	○	○	●	●							
	☐ 教育原理		2	○	○	○	●	●							
	☐ 発達心理学		2	○	○				●	●					
	☐ 特別支援教育総論		2	○	○		●	●							
	☐ 教育社会学		1	○	○				●	●					
	☐ 教育方法学		2	○	○				●	●					
	☐ 保育・教育課程論		2	○	○	○			●	●					
	☐ 保育原理Ⅰ		2	○	○	○		○							
	☐ 幼児理解,保育相談		2	○	○						○				
	☐ 教育相談		2	○	○						●	●			
	☐ 児童文化演習Ⅰ～1	演	1	○	○	○	●	●							
	☐ 児童文化演習Ⅰ～2	演	1	○	○	○	●	●							
	☐ 児童文化演習Ⅱ～1	演	1	○	○	○					●	●			
	☐ 子ども家庭福祉		2			○	●	●							
	☐ 社会福祉学Ⅰ		2			○	●	●							
	☐ 社会的養護Ⅰ		2			○			●	●					
	☐ 保育の心理学		2			○	●	●							
	☐ 子どもの保健		2			○	●	●							
	☐ 子ども家庭支援の心理学		2			○			●	●					
	☐ 子ども家庭支援論		2			○			●	●					
	☐ 乳児保育Ⅰ		2			○			●	●					
	☐ 心理学概論		2				○								
	(小計)		44	26	26	27									

	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼 一 免	保育士	履 修 年 次								備考	
								1		2		3		4			
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
幼 免 取 得 者 必 修 科 目	☐	幼児と音楽表現Ⅰ	演	1	○	○	○	○									
	☐	幼児と音楽表現Ⅱ	演	1	○	○	○		○								
	☐	音楽実技	演	2	○	○	○	○	○	○							
	☐	幼児と音楽表現Ⅲ	演	2	○	○	○					○	○	○	○		
	☐	幼児と造形表現Ⅰ	演	1	○	○	○			○							
	☐	幼児と造形表現Ⅱ	演	1	○	○	○				○						
	☐	幼児と身体表現Ⅰ	演	1	○	○	○			○							
	☐	幼児と身体表現Ⅱ	演	1	○	○	○				○						
	☐	保育内容総論	演	1	○	○	○	○									
	☐	保育内容指導法Ⅰ(健康)	演	1	○	○	○			○							
	☐	保育内容指導法Ⅱ(健康)	演	1	○	○	○				○						
	☐	保育内容指導法Ⅲ(人間関係)	演	1	○	○	○					○					
	☐	保育内容指導法Ⅳ(人間関係)	演	1	○	○	○						○				
	☐	保育内容指導法Ⅴ(環境)	演	1	○	○	○			○							
	☐	保育内容指導法Ⅵ(環境)	演	1	○	○	○				○						
	☐	保育内容指導法Ⅶ(言葉)	演	1	○	○	○					○					
	☐	保育内容指導法Ⅷ(言葉)	演	1	○	○	○						○				
	☐	保育内容指導法Ⅸ(音楽表現)	演	1	○	○	○					○					
	☐	保育内容指導法Ⅹ(音楽表現)	演	1	○	○	○						○				
	☐	保育内容指導法ⅩⅠ(造形表現)	演	1	○	○	○					○					
	☐	保育内容指導法ⅩⅡ(造形表現)	演	1	○	○	○						○				
	☐	保育・教職実践演習(幼稚園)	演	2	○	○	○									○	
☐	幼児教育実習Ⅰ	実	1	○	○			○						○			
☐	幼児教育実習Ⅱ	実	2	○	○			○									
☐	幼児教育実習Ⅲ	実	2	○	○									○			
保 育 士 資 格 取 得 者 必 修 科 目	☐	社会的養護Ⅱ	演	1			○					●	●				
	☐	子どもの理解と援助	演	1			○					●	●				
	☐	子どもの健康と安全	演	1			○			●	●						
	☐	子どもの食と栄養	演	2			○					●	●				
	☐	子育て支援	演	1			○					●	●				
	☐	乳児保育Ⅱ	演	1			○					●	●				
	☐	障害児保育	演	2			○			●	●						
	☐	保育実習Ⅰ(保育所)	実	2			○				○						
	☐	保育実習Ⅰ(施設)	実	2			○					○					
	☐	保育実習Ⅱ(保育所)	実	2			△						○				
	☐	保育実習Ⅲ(施設)	実	2			△							○			
	☐	保育実習指導Ⅰ	演	2			○				○	○					
	☐	保育実習指導Ⅱ(保育所)	演	1			△						○				
	☐	保育実習指導Ⅲ(施設)	演	1			△						○				
			(小計)		51	30	30	43									

		授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備 考		
								1		2		3		4				
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋			
必修専門プログラム		【幼児教育エキスパートプログラム】			1 プ ロ グ ラ ム 1 0 単 位 必 修													
	☐	幼児と自然体験		2								●	●	●	●			
	☐	文芸創作演習		2								●	●	●	●			
	☐	遊具と遊び		2								●	●	●	●			
	☐	行事運営実践		2								●	●	●	●			
	☐	危機管理演習		2								●	●	●	●			
		【音楽表現プログラム】																
	☐	音遊び・手遊び		2								●	●	●	●			
	☐	オペレッタ・ミュージカル		2								●	●	●	●			
	☐	歌唱指導・わらべうた		2								●	●	●	●			
	☐	ボディパーカッション・楽器遊び		2								●	●	●	●			
	☐	リトミック		2								●	●	●	●			
		【インクルーシブ保育プログラム】																
	☐	障害児・者の権利論		2								●	●	●	●			
	☐	障害文化論		2								●	●	●	●			
	☐	ライフステージ支援研究		2								●	●	●	●			
	☐	医療・保育連携論		2								●	●	●	●			
	☐	インクルーシブ保育研究		2								●	●	●	●			
		【多文化保育プログラム】																
	☐	保育における多文化理解		2								●	●	●	●			
	☐	世界の子どもの生活と文化		2								●	●	●	●			
	☐	異文化間コミュニケーション論		2								●	●	●	●			
	☐	保育における外国語活動		2								●	●	●	●			
	☐	世界の就学前教育		2								●	●	●	●			
		【運動遊びプログラム】																
	☐	子どもの発達・発育と運動論		2								●	●	●	●			
	☐	運動遊び研究		2								●	●	●	●			
	☐	遊具での運動遊びと安全		2								●	●	●	●			
	☐	子どもの自然活動基礎論		2								●	●	●	●			
	☐	運動行事研究		2								●	●	●	●			
		【造形表現プログラム】																
	☐	平面表現		2								●	●	●	●			
	☐	立体表現		2								●	●	●	●			
	☐	造形表現デザイン		2								●	●	●	●			
	☐	幼児と文化財	演	2								●	●	●	●			
	☐	造形指導法		2								●	●	●	●			
	(小計)		60	10														

	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備 考	
							1		2		3		4			
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
選 択 専 門 プ ロ グ ラ ム	【リサーチメソッドプログラム】															
	☐ 心理学基礎実験Ⅰ	実	1								●	●	●	●		
	☐ 心理学基礎実験Ⅱ	実	1								●	●	●	●		
	☐ 心理学研究法Ⅰ		2								●	●	●	●		
	☐ 心理学研究法Ⅱ		2								●	●	●	●		
	☐ 心理統計法Ⅰ		2								●	●	●	●		
	☐ 心理統計法Ⅱ	演	1								●	●	●	●		
	【心理学プログラム】															
	☐ 児童心理学		2								●	●	●	●		
	☐ 青年心理学		2								●	●	●	●		
	☐ 社会心理学		2								●	●	●	●		
	☐ 認知心理学		2								●	●	●	●		
	☐ 人格心理学		2								●	●	●	●		
	【カウンセリングプログラム】															
	☐ 臨床心理学		2								●	●	●	●		
	☐ カウンセリング心理学		2								●	●	●	●		
	☐ 心理検査法実習Ⅰ	演	1								●	●	●	●		
	☐ 心理検査法実習Ⅱ	演	2								●	●	●	●		
	【児童文化プログラム】															
	☐ 絵本		2								●	●	●	●		
	☐ 昔話・わらべうた		2								●	●	●	●		
	☐ 児童文学		2								●	●	●	●		
	☐ マンガ・アニメ論Ⅰ		2								●	●	●	●		
	☐ 絵画表現基礎		2								●	●	●	●		
	【地域創生・交流プログラム】															
	☐ 生涯学習とボランティア活動		2								●	●	●	●		
	☐ 子どものための地域活動	演	2								●	●	●	●		
	☐ 伝承遊び	演	1								●	●	●	●		
	☐ 舞台芸術演習	演	1								●	●	●	●		
	☐ リズム遊び	演	1								●	●	●	●		
	【海外保育実習プログラム】															
	☐ 事前事後指導(海外)		1								●	●	●	●		幼保免許資格希望者のみ履修可
	☐ 海外保育実習		1								●	●	●	●		※教育学特論Ⅶ
	【乳児保育プログラム】															※教育学特論Ⅷ
	☐ 赤ちゃん学概論		2								●	●	●	●		保育士資格希望者のみ履修可
	☐ 現代保育課題研究		2								●	●	●	●		
	☐ 乳児保育の実践演習		2								●	●	●	●		
	☐ 子育て支援と現代育児論		2								●	●	●	●		
	☐ 乳児期とメディア		2								●	●	●	●		
	【医療保育プログラム】															保育士資格希望者のみ履修可
	☐ 医療保育概論		2						○							
☐ 保育士に必要な医学的知識		2								○						
☐ 病棟保育の実践		2											○			
☐ 病児・病後児保育の実践		2											○			
☐ 医療保育とセーフティマネジメント		2							○							
☐ 療育保育の実践		2											○		※教育学特論Ⅰ	
☐ 医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2										○			※教育学特論Ⅱ	
☐ 乳幼児の病態生理学		2										○			※教育学特論Ⅲ	
☐ 医療保育研究	演	2												○	※教育学特論Ⅳ	
☐ 保育看護		2										○			※教育学特論Ⅴ	
☐ 医療保育実習	実	1											○	○	※教育学特論Ⅵ	
	(小計)		136													
	計		261	75	56	70										

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。
 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期
 いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

- ◆ 保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)
 いずれかの組合せを選択すること。
- ◆ カウンセリングプログラムを選択する場合は、表中の4科目に加え「特別支援教育総論」を修得すること。

目標
内容幼児教育の基礎を学ぼう
幼児教育の理論と実践の基礎を学ぶ幼児教育の理論と実践力を身につけよう
幼児教育の理論と実践を学ぶ幼児教育の実践力を伸ばそう
幼児教育の理論と実践力を磨く幼児教育の専門性を深めよう
専門分野を強みに変える

		春学期		1 年生		秋学期				春学期		2 年生		秋学期				春学期		3 年生		秋学期				春学期		4 年生		秋学期			
実践力を養う ※DP1～3に該当						事前・事後指導						附属幼稚園実習										事前・事後指導						外部幼稚園実習					
児童学を深める ※DP1～3に該当		(学部共通選択科目) 現代教育課題論 教育法規概論 環境問題入門 情報科学入門 発達支援場面研究 (児童学科共通選択科目) 児童学特論Ⅰ～Ⅷ																															
		(学科必修科目) 児童学概論		キャリアデザインⅠ				キャリアデザインⅡ								3年次ゼミ								卒業研究ゼミ									
幼児教育を探究する	豊かな乳幼児観を育む DP1	幼児と健康						教育社会学		幼児と言葉										障害児・者の権利論		子どもの自然活動基礎論											
		保育内容総論		保育原理Ⅰ						幼児と人間関係										世界の子どもの生活と文化													
		幼児と環境		教育原理																遊具と遊び		行事運営実践											
		特別支援教育総論		教職入門																幼児と自然体験		危機管理演習											
	乳幼児の心とからだの成長と発達を学ぶ DP2							発達心理学												保育内容指導法Ⅲ（人間関係）		保育内容指導法Ⅳ（人間関係）											
								教育方法学		保育・教育課程論										保育内容指導法Ⅶ（言葉）		保育内容指導法Ⅷ（言葉）											
								幼児と造形表現Ⅰ		幼児と造形表現Ⅱ										教育相談													
								保育内容指導法Ⅰ（健康）		保育内容指導法Ⅱ（健康）										幼児理解、保育相談													
	豊かな表現方法を学ぶ DP3							保育内容指導法Ⅴ（環境）		保育内容指導法Ⅵ（環境）										保育内容指導法Ⅸ（音楽表現）		保育内容指導法Ⅹ（音楽表現）											
																				保育内容指導法Ⅺ（造形表現）		保育内容指導法Ⅻ（造形表現）											
		幼児と音楽表現Ⅰ		幼児と音楽表現Ⅱ				幼児と身体表現Ⅰ		幼児と身体表現Ⅱ										児童文化演習Ⅱ－1													
		児童文化演習Ⅰ－1		児童文化演習Ⅰ－2																													
		音楽実技																															
豊かな教養や基礎力を高める ※DP1～3に該当		英語Ⅰ～Ⅳ																															
		選択外国語（ドイツ語・フランス語）Ⅰ～Ⅳ																															
		(幼保)基礎専門体育Ⅰ		(幼保)基礎専門体育Ⅱ																													
		情報活用演習（基礎）		情報活用演習（教職）																													
		日本国憲法（D類）		教養科目（A類 B類 C類）																													
人間性を高める ※DP1～3に該当		聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅠ		聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅡ				聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ																									
		聖徳教育Ⅰ（シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー）																															
		聖徳教育Ⅱ（FC）		聖徳教育Ⅱ（志賀高原）				小笠原流礼法基礎講座												聖徳教育Ⅱ（海外研修）													

地域や保護者から信頼される、優れた実践力と教材研究の力を身につけた幼稚園教員になろう

目標
内容

幼児教育の基礎を学ぼう
幼児教育の理論と実践の基礎を学ぶ

幼児教育の理論と実践力を
身につけよう
幼児教育の理論と実践を学ぶ

幼児教育の実践力を伸ばそう
幼児教育の理論と実践力を磨く

幼児教育の専門性を深めよう
専門分野を強みに変える

卒業認定・学位授与の
方針に掲げる学習成果

DP 1 ～ 3 の学習成果に該当

【DP 1】
礼節や思いやり、豊かな乳幼児観
などをもって乳幼児に接するとともに、
自律的に学び続けながら教育・
保育の発展に貢献することができる。

【DP 2】
乳幼児の心とからだの成長と発達
に関する知識や技能を体系的に理解
するとともに、乳幼児に関する情報
を分析し、論理的かつ創造的に考
えることができる。

【DP 3】
身体表現や音楽、造形など豊かな
表現方法で乳幼児とコミュニケーション
を取るとともに、他者と協働
しながら様々な問題に対して主体的
に問題解決することができる。

DP 1 ～ 3 の学習成果に該当

地域や保護者から信頼される、優れた実践力と教材研究の力を身につけた幼稚園教員になろう

	春学期	1 年生	秋学期	春学期	2 年生	秋学期	春学期	3 年生	秋学期	春学期	4 年生	秋学期
実践力を養う ※DP1～3に該当	幼稚園実習を通して、幼児の実態や幼稚園教育、幼稚園教員の役割について理解することができる。			幼稚園実習を通して、幼児理解や具体的な指導法を考えることができる。			幼稚園実習を通して、子どもの特性、様々な保育の方法、幼稚園教員としての職務を理解することができる。			幼稚園教員としての専門性を身につけ、多様な職務と職業倫理について理解することができる。		
児童学を深める ※DP1～3に該当	児童学について総合的・体系的にとらえ、児童学の意義を理解し、乳幼児の最善の利益について考えることができる。			理論的思考を基礎とし、自己課題や問題点を発見し、考究することができる。			児童学を主体的に学ぶことで、キャリアビジョンを明確にすることができる。			これまでの学修を生かし、卒業後の自身を見据えた学びを展開し、教育・保育の発展に貢献する姿勢ができる。		
幼児教育を探究する	豊かな乳幼児観を育む DP1			乳幼児の発達と環境、人間関係について理解し、教育・保育を構想することができる。			乳幼児が心身ともに健やかに育つための地域や家庭との連携について学び、実践する方法を理解できる。			乳幼児の人格を尊重し、最善の利益を希求する教育・保育の在り方について実践的に学び続けることができる。		
	乳幼児の心とからだの成長と発達を学ぶ DP2			乳幼児及び乳幼児を取り巻く諸課題を理解し、学びの基礎を形成することができる。			幼児教育・保育の理論や実践の方法を理解することができる。			各専門領域の学びを生かし、多様な教育課題について学び続けることができる。		
	豊かな表現方法を学ぶ DP3			身体表現や音楽、造形などの表現に関する発達を理解することができる。			身体表現や音楽、造形などの表現方法の基礎を学び、理解することができる。			乳幼児との関わりを深め、乳幼児の表現力の向上を図るとともに、創造性を培う指導について学び続けることができる。		
豊かな教養や基礎力を高める ※DP1～3に該当	基礎的な学力や語学力、ICT活用力を形成することができる。			基礎的な学力を身につけ、多方面に興味・関心を広げ、幅広い教養を身につけることができる。			高度な語学力や国際感覚を形成するとともに、より高いコミュニケーション能力を身につけることができる。			幅広い視野に立ち、多様な価値を受け止め、自己の生き方をデザインすることができる。		
人間性を高める ※DP1～3に該当	子どもに対する深い愛情をもち、幼稚園教員になろうとする意欲をもつことができる			礼法やグループワークを通して、対人関係を適切に形成することができる。			海外の教養や文化に直接触れながら、教師としての教養や人間性を高めることができる。			様々な芸術や文化に触れ、教師としての人間性を磨くことができる。		

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 基礎専門体育 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II ドイツ語 I ドイツ語 II 基礎専門体育 II 情報活用演習 (教職) 日本国憲法 教養科目	英語 III ドイツ語 III ドイツ語 IV 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 教養科目 教養科目
科目数	4	8	5	5
学部 共通 科目	現代教育課題論			環境問題入門
科目数	1			1
学科 共通 科目	児童学概論	キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	児童学特論 V
科目数	1	1	1	1
コ ー ス 必 修 科 目	幼児と音楽表現 I 音楽実技 幼児と環境 幼児と健康 保育内容総論 児童文化演習 I ~ 1 特別支援教育総論	幼児と音楽表現 II 音楽実技 教職入門 保育原理 I 児童文化演習 I ~ 2 教育原理	幼児と造形表現 I 音楽実技 幼児と身体表現 I 保育内容指導法 I (健康) 保育内容指導法 V (環境) 発達心理学 教育方法学 教育社会学	幼児と造形表現 II 幼児と人間関係 音楽実技 幼児と身体表現 II 幼児と言葉 保育内容指導法 II (健康) 保育内容指導法 VI (環境) 保育・教育課程論
科目数	7	6	8	8
保 育 士 科 目	子ども家庭福祉 子どもの保健	社会福祉学 I 保育の心理学	子ども家庭支援の心理学 社会的養護 I 障害児保育	子どもの家庭支援論 乳児保育 I 子どもの健康と安全
科目数	2	2	3	3
実 習			附属幼稚園実習	保育所実習
科目数計	15	17	17	18

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目				
科目数				
学部 共通 科目				
科目数				
学科 共通 科目	3 年次ゼミ	3 年次ゼミ	卒業研究ゼミ 児童学特論 VII 幼児教育場面演習	卒業研究ゼミ
科目数	1	1	2	1
コ ー ス 必 修 科 目	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 III (人間関係) 保育内容指導法 VII (言葉) 保育内容指導法 IX (音楽表現) 保育内容指導法 X I (造形表現) 教育相談 幼児理解と保育相談	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 IV (人間関係) 保育内容指導法 VIII (言葉) 保育内容指導法 X (音楽表現) 保育内容指導法 X II (造形表現) 児童文化演習 II ~ 1	幼児と音楽表現 III 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	幼児と音楽表現 III 保育・教職実践演習 (幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
科目数	7	6	4	4
保 育 士 科 目	社会的養護 II 子どもの理解と援助 子育て支援	子どもの食と栄養 乳児保育 II		
科目数	3	2		
実 習	施設実習	保育所実習	外部幼稚園実習	
科目数計	11	9	6	5

教育学部 児童学科 保育士コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上となります。
- ② 保育士コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門 教 育 科 目（B 類）		
必修科目	選択科目	B 類計
89	5	94

- ③ 保育士コースの専門教育科目（B 類）の必修科目については、別表Ⅱ－9 の卒業必修欄に○印の付いている科目 76 単位、△印の付いている科目から、保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）の組み合わせで 2 科目 3 単位、必修専門プログラム科目の中からいずれか 1 プログラム 10 単位の合計 89 単位を履修してください。
- ④ 選択科目については、別表Ⅱ－9 の幼稚園免許取得者必修科目、選択専門プログラム科目、③で履修していない必修専門プログラム科目及び別表Ⅱ－8、10～13 に記載されている科目から 5 単位以上を履修してください。（同一科目を重複して履修することはできません）
- ⑤ 幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、幼一免欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑥ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅱ－13 のとおり履修してください。（卒業所要単位数に選択科目として算入されます）
- ⑦ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑧ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 のとおり履修してください。（卒業所要単位数には算入されません）
- ⑨ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑩ 単位を修得（成績表に S・A・B・C）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼一免	保育士	履 修 年 次								備 考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学部共通科目	☐	現代教育課題論		2				○								
	☐	教育法規概論		2						○						
	☐	環境問題入門		2						●	●	●				
	☐	情報科学入門		2								○				
	☐	発達支援場面研究		2							●	●	●	●		
		(小計)		10												
学科共通科目	☐	児童学概論		2	○			○	○							医療保育入門 食育入門 子育て支援ボランティア演習 地域支援ボランティア演習 幼児教育場面演習 保育場面演習
	☐	3年次ゼミ	演	2	○						○	○				
	☐	卒業研究ゼミ		3	○								○	○		
	☐	キャリアデザインⅠ	演	1	○				○							
	☐	キャリアデザインⅡ	演	1	○					○						
	☐	児童学特論Ⅰ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅱ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅲ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅳ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅴ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅵ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	
☐	児童学特論Ⅶ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●		
☐	児童学特論Ⅷ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●		
		(小計)		20	9											
基盤科目	☐	幼児と健康		1		○		○								
	☐	幼児と人間関係		1		○					○					
	☐	幼児と環境		1		○		○								
	☐	幼児と言葉		1		○					○					
	☐	教職入門		2	○	○	○	●	●							
	☐	教育原理		2	○	○	○	●	●							
	☐	発達心理学		2		○				●	●					
	☐	特別支援教育総論		2		○		●	●							
	☐	教育社会学		1		○				●	●					
	☐	教育方法学		2		○				●	●					
	☐	保育・教育課程論		2	○	○	○			●	●					
	☐	保育原理Ⅰ		2	○	○	○		○							
	☐	幼児理解,保育相談		2		○						○				
	☐	教育相談		2		○						●	●			
	☐	児童文化演習Ⅰ～1	演	1	○	○	○	●	●							
	☐	児童文化演習Ⅰ～2	演	1	○	○	○	●	●							
	☐	児童文化演習Ⅱ～1	演	1	○	○	○					●	●			
	☐	子ども家庭福祉		2	○		○	●	●							
	☐	社会福祉学Ⅰ		2	○		○	●	●							
	☐	社会的養護Ⅰ		2	○		○			●	●					
	☐	保育の心理学		2	○		○	●	●							
	☐	子どもの保健		2	○		○	●	●							
	☐	子ども家庭支援の心理学		2	○		○			●	●					
	☐	子ども家庭支援論		2	○		○			●	●					
	☐	乳児保育Ⅰ		2	○		○			●	●					
	☐	心理学概論		2				○								
		(小計)		44	27	26	27									

児童学科 専門教育科目（保育コース）	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼一免	保育士	履 修 年 次								備 考	
							1		2		3		4			
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
保育士資格取得者必修科目	☐ 社会的養護Ⅱ	演	1	○		○					●	●				
	☐ 子どもの理解と援助	演	1	○		○					●	●				
	☐ 子どもの健康と安全	演	1	○		○			●	●						
	☐ 子どもの食と栄養	演	2	○		○					●	●				
	☐ 子育て支援	演	1	○		○					●	●				
	☐ 乳児保育Ⅱ	演	1	○		○					●	●				
	☐ 障害児保育	演	2	○		○			●	●						
	☐ 保育実習Ⅰ（保育所）	実	2	○		○				○						
	☐ 保育実習Ⅰ（施設）	実	2	○		○					○					
	☐ 保育実習Ⅱ（保育所）	実	2	△		△						○				
	☐ 保育実習Ⅲ（施設）	実	2	△		△						○				
	☐ 保育実習指導Ⅰ	演	2	○		○				○	○					
	☐ 保育実習指導Ⅱ（保育所）	演	1	△		△						○				
	☐ 保育実習指導Ⅲ（施設）	演	1	△		△						○				
	☐ 幼児と音楽表現Ⅰ	演	1	○	○	○	○									
	☐ 幼児と音楽表現Ⅱ	演	1	○	○	○		○								
	☐ 音楽実技	演	2	○	○	○	○	○	○	○						
	☐ 幼児と音楽表現Ⅲ	演	2	○	○	○					○	○	○	○		
	☐ 幼児と造形表現Ⅰ	演	1	○	○	○			○							
	☐ 幼児と造形表現Ⅱ	演	1	○	○	○				○						
	☐ 幼児と身体表現Ⅰ	演	1	○	○	○			○							
	☐ 幼児と身体表現Ⅱ	演	1	○	○	○				○						
	☐ 保育内容総論	演	1	○	○	○	○									
	☐ 保育内容指導法Ⅰ（健康）	演	1	○	○	○				○						
	☐ 保育内容指導法Ⅱ（健康）	演	1	○	○	○					○					
	☐ 保育内容指導法Ⅲ（人間関係）	演	1	○	○	○						○				
	☐ 保育内容指導法Ⅳ（人間関係）	演	1	○	○	○							○			
	☐ 保育内容指導法Ⅴ（環境）	演	1	○	○	○				○						
	☐ 保育内容指導法Ⅵ（環境）	演	1	○	○	○					○					
	☐ 保育内容指導法Ⅶ（言葉）	演	1	○	○	○						○				
	☐ 保育内容指導法Ⅷ（言葉）	演	1	○	○	○							○			
	☐ 保育内容指導法Ⅸ（音楽表現）	演	1	○	○	○						○				
	☐ 保育内容指導法Ⅹ（音楽表現）	演	1	○	○	○							○			
	☐ 保育内容指導法ⅩⅠ（造形表現）	演	1	○	○	○						○				
	☐ 保育内容指導法ⅩⅡ（造形表現）	演	1	○	○	○							○			
	☐ 保育・教職実践演習（幼稚園）	演	2	○	○	○								○		
必許幼稚園 取得者免	☐ 幼児教育実習Ⅰ	実	1		○			○					○	事前・事後オリエンテーション等 附属幼実習 外部幼実習		
	☐ 幼児教育実習Ⅱ	実	2		○			○								
	☐ 幼児教育実習Ⅲ	実	2		○							○				
	(小計)		51	43	30	43										

		授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
必修専門プログラム科目		【音楽表現プログラム】			1 プ ロ グ ラ ム 1 0 単 位 必 修											保育士取得希望者のみ履修可
	☐	音遊び・手遊び		2								●	●	●	●	
	☐	オペレッタ・ミュージカル		2								●	●	●	●	
	☐	歌唱指導・わらべうた		2								●	●	●	●	
	☐	ボディパーカッション・楽器遊び		2								●	●	●	●	
	☐	リトミック		2								●	●	●	●	
		【インクルーシブ保育プログラム】														
	☐	障害児・者の権利論		2								●	●	●	●	
	☐	障害文化論		2								●	●	●	●	
	☐	ライフステージ支援研究		2								●	●	●	●	
	☐	医療・保育連携論		2								●	●	●	●	
	☐	インクルーシブ保育研究		2								●	●	●	●	
		【多文化保育プログラム】														
	☐	保育における多文化理解		2								●	●	●	●	
	☐	世界の子どもたちの生活と文化		2								●	●	●	●	
	☐	異文化間コミュニケーション論		2								●	●	●	●	
	☐	保育における外国語活動		2								●	●	●	●	
	☐	世界の就学前教育		2								●	●	●	●	
		【運動遊びプログラム】														
	☐	子どもの発達・発育と運動論		2								●	●	●	●	
	☐	運動遊び研究		2								●	●	●	●	
	☐	遊具での運動遊びと安全		2								●	●	●	●	
	☐	子どもの自然活動基礎論		2								●	●	●	●	
	☐	運動行事研究		2								●	●	●	●	
		【乳児保育プログラム】														
	☐	赤ちゃん学概論		2								●	●	●	●	
	☐	現代保育課題研究		2								●	●	●	●	
	☐	乳児保育の実践演習		2								●	●	●	●	
	☐	子育て支援と現代育児論		2								●	●	●	●	
	☐	乳児期とメディア		2								●	●	●	●	
		【造形表現プログラム】														
	☐	平面表現		2								●	●	●	●	
	☐	立体表現		2								●	●	●	●	
	☐	造形表現デザイン		2								●	●	●	●	
	☐	幼児と文化財	演	2								●	●	●	●	
	☐	造形指導法		2								●	●	●	●	
	(小計)		60	10												

	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼一免	保育士	履 修 年 次								備 考
							1		2		3		4		
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
選 択 専 門 プ ロ グ ラ ム 科 目	【海外保育実習プログラム】														幼保免許資格希望者のみ履修可
	☐ 事前事後指導(海外)		1							●	●	●	●		※教育学特論Ⅶ
	☐ 海外保育実習		1							●	●	●	●		※教育学特論Ⅷ
	【医療保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
	☐ 医療保育概論		2						○						
	☐ 保育士に必要な医学的知識		2							○					
	☐ 病棟保育の実践		2										○		
	☐ 病児・病後児保育の実践		2										○		
	☐ 医療保育とセーフティマネジメント		2							○					
	☐ 療育保育の実践		2										○		※教育学特論Ⅰ
	☐ 医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2								○				※教育学特論Ⅱ
	☐ 乳幼児の病態生理学		2								○				※教育学特論Ⅲ
	☐ 医療保育研究	演	2											○	※教育学特論Ⅳ
	☐ 保育看護		2								○				※教育学特論Ⅴ
	☐ 医療保育実習	実	1										○	○	※教育学特論Ⅵ
	【幼児教育エキスパートプログラム】														幼稚園免許希望者のみ履修可
	☐ 幼児と自然体験		2								●	●	●	●	
	☐ 文芸創作演習		2								●	●	●	●	
	☐ 遊具と遊び		2								●	●	●	●	
	☐ 行事運営実践		2								●	●	●	●	
	☐ 危機管理演習		2								●	●	●	●	
	【リサーチメソッドプログラム】														
	☐ 心理学基礎実験Ⅰ	実	1								●	●	●	●	
	☐ 心理学基礎実験Ⅱ	実	1								●	●	●	●	
	☐ 心理学研究法Ⅰ		2								●	●	●	●	
	☐ 心理学研究法Ⅱ		2								●	●	●	●	
	☐ 心理統計法Ⅰ		2								●	●	●	●	
	☐ 心理統計法Ⅱ	演	1								●	●	●	●	
	【心理学プログラム】														
	☐ 児童心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 青年心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 社会心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 認知心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 人格心理学		2								●	●	●	●	
	【カウンセリングプログラム】														
	☐ 臨床心理学		2								●	●	●	●	
	☐ カウンセリング心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 心理検査法実習Ⅰ	演	1								●	●	●	●	
	☐ 心理検査法実習Ⅱ	演	2								●	●	●	●	
	☐ (特別支援教育総論)		2					●	●						※基盤科目として履修
	【児童文化プログラム】														
	☐ 絵本		2								●	●	●	●	
	☐ 昔話・わらべうた		2								●	●	●	●	
	☐ 児童文学		2								●	●	●	●	
	☐ マンガ・アニメ論Ⅰ		2								●	●	●	●	
	☐ 絵画表現基礎		2								●	●	●	●	
【地域創生・交流プログラム】															
☐ 生涯学習とボランティア活動		2								●	●	●	●		
☐ 子どものための地域活動	演	2								●	●	●	●		
☐ 伝承遊び	演	1								●	●	●	●		
☐ 舞台芸術演習	演	1								●	●	●	●		
☐ リズム遊び	演	1								●	●	●	●		
(小計)		78													
	計		263	89	56	70									

【授業の方法】 演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。
 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期
 いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

◆ 保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)
 いずれかの組合せを選択すること。

目標
内容

保育・養護の基礎を学ぼう
保育・養護の理論と実践の基礎を学ぶ

保育・養護の実践力を
身につけよう
保育・養護の理論と実践を学ぶ

保育・養護の実践力を伸ばそう
保育・養護の理論と実践力を磨く

保育・養護の専門性を深めよう
専門分野を強みに変え、将来に活かす

子どもとその家族、地域社会を支える実践力のある保育士になろう

	春学期 1年生 秋学期		春学期 2年生 秋学期		春学期 3年生 秋学期		春学期 4年生 秋学期	
	実践力を養う ※DP1～3に該当		保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅰ（保育所）		保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習Ⅱ（保育所）又は保育実習Ⅲ（施設）			
児童学を深める ※DP1～3に該当	（学部共通選択科目）現代教育課題論 教育法規概論 環境問題入門 情報科学入門 発達支援場面研究		（児童学科共通選択科目）児童学特論Ⅰ～Ⅷ					
保育・養護の世界を探究する	（学科必修科目）児童学概論		キャリアデザインⅠ		3年次ゼミ		卒業研究ゼミ	
	教育原理 保育内容総論		キャリアデザインⅡ				障害児・者の権利論 子どもの自然活動基礎論 世界の子ども生活と文化	
	豊かな乳幼児観を育む DP1							
	乳幼児の心とからだの成長と発達を学ぶ DP2							
豊かな表現方法を学ぶ DP3	子ども家庭福祉 社会福祉学Ⅰ 教職入門 子どもの保健		保育内容指導法Ⅰ（健康） 保育内容指導法Ⅱ（健康） 保育内容指導法Ⅴ（環境） 保育内容指導法Ⅵ（環境） 子ども家庭支援の心理学 社会的養護Ⅰ 子ども家庭支援論 子どもの健康と安全 保育・教育課程論 障害児保育 幼児と造形表現Ⅰ 幼児と造形表現Ⅱ 乳児保育Ⅰ		保育内容指導法Ⅲ（人間関係） 保育内容指導法Ⅳ（人間関係） 保育内容指導法Ⅶ（言葉） 保育内容指導法Ⅷ（言葉） 子育て支援 社会的養護Ⅱ 乳児保育Ⅱ 子どもの理解と援助 子どもの食と栄養		医療保育概論 赤ちゃん学概論 保育士に必要な医学的知識 現代保育課題研究 病棟保育の実践 乳児期とメディア 病児・病後児保育の実践 障害文化論 医療保育とセーフティマネジメント ライフステージ支援研究 保育における多文化理解 インクルーシブ保育研究 子どもの発達・発育と運動論 保育における外国語活動 乳児保育の実践演習 世界の就学前教育 音遊び・手遊び 子育て支援と現代育児論 歌唱指導・わらべうた 医療・保育連携論 ボディパーカッション・楽器遊び オペレッタ・ミュージカル 立体表現 造形表現デザイン 平面表現 幼児と文化財 造形指導法 遊具での運動遊びと安全 異文化間コミュニケーション論 運動遊び研究 保育・教職実践演習 運動行事研究	
	幼児と音楽表現Ⅰ 幼児と音楽表現Ⅱ		幼児と身体表現Ⅰ 幼児と身体表現Ⅱ		児童文化演習Ⅱ～1 保育内容指導法Ⅸ（音楽表現） 保育内容指導法Ⅹ（音楽表現） 保育内容指導法Ⅺ（造形表現） 保育内容指導法Ⅻ（造形表現）			
	音楽実技				幼児と音楽表現Ⅲ			
	英語Ⅰ～Ⅳ 選択外国語（ドイツ語・フランス語）Ⅰ～Ⅳ				選択英語Ⅴ～Ⅷ 選択外国語（ドイツ語・フランス語）Ⅴ～Ⅷ			
豊かな教養や基礎力を高める ※DP1～3に該当	(幼保)基礎専門体育Ⅰ 情報活用演習（基礎） 日本国憲法（D類） 聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅠ		(幼保)基礎専門体育Ⅱ 情報活用演習（教職） 教養科目（A類 B類 C類） 聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅡ		聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ			
人間性を高める ※DP1～3に該当	聖徳教育Ⅱ（FC） 聖徳教育Ⅱ（志賀高原）		小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ（海外研修）			
備考	※幼稚園教諭一種免許状を取得する場合は幼稚園教員コースのカリキュラムマップを参照							

目標
内容

保育・養護の基礎を学ぼう
保育・養護の理論と実践の基礎を学ぶ

保育・養護の実践力を
身につけよう
保育・養護の理論と実践を学ぶ

保育・養護の実践力を
伸ばそう
保育・養護の理論と実践力を磨く

保育・養護の専門性を
深めよう
専門分野を強みに変え、将来に活かす

卒業認定・学位授与の
方針に掲げる学習成果

DP 1～3の学習成果に該当

【DP 1】
礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって乳幼児に接するとともに、自律的に学び続けながら教育保育の発展に貢献することができる。

【DP 2】
乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、乳幼児に関する情報を分析し、論理的かつ創造的に考えることができる。

【DP 3】
身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で乳幼児とコミュニケーションを取るとともに、他者と協働しながら様々な問題に対して主体的に問題解決することができる。

DP 1～3の学習成果に該当

多様化する保育現場のニーズと課題に応えられる質の高い保育士になろう。

	春学期 1年生 秋学期	春学期 2年生 秋学期	春学期 3年生 秋学期	春学期 4年生 秋学期
実践力を養う ※DP1～3に該当	子どもの発達段階や保育・養護の概要を理解することができる。	子どもの特性や保育士の役割・援助について理解することができる。	保育実習（保育所・施設）を通して、子どもの特性や保育士の役割・援助を理解し、実践することができる。	保育実習を通して保育の専門性を身につけ、その多様な職務と職業倫理について理解することができる。
児童学を深める ※DP1～3に該当	乳幼児期における発達と養護について児童学の観点から理解することができる。	乳幼児期の子どもの発達と養護について児童学の観点から理論と実践をつなげることができる。	グローバルな視点による乳幼児期の保育と養護についての学びを実習に生かすことができる。	乳幼児期の子どもの発達と養護についての学びを、保育の現場に生かし、工夫することができる。
保育・養護の世界を探究する	豊かな乳幼児観を育む DP1	礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって乳幼児に接する重要性を理解し、保育の発展に必要な、自律的な学習態度を身につけている。	礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって乳幼児に接し、自律的に学びながらグローバルな視点で、保育の発展に関わろうとしている。	礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって、乳幼児に接することが十分にでき、自律的に学びながら、多様化する保育現場の発展に貢献することができる。
	乳幼児の心とからだの成長と発達を学ぶ DP2	乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能の一部を理解し、乳幼児に関する情報に広く関心をもつことができる。	乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能を理解し、乳幼児に関する情報を分析し、グローバルな視点で考えることができる。	乳幼児の心と体の成長と発達に関する知識や技能を体系的に理解し、多様化する乳幼児に関する情報を分析し、論理的かつ創造的に、考えることができる。
	豊かな表現方法を学ぶ DP3	身体表現や音楽、造形などの表現方法で乳幼児とコミュニケーションをとる意味を理解し、問題に対して主体的に考えることができる。	身体表現や音楽、造形などの表現方法で乳幼児とコミュニケーションを取ることができ、他社と協働しながら、グローバルな視点で、様々な問題に対して問題解決することができる。	身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で乳幼児とコミュニケーションを取ることができ、他者と協働しながら多様化する問題に対して、主体的に問題解決することができる。
豊かな教養や基礎力を高める ※DP1～3に該当	保育士に求められる基礎的な学力や語学力、ICT活用力を身につけている。	多方面に興味・関心を広げ、幅広い教養を身につけている。	グローバル社会で活かすことができる語学力を身につけている。	グローバル社会で保育・養護に携わる者に必須の国際感覚を活用することができる。
人間性を高める ※DP1～3に該当	子どもに対する深い愛情をもち、建学の精神に基づく行動ができる。	礼法やグループワークを通して、対人関係を適切に形成することができる。	海外の教育や文化に直接触れながら、保育士としての教養や人間性を高めることができる。	様々な芸術や文化に触れることを通して、保育士としての教養や人間性に一層の磨きをかけることができる。

	1年		2年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 基礎専門体育 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II フランス語 I フランス語 II 基礎専門体育 II 情報活用演習 (教職) 日本国憲法 教養科目	英語 III フランス語 III フランス語 IV 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 教養科目 教養科目
科目数	4	8	5	5
学部 共通 科目				
科目数				
学科 共通 科目	児童学概論	キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	児童学特論 IV 子育て支援ボランティア演習
科目数	1	1	1	1
コ ー ス 必 修 科 目	幼児と音楽表現 I 音楽実技 社会福祉学 I 保育の心理学 児童文化演習 I～1 子ども家庭福祉 保育内容総論 幼児と環境	幼児と音楽表現 II 音楽実技 教職入門 保育原理 I 児童文化演習 I～2 子どもの保健 教育原理	幼児と造形表現 I 音楽実技 幼児と身体表現 I 保育内容指導法 I (健康) 保育内容指導法 V (環境) 乳児保育 I 保育・教育課程論 子どもの健康と安全 社会的養護 I	幼児と造形表現 II 音楽実技 幼児と身体表現 II 保育内容指導法 II (健康) 保育内容指導法 VI (環境) 子ども家庭支援論 子ども家庭支援の心理学 障害児保育
科目数	8	7	9	8
幼 稚 園 科 目	幼児と健康 特別支援教育総論		教育社会学	幼児と言葉 発達心理学 教育方法学 幼児と人間関係
科目数	2	0	1	4
実 習			附属幼稚園実習	保育所実習
科目数計	15	16	16	18

	3年		4年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目				
科目数				
学部 共通 科目	発達支援場面研究			
科目数	1			
学科 共通 科目	3年次ゼミ	3年次ゼミ	卒業研究ゼミ 児童学特論 VIII 保育場面演習	卒業研究ゼミ
科目数	1	1	2	1
コ ー ス 必 修 科 目	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 III (人間関係) 保育内容指導法 VII (言葉) 保育内容指導法 IX (音楽表現) 保育内容指導法 X I (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育 II 社会的養護 II 幼児理解, 保育相談	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 IV (人間関係) 保育内容指導法 VIII (言葉) 保育内容指導法 X (音楽表現) 保育内容指導法 X II (造形表現) 児童文化演習 II～1 子どもの理解と援助 子育て支援	幼児と音楽表現 III 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目	幼児と音楽表現 III 保育・教職実践演習 (幼稚園) 必修専門プログラム科目 必修専門プログラム科目
科目数	9	8	4	4
幼 稚 園 科 目	教育相談			
科目数	1			
実 習	施設実習	保育所実習	外部幼稚園実習	
科目数計	12	9	6	5

教育学部 児童学科 児童心理コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上となります。
- ② 児童心理コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門 教 育 科 目（B 類）		
必修科目	選択科目	計
45	49	94

- ③ 児童心理コースの専門教育科目については、別表Ⅱ－10 の卒業必修欄に○印の付いている科目 45 単位と別表Ⅱ－10 の幼稚園免許取得者必修科目、保育士資格取得者必修科目、選択専門プログラム科目及び別表Ⅱ－8、9、11、12、13 に記載されている科目から 49 単位以上を履修してください。
(同一科目を重複して履修することはできません)
- ④ 幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ－10 の卒業必修欄に○印の付いている科目に加え、幼一免欄に○印の付いている科目を選択履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑤ 保育士の資格を取得しようとする者は、別表Ⅱ－10 の卒業必修欄に○印の付いている科目に加え、保育士欄に○印の付いている科目と、△印の付いている科目から、保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）又は保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）の組み合わせで 2 科目履修してください。(卒業所要単位数に選択科目として算入されます)
- ⑥ 認定心理士の資格を取得しようとする者は、別表Ⅱ－10 の認定心理士欄に○印の付いている科目を履修してください。(卒業所要単位数に必修科目として算入されます)
- ⑦ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、別表Ⅱ－10 の卒業必修欄に○印の付いている科目を履修することにより条件が満たされます。(別表Ⅱ－13)
- ⑧ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑨ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 のとおり履修してください。(卒業所要単位数には算入されません)
- ⑩ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑪ 単位を修得（成績表に S・A・B・C）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

	チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	幼 一 免	保 育 士	認 定 心 理 士	履 修 年 次								備 考	
									1		2		3		4			
									春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
学部共通科目	☐	現代教育課題論		2					○									
	☐	教育法規概論		2							○							
	☐	環境問題入門		2							●	●	●					
	☐	情報科学入門		2									○					
	☐	発達支援場面研究		2									●	●	●	●		
		(小計)		10														
学科共通科目	☐	児童学概論		2	○				○	○								医療保育入門 食育入門 子育て支援ボランティア演習 地域支援ボランティア演習 幼児教育場面演習 保育場面演習
	☐	3年次ゼミ	演	2	○								○	○				
	☐	卒業研究ゼミ		3	○										○	○		
	☐	キャリアデザインⅠ	演	1	○					○								
	☐	キャリアデザインⅡ	演	1	○						○							
	☐	児童学特論Ⅰ		2					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅱ		2					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅲ		2					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅳ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅴ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅵ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅶ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
☐	児童学特論Ⅷ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		(小計)		20	9													
メイン科目	☐	幼児と健康		1		○			○									
	☐	幼児と人間関係		1		○						○						
	☐	幼児と環境		1		○			○									
	☐	幼児と言葉		1		○						○						
	☐	教職入門		2		○	○		●	●								
	☐	教育原理		2		○	○		●	●								
	☐	発達心理学		2		○					●	●						
	☐	特別支援教育総論		2		○			●	●								
	☐	教育社会学		1		○					●	●						
	☐	教育方法学		2		○					●	●						
	☐	保育・教育課程論		2		○	○				●	●						
	☐	保育原理Ⅰ		2		○	○			○								
	☐	幼児理解、保育相談		2		○							○					
	☐	教育相談		2		○							●	●				
	☐	児童文化演習Ⅰ～1	演	1		○	○		●	●								
	☐	児童文化演習Ⅰ～2	演	1		○	○		●	●								
	☐	児童文化演習Ⅱ～1	演	1		○	○						●	●				
	☐	子ども家庭福祉		2			○		●	●								
	☐	社会福祉学Ⅰ		2			○		●	●								
	☐	社会的養護Ⅰ		2			○				●	●						
	☐	保育の心理学		2			○		●	●								
	☐	子どもの保健		2			○		●	●								
	☐	子ども家庭支援の心理学		2			○				●	●						
	☐	子ども家庭支援論		2			○				●	●						
	☐	乳児保育Ⅰ		2			○				●	●						
	☐	心理学概論		2	○			○	○									
		(小計)		44	2	26	27	2										

チ ェ ン ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	幼 一 免	保 育 士	認 定 心 理 士	履 修 年 次								備 考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ ー ス 科 目	【心理学プログラム】															※メイン科目として履修
	☐ 児童心理学		2	○			○			○						
	☐ 青年心理学		2	○			○		○							
	☐ 社会心理学		2	○			○	●	●							
	☐ 認知心理学		2	○			○			○						
	☐ 人格心理学		2	○			○					○				
	【カウンセリングプログラム】															
	☐ 臨床心理学		2	○			○			○						
	☐ カウンセリング心理学		2	○			○			○						
	☐ 心理検査法実習Ⅰ	演	1	○			○					○				
	☐ 心理検査法実習Ⅱ	演	2	○			○						○			
	☐ (特別支援教育総論)		2	○			○	●	●							
	【リサーチメソッドプログラム】															
	☐ 心理学基礎実験Ⅰ	実	1	○			○			○						
	☐ 心理学基礎実験Ⅱ	実	1	○			○			○						
	☐ 心理学研究法Ⅰ		2	○			○					○				
	☐ 心理学研究法Ⅱ		2	○			○					○				
	☐ 心理統計法Ⅰ		2	○			○					○				
	☐ 心理統計法Ⅱ	演	1	○			○						○			
	☐ 乳幼児心理学		2	○			○			○						
	☐ 教育心理学		2	○			○						○			
	☐ 家族心理学		2				○							○		
	☐ 神経心理学		2									●	●	●	●	
	☐ 発達臨床心理学		2									●	●	●	●	
	☐ 児童精神医学		2									●	●	●	●	
	☐ 心理英語		2									●	●	●	●	
	☐ 心理療法面接実習Ⅰ	演	1	○			○					○				
	☐ 心理療法面接実習Ⅱ	演	1	○			○			○						
		(小計)		44	34			36								
幼 免 取 得 者 必 修 科 目	☐ 幼児と音楽表現Ⅰ	演	1		○	○		○								
	☐ 幼児と音楽表現Ⅱ	演	1		○	○			○							
	☐ 音楽実技	演	2		○	○		○	○	○						
	☐ 幼児と音楽表現Ⅲ	演	2		○	○						○	○	○	○	
	☐ 幼児と造形表現Ⅰ	演	1		○	○				○						
	☐ 幼児と造形表現Ⅱ	演	1		○	○					○					
	☐ 幼児と身体表現Ⅰ	演	1		○	○				○						
	☐ 幼児と身体表現Ⅱ	演	1		○	○					○					
	☐ 保育内容総論	演	1		○	○		○								
	☐ 保育内容指導法Ⅰ(健康)	演	1		○	○				○						
	☐ 保育内容指導法Ⅱ(健康)	演	1		○	○					○					
	☐ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係)	演	1		○	○						○				
	☐ 保育内容指導法Ⅳ(人間関係)	演	1		○	○							○			
	☐ 保育内容指導法Ⅴ(環境)	演	1		○	○				○						
	☐ 保育内容指導法Ⅵ(環境)	演	1		○	○					○					
	☐ 保育内容指導法Ⅶ(言葉)	演	1		○	○							○			
	☐ 保育内容指導法Ⅷ(言葉)	演	1		○	○								○		
	☐ 保育内容指導法Ⅸ(音楽表現)	演	1		○	○						○				
	☐ 保育内容指導法Ⅹ(音楽表現)	演	1		○	○							○			
	☐ 保育内容指導法ⅩⅠ(造形表現)	演	1		○	○							○			
	☐ 保育内容指導法ⅩⅡ(造形表現)	演	1		○	○								○		
	☐ 保育・教職実践演習(幼稚園)	演	2		○	○									○	
	☐ 幼児教育実習Ⅰ	実	1		○					○				○		
	☐ 幼児教育実習Ⅱ	実	2		○					○						
	☐ 幼児教育実習Ⅲ	実	2		○									○		

-39-

【授業の方法】 演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。
【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期
いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

- 40-

目標
内容

心のしくみを知ろう
心理学の基礎を知る

心のはたらきを探ろう
心理学の研究方法を知る

心理学を実践につなごう
心理学の専門性を深める

心理学を実践で使おう
心理学の活用力を高める

春学期1年生秋学期			春学期2年生秋学期			春学期3年生秋学期			春学期4年生秋学期			
児童学を深める ※DP1～3に該当			(学部共通選択科目) 現代教育課題論 教育法規概論 環境問題入門 情報科学入門 発達支援場面研究 (児童学科共通選択科目) 児童学特論Ⅰ～Ⅶ									
(学科必修科目) 児童学概論			キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ		3年次ゼミ			卒業研究ゼミ		
心のメカニズムを学ぶ	豊かな乳幼児観を育む DP1	乳幼児の心とからだの成長と発達を学ぶ DP2	心理学概論	青年心理学	乳幼児心理学			教育心理学				
			社会心理学	認知心理学	心理学基礎実験Ⅱ			神経心理学 (選択)				
				児童心理学	臨床心理学			心理統計法Ⅱ				
				心理学基礎実験Ⅰ	心理療法面接実習Ⅱ			心理学研究法Ⅱ			心理検査法実習Ⅱ	
				カウンセリング心理学				心理検査法実習Ⅰ			家族心理学 (選択)	
		特別支援教育総論					心理統計法Ⅰ					
							心理学研究法Ⅰ					
							心理療法面接実習Ⅰ					
							児童精神医学 (選択)					
									</			

心理学をベースに、乳幼児やその保護者を支援できる人になろう

備考

※幼稚園教諭第一種免許状を取得する場合は幼稚園教員コースのカリキュラムマップ、保育士資格を取得する場合は保育士コースのカリキュラムマップを参照

目標
内容

心のしくみを知ろう
心理学の基礎を知る

心のはたらきを探ろう
心理学の研究方法を知る

心理学を実践につなごう
心理学の専門性を深める

心理学を実践で使おう
心理学の活用力を高める

春学期 1年生 秋学期

春学期 2年生 秋学期

春学期 3年生 秋学期

春学期 4年生 秋学期

卒業認定・学位授与の
方針に掲げる学習成果

児童学を深める
※DP1～3に該当

人の生涯の発達段階とその特徴を
児童学の観点から理解することができる

子どもの心理とその探求方法について
児童学の観点から理解することができる

乳幼児期の心身の発達についての
学びを深め、実習に生かすことが
できる

乳幼児期の子どもの心身の発達に
ついての学びを、子どもの支援に
生かすことができる

DP 1 ～ 3 の学習成果に該当

心の
メカニズムを学ぶ

豊かな
乳幼児 観
を育む
DP1

保育に必要な豊かな乳幼児観の基礎
を学び、保育に必要な態度を説明でき
る

子どもの心理を理解した上での豊かな
乳幼児観を形成し、育むことができる

心理学に裏付けされた乳幼児観を発展
させ、子どもにかかわる実践に生かす
ことができる

心理学に裏付けされた乳幼児観をもと
に、多様な子どもの支援に生かすこ
とができる

【DP1】
礼節や思いやり、豊かな乳幼児
観などをもって乳幼児に接する
とともに、自律的に学び続けな
がら教育・保育の発展に貢献す
ることができる。

乳幼児
の心とからだの成
長と発達
を学ぶ
DP2

自己や他者、社会を心理学的に捉え直
し、生涯発達の観点で乳幼児の発達を
説明できる。

幼児教育・保育で求められる心理学の
基礎的な知識や心理学における基本
的なデータの扱い方を身につけている。

幼児教育・保育の実践で求められる心
理学的な支援を説明できるとともに、
心理学研究に必要なデータ解析の仕
方を身につけている。

自らの関心に合わせて心理学の知見や
手法を活用できる。

【DP2】
乳幼児の心とからだの成長と発
達に関する知識や技能を体系的に
理解するとともに、乳幼児に関す
る情報を分析し、論理的かつ創造
的に考えることができる。

豊かな表
現方法を
学ぶ
DP3

乳幼児の発達に合わせた表現方法の基礎
を学び、豊かな表現を理解できる

乳幼児の発達と心理に合わせた表現方法
の基礎を学び、合わせた表現方法の基礎
を学び、豊かな表現を理解できる

乳幼児の発達と心理に合わせた表現方法
を実践の場で生かし、より適切な表現を学ぶこ
とができる。

乳幼児の発達と心理に適した表現方法を
活用し、支援につなげることができる。

【DP3】
身体表現や音楽、造形など豊
かな表現方法で乳幼児とコミュニ
ケーションを取るとともに、他者
と協働しながら様々な問題に対
して主体的に問題解決することが
できる。

豊かな教養や
基礎力を高める
※DP1～3に該当

幼児教育・保育領域において求められ
る常識を身につけている。

幼児教育・保育領域に限らずさま
ざまな領域で必要とされる常識を身につ
けている。

グローバル社会で活かすことができる
語学力を身につけている。

グローバル社会で子どもや保護者の支
援に携わるために必須の国際感覚を活
用することができる。

DP 1 ～ 3 の学習成果に該当

人間性を
高める
※DP1～3に該当

子どもに対する深い愛情をもち、子ど
もや保護者の支援に心理学を生かして
貢献する意欲をもつことができる。

仲間と支え合い、協調して課題解決を
試みる力を身につける。

海外の教育や文化に直接触れながら、
国際的な視野で子どもや保護者の心理
支援を考えることができる。

様々な芸術や文化に積極的に触れるこ
とを通して、子どもや保護者の心理支
援の場で活躍するための人間性を高め
ようとしている。

心理学をベースに、乳幼児やその保護者を支援できる人になる

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 基礎専門体育 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 英語 II フランス語 I フランス語 II 基礎専門体育 II 情報活用演習 (教職) 教養科目	英語 III フランス語 III フランス語 IV 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 教養科目 教養科目
科目数	4	8	5	5
学部 共通 科目				
科目数				
学科 共通 科目	児童学概論	キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	
科目数	1	1	1	
コース 必修 科目	心理学概論	青年心理学 社会心理学	心理学基礎実験 I 児童心理学 カウンセリング心理学 乳幼児心理学	心理学基礎実験 II 臨床心理学 心理療法面接実習 II 認知心理学
科目数	1	2	4	4
幼稚園・ 保育士 科目	幼児と音楽表現 I 音楽実技 幼児と健康 幼児と環境 保育内容総論 児童文化演習 I～1 子ども家庭福祉 社会福祉学 I 保育の心理学 特別支援教育総論	幼児と音楽表現 II 音楽実技 保育原理 I 教職入門 児童文化演習 I～2 教育原理 子どもの保健	幼児と造形表現 I 音楽実技 幼児と身体表現 I 保育内容指導法 I (健康) 保育内容指導法 V (環境) 教育社会学 保育・教育課程論 社会的養護 I 教育方法学 子ども家庭支援の心理学	幼児と造形表現 II 音楽実技 幼児と身体表現 II 幼児と言葉 幼児と人間関係 保育内容指導法 II (健康) 保育内容指導法 VI (環境) 子どもの健康と安全 障害児保育 子ども家庭支援論 乳児保育 I
科目数	10	7	10	11
実 習			附属幼稚園実習	保育所実習
科目数計	16	18	20	20

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目				
学部 共通 科目				発達支援場面研究
科目数				1
学科 共通 科目	3 年次ゼミ	3 年次ゼミ	卒業研究ゼミ 児童学特論 VIII 保育場面演習	卒業研究ゼミ
科目数	1	1	2	1
コース 必修 科目	心理統計法 I 心理学研究法 I 心理療法面接実習 I	心理統計法 II 心理学研究法 II 心理検査法実習 I 教育心理学 人格心理学	心理検査法実習 II 家族心理学 (認定心理士必修科目)	
科目数	3	5	2	
幼稚園・ 保育士 科目	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 III (人間関係) 保育内容指導法 VII (言葉) 保育内容指導法 IX (音楽表現) 保育内容指導法 X I (造形表現) 児童文化演習 II～1 子どもの食と栄養 幼児理解・保育相談	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 IV (人間関係) 保育内容指導法 VIII (言葉) 保育内容指導法 X (音楽表現) 保育内容指導法 X II (造形表現) 乳児保育 II 社会的養護 II 子どもの理解と援助 子育て支援	幼児と音楽表現 III	幼児と音楽表現 III 保育・教職実践演習 (幼稚園)
科目数	8	9	1	2
実 習	施設実習	保育所実習	外部幼稚園実習	
科目数計	12	15	5	4

教育学部 児童学科 児童文化コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上となります。
- ② 児童文化コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門 教 育 科 目（B 類）		
必修科目	選択科目	計
45	49	94

- ③ 児童文化コースの専門教育科目については別表Ⅱ－11 の卒業必修欄に○印の付いている科目 43 単位及び★印の付いている科目から 2 単位以上と、別表Ⅱ－11 の幼稚園免許取得者必修科目、保育士資格取得者必修科目、選択専門プログラム科目及び別表Ⅱ－8～10、12、13 に記載されている科目から 49 単位以上を履修してください。（同一科目を重複して履修することはできません）
- ④ 幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ－11 のコース必修科目に加えて幼一免欄に○印の付いている科目を選択履修してください。（卒業所要単位数に選択科目として算入されます）
- ⑤ 保育士の資格を取得しようとする者は、別表Ⅱ－11 のコース必修科目に加えて保育士欄に○印の付いている科目と、△印の付いている科目から、保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）又は保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）の組み合わせで 2 科目履修してください。（卒業所要単位数に選択科目として算入されます）
- ⑥ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、別表Ⅱ－11 のコース必修科目に加えて、別表Ⅱ－13 のとおり履修してください。（卒業所要単位数に選択科目として算入されます）
- ⑦ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑧ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加えて別表Ⅷ－1、2、3、4、5 のとおり履修してください。（卒業所要単位数には算入されません）
- ⑨ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑩ 単位を修得（成績表に S・A・B・C）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

学 部 共 通 科 目	チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備 考		
								1		2		3		4				
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋			
		☐ 現代教育課題論		2				○										
		☐ 教育法規概論		2							○							
		☐ 環境問題入門		2							●	●	●					
		☐ 情報科学入門		2									○					
		☐ 発達支援場面研究		2								●	●	●	●			
		(小計)		10														
学 科 共 通 科 目		☐ 児童学概論		2	○			○	○									
		☐ 3年次ゼミ	演	2	○							○	○					
		☐ 卒業研究ゼミ		3	○										○	○		
		☐ キャリアデザインⅠ	演	1	○				○									
		☐ キャリアデザインⅡ	演	1	○					○								
		☐ 児童学特論Ⅰ		2					●	●	●	●	●	●	●	●	●	医療保育入門
		☐ 児童学特論Ⅱ		2					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		☐ 児童学特論Ⅲ		2					●	●	●	●	●	●	●	●	●	食育入門
		☐ 児童学特論Ⅳ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	子育て支援ボランティア演習
		☐ 児童学特論Ⅴ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		☐ 児童学特論Ⅵ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	地域支援ボランティア演習
		☐ 児童学特論Ⅶ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	幼児教育場面演習
		☐ 児童学特論Ⅷ	演	1					●	●	●	●	●	●	●	●	●	保育場面演習
		(小計)		20	9													
基 盤 科 目		☐ 幼児と健康		1		○		○										
		☐ 幼児と人間関係		1		○					○							
		☐ 幼児と環境		1		○		○										
		☐ 幼児と言葉		1		○					○							
		☐ 教職入門		2		○	○	●	●									
		☐ 教育原理		2		○	○	●	●									
		☐ 発達心理学		2		○				●	●							
		☐ 特別支援教育総論		2		○		●	●									
		☐ 教育社会学		1		○					●	●						
		☐ 教育方法学		2		○					●	●						
		☐ 保育・教育課程論		2		○	○			●	●							
		☐ 保育原理Ⅰ		2		○	○		○									
		☐ 幼児理解,保育相談		2		○							○					
		☐ 教育相談		2		○							●	●				
		☐ 児童文化演習Ⅰ～1	演	1		○	○	●	●									
		☐ 児童文化演習Ⅰ～2	演	1		○	○	●	●									
		☐ 児童文化演習Ⅱ～1	演	1		○	○					●	●					
		☐ 子ども家庭福祉		2			○	●	●									
		☐ 社会福祉学Ⅰ		2			○	●	●									
		☐ 社会的養護Ⅰ		2			○			●	●							
		☐ 保育の心理学		2			○	●	●									
		☐ 子どもの保健		2			○	●	●									
		☐ 子ども家庭支援の心理学		2			○			●	●							
		☐ 子ども家庭支援論		2			○			●	●							
		☐ 乳児保育Ⅰ		2			○			●	●							
		☐ 心理学概論		2				○										
		(小計)		44		26	27											

児童学科 専門教育科目（児童文化コース）										別表Ⅱ-1							
チェック欄	授業科目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備考		
							1		2		3		4				
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋			
コース科目	☐ 写真・映像表現	演	1	○							●	●	●	●	★の科目から2科目以上を選択履修すること。		
	☐ 造形ワークショップ		1	○							●	●	●	●			
	☐ 身体とリズム	演	1	○					●	●							
	☐ 子どものための演奏	演	1	★							●	●	●	●			
	☐ 児童文化概論		2	○			○										
	☐ 児童文化実習	実	2	○				○	○								
	☐ 生涯学習論		2	○				○									
	☐ 子どもビジネスの世界	演	2	○					○								
	☐ マンガ・アニメ論Ⅱ	演	1	★			○										
	☐ 子どもとことば		1	★			○										
	☐ 児童文化実践演習	演	2	○				○									
	☐ 玩具・遊具		2	○					○								
	☐ 野外活動論		2	○							●	●	●	●			
	☐ レクリエーション基礎演習	演	1	○				○									
	【児童文化プログラム】																
	☐ 絵本		2	○							●	●	●	●			
	☐ 昔話・わらべうた		2	○							●	●	●	●			
	☐ 児童文学		2	○							●	●	●	●			
	☐ マンガ・アニメ論Ⅰ		2	○							●	●	●	●			
	☐ 絵画表現基礎		2	○							●	●	●	●			
	【地域創生・交流プログラム】																
	☐ 生涯学習とボランティア活動		2	○							●	●	●	●			
	☐ 子どものための地域活動	演	2	○							●	●	●	●			
	☐ 伝承遊び	演	1	○							●	●	●	●			
	☐ 舞台芸術演習	演	1	★							●	●	●	●			
	☐ リズム遊び	演	1	○							●	●	●	●			
	(小計)		38	36													
幼免取得者必修科目	☐ 幼児と音楽表現Ⅰ	演	1		○	○	○										
	☐ 幼児と音楽表現Ⅱ	演	1		○	○		○									
	☐ 音楽実技	演	2		○	○	○	○	○								
	☐ 幼児と音楽表現Ⅲ	演	2		○	○				○	○	○	○				
	☐ 幼児と造形表現Ⅰ	演	1		○	○		○									
	☐ 幼児と造形表現Ⅱ	演	1		○	○			○								
	☐ 幼児と身体表現Ⅰ	演	1		○	○		○									
	☐ 幼児と身体表現Ⅱ	演	1		○	○			○								
	☐ 保育内容総論	演	1		○	○	○										
	☐ 保育内容指導法Ⅰ(健康)	演	1		○	○		○									
	☐ 保育内容指導法Ⅱ(健康)	演	1		○	○			○								
	☐ 保育内容指導法Ⅲ(人間関係)	演	1		○	○				○							
	☐ 保育内容指導法Ⅳ(人間関係)	演	1		○	○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅴ(環境)	演	1		○	○		○									
	☐ 保育内容指導法Ⅵ(環境)	演	1		○	○			○								
	☐ 保育内容指導法Ⅶ(言葉)	演	1		○	○				○							
	☐ 保育内容指導法Ⅷ(言葉)	演	1		○	○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅸ(音楽表現)	演	1		○	○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅹ(音楽表現)	演	1		○	○						○					
	☐ 保育内容指導法ⅩⅠ(造形表現)	演	1		○	○				○							
	☐ 保育内容指導法ⅩⅡ(造形表現)	演	1		○	○					○						
	☐ 保育・教職実践演習(幼稚園)	演	2		○	○								○			
	☐ 幼児教育実習Ⅰ	実	1		○			○					○				
	☐ 幼児教育実習Ⅱ	実	2		○			○									
	☐ 幼児教育実習Ⅲ	実	2		○								○				

履修年次	1 春	2 秋	3 春	4 秋	備考
授業科目	単 位	卒業 必修	幼 一 免	保 育 士	
社会的養護Ⅱ	演 1			○	
子どもの理解と援助	演 1			○	
子どもの健康と安全	演 1			○	
子どもの食と栄養	演 2			○	
子育て支援	演 1			○	
乳児保育Ⅱ	演 1			○	
障害児保育	演 2			○	
保育実習Ⅰ（保育所）	実 2			○	
保育実習Ⅰ（施設）	実 2			○	
保育実習Ⅱ（保育所）	実 2			△	
保育実習Ⅲ（施設）	実 2			△	
保育実習指導Ⅰ	演 2			○	
保育実習指導Ⅱ（保育所）	演 1			△	
保育実習指導Ⅲ（施設）	演 1			△	
（小計）	51		30	43	
【幼児教育エキスパートプログラム】					幼児希望者のみ履修可
幼児と自然体験	2				
文芸創作演習	2				
遊具と遊び	2				
行事運営実践	2				
危機管理演習	2				
【造形表現プログラム】					
平面表現	2				
立体表現	2				
造形表現デザイン	2				
幼児と文化財	2				
造形指導法	2				
【音楽表現プログラム】					
音遊び・手遊び	2				
オペレッタ・ミュージカル	2				
歌唱指導・わらべうた	2				
ボディパーカッション・楽器遊び	2				
リトミック	2				
【インクルーシブ保育プログラム】					
障害児・者の権利論	2				
障害文化論	2				
ライフステージ支援研究	2				
医療・保育連携論	2				
インクルーシブ保育研究	2				
【多文化保育プログラム】					
保育における多文化理解	2				
世界の子どもの生活と文化	2				
異文化間コミュニケーション論	2				
保育における外国語活動	2				
世界の就学前教育	2				
【海外保育実習プログラム】					幼保免許資格希望者のみ履修可
事前事後指導（海外）	1				※教育学特論Ⅶ
海外保育実習	1				※教育学特論Ⅷ
【運動遊びプログラム】					
子どもの発達・発育と運動論	2				
運動遊び研究	2				
遊具での運動遊びと安全	2				
子どもの自然活動基礎論	2				
運動行事研究	2				

選択専門プログラム科目		授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備 考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		【乳児保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
	☐	赤ちゃん学概論		2							●	●	●	●		
	☐	現代保育課題研究		2							●	●	●	●		
	☐	乳児保育の実践演習		2							●	●	●	●		
	☐	子育て支援と現代育児論		2							●	●	●	●		
	☐	乳児期とメディア		2							●	●	●	●		
		【医療保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
	☐	医療保育概論		2						○						
	☐	保育士に必要な医学的知識		2							○					
	☐	病棟保育の実践		2										○		
	☐	病児・病後児保育の実践		2										○		
	☐	医療保育とセーフティマネジメント		2						○						
	☐	療育保育の実践		2										○		※教育学特論Ⅰ
	☐	医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2									○			※教育学特論Ⅱ
	☐	乳幼児の病態生理学		2									○			※教育学特論Ⅲ
	☐	医療保育研究	演	2											○	※教育学特論Ⅵ
	☐	保育看護		2							○					※教育学特論Ⅴ
	☐	医療保育実習	実	1										○	○	※教育学特論Ⅵ
		【リサーチメソッドプログラム】														
	☐	心理学基礎実験Ⅰ	実	1								●	●	●	●	
	☐	心理学基礎実験Ⅱ	実	1								●	●	●	●	
	☐	心理学研究法Ⅰ		2								●	●	●	●	
	☐	心理学研究法Ⅱ		2								●	●	●	●	
	☐	心理統計法Ⅰ		2								●	●	●	●	
	☐	心理統計法Ⅱ	演	1								●	●	●	●	
		【心理学プログラム】														
	☐	児童心理学		2								●	●	●	●	
	☐	青年心理学		2								●	●	●	●	
	☐	社会心理学		2								●	●	●	●	
	☐	認知心理学		2								●	●	●	●	
☐	人格心理学		2								●	●	●	●		
	【カウンセリングプログラム】															
☐	臨床心理学		2								●	●	●	●		
☐	カウンセリング心理学		2								●	●	●	●		
☐	心理検査法実習Ⅰ	演	1								●	●	●	●		
☐	心理検査法実習Ⅱ	演	2								●	●	●	●		
☐	(特別支援教育総論)		2					●	●						※基盤科目として履修	
	(小計)		121													
	計		284	45	56	70										

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。
 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

- ◆ 保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)
 いずれかの組合せを選択すること。

目標
内容

子どもと遊ぶ・交流するスキルを
身につけよう 児童文化の基礎的理解

子どもと遊ぶ・交流するスキルを
実践で活かそう 児童文化による支援の理解

子ども文化を創造し、地域に提案
していこう 得意分野をもち深める

子どもがよりよく生きる地域社会
を考えよう 児童文化の広く深い理解

春学期 1年生 秋学期		春学期 2年生 秋学期		春学期 3年生 秋学期		春学期 4年生 秋学期	
実践力を養う ※DP1～3に該当		児童文化実習					
(学部共通選択科目) 現代教育課題論 教育法規概論 環境問題入門 情報科学入門 発達支援場面研究		(児童学科共通選択科目) 児童学特論Ⅰ～Ⅷ					
(学科必修科目) 児童学概論		キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ		3年次ゼミ	
児童文化概論		児童文化実践演習 レクリエーション基礎演習		玩具・遊具 子どものビジネスの世界		卒業研究ゼミ	
子どもことば ★		生涯学習論		絵本 児童文学 マンガ・アニメ論Ⅰ 絵画表現基礎 生涯学習とボランティア活動 子どものための地域活動		昔話・わらべうた 伝承遊び	
マンガ・アニメ論Ⅱ ★		身体とリズム		造形ワークショップ 写真・映像表現 子どものための演奏 ★		舞台芸術演習 ★ リズム遊び	
英語Ⅰ～Ⅳ 選択 外国語(ドイツ語・フランス語)Ⅰ～Ⅳ 情報活用演習(基礎) スポーツと健康Ⅱ スポーツと健康Ⅰ 基礎専門体育Ⅰ 基礎専門体育Ⅱ		英語Ⅰ～Ⅳ 選択 外国語(ドイツ語・フランス語)Ⅰ～Ⅳ 情報活用演習(基礎) スポーツと健康Ⅱ スポーツと健康Ⅰ 基礎専門体育Ⅰ 基礎専門体育Ⅱ		★ 3年次と4年次でそれぞれ1科目以上履修 選択 選択英語Ⅴ～Ⅷ 選択 外国語(ドイツ語・フランス語)Ⅴ～Ⅷ			
聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅠ		聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅡ		聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ			
聖徳教育Ⅱ(FC) 聖徳教育Ⅱ(志賀高原)		小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ(海外研修)			
聖徳教育Ⅰ(シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー)		聖徳教育Ⅰ(シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー)		聖徳教育Ⅰ(シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー)		聖徳教育Ⅰ(シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー)	

子どもの遊び(造形、音楽、身体表現など)や文化に強い先生になって、
豊かな地域社会を創造しよう

※幼稚園教諭第一種免許状を取得する場合は幼稚園教員コースのカリキュラムマップ、保育士資格を取得する場合は保育士コースのカリキュラムマップを参照

目標
内容

子どもと遊ぶ・交流する
スキルを身につけよう
児童文化の基礎的理解

子どもと遊ぶ・交流する
スキルを実践で活かそう
児童文化による支援の理解

子ども文化を創造し、
地域に提案していこう
得意分野をもち深める

子どもがよりよく生きる
地域社会を考えよう
児童文化の広く深い理解

卒業認定・学位授与の
方針に掲げる学習成果

子どもの遊び（造形、音楽、身体表現など）や文化に強い先生になって、
豊かな地域社会を創造しよう

DP 1 ～ 3 の学習成果に該当

【DP 1】
礼節や思いやり、豊かな乳幼児
観などをもって乳幼児に接すると
ともに、自律的に学び続けながら
教育・保育の発展に貢献するこ
ができる。

【DP 2】
乳幼児の心とからだの成長と発
達に関する知識や技能を体系的に
理解するとともに、乳幼児に関す
る情報を分析し、論理的かつ創造
的に考えることができる。

【DP 3】
身体表現や音楽、造形など豊かな
表現方法で乳幼児とコミュニケー
ションを取るとともに、他者と協働
しながら様々な問題に対して主体的
に問題解決することができる。

DP 1 ～ 3 の学習成果に該当

春学期 1 年生 秋学期

児童学の基礎を理解することができる

1 年次に児童文化の基礎を学び、
研究の方向性を考える

児童文化の概略と基礎を理解する

子どもの発達に応じた
児童文化財の特性を理解する

身体的表現や、音楽や造形など
豊かな表現方法の基礎を理解する

社会人に求められる基本的な常識を身
につけている。

様々な芸術や文化に触れ、子どもや地
域社会を支援する意欲を持つことが
できる。

春学期 2 年生 秋学期

児童学の学びと自分のキャリアを結び
つけて考えることができる

2 年次には、より深く児童学に対する
興味を持てるように学びを深める

児童文化の実践方法を
理論と実践の両面から理解する

児童文化を通し、
多様な文化や伝統を理解する

児童文化についての学びを活かし
乳幼児とコミュニケーションをとること
ができる

子どもや地域との交流を通して社会人
としての常識を身につけている。

様々な芸術や文化に触れ、子どもや地
域社会を支援する意欲を高く持つこ
とができる。

春学期 3 年生 秋学期

児童学の学びのなかで自分の専門性を
深めることができる

1・2 年生で、児童学の基礎を学び、
3 年次のゼミでより深く、主体的に学ぶ

社会における児童文化の意義を
理解する

子どもの心とからだの成長に応じた
児童文化を創造することができる

自らの表現力を高め
児童文化の得意分野を深める

英語力を高め表現力を身につける。

海外の教育や文化に直接触れながら、
国際人としての教養や人間性を高めよ
うとしている。

春学期 4 年生 秋学期

児童学の学びの成果として、研究や制
作をおこなうことができる

ゼミで深めた児童学の問題意識を
根底にして、卒業研究をより深化させる

児童文化について学んだことを活用し
研究や実践で表現することができる

児童文化及び児童学について
理論に基づいた研究や
創造的活動をおこなうことができる

児童文化の得意分野を深め、
地域社会に活かせる

英語力を高め文交流できる力を身につ
ける。

様々な芸術や文化に積極的に触れるこ
とを通して社会人としての教養や人間
性を高めようとしている。

実践力を養う
※DP1～3に該当

児童学を深める
※DP1～3に該当

遊びや交流の中で育まれる児童文化を学ぶ
豊かな乳幼児 観
を育む
DP1

乳幼児
の心と
からだ
の成長
と発達
を学ぶ
DP2

豊かな表
現方法を学
ぶ
DP3

豊かな教養や
基礎力を高める
※DP1～3に該当

人間性を
高める
※DP1～3に該当

児童学科 免許・資格取得履修モデル
 児童学科児童文化コース (幼稚園教諭+保育士資格)

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1年		2年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 基礎専門体育 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II フランス語 I フランス語 II 基礎専門体育 II 情報活用演習 (教職) 日本国憲法 教養科目	英語 III フランス語 III フランス語 IV 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 教養科目 教養科目
科目数	4	8	5	5
学部 共通 科目				
科目数				
学科 共通 科目	児童学概論	キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	
科目数	1	1	1	
コース 必修 科目	児童文化概論 子どもとことば★	児童文化実践演習 レクリエーション基礎演習 マンガ・アニメ論 II★	玩具・遊具 児童文化実習 生涯学習論 身体とリズム	子どもビジネスの世界 児童文化実習
科目数	2	3	4	2
幼稚園・ 保育士 科目	幼児と音楽表現 I 音楽実技 幼児と健康 保育内容総論 児童文化演習 I～1 子ども家庭福祉 社会福祉学 I 保育の心理学 幼児と環境 特別支援教育総論	幼児と音楽表現 II 音楽実技 保育原理 I 児童文化演習 I～2 教育原理 子どもの保健 教職入門	幼児と造形表現 I 音楽実技 幼児と身体表現 I 保育内容指導法 I (健康) 保育内容指導法 V (環境) 教育社会学 保育・教育課程論 社会的養護 I	幼児と造形表現 II 音楽実技 幼児と身体表現 II 幼児と言葉 保育内容指導法 II (健康) 保育内容指導法 VI (環境) 発達心理学 子ども家庭支援論 子どもの健康と安全 障害児保育 幼児と人間関係 乳児保育 I
科目数	10	7	8	12
実 習			附属幼稚園実習	保育所実習
科目数計	17	19	18	19

	3年		4年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目				
科目数				
学部 共通 科目		環境問題入門		
科目数		1		
学科 共通 科目	3年次ゼミ	3年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
科目数	1	1	1	1
コース 必修 科目	野外活動論 絵本 子どものための演奏★ マンガ・アニメ論 I 造形ワークショップ 生涯学習とボランティア活動	児童文学 絵画表現基礎 子どものための地域活動 写真・映像表現	昔話・わらべうた 伝承遊び 舞台芸術演習 ★	リズム遊び
科目数	6	4	3	1
幼稚園・ 保育士 科目	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 III (人間関係) 保育内容指導法 VII (言葉) 保育内容指導法 IX (音楽表現) 保育内容指導法 X I (造形表現) 児童文化演習 II～1 教育相談 子どもの食と栄養 幼児理解・保育相談 教育方法学 子ども家庭支援の心理学	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 IV (人間関係) 保育内容指導法 VIII (言葉) 保育内容指導法 X (音楽表現) 保育内容指導法 X II (造形表現) 乳児保育 II 社会的養護 II 子どもの理解と援助 子育て支援	幼児と音楽表現 III	幼児と音楽表現 III 保育・教職実践演習 (幼稚園)
科目数	11	9	1	2
実 習	施設実習	保育所実習	外部幼稚園実習	
科目数計	18	15	5	4

※★印の付された科目は3年次、4年次ともに1科目以上履修(同じ科目の重複履修は不可)。

教育学部 児童学科 医療保育コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上となります。
- ② 医療保育コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門 教 育 科 目（B 類）		
必修科目	選択科目	B 類計
89	5	94

- ③ 医療保育コースの専門教育科目（B 類）の必修科目については、別表Ⅱ－12 の卒業必修欄に○印の付いている科目 86 単位、△印の付いている科目から、保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）の組み合わせで 2 科目 3 単位の合計 89 単位を履修してください。
- ④ 選択科目については、別表Ⅱ－12 のコース科目、幼稚園免許取得者必修科目、選択専門プログラム科目及び別表Ⅱ－8～11、13 に記載されている科目から 5 単位以上を履修してください。（同一科目を重複して履修することはできません）
- ⑤ 幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、幼一免欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑥ ピアヘルパー認定試験を受験しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅱ－13 のとおり履修してください。（卒業所要単位数に選択科目として算入されます）
- ⑦ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑧ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 のとおり履修してください。（卒業所要単位数には算入されません）
- ⑨ 同一授業科目について卒業必修欄、幼一免欄又は保育士欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑩ 単位を修得（成績表に S・A・B・C）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

児童学科 専門教育科目（医療保育コース）

別表Ⅱ-12

	チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備 考	
								1		2		3		4			
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
学部 共 通 科 目	☐	現代教育課題論		2				○									
	☐	教育法規概論		2						○							
	☐	環境問題入門		2						●	●	●					
	☐	情報科学入門		2								○					
	☐	発達支援場面研究		2								●	●	●	●		
		(小計)		10													
学 科 共 通 科 目	☐	児童学概論		2	○			○	○								医療保育入門 食育入門 子育て支援ボランティア演習 地域支援ボランティア演習 幼児教育場面演習 保育場面演習
	☐	3年次ゼミ	演	2	○						○	○					
	☐	卒業研究ゼミ		3	○								○	○			
	☐	キャリアデザインⅠ	演	1	○				○								
	☐	キャリアデザインⅡ	演	1	○					○							
	☐	児童学特論Ⅰ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅱ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅲ		2				●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅳ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅴ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅵ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐	児童学特論Ⅶ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	●	
☐	児童学特論Ⅷ	演	1				●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		(小計)		20	9												
基 盤 科 目	☐	幼児と健康		1		○		○									
	☐	幼児と人間関係		1		○				○							
	☐	幼児と環境		1		○		○									
	☐	幼児と言葉		1		○				○							
	☐	教職入門		2	○	○	○	●	●								
	☐	教育原理		2	○	○	○	●	●								
	☐	発達心理学		2		○				●	●						
	☐	特別支援教育総論		2		○		●	●								
	☐	教育社会学		1		○				●	●						
	☐	教育方法学		2		○				●	●						
	☐	保育・教育課程論		2	○	○	○			●	●						
	☐	保育原理Ⅰ		2	○	○	○		○								
	☐	幼児理解,保育相談		2		○						○					
	☐	教育相談		2		○						●	●				
	☐	児童文化演習Ⅰ～1	演	1	○		○	●	●								
	☐	児童文化演習Ⅰ～2	演	1	○		○	●	●								
	☐	児童文化演習Ⅱ～1	演	1	○		○					●	●				
	☐	子ども家庭福祉		2	○		○	●	●								
	☐	社会福祉学Ⅰ		2	○		○	●	●								
	☐	社会的養護Ⅰ		2	○		○			●	●						
	☐	保育の心理学		2	○		○	●	●								
	☐	子どもの保健		2	○		○	●	●								
	☐	子ども家庭支援の心理学		2	○		○			●	●						
	☐	子ども家庭支援論		2	○		○			●	●						
☐	乳児保育Ⅰ		2	○		○			●	●							
☐	心理学概論		2				○										
		(小計)		44	27	23	27										

児童学科		専門教育科目		（区域保育コース）				履 修 年 次								備考	
チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼一免	保育士	1		2		3		4				
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋			
保育士資格取得者必修科目	☐ 社会的養護Ⅱ	演	1	○		○						●	●				
	☐ 子どもの理解と援助	演	1	○		○						●	●				
	☐ 子どもの健康と安全	演	1	○		○			●	●							
	☐ 子どもの食と栄養	演	2	○		○						●	●				
	☐ 子育て支援	演	1	○		○						●	●				
	☐ 乳児保育Ⅱ	演	1	○		○						●	●				
	☐ 障害児保育	演	2	○		○			●	●							
	☐ 保育実習Ⅰ（保育所）	実	2	○		○				○							
	☐ 保育実習Ⅰ（施設）	実	2	○		○					○						
	☐ 保育実習Ⅱ（保育所）	実	2	△		△						○					
	☐ 保育実習Ⅲ（施設）	実	2	△		△						○					
	☐ 保育実習指導Ⅰ	演	2	○		○				○	○						
	☐ 保育実習指導Ⅱ（保育所）	演	1	△		△							○				
	☐ 保育実習指導Ⅲ（施設）	演	1	△		△							○				
	☐ 幼児と音楽表現Ⅰ	演	1	○	○	○	○										
	☐ 幼児と音楽表現Ⅱ	演	1	○	○	○		○									
	☐ 音楽実技	演	2	○	○	○	○	○	○	○							
	☐ 幼児と音楽表現Ⅲ	演	2	○	○	○						○	○	○	○		
	☐ 幼児と造形表現Ⅰ	演	1	○	○	○			○								
	☐ 幼児と造形表現Ⅱ	演	1	○	○	○				○							
	☐ 幼児と身体表現Ⅰ	演	1	○	○	○			○								
	☐ 幼児と身体表現Ⅱ	演	1	○	○	○				○							
	☐ 保育内容総論	演	1	○	○	○	○										
	☐ 保育内容指導法Ⅰ（健康）	演	1	○	○	○			○								
	☐ 保育内容指導法Ⅱ（健康）	演	1	○	○	○				○							
	☐ 保育内容指導法Ⅲ（人間関係）	演	1	○	○	○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅳ（人間関係）	演	1	○	○	○						○					
	☐ 保育内容指導法Ⅴ（環境）	演	1	○	○	○			○								
	☐ 保育内容指導法Ⅵ（環境）	演	1	○	○	○				○							
	☐ 保育内容指導法Ⅶ（言葉）	演	1	○	○	○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅷ（言葉）	演	1	○	○	○						○					
	☐ 保育内容指導法Ⅸ（音楽表現）	演	1	○	○	○						○					
	☐ 保育内容指導法Ⅹ（音楽表現）	演	1	○	○	○							○				
	☐ 保育内容指導法ⅩⅠ（造形表現）	演	1	○	○	○						○					
	☐ 保育内容指導法ⅩⅡ（造形表現）	演	1	○	○	○							○				
	☐ 保育・教職実践演習（幼稚園）	演	2	○	○	○									○		
必許幼稚科得園目者免	☐ 幼児教育実習Ⅰ	実	1		○			○					○		事前・事後オリエンテーション等 附属幼実習 外部幼実習		
	☐ 幼児教育実習Ⅱ	実	2		○			○									
	☐ 幼児教育実習Ⅲ	実	2		○								○				
	(小計)		51	43	30	43											

	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	幼 一 免	保 育 士	履 修 年 次								備 考
							1		2		3		4		
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ ー ス 科 目	【医療保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
	☐ 医療保育概論		2	○					○						
	☐ 保育士に必要な医学的知識		2	○						○					
	☐ 病棟保育の実践		2	○								○			
	☐ 病児・病後児保育の実践		2	○									○		
	☐ 医療保育とセーフティマネジメント		2	○						○					
	☐ 療育保育の実践		2									○			
	☐ 医療保育の家族理解と患者支援の心理学		2								○				
	☐ 乳幼児の病態生理学		2								○				
	☐ 医療保育の発達臨床心理学	演	2										○		
	☐ 保育看護		2								○				
	☐ 医療保育実習	実	1										○	○	
	(小計)		21	10											
選 択 専 門 プ ロ グ ラ ム 科 目	【幼児教育エキスパートプログラム】														幼児希望者のみ履修可
	☐ 幼児と自然体験		2								●	●	●	●	
	☐ 文芸創作演習		2								●	●	●	●	
	☐ 遊具と遊び		2								●	●	●	●	
	☐ 行事運営実践		2								●	●	●	●	
	☐ 危機管理演習		2								●	●	●	●	
	【音楽表現プログラム】														
	☐ 音遊び・手遊び		2								●	●	●	●	
	☐ オペレッタ・ミュージカル		2								●	●	●	●	
	☐ 歌唱指導・わらべうた		2								●	●	●	●	
	☐ ボディパーカッション・楽器遊び		2								●	●	●	●	
	☐ リトミック		2								●	●	●	●	
	【インクルーシブ保育プログラム】														
	☐ 障害児・者の権利論		2								●	●	●	●	
	☐ 障害文化論		2								●	●	●	●	
	☐ ライフステージ支援研究		2								●	●	●	●	
	☐ 医療・保育連携論		2								●	●	●	●	
	☐ インクルーシブ保育研究		2								●	●	●	●	
	【多文化保育プログラム】														
	☐ 保育における多文化理解		2								●	●	●	●	
	☐ 世界の子どもの生活と文化		2								●	●	●	●	
	☐ 異文化間コミュニケーション論		2								●	●	●	●	
	☐ 保育における外国語活動		2								●	●	●	●	
	☐ 世界の就学前教育		2								●	●	●	●	
	【海外保育実習プログラム】														幼保免許資格希望者のみ履修可
	☐ 事前事後指導(海外)		1								●	●	●	●	
	☐ 海外保育実習		1								●	●	●	●	
	【運動遊びプログラム】														
	☐ 子どもの発達・発育と運動論		2								●	●	●	●	
	☐ 運動遊び研究		2								●	●	●	●	
	☐ 遊具での運動遊びと安全		2								●	●	●	●	
	☐ 子どもの自然活動基礎論		2								●	●	●	●	
	☐ 運動行事研究		2								●	●	●	●	

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	幼一免	保育士	履 修 年 次								備考
							1		2		3		4		
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
選択専門プログラム科目	☐ 【乳児保育プログラム】														保育士資格希望者のみ履修可
	☐ 赤ちゃん学概論		2								●	●	●	●	
	☐ 現代保育課題研究		2								●	●	●	●	
	☐ 乳児保育の実践演習		2								●	●	●	●	
	☐ 子育て支援と現代育児論		2								●	●	●	●	
	☐ 乳児期とメディア		2								●	●	●	●	
	☐ 【リサーチメソッドプログラム】														
	☐ 心理学基礎実験Ⅰ	実	1								●	●	●	●	
	☐ 心理学基礎実験Ⅱ	実	1								●	●	●	●	
	☐ 心理学研究法Ⅰ		2								●	●	●	●	
	☐ 心理学研究法Ⅱ		2								●	●	●	●	
	☐ 心理統計法Ⅰ		2								●	●	●	●	
	☐ 心理統計法Ⅱ	演	1								●	●	●	●	
	☐ 【心理学プログラム】														
	☐ 児童心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 青年心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 社会心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 認知心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 人格心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 【カウンセリングプログラム】														
	☐ 臨床心理学		2								●	●	●	●	
	☐ カウンセリング心理学		2								●	●	●	●	
	☐ 心理検査法実習Ⅰ	演	1								●	●	●	●	
	☐ 心理検査法実習Ⅱ	演	2								●	●	●	●	
	☐ （特別支援教育総論）		2					●	●						
	☐ 【造形表現プログラム】														
	☐ 立体表現		2								●	●	●	●	
	☐ 平面表現		2								●	●	●	●	
	☐ 造形表現デザイン		2								●	●	●	●	
	☐ 幼児と文化財	演	2								●	●	●	●	
	☐ 造形指導法		2								●	●	●	●	
	☐ 【児童文化プログラム】														
	☐ 絵本		2								●	●	●	●	
	☐ 昔話・わらべうた		2								●	●	●	●	
	☐ 児童文学		2								●	●	●	●	
	☐ マンガ・アニメ論Ⅰ		2								●	●	●	●	
☐ 絵画表現基礎		2								●	●	●	●		
☐ 【地域創生・交流プログラム】															
☐ 生涯学習とボランティア活動		2								●	●	●	●		
☐ 子どものための地域活動	演	2								●	●	●	●		
☐ 伝承遊び	演	1								●	●	●	●		
☐ 舞台芸術演習	演	1								●	●	●	●		
☐ リズム遊び	演	1								●	●	●	●		
	(小計)		117												
	計		263	89	53	70									

【授業の方法】 演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。
 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

- ◆ 保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）いずれかの組合せを選択すること。

カリキュラムマップ

医療保育の専門性を深めよう
専門分野を強みに変え、将来に活かす

医療を必要とする子どもとその家族を支える実践力のある保育士になろう

目標
内容

医療保育の基礎を学ぼう
医療保育の理論と実践の基礎を学ぶ

医療保育の実践力を
身につけよう
医療保育の理論と実践を学ぶ

医療保育の実践力を
伸ばそう
医療保育の理論と実践力を磨く

医療保育の専門性を
深めよう
専門分野を強みに変え、将来に活かす

卒業認定・学位授与の
方針に掲げる学習成果

DP 1 ～ 3 の学習成果に該当

【DP 1】
礼節や思いやり、豊かな乳幼児観などをもって乳幼児に接するとともに、自律的に学び続けながら教育保育の発展に貢献することができる。

【DP 2】
乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能を体系的に理解するとともに、乳幼児に関する情報を分析し、論理的かつ創造的に考えることができる。

【DP 3】
身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で乳幼児とコミュニケーションを取るとともに、他者と協働しながら様々な問題に対して主体的に問題解決することができる。

DP 1 ～ 3 の学習成果に該当

多様化する保育現場のニーズと課題に応えられる質の高い保育士になろう。

	春学期 1 年生 秋学期	春学期 2 年生 秋学期	春学期 3 年生 秋学期	春学期 4 年生 秋学期
実践力を養う ※DP1～3に該当	子どもの発達段階や保育・養護の概要を理解することができる。	子どもの特性や保育士の役割・援助について理解することができる。	保育実習（保育所・施設）を通して、子どもの特性や保育士の役割・援助を理解し、実践することができる。	保育実習を通して保育の専門性を身につけ、その多様な職務と職業倫理について理解することができる。
児童学を深める ※DP1～3に該当	乳幼児期における発達と養護について児童学の観点から理解することができる。	乳幼児期の子どもの発達と養護について児童学の観点から理論と実践をつなげることができる。	グローバルな視点による乳幼児期の保育と養護についての学びを実習に生かすことができる	乳幼児期の子どもの発達と養護についての学びを、保育の現場に生かし、工夫することができる
保育・養護の世界を探究する	豊かな乳幼児観を育む DP1	礼節や思いやり、豊かな乳幼児観をもって、医療を必要とする乳幼児に接する重要性を理解し、保育の発展に必要な、自律的な学習態度を身につけている。	礼節や思いやり、豊かな乳幼児観をもって、医療を必要とする乳幼児に接しようとし、自律的に学びながら保育の発展について考えている。	礼節や思いやり、豊かな乳幼児観をもって、医療を必要とする乳幼児に接することが十分にでき、自律的に学びながら、多様化する保育現場の発展に貢献することができる。
	乳幼児の心とからだの成長と発達を学ぶ DP2	乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能の一部を理解し、医療を必要とする乳幼児に関する情報に広く関心をもつことができる。	乳幼児の心とからだの成長と発達に関する知識や技能を理解し、医療を必要とする乳幼児に関する情報を分析し、グローバルな視点で考えることができる。	乳幼児の心と体の成長と発達に関する知識や技能を体系的に理解し、多様化する医療現場での乳幼児に関する情報を分析し、論理的かつ創造的に、考えることができる。
	豊かな表現方法を学ぶ DP3	身体表現や音楽、造形などの表現方法で医療を必要とする乳幼児とコミュニケーションをとる意味を理解し、問題に対して主体的に考えることができる。	身体表現や音楽、造形などの表現方法で他者と共働しながら医療を必要とする乳幼児とコミュニケーションを取り、グローバルな視点で、様々な問題に対して問題解決することができる。	身体表現や音楽、造形など豊かな表現方法で医療を必要とする乳幼児とコミュニケーションでき、多様化する問題に対して、主体性と共働性をもって問題解決することができる。
豊かな教養や基礎力を高める ※DP1～3に該当	保育士に求められる基礎的な学力や語学力、ICT活用力を身につけている。	多方面に興味・関心を広げ、幅広い教養を身につけている。	グローバル社会で活かすことができる語学力を身につけている。	グローバル社会で保育・養護に携わる者に必須の国際感覚を活用することができる。
人間性を高める ※DP1～3に該当	子どもに対する深い愛情をもち、建学の精神に基づく行動ができる。	礼法やグループワークを通して、対人関係を適切に形成することができる。	海外の教育や文化に直接触れながら、保育士としての教養や人間性を高めることができる。	様々な芸術や文化に触れることを通して、保育士としての教養や人間性に一層の磨きをかけることができる。

児童学科 免許・資格取得履修モデル

児童学科 医療保育コース (保育士資格＋幼稚園教諭)

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 基礎専門体育 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II フランス語 I フランス語 II 基礎専門体育 II 情報活用演習 (教職) 日本国憲法 教養科目	英語 III フランス語 III フランス語 IV 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 教養科目 教養科目
科目数	4	8	5	5
学部 共通 科目				
科目数				
学科 共通 科目	児童学概論	キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	児童学特論 IV 子育て支援ボランティア演習
科目数	1	1	1	1
コ ー ス 必 修 科 目	幼児と音楽表現 I 音楽実技 社会福祉学 I 保育の心理学 児童文化演習 I～1 子ども家庭福祉 保育内容総論	幼児と音楽表現 II 音楽実技 教職入門 保育原理 I 児童文化演習 I～2 子どもの保健 教育原理	幼児と造形表現 I 音楽実技 幼児と身体表現 I 保育内容指導法 I (健康) 保育内容指導法 V (環境) 乳児保育 I 保育・教育課程論 子どもの健康と安全 社会的養護 I 医療保育概論	幼児と造形表現 II 音楽実技 幼児と身体表現 II 保育内容指導法 II (健康) 保育内容指導法 VI (環境) 子ども家庭支援論 子ども家庭支援の心理学 障害児保育 医療保育とセーフティマネジメント
科目数	7	7	10	9
幼 稚 園 科 目	幼児と健康 幼児と環境 特別支援教育総論		幼児と人間関係 教育社会学	幼児と言葉 発達心理学 教育方法学
科目数	3	0	2	3
実 習			附属幼稚園実習	保育所実習
科目数計	15	16	18	18

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 共通 科目				
科目数				
学部 共通 科目	発達支援場面研究			
科目数	1			
学科 共通 科目	3 年次ゼミ	3 年次ゼミ	卒業研究ゼミ 児童学特論 VII 保育場面演習	卒業研究ゼミ
科目数	1	1	2	1
コ ー ス 必 修 科 目	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 III (人間関係) 保育内容指導法 VII (言葉) 保育内容指導法 IX (音楽表現) 保育内容指導法 X I (造形表現) 子どもの食と栄養 乳児保育 II 社会的養護 II 幼児理解, 保育相談 保育士に必要な医学的知識 (保育看護)	幼児と音楽表現 III 保育内容指導法 IV (人間関係) 保育内容指導法 VIII (言葉) 保育内容指導法 X (音楽表現) 保育内容指導法 X II (造形表現) 児童文化演習 II～1 子どもの理解と援助 子育て支援 (医療保育の家族理解と患者支援の心理学) (乳幼児の病態生理学)	幼児と音楽表現 III 病棟保育の実践 病児・病後児保育の実践 (療育保育の実践)	幼児と音楽表現 III 保育・教職実践演習 (幼稚園) 選択専門プログラム科目 選択専門プログラム科目 (医療保育の発達臨床心理学)
科目数	11	10	4	5
幼 稚 園 科 目	教育相談			
科目数	1			
実 習	施設実習	保育所実習	外部幼稚園実習 医療保育実習	医療保育実習
科目数計	14	11	6	6

チ エ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	ピアヘルパー	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	児童心理学		2	☆			○						カウンセリング心理学および、心理療法面接実習ⅠまたはⅡから1科目は必修。その他☆印より2科目選択必修。 (●の時期は年度やコースによって異なるので注意)
☐	青年心理学		2	☆	●	●							
☐	教育心理学		2	☆						○			
☐	臨床心理学		2	☆				○					
☐	児童精神医学		2	☆					○				
☐	特別支援教育総論		2	☆	●	●			●	●			
☐	保育の心理学		2	☆	●	●							
☐	カウンセリング心理学		2	必			○						
☐	心理療法面接実習Ⅰ	演	1	いずれか1科目必修					○				
☐	心理療法面接実習Ⅱ	演	1							○			

教育学部 教育学科 全学共通科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、下表のとおりです。

コース名	全学共通科目 (A類)	専門教育科目 (B類)	計
小学校教員養成コース	30単位	94単位	124単位
特別支援教育コース	30単位	94単位	124単位
スポーツ教育コース	30単位	94単位	124単位

- ② 全学共通科目 (A 類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

全 学 共 通 科 目 (A類)				
聖徳教育 科目	教養科目、専門基礎科目 及び外国語科目	健康教育 科目	情報活用 科目	計
7	20	2	1	30

- ③ 全学共通科目 (A 類) については、別表Ⅱ－14～21のとおり履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目 (別表Ⅱ－14) はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目 (別表Ⅱ－15) は12単位以上 (小学校教員養成コースは8単位以上) が必修です。1年次秋学期から開講しますので、A類、B類、C類各類から1科目以上履修してください。D類の「日本国憲法」は、教員免許状を取得する者は必修です。また、企業系就職希望者は、**Business Field Linkage** 科目を履修することが望まれます。
- ⑥ 専門基礎科目 (別表Ⅱ－16) 「基礎数学」、「基礎科学」は、小学校教員養成コースは必修です (4単位)。また、小学校教員養成コース以外で小学校教諭免許状を取得しようとする者は履修することが望まれます。これらの単位を修得した場合は、教養科目の修得単位として算入されます。
- ⑦ 外国語科目 (別表Ⅱ－17) は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ (4単位) 及び選択外国語として、英語、フランス語、ドイツ語のうち1ヶ国語 (4単位)、計8単位以上を修得してください。なお、小学校教員養成コース及び特別支援教育コースの選択外国語は、英語Ⅴ～英語Ⅷが必修となります。
- ⑧ 健康教育科目 (別表Ⅱ－18、Ⅱ－19) は、コースごとに別表Ⅱ－18または別表Ⅱ－19の欄外の受講区分に従い履修してください。
- ⑨ 情報活用科目 (別表Ⅱ－20) は別表Ⅱ－20の受講区分に従い履修してください。
- ⑩ 単位を修得した場合 (成績表に S・A・B・C と表記される) には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類)

聖徳教育科目

別表Ⅱ-14

デ ニ ツ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次				備 考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	小笠原流礼法基礎講座		2	○		●	●		● 春学期または秋学期に開講 △ 聖徳教育の詳細については、学生便覧を参照すること。
☐	聖徳教育Ⅰ		1	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅱ	演	1	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅠ)		1	○	○				
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅡ)	演	1	○	○				
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅢ)	演	1	○		●	●		
	計		7						

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教養科目

別表Ⅱ-15

デ ニ ツ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次				備 考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	A 類	自分を見つめ・広げ・伝える(芸術領域)	2		○	○	○		△ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。(外国語は8単位以上必修) ※小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目を併せて16単位以上と専門基礎科目4単位必修(外国語科目は8単位以上必修)
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文学領域)	2		○	○	○		
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(歴史領域)	2		○	○	○		
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅰ)	2		○	○	○		
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)	演	2				○	
☐	B 類	自分を見つめ・広げ・伝える(看護領域)	2		○	○	○		△ 教養科目は表中のA類、B類、C類 各類から1科目以上履修すること。
☐		自然・社会・科学技術を考える(自然領域)	2		○	○	○		
☐		自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)	2		○	○	○		
☐		自然・社会・科学技術を考える(社会領域)	2		○	○	○		
☐		自然・社会・科学技術を考える(環境領域)	2		○	○	○		
☐	C 類	自然・社会・科学技術を考える(健康領域)	2		○	○	○		△ 同じ科目(領域)を重複履修することはできません。
☐		心とからだの美的本質を追求する(心の領域)	2		○	○	○		
☐		心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)	2		○	○	○		
☐		心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)	2		○	○	○		
☐		心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)	2		○	○	○		
☐	D 類	心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)	2		○	○	○		△ 日本国憲法は教育職員免許状及び保育士資格を取得する者は必修。
☐		日本国憲法	2		●	●			
	計		34						

Business Field Linkageプログラム

デ ニ ツ ク 欄	区 分	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	副 専 攻 必 修	履 修 年 次				備 考
						1	2	3	4	
						春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	共通	ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	●	●	●	●	
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅠ		1		●	●	●	●	
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		●	●	●	●	
☐		ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	●	●	●	●	
☐		アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	●		●		●
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅠ		2			●	●		
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2			●	●		
☐		キャリア教育関連科目※								
☐	価値増幅型 マネジメント副専攻	現代社会におけるビジネスリテラシー		2		●	●	●	●	
☐		法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2		●		●		
☐		就活にも役立つメディアリテラシー		2		●		●		
☐		戦略的ビジネスマネジメント		2				●	●	
☐		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		●	●	●	●	●
☐	グローバル人材育成 副専攻	世界のニュースを読み解く ～国際社会問題を知る～		2			●	●	●	●
☐		グローバルコミュニケーション		2			●	●	●	
☐		Practical English CommunicationⅠ		2		○				
☐		Practical English CommunicationⅡ		2			○			
☐	ビジネス 再生・創生 副専攻	Practical English CommunicationⅢ		2				○		
☐		新時代のリーダーシップデザイン		2		●	●	●		
☐		戦略的ビジネスプランニング		2		●		●		●
☐		顧客価値を創出するマーケティング		2		●	●	●		●
☐		SDGsを実現するGX&SXの基本		2		●	●	●		●
☐	ビジネス・データ サイエンス 副専攻	WEBテクノロジーの基礎と応用		2		●	●	●		●
☐		文系人材のためのDX・AIリテラシー		2		●	●	●		
☐		ビジネス・データサイエンスⅠ		2		●		●		
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～1		2		●	●	●	●	
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～2		2		●	●	●	●	●
☐	社会活性化・ 価値創造	ビジネス・データサイエンスⅢ		2		●	●	●	●	●
☐		地域社会の価値を創造する実践論		2		●	●			
☐		行政の役割を体験するインターンシップ		2		●	●	●		
☐		行政の理解と試験対策		2		●	●	●		
☐		起業(事業創造)に向けた実践論		2		●	●	●	●	

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。

但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ～1、Ⅱ～2、Ⅲ」及び「Practical English CommunicationⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は除く

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。

※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。

修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件：①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

専門基礎科目

別表Ⅱ-16

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備 考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	基礎数学		2		○				△ 小学校教員養成コースは基礎数学及び基礎科学は必修。
☐	基礎科学		2			○			
	計		4						

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

外国語科目

別表Ⅱ-17

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備 考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○				△ 外国語科目については、卒業必修科目として英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ(4単位)及び選択外国語として(英語Ⅴ～Ⅷ、フランス語Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語Ⅰ～Ⅳ)のうち1か国語(4単位)、計8単位以上必修。
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○			
☐	英語Ⅲ	演	1	○			○		※ ただし小学校教員養成コース及び特別支援教育コースは英語Ⅴ～英語Ⅷの8単位必修。
☐	英語Ⅳ	演	1	○			○		
☐	英語Ⅴ	演	1	※				○	△ 教養科目と外国語科目を併せて20単位以上必修。ただし、小学校教員養成コースは、教養科目と外国語科目と専門基礎科目を併せて20単位以上必修。
☐	英語Ⅵ	演	1	※				○	
☐	英語Ⅶ	演	1	※				○	△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	英語Ⅷ	演	1	※				○	
☐	フランス語Ⅰ	演	1			○			△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	フランス語Ⅱ	演	1			○			
☐	フランス語Ⅲ	演	1				○		△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	フランス語Ⅳ	演	1				○		
☐	フランス語Ⅴ	演	1					○	△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	フランス語Ⅵ	演	1					○	
☐	フランス語Ⅶ	演	1					○	△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	フランス語Ⅷ	演	1					○	
☐	ドイツ語Ⅰ	演	1			○			△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	ドイツ語Ⅱ	演	1			○			
☐	ドイツ語Ⅲ	演	1				○		△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	ドイツ語Ⅳ	演	1				○		
☐	ドイツ語Ⅴ	演	1					○	△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	ドイツ語Ⅵ	演	1					○	
☐	ドイツ語Ⅶ	演	1					○	△ 「フランス語」及び「ドイツ語」は各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	ドイツ語Ⅷ	演	1					○	
			24						

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

健康教育科目（小学校教員養成コース、特別支援教育コース）

別表Ⅱ－18

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	スポーツと健康Ⅰ（小教）	※	1	注	○				
☐	スポーツと健康Ⅱ（小教）	※	1	注		○			
			2						

【授業の方法】演：演習、無印：講義、※：講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

注 小学校教員養成コース、特別支援教育コースの学生はスポーツと健康Ⅰ・Ⅱ（小教）を履修すること。

健康教育科目（スポーツ教育コース）

別表Ⅱ－19

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	スポーツと健康Ⅰ	※	1	○	○				
☐	スポーツと健康Ⅱ	※	1	○		○			
			2						

【授業の方法】演：演習、無印：講義、※：講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

情報活用科目

別表Ⅱ－20

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○				△ 情報活用科目の受講区分は注のとおり
☐	情報活用演習(教職)	演	1	注		○			
☐	情報活用演習(応用)	演	1					○	
☐	情報活用演習(統計)	演	1				○		
☐	情報活用演習(表現)	演	1				○		
			5						

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

注 情報活用演習(基礎)が必修です。

教育職員免許状を取得する学生は、情報活用演習(基礎)・(教職)の両科目とも履修すること。

帰国子女科目

別表Ⅱ－21

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次				備考
					1	2	3	4	
					春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	
☐	日本語Ⅰ	演	1		○				△ 帰国子女科目は、教養科目又は外国語の単位に替えることができる。
☐	日本語Ⅱ	演	1			○			
☐	日本語Ⅲ	演	1				○		
☐	日本語Ⅳ	演	1					○	
☐	日本語Ⅴ	演	1					○	
☐	日本語Ⅵ	演	1					○	
☐	日本の社会と歴史Ⅰ		2					○	
☐	日本の社会と歴史Ⅱ		2					○	
			10						

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教育学部 教育学科 小学校教員養成コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上となります。
- ② 小学校教員養成コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門 教 育 科 目（B 類）		
必修科目	選択科目	計
71	23	94

- ③ 小学校教員養成コースの専門教育科目については、別表Ⅱ－22 の卒業必修欄に○印の付いている科目から 26 単位、☆印の付いている科目から 15 単位、★印の付いている科目から 20 単位、専修科目の中からいずれか 1 専修 10 単位の合計 71 単位と、別表Ⅱ－22 の選択科目及び別表Ⅱ－23～25 に記載されている科目から 23 単位以上を履修してください。（同一科目を重複して履修することはできません）
- ④ 小学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、小一免欄に○印の付いている科目を選択履修してください。
- ⑤ 特別支援学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ－22 の卒業必修欄に○印の付いている科目に加え、別表Ⅱ－25 のとおり履修してください。（小学校教諭一種免許状と併せて履修してください。卒業所要単位数に選択科目として算入されます。）
- ⑥ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑦ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 のとおり履修してください。（卒業所要単位数には算入されません）
- ⑧ 同一授業科目について卒業必修欄、小一免欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑨ 単位を修得（成績表に S・A・B・C）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。
- ⑩ 小学校教員養成コースにおいては「介護等体験実習（1 単位）」を修得してください。（教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、特別支援学校または社会福祉施設等において、7 日間の介護等の体験を行うことが必要です）

別表Ⅱ-22

- 66 -

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	小一免	履 修 年 次								備 考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コース必修科目	【学校教育実践専修】			1専修10単位必修										教育行政特論
	☐ 現代教育課題解決論		2							●	●			
	☐ カリキュラムマネジメント論		2							●	●	●	●	
	☐ 生徒指導・教育相談演習	演	2							●	●	●	●	
	☐ 学級経営論		2							●	●	●	●	
	☐ カリキュラムデザイン演習	演	2							●	●	●	●	
	【英語教育専修】													
	☐ 英語教育教材づくり論		2							●	●	●	●	
	☐ 英語教育評価論		2							●	●	●	●	
	☐ 異文化・国際理解教育		2							●	●	●	●	
	☐ ストーリーテリング		2							●	●	●	●	
	☐ 英語科実践場面演習		2							●	●	●	●	
	【国語科専修】													
	☐ 現代文学概論		2							●	●	●	●	
	☐ 古典文学概論		2							●	●	●	●	
	☐ 日本語学概論		2							●	●	●	●	
	☐ 日本語表現概論		2							○				
	☐ 国語科実践場面演習		2					○						
	【社会科専修】													
	☐ 地理学		2							●	●	●	●	
	☐ 歴史学		2							●	●	●	●	
	☐ 政治学		2							●	●	●	●	
	☐ 社会学		2							●	●	●	●	
	☐ 社会科実践場面演習		2							●	●	●	●	
	【算数・数学科専修】													
	☐ 初等代数学		2							●	●	●	●	
	☐ 初等幾何学		2							●	●	●	●	
	☐ 初等解析学		2							●	●	●	●	
	☐ 基礎確率・統計		2							○				
	☐ 算数科実践場面演習		2					○						
	【理科専修】													
	☐ エネルギー		2							●	●	●	●	
	☐ 粒子		2							●	●	●	●	
	☐ 生命		2							●	●	●	●	
	☐ 地球		2							●	●	●	●	
	☐ 理科実践場面演習		2							●	●	●	●	
	【音楽科専修】													
	☐ ソルフェージュ	演	2							●	●	●	●	◎
	☐ 歌唱法基礎演習	演	2							●	●	●	●	◎
	☐ 合奏	演	2							●	●	●	●	◎
	☐ 音楽科教育内容研究		2							●	●	●	●	
	☐ 音楽科実践場面演習		2							●	●	●	●	
	【図画工作・美術科専修】													
	☐ 絵画		2							●	●	●	●	◎ ◎ ◎ ◎
	☐ デザイン	演	2							●	●	●	●	
	☐ 彫刻	演	2							●	●	●	●	
	☐ 工芸	演	2							●	●	●	●	
	☐ 図画工作科・美術科実践場面演習		2							●	●	●	●	
	【体育科専修】													
	☐ スポーツ基礎理論		2							●	●	●	●	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
	☐ 学校保健		2							●	●	●	●	
	☐ 運動生理学		2							●	●	●	●	
	☐ 体育原理		2							●	●	●	●	
	☐ 体育科実践場面演習		2							●	●	●	●	
	【道徳科専修】													
	☐ 道徳教育原論		2							●	●	●	●	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
	☐ 道徳教育思想史		2							●	●	●	●	
	☐ 道徳教育方法学Ⅰ(教材開発演習)		2							●	●	●	●	
	☐ 道徳教育方法学Ⅱ(指導方法演習)		2							●	●	●	●	
	☐ 道徳科実践場面演習(道徳科教育学)		2							●	●	●	●	
	計					71	68							

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする
備考欄◎印の科目は、演習15コマで2単位とする。

【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期
いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 小学校教員養成コース

カリキュラムマップ

目標
内容

子どもを理解しよう
小学校教育の基礎を学ぶ

指導法を理解しよう
教材研究や指導法を深く学ぶ

実践力を身につけよう
教育実習で力を伸ばす

授業力のある教師になろう
得意分野を学び将来に活かす

1 年生		2 年生		3 年生		4 年生	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
事前・事後指導	附属小学校観察実習	介護体験実習		事前・事後指導	小学校教育実習		教職実践演習
	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ	生活科教育法			中高教育実習（選択履修）	
		国語科教育法Ⅰ	国語科教育法Ⅱ	3年次ゼミ		卒業研究ゼミ	
初等教科研究・算数	初等教科研究・社会		社会科教育法	図画工作科教育法	特別活動の指導法		
初等教育研究・音楽理論Ⅰ	初等教育研究・音楽理論Ⅱ	算数科教育法Ⅰ	算数科教育法Ⅱ	家庭科教育法			
初等教科研究・生活	初等教科研究・国語(書写を含む)	理科教育法	音楽科教育法	体育科教育法			
初等教科研究・図画工作Ⅰ	初等教科研究・理科	初等教科研究・体育Ⅰ	初等教科研究・体育Ⅱ	外国語教育法			
	初等教科研究・図画工作Ⅱ	初等教科研究：音楽実技Ⅰ			初等教科研究：音楽実技Ⅱ		
		初等教科研究・家庭	初等教科研究・外国語	総合的な学習の時間の指導法			
		道徳教育の指導法		現代教育課題解決論 カリキュラムマネジメント論 生徒指導・教育相談演習 学級経営論 カリキュラムデザイン演習	学校教育実践専修		
		生徒指導（進路指導を含む）	国語科実践場面演習	日本語表現概論 現代文学概論 古典文学概論 日本語学概論	国語科専修		
			算数科実践場面演習	地理学 歴史学 政治学 社会学 社会科実践場面演習	社会科専修		
				基礎確率・統計 初等代数学 初等幾何学 初等解析学	算数・数学科専修		
				エネギー 粒子 生命 地球 理科実践場面演習	理科専修		
				ソルフェージュ 歌唱法基礎演習 合奏 音楽科教育内容研究 音楽科実践場面演習	音楽科専修		
				絵画 デザイン 彫刻 工芸 図画工作・美術科実践場面演習	図画工作・美術科専修		
				スポーツ基礎理論 学校保健 運動生理学 体育原理 体育科実践場面演習	体育科専修		
				英語教育教材づくり論 英語教育評価論 異文化・国際理解教育 ストーリーテリング 英語科実践場面演習	英語教育専修		
				道徳教育原論 道徳教育思想史 道徳教育方法学Ⅰ・Ⅱ 道徳科実践場面演習	道徳科専修		
教育課程論				環境問題入門	情報科学入門		
教職入門	教育学研究入門	教育社会学					
現代教育課題論	教育原理	教育方法・情報通信技術活用論	教育法規概論				
教育学特論Ⅰ～Ⅷ							
特別支援教育総論		教育心理学		教育相談		発達支援場面演習	
英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ
日本国憲法（D類）	基礎数学	基礎科学					
スポーツと健康Ⅰ（小教）	スポーツと健康Ⅱ（小教）						
情報活用演習（基礎）	情報活用演習（教職）						
聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅠ	聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅡ			教養科目（A類 B類 C類）			
			聖徳教育Ⅰ（シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー）				
聖徳教育Ⅱ（FC）	聖徳教育Ⅱ（志賀高原）	小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ（海外研修）			
		聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ					

子どもや保護者に信頼され問題解決力を身につけた実践力のある先生になろう

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 小学校教員養成コース

Learning Outcomes (学びで得られる成果)

目標
内容

子どもを理解しよう
小学校教育の基礎を学ぶ

指導法を理解しよう
教材研究や指導法を深く学ぶ

実践力を身につけよう
教育実習で力を試す

授業力のある教師になろう
得意分野を学び将来に活かす

卒業認定・学位授与の
方針に掲げる学習成果

子どもや保護者に信頼され問題解決力を身につけた実践力のある先生になろう

		春学期	1年生	秋学期	春学期	2年生	秋学期	春学期	3年生	秋学期	春学期	4年生	秋学期
現場実践力を養う		子どもの発達段階や小学校教育の概要を理解することができる。 附属小観察実習を通して、教師の仕事や子どもとのかかわり方を学ぶ。			介護等体験を通して子どもや保護者等とのかかわり方を理解することができる。			指導方法や指導技術を駆使して教科指導や学級経営の力を身につけている。 外部小学校実習を通し、授業実践力を高めることができる。			学級集団づくりの方法や保護者・地域住民との関係について理解を深め、適切に対応する力を身につけている。		
各コースの専門力・実践力を身につける	魅力ある授業づくりと学級経営の力を身につける	学習指導要領の位置づけや基準性、各教科等の目標・内容等について理解している。 ICT機器の活用の基礎を身につけている。			教材研究・教材解釈の意義を理解し、指導方法等を工夫した授業づくりをすることができる。 ICT機器を各教科等の授業で活用する基本を身につけている。			児童理解力を高めながら個性の伸長を図る指導方法等を工夫した授業づくりを身につけている。			指導方法や指導内容等についてより専門性を高め、現場実践力を身につけている。		
		学級経営の基礎・基本について理解することができる。			望ましい学級経営をするために効果的な方法について理解することができる。			様々な学級経営上の問題への対応力を身につけている。			どの子どもも安心して楽しく過ごすことができる学級経営を実践する力を身につけている。		
	教育学の基礎を探究する	教育学・教育原理・現代教育課題の基礎的な知識を身につけている。			教育課程・教育社会学・教育方法・教育法規の基礎的な知識を身につけている。			環境問題・情報科学の基礎的な知識を身につけている。			教育学の学びを生かし、多様な教育課題について学び続けることができる。		
子どもの心身の発達を学ぶ		特別支援教育の基礎的な知識を身につけている。			教育心理学の基礎的な知識を身につけている。			教育相談やカウンセリングの基礎的な知識を身につけている。			個々の子どもの発達や場の状況に応じた支援を行うことができる。		
学びの基礎力を身につける		教員や社会人に求められる常識を身につけている。			基礎的な学力を身につけるとともに、多方面に興味・関心を広げ、幅広い教養を身につけている。			海外に通用する語学力と国際感覚を形成するとともに、教育指導に活用する力を身につけている。			語学力とICTを教育指導に活用する能力を高め、様々な場面で効果的に活用することができる。		
人間性を高める		子どもや多様な人々に対する深い愛情をもち、建学の精神に基づく行動ができる。			礼法を通じて品格ある立ち居振る舞いに付けるとともに、子ども一人一人の実態や状況を把握し、良さや可能性を引き出し伸ばすことができる力を身につけることができる。			海外の教育や文化に直接触れながら、教師や社会人としての教養や人間性を高めている。			様々な芸術や文化に積極的に触れることを通して教師や社会人としての教養や人間性を高めている。		

【DP1】
小学校教育に関する知識・技能を体系的に学習し、理論と実践を結びつけ、様々な教育課題を主体的に解決し、現場実践力を発揮することができる。

【DP2】
子どもの心身の発達に関する科学的洞察力を修得し、グローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

【DP3】
多様性を有する集団の中でリーダーシップを発揮する力を修得し、思いやりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築くことができる。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I (小教) 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 教養科目 教養科目 教養科目 日本国憲法 基礎数学 英語 II スポーツと健康 II (小教) 情報活用演習 (教職)	教養科目 基礎科学 英語 III	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語 IV
科目数	4	9	4	3
学科科目必修		キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	
科目数		1	1	
コース必修科目	初等教科研究・音楽理論 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・国語 (書写を含む) 初等教科研究・算数 初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・生活 教育原理 特別支援教育総論	初等教科研究・音楽理論 II 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・社会 初等教科研究・理科 初等教科研究・図画工作 II 教職入門 教育学研究入門	初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・体育 I 初等教科研究・家庭 教育方法・情報通信技術活用論 教育課程論 道徳教育の指導法 国語科教育法 I 算数科教育法 I 理科教育法 生徒指導 (進路指導を含む)	初等教科研究・図画工作 II 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・体育 II 初等教科研究・外国語 教育社会学 教育心理学 国語科教育法 II 社会科教育法 算数科教育法 II 音楽科教育法 生活科教育法 国語科実践場面演習
科目数	8	7	11	12
選択、特支科目	現代教育課題論		障害者教育論 知的障害者の心理 知的障害者の教育 視覚障害者の教育 視覚障害者の心理・生理・病理	教育法規概論 知的障害者の生理・病理 聴覚障害者の教育 聴覚障害者の心理・生理・病理 発達障害者の教育 発達障害者の心理・生理・病理
科目数	教育学特論 I～VIII			
科目数	1		5	6
実習		附属小学校観察実習	介護等体験実習 (春・秋どちらか)	介護等体験実習 (春・秋どちらか)
科目数	13	17	21	21

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
学科科目必修	3 年次ゼミ	3 年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
科目数	1	1	1	1
コース必修科目	体育科教育法 教育相談 日本語表現概論 基礎確率・統計 総合的な学習の時間の指導法 外国語教育法	特別活動の指導法 図画工作科教育法 家庭科教育法 生活科教育法 現代文学概論	古典文学概論	教職実践演習 (小) 日本語学概論
科目数	6	5	1	2
選択、特支科目	情報科学入門 肢体不自由者の心理 肢体不自由者の生理・病理 病弱者の心理 肢体不自由者の教育	病弱者の生理・病理 病弱者の教育 重複障害者の教育 重複障害者の心理・生理・病理 現代教育課題解決論		
科目数	教育学特論 I～VIII			
科目数	5	4		
実習		小学校教育実習		特別支援学校教育実習
科目数	13	11	3	4

教育学部 教育学科 特別支援教育コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上となります。
- ② 特別支援教育コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門 教 育 科 目（B 類）		
必修科目	選択科目	計
72	22	94

- ③ 特別支援教育コースの専門教育科目については、別表Ⅱ－23 の卒業必修欄に○印の付いている科目から 37 単位、☆印の付いている科目から 15 単位、★印の付いている科目から 20 単位、の合計 72 単位と、別表Ⅱ－23 の選択科目及び別表Ⅱ－22、24、25 に記載されている科目から 22 単位以上を履修してください。（同一科目を重複して履修することはできません）
- ④ 小学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ－23 のコース必修科目に加えて小一免欄に○印の付いている科目を履修してください。（卒業所要単位数に選択科目として算入されます）
- ⑤ 特別支援学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ－23 のとおり履修してください。（小学校教諭一種免許状と併せて履修してください。卒業所要単位数に選択科目として算入されます。）
- ⑥ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑦ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加え、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 のとおり履修してください。（卒業所要単位数には算入されません）
- ⑧ 同一授業科目について卒業必修欄、小一免欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑨ 単位を修得（成績表に S・A・B・C）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等体験実習（介護等の体験）

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7 日間の介護等の体験を行うことが必要です。

	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	小一 免	特支一 免	履 修 年 次								備 考		
								1		2		3		4				
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋			
学部共通科目	☐	現代教育課題論		2					○									
	☐	教育法規概論		2								○						
	☐	環境問題入門		2									○					
	☐	情報科学入門		2										○				
	☐	発達支援場面研究		2												○		
学科共通科目	☐	3年次ゼミ	演	2	○							○	○				通年	
	☐	卒業研究ゼミ		3	○									○	○		通年	
	☐	キャリアデザインⅠ	演	1	○					○								
	☐	キャリアデザインⅡ	演	1	○						○							
	☐	教育学特論Ⅰ		2					●	●	●	●	●	●	●	●	量的・質的研究法入門 探究学習指導法研究 人文系科目の理論と応用 理数系科目の理論と応用 小学校等教育実践研究 教職教養探究(各教科等) 教職教養探究(教職専門) 幼小中高の連携と移行支援	
	☐	教育学特論Ⅱ		2					●	●	●	●						
	☐	教育学特論Ⅲ		2					●	●	●	●	●	●	●			
	☐	教育学特論Ⅳ		2					●	●	●	●	●	●	●			
	☐	教育学特論Ⅴ		2					●	●	●	●	●	●	●			
	☐	教育学特論Ⅵ		2					●	●	●	●	●	●	●			
☐	教育学特論Ⅶ		1					●	●	●	●	●	●	●				
☐	教育学特論Ⅷ		1					●	●	●	●	●	●	●				
選択必修科目	☐	初等教科研究・国語(書写を含む)		2	☆	○				○							○	
	☐	初等教科研究・社会		1	☆	○				○								
	☐	初等教科研究・算数		2	☆	○			●	●								
	☐	初等教科研究・理科		1	☆	○				○						○		
	☐	初等教科研究・生活		2	☆	○			●	●							ピアノ(2年通年) ピアノ(2年通年)	
	☐	初等教科研究・音楽実技Ⅰ	演	2	☆	○			○	○	○	○						
	☐	初等教科研究・音楽実技Ⅱ	演	2									○	○	○	○		
	☐	初等教科研究・音楽理論Ⅰ	演	1	☆	○			○									
	☐	初等教科研究・音楽理論Ⅱ	演	1	☆	○				○								
	☐	初等教科研究・図画工作Ⅰ	演	1	☆	○			○									
	☐	初等教科研究・図画工作Ⅱ	演	1	☆	○				○								
	☐	初等教科研究・家庭		1	☆	○					●	●					○	
	☐	初等教科研究・体育Ⅰ	演	1	☆	○					○							
	☐	初等教科研究・体育Ⅱ	演	1	☆	○						○						
	☐	初等教科研究・外国語	演	1	☆	○						○						
	☐	教職入門		2	○	○			●	●								
	☐	教育原理		2	○	○			●	●								
	☐	教育心理学		2	○	○					●	●						
	☐	特別支援教育総論		2	○	○			○									
	☐	教育社会学		1	○	○					●	●						
	☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○	○					●	●						
	☐	教育課程論		2	○	○				○								
	☐	特別支援教育研究入門		2	○					○								
	☐	道徳教育の指導法		2	★	○					●	●						
	☐	総合的な学習の時間の指導法		2	★	○							●	●				
	☐	特別活動の指導法		1	★	○							●	●			○	
	☐	国語科教育法Ⅰ	演	1	★	○					○							
	☐	国語科教育法Ⅱ	演	1	★	○						○						
	☐	社会科教育法	演	2	★	○						○						
	☐	算数科教育法Ⅰ	演	1	★	○						○						
	☐	算数科教育法Ⅱ	演	1	★	○							○					
	☐	理科教育法	演	2	★	○						○						
	☐	生活科教育法	演	2	★	○							○					
	☐	音楽科教育法	演	2	★	○					●	●						
☐	図画工作科教育法	演	2	★	○								●	●				
☐	家庭科教育法	演	2	★	○								●	●				
☐	体育科教育法	演	2	★	○								●	●				
☐	外国語教育法	演	2	★	○							○						
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○	○					●	●							
☐	教育相談		2	○	○								●	●				

教育 課程	チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒 業 必 修	小 一 免	特 支 一 免	履 修 年 次								備 考	
								1		2		3		4			
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
コ ー ス 必 修 科 目	☐	障害者教育論		2	○		○			○							
	☐	知的障害者の教育		2	○		○			○							
	☐	肢体不自由者の教育		2	○		○					○					
	☐	病弱者の教育		2	○		○						○				
	☐	発達障害者の教育		1	○		○				○						
	☐	インクルーシブ教育論		2	○									●	●		
特 別 支 援 教 育 科 目 群	☐	視覚障害者の教育		1			○	○									
	☐	視覚障害者の心理・生理・病理		1			○	○									
	☐	聴覚障害者の教育		1			○		○								
	☐	聴覚障害者の心理・生理・病理		1			○		○								
	☐	発達障害者の心理・生理・病理		1			○				○						
	☐	重複障害者の教育		1			○							○			
	☐	重複障害者の心理・生理・病理		1			○							○			
	☐	知的障害者の心理		2			○			○							
	☐	知的障害者の生理・病理		2			○				○						
	☐	肢体不自由者の心理		2			○					○					
	☐	肢体不自由者の生理・病理		2			○					○					
	☐	病弱者の心理		2			○					○					
	☐	病弱者の生理・病理		2			○						○				
	☐	特別支援学校教育実習	実	3			○					○	○	○	○		事前事後指導を含む
	☐	脳科学・遺伝学からみた特別支援教育		2										○			
☐	特別支援教育教材・教具制作演習		1										○				
	☐	教職実践演習(小)	演	2		○										○	事前・事後オリエンテーション等 1年附属小, 3年小学校教育実習 教育行政特論 小免取得希望者は 履修することが望ましい
	☐	初等教育実習Ⅰ	実	1		○		○	○			○	○				
	☐	初等教育実習Ⅱ	実	4		○			○				○				
	☐	介護等体験実習	実	1		○				●	●						
	☐	現代教育課題解決論		2								●	●				
	☐	日本語表現概論		2									○				
	☐	国語科実践場面演習		2								○					
	☐	基礎確率・統計		2									○				
	☐	算数科実践場面演習		2									○				
計					72	68	31										

【授業の方法】 演: 演習、実: 実験・実習、無印: 講義をさす。又、備考欄○印の科目は、講義15コマで1単位とする。
 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期
 いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 特別支援教育コース

カリキュラムマップ

目標
内容

子どもを知ろう
幼稚園・小学校教育の基礎を学ぶ

障害のある子どもの理解と
専門知識を身につけよう
教材研究や指導法を深く学ぶ

実践力を身につけよう
小学校教育実習で実践力を高める

専門的な実践力を磨こう
特別支援教育に関する専門的な実践力を磨く

春学期 1年生 秋学期		春学期 2年生 秋学期		春学期 3年生 秋学期		春学期 4年生 秋学期	
事前・事後指導		介護等体験実習		事前・事後指導		就職実践演習	
附属小学校観察実習		キャリアデザインⅠ		小学校教育実習		特別支援学校教育実習	
視覚障害者の教育		聴覚障害者の教育		3年次ゼミ		卒業研究ゼミ	
視覚障害者の心理・生理・病理		聴覚障害者の心理・生理・病理		肢体不自由者の教育		インクルーシブ教育論	
		特別支援教育研究入門		肢体不自由者の心理		脳科学からみた特別支援教育	
				肢体不自由者の生理・病理		重複障害者の教育	
				病弱者の心理		重複障害者の心理・生理・病理	
				病弱者の生理・病理		特別支援教育教材・教具制作演習	
初等教科研究・社会		国語科教育法Ⅰ		図画工作科教育法		特別活動の指導法	
初等教科研究・算数		社会科教育法		家庭科教育法			
初等教育研究・音楽理論Ⅰ		算数科教育法Ⅰ		体育科教育法			
		理科教育法		外国語教育法			
初等教科研究・生活		初等教科研究・家庭		総合的な学習の時間の指導法			
初等教科研究・図画工作Ⅰ		初等教科研究・体育Ⅰ					
		初等教科研究・体育Ⅱ					
		初等教科研究・外国語					
		初等教科研究：音楽実技Ⅰ				初等教科研究：音楽実技Ⅱ	
		道徳教育の指導法					
		生徒指導（進路指導を含む）					
就職入門		教育法概論		環境問題入門		情報科学入門	
現代教育課題論		教育社会学		現代教育課題課題解決論			
教育学特論Ⅰ～Ⅷ							
特別支援教育総論		教育心理学		教育相談		発達支援場面演習	
英語Ⅰ		英語Ⅱ		英語Ⅲ		英語Ⅳ	
日本国憲法（D類）		スポーツと健康Ⅱ（小教）		英語Ⅴ		英語Ⅵ	
スポーツと健康Ⅰ（小教）		情報活用演習（教職）				英語Ⅶ	
情報活用演習（基礎）						英語Ⅷ	
聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅠ		聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅡ					
聖徳教育Ⅱ（FC）		聖徳教育Ⅱ（志賀高原）		聖徳教育Ⅰ（シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー）			
		小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ（海外研修）			
		聖徳教育Ⅲ SEITOKU Academic LiteracyⅢ					

特別なニーズのある人々と「共に生きる」人を育てる先生になろう

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 特別支援教育コース

Learning Outcomes (学びで得られる成果)

目標
内容

子どもを知ろう
小学校教育の基礎を学ぶ

障害のある子どもの理解と
専門知識を身につけよう
教材研究や指導法を深く学ぶ

実践力を身につけよう
理論と実践を結びつける

専門的な実践力を磨こう
特別支援教育に関する専門的な
実践力を磨き将来に活かす

卒業認定・学位授与の
方針に掲げる学習成果

特別なニーズのある人々と「共に生きる」人を育てる先生になろう

		春学期	1年生	秋学期	春学期	2年生	秋学期	春学期	3年生	秋学期	春学期	4年生	秋学期
現場実践力を 養う		子どもの発達段階や小学校教育の概要を理解することができる。				介護等体験を通して障害のある人や高齢者への理解を深めるとともに、にかかわり方を理解することができる。				指導方法や指導技術を駆使して教科指導や学級経営の力を身につけている。			
		子どもの実態を的確に把握し個々の発達や障害の状態等に応じた授業を進める力を身につけている。											
各 コースの専門力・実践力を身につける	特別支援教育に関する専門的な知識技能を身に付ける	視覚障害及び聴覚障害についての専門知識、指導法の概要を理解している。				特別支援教育の理念や歩みを理解するとともに、障害についての専門知識、指導法の概要を理解している。				障害についての専門知識を深め、指導計画や学習指導案の作成に生かすことができる。			
	魅力ある授業づくりと学級経営力を身に付ける	学習指導要領の位置づけや基準性、各教科等の目標・内容等について理解している。				教材研究・教材解釈の意義を理解し、指導方法等を工夫した授業づくりをすることができる。				児童理解力を高めながら個性の伸長を図る指導方法等を工夫した授業づくりができる。			
教育学の 探究力を高める		学級経営の基礎・基本について理解することができる。				望ましい学級経営をするために効果的な方法について理解することができる。				様々な学級経営上の問題への対応力を身につけている。			
		指導方法や指導内容等についてより専門性を高め、現場実践力を身につけている。				指導方法や指導内容等についてより専門性を高め、現場実践力を身につけている。				どの子どもも安心して楽しく過ごすことができる学級経営を実践する力を身につけている。			
子どもの心身の 発達を学ぶ		教育学・教育原理・現代教育課題の基礎的な知識を身につけている。				教育課程・教育社会学・教育方法・教育法規の基礎的な知識を身につけている。				環境問題・情報科学の基礎的な知識を身につけている。			
		教育学の学びを生かし、多様な教育課題について学び続けることができる。				教育相談やカウンセリングの基礎的な知識を身につけている。				海外に通用する語学力と国際感覚を形成するとともに、教育指導に活用する力を身につけている。			
学びの基礎力を 身に付ける		特別支援教育の基礎的な知識を身につけている。				基礎的な学力を身につけるとともに、多方面に興味・関心を広げ、幅広い教養を身につけている。				語学力とICTを教育指導に活用する能力を高め、様々な場面で効果的に活用することができる。			
		教員や社会人に求められる常識を身につけている。				海外の教育や文化に直接触れながら、教師や社会人としての教養や人間性を高めている。				様々な芸術や文化に積極的に触れることを通して教師や社会人としての教養や人間性を高めている。			
人間性を高める		子どもや多様な人々に対する深い愛情をもち、建学の精神に基づく行動ができる。				礼法を通じて品格ある立ち居振る舞いに付けるとともに子ども一人一人の実態や状況を把握し、よさや可能性を引き出し延ばすことができる力を身につけることができる。				様々な芸術や文化に積極的に触れることを通して教師や社会人としての教養や人間性を高めている。			

【DP1】
小学校挙育及び特別支援教育に関する知識・技能を体系的に学習し、理論と実践を結び付け、様々な教育課題を主体的に解決し、現場実践力を発揮することができる。

【DP2】
子どもの心身の発達に関する科学的洞察力を修得し、グローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に主体的かつ協働して取り組むことができる。

【DP3】
多様性を有する集団の中でリーダーシップを発揮する力を修得し、思いやりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築くことができる。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I (小教) 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 教養科目 教養科目 教養科目 日本国憲法 基礎数学 英語 II スポーツと健康 II (小教) 情報活用演習 (教職)	教養科目 基礎科学 英語 III	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語 IV
科目数	4	9	4	3
学科必修科目		キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	
科目数		1	1	
コース必修科目	初等教科研究・音楽理論 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・国語 (書写を含む) 初等教科研究・算数 初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・生活 教育原理 特別支援教育総論	初等教科研究・音楽理論 II 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・社会 初等教科研究・理科 初等教科研究・図画工作 II 教職入門 教育学研究入門	初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・体育 I 初等教科研究・家庭 教育方法・情報通信技術活用論 教育課程論 道徳教育の指導法 国語科教育法 I 算数科教育法 I 理科教育法 生徒指導 (進路指導を含む) 障害者教育論 知的障害者の教育	初等教科研究・図画工作 II 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・体育 II 初等教科研究・外国語 教育社会学 教育心理学 国語科教育法 II 社会科教育法 算数科教育法 II 音楽科教育法 生活科教育法 発達障害者の教育
科目数	8	7	13	12
選択、特支科目	現代教育課題論 視覚障害者の教育 視覚障害者の心理・生理・病理	聴覚障害者の教育 聴覚障害者の心理・生理・病理	知的障害者の心理	教育法規概論 知的障害者の生理・病理 発達障害者の心理・生理・病理 国語科実践場面演習 算数科実践場面演習
科目数	3	2	1	5
実習		附属小学校観察実習	介護等体験実習 (春・秋どちらか)	介護等体験実習 (春・秋どちらか)
科目数	15	19	19	20

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
学科科目必修	3 年次ゼミ	3 年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
科目数	1	1	1	1
コース必修科目	体育科教育法 教育相談 総合的な学習の時間の指導法 外国語教育法 肢体不自由者の教育	特別活動の指導法 図画工作科教育法 家庭科教育法 生活科教育法		教職実践演習 (小)
科目数	5	4	0	1
選択、特支科目	情報科学入門 肢体不自由者の心理 肢体不自由者の生理・病理 病弱者の心理 日本語表現概論 基礎確率・統計	病弱者の生理・病理 重複障害者の教育 重複障害者の心理・生理・病理 特別支援教育教材・教具制作演習 現代教育課題解決論	脳科学・遺伝学からみた特別支援教育	発達支援場面研究
科目数	4	4	1	1
実習		小学校教育実習		特別支援学校教育実習
科目数	11	10	3	4

教育学部 教育学科 スポーツ教育コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上となります。
- ② スポーツ教育コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専 門 教 育 科 目（B 類）		
必修科目	選択科目	計
45	49	94

- ③ スポーツ教育コースの専門教育科目については別表Ⅱ－24 の卒業必修欄に○印の付いている科目 41 単位及び※印の付いている科目から 4 単位以上の合計 45 単位と、別表Ⅱ－24 の選択科目及び別表Ⅱ－22、23、25 に記載されている科目から 49 単位以上を履修してください。（同一科目を重複して履修することはありません）
- ④ 小学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ－24 のコース必修科目に加えて小一免欄に○印の付いている科目を履修してください。（卒業所要単位数に選択科目として算入されます）
- ⑤ 特別支援学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、別表Ⅱ－24 のコース必修科目に加えて、別表Ⅱ－25 のとおり履修してください。（小学校教諭一種免許状と併せて履修してください。卒業所要単位数に選択科目として算入されます。）
- ⑥ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑦ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、③による卒業要件科目の履修に加えて別表Ⅷ－1、2、3、4、5 のとおり履修してください。（卒業所要単位数には算入されません）
- ⑧ 同一授業科目について卒業必修欄、小一免欄に○印が付いている場合は重複して履修する必要はありません。
- ⑨ 単位を修得（成績表に S・A・B・C）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等体験実習（介護等の体験）

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7 日間の介護等の体験を行うことが必要です。

学部 学科	授業科目	授業の方法	単位	卒業必修	J S 指	健康 指	P S 指	レク	キャン プ	小 一 免	履修年次								備 考
											1年		2年		3年		4年		
											春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学部 共通 科目	☐ 現代教育課題論		2								○								
	☐ 教育法規概論		2											○					
	☐ 環境問題入門		2												○				
	☐ 情報科学入門		2													○			
	☐ 発達支援場面研究		2															○	
学科 共通 科目	☐ 3年次ゼミ	演	2	○											○	○			
	☐ 卒業研究ゼミ	演	3	○													○	○	
	☐ キャリアデザインⅠ	演	1	○								○							
	☐ キャリアデザインⅡ	演	1	○									○						
	☐ 教育学特論Ⅰ		2								●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 教育学特論Ⅱ		2								●	●	●	●					
	☐ 教育学特論Ⅲ		2								●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 教育学特論Ⅳ		2								●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 教育学特論Ⅴ		2								●	●	●	●	●	●	●	●	
	☐ 教育学特論Ⅵ		1								●	●	●	●	●	●	●	●	
☐ 教育学特論Ⅶ		1								●	●	●	●	●	●	●	●		
☐ 教育学特論Ⅷ		1								●	●	●	●	●	●	●	●		
コ ー ス 共 通 科 目	☐ 体育原理		2	○	○							○							
	☐ 生涯スポーツ論		2	○	○						○								
	☐ 子どもの発育発達論と運動論	演	2	○	○		○				○								
	☐ スポーツコーチング論		2	○	○			○				○							
	☐ スポーツ基礎理論	演	2	○	○						○								
	☐ スポーツ栄養学		2	○	○	○							○						
	☐ 衛生学・公衆衛生学		2	○											○				
	☐ 運動生理学		2	○	○	○						○							
	☐ スポーツバイオメカニクス		2	○		○										○			
	☐ スポーツ心理学		2	○	○	○									○				
	☐ 運動処方論	演	2	○	○	○								○					
	☐ スポーツトレーニング		1	○	○	○						○							
	☐ スポーツ医学	演	2	○	○	○									○				
	☐ スポーツ現場実習Ⅰ	演	2	○	○							○							
	☐ スポーツ実技Ⅰ～1(表現・ダンス)	実	1	○									○						
	☐ スポーツ社会学		2	○													○		
	☐ 学校保健		2	○														○	
☐ 体育科実践場面演習	演	2	○															○	
選 択 必 修 科 目	☐ スポーツ実技Ⅱ～1(陸上運動)	実	1	※1		○					○								※1より4科目以上選択必修
	☐ スポーツ実技Ⅲ～1(体操・器械運動)	実	1	※1		○						○							
	☐ スポーツ実技Ⅳ～1(水泳)	実	1	※1		○						○							
	☐ スポーツ実技Ⅴ～1-1(球技) ネット型	実	1	※1		○						○							
	☐ スポーツ実技Ⅴ～1-2(球技) ゴール型	実	1	※1									○						
	☐ スポーツ実技Ⅵ～1(エアロビック・エクササイズ)	実	1	※1		○								○					
	☐ スポーツ実技Ⅶ(体づくり運動)	実	1	※1														○	
	☐ レクリエーション実習Ⅰ(夏季野外スポーツ)	実	1	※1				※2	※3					○					※2、※3印を付された科目をどちらか1科目履修。
☐ レクリエーション実習Ⅱ(冬季野外スポーツ)	実	1	※1				※2	※3						○					
コ ー ス 選 択 科 目	☐ スポーツ解剖学		2														○		
	☐ スポーツ経営学		2														○		
	☐ アダプテッドスポーツ論		2				○										○		
	☐ オリンピック・パラリンピック概論		2														○		
	☐ レクリエーション概論		2						○										
	☐ レクリエーション基礎演習	実	1					○				○							
	☐ レクリエーション事業参加		1					○											
	☐ スポーツ現場実習Ⅱ	演	2												○				
	☐ 武道	実	1															○	
	☐ スポーツ実技Ⅰ～2(表現・ダンス)	実	1												○				
	☐ スポーツ実技Ⅱ～2(陸上運動)	実	1														○		
	☐ スポーツ実技Ⅲ～2(体操・器械運動)	実	1															○	
	☐ スポーツ実技Ⅳ～2(水泳)	実	1											○					
	☐ スポーツ実技Ⅴ～2(球技) ベースボール型	実	1												○				
	☐ スポーツ実技Ⅵ～2(エアロビック・エクササイズ)	実	1															○	
	☐ スポーツ実技Ⅷ(ヨガ・ピラティス)	実	1														○		
	☐ スポーツ実技Ⅸ(レクリエーションスポーツ)	実	1					○										○	
	☐ スポーツ実技Ⅹ(ゴルフ)	実	1																○
	☐ 野外活動実習Ⅰ(アクアティックススポーツ)	実	1											○					
	☐ 野外活動実習Ⅱ(スクーバダイビング)	実	1													○			

※4 ※4印を付された科目は、それぞれ「1」の履修が必須

※4 ※4
※4 ※4
※4 ※4
※4 ※4

(含:アダプテッドスポーツ)

チ ェ ン ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	J S 指	健 運 指	P S 指	レ ク	キ ャ ン プ	小 一 免	履修年次								備 考
											1年		2年		3年		4年		
											春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ ー ス 選 択 科 目	☐ 初等教科研究・国語(書写を含む)		2							○		○							
	☐ 初等教科研究・社会		1							○		○							
	☐ 初等教科研究・算数		2							○	●	●							
	☐ 初等教科研究・理科		1							○		○							
	☐ 初等教科研究・生活		2							○	●	●							
	☐ 初等教科研究・音楽実技Ⅰ	演	2							○	○	○	○	○					
	☐ 初等教科研究・音楽実技Ⅱ	演	2												○	○	○	○	
	☐ 初等教科研究・音楽理論Ⅰ	演	1							○	○								
	☐ 初等教科研究・音楽理論Ⅱ	演	1							○		○							
	☐ 初等教科研究・図画工作Ⅰ	演	1							○	○								
	☐ 初等教科研究・図画工作Ⅱ	演	1							○		○							
	☐ 初等教科研究・家庭		1							○			●	●					
	☐ 初等教科研究・体育Ⅰ	演	1							○			○						
	☐ 初等教科研究・体育Ⅱ	演	1							○				○					
	☐ 初等教科研究・外国語		1							○				○					
	☐ 教職入門		2							○	●	●							
	☐ 教育原理		2							○	●	●							
	☐ 教育心理学		2							○			●	●					
	☐ 教育社会学		1							○			●	●					
	☐ 教育方法・情報通信技術活用論		2							○			●	●					
	☐ 特別支援教育総論		2							○	○								
	☐ 教育課程論		2							○		○							
	☐ 道徳教育の指導法		2							○			●	●					
	☐ 総合的な学習の時間の指導法		2							○					●	●			
	☐ 特別活動の指導法		1							○					●	●			
	☐ 国語科教育法Ⅰ	演	1							○			○						
	☐ 国語科教育法Ⅱ	演	1							○				○					
	☐ 社会科教育法	演	2							○				○					
	☐ 算数科教育法Ⅰ	演	1							○			○						
	☐ 算数科教育法Ⅱ	演	1							○				○					
	☐ 理科教育法	演	2							○			○						
	☐ 生活科教育法	演	2							○				○					
	☐ 音楽科教育法	演	2							○			●	●					
	☐ 図画工作科教育法	演	2							○					●	●			
	☐ 家庭科教育法	演	2							○					●	●			
	☐ 体育科教育法	演	2							○					●	●			
	☐ 外国語教育法		2							○					○				
	☐ 生徒指導(進路指導を含む)		2							○			●	●					
	☐ 教育相談		2							○					●	●			
	☐ 初等教育実習Ⅰ	実	1							○	○	○			○	○			
	☐ 初等教育実習Ⅱ	実	4							○		○				○			
	☐ 教職実践演習(小)	演	2							○								○	
	☐ 介護等体験実習	実	1							○			○	○					
	計			45						68									

【授業の方法】 演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。また●印の付された授業科目は、春学期または秋学期いずれかに配当される。諸事情により開講時期が変更する場合があるので時間割を特に確認すること。

【資格名称】

JS指:ジュニアスポーツ指導員

健運指:健康運動実践指導者

PS指:初級パラスポーツ指導員

レク:レクリエーションインストラクター

キャンプ:キャンピングインストラクター

【小学校一種免許状取得希望者は以下の科目を取得すること】

体育原理、スポーツ基礎理論、運動生理学、体育科実践場面演習、学校保健、スポーツ実技Ⅰ-1

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 スポーツ教育コース

カリキュラムマップ

目標
内容

スポーツとは何かを
理解しよう
スポーツに関する基礎的知識を学ぶ

スポーツ指導方法を
理解しよう
スポーツ指導方法を深く理解する

スポーツ指導の実践力を
高めよう
様々なスポーツ活動を通して
実践力を磨く

社会に貢献できるスポーツ指導者
を目指そう
スポーツ活動の実践力ある指導者として社会貢献
できる将来を考える

		春学期		1 年生		秋学期		春学期		2 年生		秋学期		春学期		3 年生		秋学期		春学期		4 年生		秋学期	
現場実践力を 養う										※希望の免許・資格取得に必要な実習（他学科履修：幼稚園教諭など）										事前・事後指導				小学校教育実習	
		キャリアデザインⅠ																							
各 コースの 専門力・ 実践力を 身に付ける																									
多様な スポーツ 活動に 対応できる 資質を 高める																									
教育学の基礎 を探究する																									
学びの基礎力を 身に付ける																									
人間性を高める																									

スポーツの指導方法を深く学び、社会に貢献できる指導者になろう

令和7年度 聖徳大学 教育学部 教育学科 スポーツ教育コース

Learning Outcomes (学びで得られる成果)

目標
内容

スポーツとは何かを
理解しよう

スポーツに関する基礎的知識を学ぶ

スポーツ指導方法を
理解しよう

スポーツ指導方法を深く理解する

スポーツ指導の実践力を
高めよう

様々なスポーツ活動を通して
実践力を磨く

社会に貢献できるスポーツ指導者
を目指そう

スポーツ活動の実践力ある指導者として社会貢献
できる将来を考える

春学期	1年生	秋学期	春学期	2年生	秋学期	春学期	3年生	秋学期	春学期	4年生	秋学期
子どもの発達段階の理解や実践能力を高めながら、スポーツ現場実習等を通して、その指導概要を理解することができる。			子どもの発達段階の理解や実践能力を高めながら、スポーツ現場実習等を通して、人々とスポーツとのかわり方を理解することができる。			スポーツに関する各資格に応じた指導方法や指導技術を身につけながら、スポーツの果たす社会的貢献を理解することができる。			スポーツに関する各資格に応じた子どもや地域の人々との関係について理解を深め、これまでの理論や実践における学びを生かすことができる。		
スポーツ・健康科学に関する基礎的理論やこれに基づく実践能力を高める方法を身につけている。			スポーツ・健康科学に関する基礎的理論やこれに基づく実践能力を高める方法を身につけ、実践力を身につけている。			スポーツ・健康科学に関する基礎的理論やこれに基づく実践能力を高める方法を身につけ、他者とスポーツの楽しさを共有しようとする力を身につけている。			スポーツ・健康科学に関する基礎的理論やこれに基づく実践能力を高める方法を身につけ、自己課題解決と多様なスポーツ活動に対応する力を身につけている。		
教育学・教育原理・現代教育課題の基礎的な知識を身につけている。			教育課程・教育社会学・教育方法・教育法規の基礎的な知識を身につけている。			環境問題・情報科学の基礎的な知識を身につけている。			教育学の学びを生かし、多様な教育課題について学び続けることができる。		
教員や社会人に求められる基本的な常識を身につけている。			基礎的な学力を身につけるとともに、多方面に興味・関心を広げ、幅広い教養を身につけている。			海外に通用する語学力と国際感覚を形成するとともに、教育指導に活用する力を身につけている。			語学力やICTを教育指導に活用する能力を高め、様々な場面で効果的に活用することができる。		
子どもや多様な人々に対する深い愛情をもち、建学の精神に基づく行動ができる。			礼法を通じて品格ある立ち居振る舞い身に付けるとともに、子ども一人一人の実態や状況を把握し、よさや可能性を引き出し延ばすことができる力を身につけることができる。			海外の文化に直接触れながら、国際的な視野を持ち、教師や社会人としての教養や人間性を高めている。			様々な芸術や文化に積極的に触れることを通して教師や社会人としての教養や人間性を高めている。		

卒業認定・学位授与の方針に掲げる学習成果

【DP1】
スポーツ・健康科学に関する知識・技能を体系的に学習し、理論と実践を結びつけて主体的に課題を解決し、現場実践力を発揮することができる。

【DP2】
子どもの心身の発達に関する科学的洞察力を修得し、グローバルかつローカルな視点をもって、複雑多様な課題に、主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

【DP3】
一流の文化・芸術・スポーツがもつ普遍性と固有性を感じ、思いやりと協調性をもって多様な他者との信頼関係を築くことができる。

スポーツの指導方法を深く学び、社会に貢献できる指導者になろう

現場実践力を
養う

各
コースの
専門力・実践力を身に付ける

多様な
スポーツ活動に
対応できる
資質を高める

教育学の基礎
を探究する

学びの基礎力を
身に付ける

人間性を高める

□の数字は1週間割りの授業科目数

	1年		2年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 日本国憲法 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 教養科目 教養科目 教養科目 英語 II フランス語 I フランス語 II スポーツと健康 II 情報活用演習 (教職)	教養科目 教養科目 英語 III フランス語 III フランス語 IV	SEITOKU Academic Literacy III 小笠原流礼法基礎講座 英語 IV
科目数	5	9	5	3
学科必修科目		キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	
科目数		1	1	
コース共通科目	生涯スポーツ論 子どもの発育発達論と運動論 スポーツ基礎理論 ※スポーツ実技 II-1 (陸上運動) ※スポーツ実技 IV-1 (水泳) ※スポーツ実技 V-1 (球技) ネット型	体育原理 スポーツコーチング論 運動生理学 スポーツ現場実習 I スポーツトレーニング ※スポーツ実技 III-1 (器械運動) ※スポーツ実技 V-1 (球技) ゴール型	運動処方論(測定・評価) スポーツ栄養学 スポーツ実技 I-1 (表現・ダンス) ※スポーツ実技 VI-1 (エアロビクスサイズ) ※レクリエーション実習 I (夏季野外スポーツ)	スポーツ心理学 スポーツ医学
科目数	3	5	3	2
選択科目	現代教育課題論			教育法規概論
科目数	教育学特論 I～VIII			
小免科目	1 初等教科研究・音楽理論 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・国語 (書写を含む) 初等教科研究・算数 初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・生活 教育原理 特別支援教育総論	1 初等教科研究・音楽理論 II 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・社会 初等教科研究・理科 初等教科研究・図画工作 II 教職入門 教育学研究入門	1 初等教科研究・図画工作 I 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・体育 I 初等教科研究・家庭 教育方法・情報通信技術活用論 教育課程論 道德教育の指導法 国語科教育法 I 算数科教育法 I 理科教育法 生徒指導 (進路指導を含む)	1 初等教科研究・図画工作 II 初等教科研究・音楽実技 I 初等教科研究・体育 II 初等教科研究・外国語 教育社会学 教育心理学 国語科教育法 II 社会科教育法 算数科教育法 II 音楽科教育法 生活科教育法
科目数	8	7	11	11
実習		附属小学校観察実習	介護体験実習 (春・秋どちらか)	介護等体験実習 (春・秋どちらか)
科目数計	17	22	20	17

	3年		4年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目				
科目数				
学科必修科目	3年次ゼミ	3年次ゼミ	卒業研究ゼミ	卒業研究ゼミ
科目数	1	1	1	1
コース共通科目	衛生学・公衆衛生学 スポーツバイオメカニクス		学校保健 ※スポーツ実技 VII (体づくり運動)	体育科教育学 体育科実践場面演習
科目数	2		1	2
選択科目	情報科学入門			
科目数	教育学特論 I～VIII			
小免科目	1 体育科教育法 教育相談 総合的な学習の時間の指導法 外国語教育法	特別活動の指導法 図画工作科教育法 家庭科教育法 生活科教育法		教職実践演習 (小)
科目数	4	4		1
実習		小学校教育実習		
科目数計	8	5	2	4

※の付されたスポーツ実技科目で、健康運動実践指導員資格には、陸上運動、水泳、エアロビクスが必修となる。
※の付されたスポーツ実技科目から、4科目以上は選択必修となる。

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	特支一免	履修年次								備考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
	特別支援教育の基礎理論に関する科目													左記※印の2科目は、選択履修することが可能。ただし、特別支援学校教諭1種免許状取得の要件とはならない。 【特別支援学校教育実習について】 実習時期は4年秋学期となります。実習事前・事後指導は3年春学期～4年秋学期までの期間で実施します。
☐	障害者教育論		2	○			○							
	特別支援教育領域に関する科目													
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目													
☐	知的障害者の心理		2	○			○							
☐	知的障害者の生理・病理		2	○				○						
☐	肢体不自由者の心理		2	○					○					
☐	肢体不自由者の生理・病理		2	○					○					
☐	病弱者の心理		2	○					○					
☐	病弱者の生理・病理		2	○						○				
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目													
☐	知的障害者の教育		2	○			○							
☐	肢体不自由者の教育		2	○					○					
☐	病弱者の教育		2	○						○				
	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目													
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目													
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目													
☐	視覚障害者の教育		1	○			○							
☐	視覚障害者の心理・生理・病理		1	○			○							
☐	聴覚障害者の教育		1	○				○						
☐	聴覚障害者の心理・生理・病理		1	○				○						
☐	発達障害者の教育		1	○				○						
☐	発達障害者の心理・生理・病理		1	○				○						
☐	重複障害者の教育		1	○						○				
☐	重複障害者の心理・生理・病理		1	○						○				
☐	特別支援教育教材・教具制作演習※		1							○				
☐	脳科学・遺伝学からみた特別支援教育※		2								○			
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習													
☐	特別支援学校教育実習	実	3	○						○	○	○		
	計		34											

[注]

1. 特別支援学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、特支一免欄に○印を付された科目を修得しなければならない。
2. 授業の方法欄に演印を付された科目は演習科目、実印を付された科目は実習科目、無印は講義科目。
3. 履修年次欄に○印を付された通り履修すること。
4. 特別支援学校教諭一種免許状の課程履修は、原則として教育学科の学生のみを対象とする。
5. 原則として小学校教諭一種免許状を取得する者を対象とする。

心理・福祉学部 心理学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理・福祉学部心理学科は、心理学を基礎から幅広く学び、社会における様々な問題に向き合い解決に取り組む力をもつ人材を多く輩出してきました。

現代社会において心理学の知識や技能が求められるフィールドは拡大し続けており、他者と協働しながら自分自身で考え行動する実践力を備えた人材が求められています。

このような社会的要請に応えるため、心理・福祉学部心理学科では、豊かな感性と相互扶助の心を備え、心理学の知識と技能をもって、課題を発見し、解決することのできる女性を育成し、社会に貢献していきます。

以上の理念を具現化していくために、以下の四つの教育目標を設けます。

【教育目標】

1. 広く社会に関心を持ち、自他の文化や価値観を尊重できる豊かな教養を備えた人材を育成する。
2. 自他を理解し、他者と協調して諸課題の解決に取り組むことができる人間力を備えた人材を育成する。
3. 心理学の専門的な知識と技能を備え、社会生活における諸課題の解決のために応用できる人材を育成する。
4. 心理学の科学的な実証的態度を備え、自分の考えを論理的に他者に提示できる人材を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

【学習成果】

1. 豊かな感性を持ち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍する素養を身につけることができる。
2. 社会人としての基礎力を発揮し、自らの知識と技能を社会に還元することができる。
3. 社会生活における諸課題解決のために心理学の知識と技能を応用できる。
4. 心の働きを科学的に検証し、適切な手法で提示することができる。

上記の学習成果に基づく教育課程において所定の単位を修得した人に学士（心理学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

心理・福祉学部心理学科では、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）を基礎とし、相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門基礎科目および専修科目の教育課程を、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 全学共通科目を通して、豊かな感性をもち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍する力を育成します。
2. 社会人としての基礎力を発揮するために必要な科目群を設定し、自らの知識と技能を社会に還元する力を育成します。
3. 専門的な心理学の知識と技能を高める科目群を設定し、社会生活における諸課題を解決する力を育成します。
4. 心の働きを科学的に検証するための科目群を設定し、適切な手法で提示する力を育成します。

【教育課程実施の方針】

心理・福祉学部心理学科では、学習成果を効果的に達成するために、授業計画に以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 一年次には心理学の基礎を学び、二、三年次には科学的態度を身につけるとともに心理学の専門性を深め、四年次には研究を遂行し成果をまとめられるように、科目間の連携を図ります。
2. 講義や実習、演習科目を効果的に配置して、実践的な心理学の学びを促進します。
3. ディスカッションやグループワークを通して、協働的な学びを展開し、学生の主体的、能動的な学習を促進します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理・福祉学部心理学科は、建学の精神「和」を尊ぶ人間性教育の環境のもと、心理学の知識と技能をもって、他者と協働しながら課題を解決する力を備えた人材を育成するために、以下の資質をもった入学者を求めています。

1. 人や社会の現象に関心をもっている人。
2. これまでの学びを通して、心理学を学習するのに必要な知識、技能、論理的思考力、主体性をもっている人。
3. 演習や実習等に参加するために、他者と協働して取り組むことができる人。
4. 心理学の知識と技能をもって、社会に貢献する意欲をもっている人。

心理・福祉学部心理学科ではこのような人を受け入れるために、多くの受験機会を設け、多種類の入学試験を行っています。こうした試験を通して、本学科では、学びに必要な基礎的な文章読解力や表現力、情報を収集したり活用したりする技能、自分の考えや感情を伝える力、周囲との協働力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験、小論文、作文、面接などによって多面的・総合的に評価します。

心理・福祉学部 心理学科

学習成果の修得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の修得状況を測る
手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

心理学科学修ルーブリック
(A項目・グローバルルーブリック)

毎学年4月

海外研修ルーブリック

2 年末

A科目群のGPA
聖徳教育、教養科目、外国語
他

毎学期末

心理学科学修ルーブリック (B項目)

毎学年4月

社会人基礎力テスト

毎学年4月

B科目群のGPA
フィールド学習、キャリアデザイン、ビ
ジネスフィールドリンケージ 他

毎学期末

キャリア・アセスメントテスト

3 年春

心理学科学修ルーブリック (C項目)

毎学年4月

C科目群のGPA
心理学概論、心理学基礎講座
他

毎学期末

心理学科学修ルーブリック (D項目)

毎学年4月

D科目群のGPA
臨床心理学概論、心理学アセス
メント 他

毎学期末

心理学科学修ルーブリック (E項目)

毎学年4月

卒論・ゼミルーブリック

3年、4年末

E科目群のGPA
心理学研究法、心理学実験、心
理学ゼミ 他

毎学期末

1. 豊かな感性を持ち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍する素養を身に着けることができる。

2. 社会人としての基礎力を発揮し、自らの知識とスキルを社会に還元することができる。

3. 社会生活における諸課題解決のために心理学の知識と技能を応用できる

心理学の専門的な知識とスキルを身につけることができる

社会生活における諸課題の解決のために基本的な心理学の知識と技能を応用できる

4. 心理学の知識及びスキルに基づいて、心の働きを科学的に検証し、適切な手法で提示することができる

心理・福祉学部 社会福祉学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理・福祉学部社会福祉学科では、現代社会の福祉・教育問題の解決に必要な専門的知識と高度な技術を取得し、福祉・教育分野で活躍する人材の養成を目的として社会福祉コース、介護福祉コース、養護教諭コースの三コースを設け、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、養護教諭、保育士などとして活躍する人材を社会に輩出してきました。

現在我が国は少子高齢化、グローバル化(地球規模化)が進行する中で福祉・教育ニーズが複雑化・多様化しています。このような複雑化・多様化する福祉・教育ニーズに対応するためには個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として、社会と個人の生活のかかわりについて深く洞察し、福祉社会づくりに寄与できる幅広い知識・能力、感性を持った専門職の養成が求められています。心理・福祉学部社会福祉学科では、このような社会の要請に応えるため、個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として、女性の立場から生活の視点を持ち、それを福祉・教育分野で活躍する専門職の養成を目指し、福祉社会づくりに貢献します。

以上の教育理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、人々の生活を支援することができる人間力を備えた人材を育成する。
2. 社会福祉学の専門的知識・技術・態度を身につけ、それに基づいた判断力と課題解決力をもった人材を育成する。
3. 人々の個別の福祉・教育ニーズに応じたサービスを提供することができる実践力を備えた人材を育成する。
4. 保健・医療など他業種と連携を図りながら、福祉社会づくりに貢献できる人材を育成する。

上記の学科共通の教育目標をもとに、各コースに次のような具体的目標を設定します。

- (1) 社会福祉コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、生活の総合相談ができる能力をもったソーシャルワーカーを育成する。
- (2) 介護福祉コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、高齢者・障害者など介護を必要とする人びとの介護福祉の実践ができる介護福祉士を育成する。
- (3) 養護教諭コースでは、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら女性の立場から生活の視点を持ち、子どもの心身の発達・成長の支援と生涯にわたる健康づくりに貢献できる養護教諭を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

【学習成果】

1. 確かな人間性を有し福祉・教育の実践者としての資質を兼ね備えている。
2. 社会福祉学の専門的な理論・知識・態度を習得し、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら福祉・教育課題を探究し課題解決策を提示することができる。
3. 福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・教育ニーズに応じたサービス提供を実践することができる。
4. 他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社会貢献ができる。

以上のような学習成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に学士（社会福祉学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

心理・福祉学部社会福祉学科は、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 社会福祉分野の基礎となる個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本とした専門基礎科目群を設定し、福祉・教育の実践に必要な基礎的能力を養成します。
2. 社会福祉分野の専門的知識・技術・態度を高めるための科目群を設定し、現代的課題に対応した判断力や課題解決力を育成します。そこで学習した内容をもとに演習科目や実習科目を配置し、福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、課題解決に向けた実践力を育成します。
3. 福祉・教育の課題解決のための科目群を設定し、専門職業人として自立し、卒業後の各種福祉現場、学校、地域社会で他職種との連携の下、幅広く活躍できる専門性の高い資質・能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

心理・福祉学部社会福祉学科では、学生自ら課題を発見し解決するという主体的、創造的な方法で教育課程を実施します。また、福祉的な問題を科学的に理解するための文献やデータを収集分析し、少人数で討論するなどの演習形式の授業やフィールドワークやインタビューを行うなど、問題発見・解決型学習（Problem-Based Learning）を取り入れながら実施します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

現代社会の福祉ニーズに対応するための人材育成が急務となっています。心理・福祉学部社会福祉学科では、それに応えるため個人の尊厳と基本的人権の尊重を基本として「一人ひとり」を支え、守り、育てる福祉・教育の専門職の養成を目指しています。

こうした目的を理解し、目的を達成できる資質を持った人を心理・福祉学部社会福祉学科では求めています。具体的には、次のような入学者を求めています。

1. 主体的に福祉・教育を学習する意欲があり、授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことができる人。
2. 社会福祉の基礎的・基本的な知識・技能を習得しようと考えている人。
3. 現代社会の課題に関心を持ち社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、養護教諭、保育士など福祉・教育の専門家として社会に貢献する夢を持っている人。

心理・福祉学部社会福祉学科では、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での修学に必要な基礎学力、知識、技術、コミュニケーション力、他者と協働する能力などについて、書類審査、学力試験、小論文、作文、面接などを組み合わせて多面的・総合的に評価します。

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の獲得状況を測る
手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

社会福祉学科GWルーブリック

FC
聖徳教育Ⅰ、Ⅱ前後
卒業時

社会福祉学科学士カルーブリック

毎学期末

各実習評価票

実習終了後

実践能力を養う科目群GPA

毎学期末

4. 他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社会貢献ができる。

社会福祉学科GWルーブリック

FT,聖徳教育Ⅰ、Ⅱ前後
卒業時

社会福祉学科学士カルーブリック

毎学期末

理論を学び技術を身につける科目群
GPA

毎学期末

各実習評価票

実習終了後

3. 福祉・教育の実践場面で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・教育ニーズに応じたサービス提供を実践することができる。

法学・職業倫理を学ぶ科目の総合GPA

毎学期末

専門的知識を学ぶ科目群GPA

毎学期末

各実習評価票

実習終了後

社会福祉学科学士カルーブリック

毎学期末

2. 社会福祉学の専門的な理論・知識・態度を習得し、個人の尊厳と基本的な人権を尊重しながら福祉・教育課題を探究し課題解決策を提示することができる。

社会福祉学科コンピテンシー

毎学年初め
卒業時

社会福祉学科GWルーブリック

FT,聖徳教育Ⅰ、Ⅱ前後
卒業時

人間性・学びの基礎・基礎的知識
科目群GPA

毎学期末

各実習評価票

実習終了後

1. 確かな人間性を有し福祉・教育の実践者としての資質を兼ね備えている。

心理・福祉学部 全学共通科目 履修要項

- ① 心理・福祉学部各学科の卒業所要単位数は、下表のとおりです。

学科名	全学共通科目 (A類)	専門教育科目 (B類)	計
心理学科	30 単位	94 単位	124 単位
社会福祉学科	30 単位	96 単位	126 単位

- ② 心理・福祉学部の全学共通科目 (A類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

全 学 共 通 科 目 (A類)				
聖徳教育	教養科目と 外国語	健康教育	情報活用	計
7	20	2	1	30

- ③ 心理・福祉学部の学生は、全学共通科目 (A類) については、別表Ⅲ－1、2、3、4、5、6、7 のとおり履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目 (別表Ⅲ－1) はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目 (別表Ⅲ－2) は外国語科目と併せて 20 単位以上を修得すること (外国語は 8 単位以上)。1 年次秋学期から開講しますので、A類、B類、C類各類から 1 科目以上履修してください。D類の「日本国憲法」は、教員免許状・保育士資格を取得しようとする者は必修です。
- ⑥ 外国語科目 (別表Ⅲ－4) は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳを含む合計 8 単位が必修です。
- ⑦ 健康教育科目 (別表Ⅲ－5、Ⅲ－6) 及び情報活用科目 (別表Ⅲ－7) は備考に記載のとおり履修してください。
- ⑧ 単位を修得した場合 (成績表に S・A・B・C・N と表記される) には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類)

聖徳教育科目(心理学科)

別表Ⅲ-1

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	小笠原流礼法基礎講座		2	○			●	●					● 春学期または秋学期に開講 聖徳教育の詳細については、学生便覧を参照すること。 (通年履修)
☐	聖徳教育Ⅰ	演	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅱ	演	1	○	○			○	○				
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅰ)	演	1	○	○								
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	○	○	○							
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	○			●	●					
	計		7										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

聖徳教育科目(社会福祉学科)

別表Ⅲ-1

ア エ ク ラ リ テ	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	小笠原流礼法基礎講座		2	○			●	●					● 春学期または秋学期に開講 聖徳教育の詳細については、学生便覧を参照すること。
☐	聖徳教育Ⅰ	演	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅱ	演	1	○	○		○	○					
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅰ)	演	1	○	○								
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	○		○							
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	○			●	●					
	計		7										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。 【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教養科目

別表Ⅲ-2

チェック欄		授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備 考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	A類	自分を見つめ・広げ・伝える(芸術領域)		2			○	○	○					教養科目と別表Ⅲ-4の外国語科目を併せて20単位以上修得すること (外国語は8単位以上)。
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文学領域)		2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(歴史領域)		2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅰ)		2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(看護領域)		2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)	演	2						○	○			
☐	B類	自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			○	○	○					教養科目は表中のA類、B類、C類各から1科目以上履修し、12単位以上を修得すること。
☐		自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(健康領域)		2			○	○	○					
☐	C類	心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			○	○	○					同じ科目(領域)を重複履修することはできません。
☐		心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)		2			○	○	○					
☐	D類	日本国憲法		2		●	●							日本国憲法は、教育職員免許状及び社会福祉学科で保育士資格を取得する者は必ず修得すること。

Business Field Linkageプログラム

チェック欄	区分	授業科目	授業の方法	単位	副専攻必修	履修年次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	共通	ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅠ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	●	●	●	●	●	●			
☐		アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	●		●		●		●		
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅠ		2				●		●				
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					●		●			
☐		キャリア教育関連科目※												
☐	価値増幅型 マネジメント副専攻	現代社会におけるビジネスリテラシー		2		●	●	●	●					
☐		法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			●		●					
☐		就活にも役立つメディアリテラシー		2		●		●						
☐		戦略的ビジネスマネジメント		2				●		●		●		
☐		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		●	●	●	●	●	●			
☐	グローバル人材育成 副専攻	世界のニュースを読み解く ～国際社会問題を知る～		2				●		●		●		
☐		グローバルコミュニケーション		2				●		●		●		
☐		Practical English CommunicationⅠ		2			○							
☐		Practical English CommunicationⅡ		2					○					
☐		Practical English CommunicationⅢ		2							○			
☐	ビジネス 再生・創生 副専攻	新時代のリーダーシップデザイン		2			●		●					
☐		戦略的ビジネスプランニング		2		●		●		●		●		
☐		顧客価値を創出するマーケティング		2			●		●		●		●	
☐		SDGsを実現するGX&SXの基本		2			●		●		●		●	
☐		WEBテクノロジーの基礎と応用		2			●		●		●		●	
☐	ビジネス・データ サイエンス 副専攻	文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			●		●					
☐		ビジネス・データサイエンスⅠ		2		●		●		●				
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～1		2			●		●		●			
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～2		2		●	●	●	●	●	●	●	●	
☐		ビジネス・データサイエンスⅢ		2				●	●	●	●	●	●	
☐	社会活性化・ 価値創造	地域社会の価値を創造する実践論		2			●		●					
☐		行政の役割を体験するインターンシップ		2				●		●				
☐		行政の理解と試験対策		2			●		●		●			
☐		起業(事業創造)に向けた実践論		2			●		●		●		●	

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。(但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ～1、Ⅱ～2、Ⅲ」

及び「Practical English CommunicationⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は除く) ※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。 ※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

外国語科目配当表

別表Ⅲ-4

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								外国語科目は、卒業必修科目として英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ(4単位)及び選択外国語として英語(Ⅴ～Ⅷ)、フランス語(Ⅰ～Ⅳ)、ドイツ語(Ⅰ～Ⅳ)、イタリア語(Ⅰ～Ⅳ)、中国語(Ⅰ～Ⅳ)、韓国語(Ⅰ～Ⅳ)のうち1か国語(4単位)、計8単位以上が必修です。 「フランス語」、「ドイツ語」、「イタリア語」、「中国語」、及び「韓国語」は各学期に週2回開講されるためⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学期に履修すること。 ※ 詳細につきましては、学部・学科より説明がありますので、その指示に従ってください。
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	英語Ⅲ	演	1	○			○						
☐	英語Ⅳ	演	1	○				○					
☐	英語Ⅴ	演	1						○				
☐	英語Ⅵ	演	1							○			
☐	英語Ⅶ	演	1								○		
☐	英語Ⅷ	演	1									○	
☐	フランス語Ⅰ	演	1			○							
☐	フランス語Ⅱ	演	1			○							
☐	フランス語Ⅲ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅳ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅴ	演	1							○			
☐	フランス語Ⅵ	演	1							○			
☐	フランス語Ⅶ	演	1								○		
☐	フランス語Ⅷ	演	1								○		
☐	ドイツ語Ⅰ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅱ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅲ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅳ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅴ	演	1							○			
☐	ドイツ語Ⅵ	演	1							○			
☐	ドイツ語Ⅶ	演	1								○		
☐	ドイツ語Ⅷ	演	1								○		
☐	イタリア語Ⅰ	演	1			○							
☐	イタリア語Ⅱ	演	1			○							
☐	イタリア語Ⅲ	演	1				○						
☐	イタリア語Ⅳ	演	1				○						
☐	イタリア語Ⅴ	演	1							○			
☐	イタリア語Ⅵ	演	1							○			
☐	イタリア語Ⅶ	演	1								○		
☐	イタリア語Ⅷ	演	1								○		
☐	中国語Ⅰ	演	1			○							
☐	中国語Ⅱ	演	1			○							
☐	中国語Ⅲ	演	1				○						
☐	中国語Ⅳ	演	1				○						
☐	中国語Ⅴ	演	1							○			
☐	中国語Ⅵ	演	1							○			
☐	中国語Ⅶ	演	1								○		
☐	中国語Ⅷ	演	1								○		
☐	韓国語Ⅰ	演	1			○							
☐	韓国語Ⅱ	演	1			○							
☐	韓国語Ⅲ	演	1				○						
☐	韓国語Ⅳ	演	1				○						
☐	韓国語Ⅴ	演	1							○			
☐	韓国語Ⅵ	演	1							○			
☐	韓国語Ⅶ	演	1								○		
☐	韓国語Ⅷ	演	1								○		
	計		48										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

健康教育科目（心理学科）

別表Ⅲ－5

健康教育科目（心理学科）													別表Ⅲ
チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	スポーツと健康Ⅰ	※	1	○	○								スポーツと健康Ⅰ・Ⅱを履修すること。
☐	スポーツと健康Ⅱ	※	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅲ		2										
☐	スポーツと健康Ⅳ～1	※	1										
☐	スポーツと健康Ⅳ～2	※	1										
	計		6										

【授業の方法】無印：講義。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

健康教育科目（社会福祉学科）

別表Ⅲ－6

健康教育科目（社会福祉学科）											別表Ⅲ（		
チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	スポーツと健康Ⅰ	※	1		○							1) 社会福祉学科で保育士資格を取得しようとする者は、基礎専門体育Ⅰ・Ⅱを履修すること。 2) 上記以外の学生は、スポーツと健康Ⅰ・Ⅱを履修すること。	
☐	スポーツと健康Ⅱ	※	1			○							
☐	スポーツと健康Ⅲ		2										
☐	スポーツと健康Ⅳ～1	※	1										
☐	スポーツと健康Ⅳ～2	※	1										
☐	基礎専門体育Ⅰ	※	1		○								
☐	基礎専門体育Ⅱ	※	1			○							
	計		8										

【授業の方法】無印：講義。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

情報活用科目

別表Ⅲ－7

情報活用科目					別表五								
チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								1) 情報活用演習(基礎)必修。 2) 教育職員免許状を取得しようとする者は情報活用演習(基礎)・(教職)の両科目とも修得すること。
☐	情報活用演習(教職)	演	1			○							
☐	情報活用演習(応用)	演	1						○				
☐	情報活用演習(統計)	演	1				○						
☐	情報活用演習(表現)	演	1					○					
			5										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

帰国子女科目

別表Ⅲ－8

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本語Ⅰ	演	1		○								帰国子女科目は、教養科目又は外国語科目の単位に替えることができる。
☐	日本語Ⅱ	演	1			○							
☐	日本語Ⅲ	演	1				○						
☐	日本語Ⅳ	演	1					○					
☐	日本語Ⅴ	演	1						○				
☐	日本語Ⅵ	演	1							○			
☐	日本の社会と歴史Ⅰ		2						○				
☐	日本の社会と歴史Ⅱ		2							○			
			10										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

心理学科 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目 30 単位以上、専門教育科目 94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ② 専門教育科目（B類）の最低卒業所要単位数は、下表のとおりとします。

専門教育科目（B類）		
必修科目	選択科目	計
62	32	94

- ③ 専門教育科目（B類）については、別表Ⅲ－9 のとおり卒業必修に○の付された科目 62 単位と、選択科目（学部共通科目、基礎科目、専門科目、専修科目）を 32 単位以上履修してください。
- ④ 公認心理師受験資格取得に必要な科目の履修を希望する人は、別表Ⅲ－9 の「公認心理師」欄に○のついた科目すべてを履修してください。履修の仕方は、毎年度最初のオリエンテーションで説明します。
- ⑤ 認定心理士の資格取得を希望する人（認定心理士資格取得に必要な単位は、必修科目を履修することで満たされます）は、申請の仕方を 2 年次および 3 年次のオリエンテーションで説明します。
- ⑥ 准学校心理士を取得しようとする者は、別表Ⅲ－9 の「准学校心理士」欄に○のついた科目すべてを履修してください。履修の仕方は、毎年度最初のオリエンテーションで説明します。
- ⑦ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 により、履修してください（卒業要件に算入することはできません）。
- ⑧ 単位を修得した場合（成績表に S・A・B・C・N と表記される）には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

区分	チェック欄	授業科目	授業の方法	単 位	卒 業 必 修	公 認 心 理 師	准 学 校 心 理 士	履修年次								備考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学部共通科目	☐	法学		2					○							
	☐	社会学		2				○								
	☐	倫理学		2					○							
	☐	環境論		2					○							
		小計		8												
基礎科目	☐	心理学概論		4	○	○		○								オムニバス オムニバス <

区分	チェック欄	授業科目	授業の方法	単 位	卒 業 必 修	公 認 心 理 師	准 学 校 心 理 士	履修年次								備考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専門科目	☐	障害者・障害児心理学		2		○	○					○				◎通年集中
	☐	学習・言語心理学		2	○	○			○							
	☐	知覚・認知心理学		2	○	○					○					
	☐	応用認知心理学		2							○					
	☐	神経・生理心理学		2		○			○							
	☐	心理学ゼミ	演	2	○						○					
	☐	心理学特別ゼミ	演	2	○							○				
	☐	卒業論文		4	○								○	○		
	☐	心理学論文講読		2	○								○			
	☐	心理学論文講読演習	演	2	○									○		
	☐	臨床心理学概論		2	○	○				○						
	☐	社会・集団・家族心理学Ⅰ		2	○	○		○								
	☐	社会・集団・家族心理学Ⅱ		2	○	○		○								
	☐	感情・人格心理学		2	○	○		○								
	☐	発達心理学Ⅰ		2	○	○	○		○							
	☐	精神疾患とその治療		2		○		○								
	☐	健康・医療心理学		2		○							○			
	☐	心理学史		2										○		
	☐	人体の構造と機能及び疾病		2		○				○						
	☐	公認心理師の職責		2		○				○						
☐	心理実習Ⅰ	実	1		○						◎	◎				
心理専修支援	☐	カウンセリング特講		2								○				
	☐	心理学的支援法		2		○	○				○					
	☐	心理演習	演	2		○						○				
	☐	心理実習Ⅱ	実	1		○							◎	◎		
教育・発達心理専修	☐	教育・学校心理学		2		○	○					○				
	☐	福祉心理学		2		○	○				○					
	☐	教育心理学		2							○					
	☐	発達心理学Ⅱ		2		○	○			○						
危機管理専修	☐	危機管理論		2									○			
	☐	ストレス心理学		2						○						
	☐	司法・犯罪心理学		2		○				○						
	☐	関係行政論		2		○						○				
家族専修支援	☐	家族臨床心理学		2								○				
	☐	老年心理学		2									○			
	☐	ジェンダー論		2				○								
	☐	家族心理学特講		2							○					
産業・社会心理専修	☐	産業・組織心理学		2		○						○				
	☐	人間関係論		2							○					
	☐	社会心理学特講		2						○						
	☐	メンタルヘルス論		2							○					
	☐	消費者心理学		2									○			
		小計		84	26	44	12									
計				144	62	58	16									

【授業の方法】演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

聖徳大学心理・福祉学部 心理学科 カリキュラムマップ

	心理学を学ぶ基礎を身につけよう 心理学を学習するためのスキルを身につける		学問としての心理学を知ろう 心のメカニズムを科学的に理解する		心理学の専門性を高めよう 生活の中の心理学的課題を発見する		心理学を生活に活かそう 心理学スキルを使って成果をプレゼンする	
カリキュラム・ポリシー	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
A群：全学共通科目・学部共通科目 豊かな感性を持ち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍する力を身につける	聖徳教育Ⅰ（シリーズコンサート・文化講演会・アセンブリアワー）							
	聖徳教育Ⅱ（FC）	聖徳教育Ⅱ（志賀高原）	小笠原流礼法基礎講座	聖徳教育Ⅱ（海外研修）				
	社会学	環境論 法学						
	スポーツと健康Ⅰ	倫理学 スポーツと健康Ⅱ						
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
					外国語Ⅰ～Ⅷ			
					教養科目			
B群：社会人としての基礎力を発揮するために必要な科目 自らの知識とスキルを社会に還元する力を身につける	フィールド学習（目標の設定）	フィールド学習（解決策の提案）	フィールド学習（解決策の実行）	フィールド学習（解決策の評価）				
		（教養）ビジネスフィールドリネージ						
	聖徳教育Ⅲ（SEITOKU Academic LiteracyⅠ）	聖徳教育Ⅲ（SEITOKU Academic LiteracyⅡ）	聖徳教育Ⅲ（SEITOKU Academic LiteracyⅢ）					
C群：専門的な心理学の知識と技能を高める科目 心理学の専門的な知識と技能を身につける		キャリアデザイン	心理学特講Ⅰ（キャリア実践演習）					
	心理学概論	心理学基礎講座Ⅰ・Ⅱ	学習・言語心理学	知覚・認知心理学	応用認知心理学	教育・学校心理学		
	社会・集団・家族心理学Ⅰ	社会・集団・家族心理学Ⅱ	神経・生理心理学	教育心理学	社会心理学特講	老年心理学	心理学史	
		発達心理学Ⅰ	発達心理学Ⅱ	心理学特講Ⅴ（環境心理学） 家族心理学特講				
	感情・人格心理学		臨床心理学概論	人間関係論	心理的アセスメントⅠ 障害者・障害児心理学	健康・医療心理学 危機管理理論	カウンセリング特講	
D群：専門的な心理学の知識と技能D高める科目 社会生活における諸課題を解決する力を身につける	ジェンダー論		ストレス心理学	福祉心理学	関係行政論	消費心理学		
			司法・犯罪心理学	メンタルヘルス論	家族臨床心理学	産業・組織心理学	心理実習	
	精神疾患とその治療	人体の構造と機能及び疾病		心理学的支援法	心理実習Ⅰ		心理実習Ⅱ	
		人体の構造と機能及び疾病			心理学英語講読	心理学英語演習	心理学特講Ⅱ（心理学応用演習）	
		公認心理師の職業						
	心理学特講Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ							
E群：心の働きを科学的に検証する科目 心の働きを適切な手法で提示する力を身につける	情報処理演習（基礎）	情報処理演習（教職）	心理学統計法	心理学統計法演習	データ解析	データ解析演習	心理学論文講読	心理学論文講読演習
			心理学研究法	心理学調査法	心理学ゼミ	心理学特別ゼミ	卒業論文	
			心理学実験Ⅰ	心理学実験Ⅱ				

聖徳大学心理・福祉学部 心理学科 学びで得られる成果（ Learning Outcomes ）

卒業認定・学位授与の方針に掲げる教育目標	心理学を学ぶ基礎を身につけよう 心理学を学習するためのスキルを身につける		学問としての心理学を知ろう 心のメカニズムを科学的に理解する		心理学の専門性を高めよう 生活の中の心理学的課題を発見する		心理学を生活に活かそう 心理学スキルを使って成果をプレゼンする		卒業認定・学位授与の方針に掲げる学習成果
	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期	
広く社会に関心を持ち、自他の文化や価値観を尊重できる豊かな教養を備えた人材を育成する	論理的思考力を備え、課題の本質を把握しながら自ら学ぶ姿勢を獲得している		感性を磨き、多様な文化や価値観を理解し、受け入れることができる		感性を磨き、多様な文化や価値観を理解し、自らの生活に取り込むことができる		豊かな感性を持ち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍できる		豊かな感性を持ち自国以外の文化や価値観も受け入れ理解しながら活躍する素養を身につけることができる
A群：全学共通科目・学部共通科目	GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック、海外研修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		
自他を理解し、他者と協調して諸課題の解決に取り組むことができる人間力を備えた人材を育成する	他者を尊重しつつ自らの考えや意志を的確に表明することができる		他者と協働しながら課題の解決策を探り提案できる		体験を通して社会的な視野を持ち直面する課題を発見することができる		自らの知識とスキルを社会に還元することができる		社会人としての基礎力を発揮し、自らの知識とスキルを社会に還元することができる
B群：社会人としての基礎力を発揮するために必要な科目	GPA、心理学科学修ルーブリック、社会人基礎力テスト		GPA、心理学科学修ルーブリック、社会人基礎力テスト		GPA、キャリア・アセスメントテスト、心理学科学修ルーブリック、社会人基礎力テスト		GPA、心理学科学修ルーブリック、社会人基礎力テスト		
心理学の専門的な知識とスキルを備え、社会生活における諸課題の解決のために応用できる人材を育成する	基礎的な心の働きについて説明できる		複数の心理学諸分野の視点から心の働きを説明することができる		実践に応用できる心理学諸理論について説明できる		心理学の専門的な知識と技能を生活に活かすことができる		社会生活における諸課題解決のために心理学の知識と技能を応用できる
C群：心理学の専門的な知識と技能を身につける科目	GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		
心理学の専門的な知識とスキルを備え、社会生活における諸課題の解決のために応用できる人材を育成する	専門的な心理学を学習するためのスキルが身についている		心の働きを専門的に説明することができる		専門的な心理学の知識と技能を生活の中の心理学的課題の解決のために活かすことができる		社会生活における諸課題を解決するために専門的な心理学の知識と技能を活かすことができる		社会生活における諸課題解決のために心理学の知識と技能を応用できる
D群：社会生活における諸課題を解決する力を身につける科目	GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		
心理学の科学的な実証的態度を備え、自分の考えを論理的に他者に提示できる人材を育成する	基礎的な情報技術を活用できる		科学的手法を用いて心のメカニズムを説明することができる		心理学的課題を発見し、科学的手法を用いて検証することができる		心の働きを科学的に検証し、適切な手法で提示することができる		心の働きを科学的に検証し、適切な手法で提示することができる
E群：心の働きを科学的に検証するための科目	GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック、卒論・ゼミルーブリック		GPA、心理学科学修ルーブリック、卒論・ゼミルーブリック		

を豊かな感性と相対する心で備え、女性心理学の知識と技能をもって、課題

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I SEITOKU Academic Literacy II 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II スポーツと健康 II 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 教養科目
科目数	5	4	3	3
必修科目	心理学概論 心理学基礎講座 I 心理学基礎講座 II フィールド学習 (目標の設定) 社会・集団・家族心理学 I 社会・集団・家族心理学 II 感情・人格心理学	キャリアデザイン フィールド学習 (解決策の提案) 学習・言語心理学 発達心理学 I	心理学統計法 心理学研究法 心理学実験 I フィールド学習 (解決策の実行) 臨床心理学概論	心理統計法演習 心理学調査法 心理学実験 II フィールド学習 (解決策の評価) 知覚・認知心理学
科目数	7	4	5	5
選択科目	社会学	法学 倫理学 環境論 神経・生理心理学	ストレス心理学 司法・犯罪心理学 社会心理学特講 心理学特講 V (キャリア実践演習)	心理学的支援法 人間関係論 メンタルヘルス論 心理学特講 V (キャリア実践演習)
科目数	1	4	4	4
科目数計	13	12	12	12

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V 教養科目	英語 VI 教養科目	英語 VII 教養科目	英語 VIII 教養科目
科目数	2	2	2	2
必修科目	データ解析 心理的アセスメント I 心理的アセスメント II 心理学ゼミ	データ解析演習 心理学特別ゼミ	卒業論文 心理学論文講読	卒業論文 心理学論文講読演習
科目数	4	2	2	2
選択科目	関係行政論 障害者・障害児心理学 応用認知心理学	健康・医療心理学 産業・組織心理学 危機管理論 消費者心理学		
科目数	3	4	0	0
科目数計	9	8	4	4

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I SEITOKU Academic Literacy II 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II スポーツと健康 II 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 教養科目 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 教養科目 教養科目
科目数	5	5	4	4
必修科目	心理学概論 心理学基礎講座 I 心理学基礎講座 II フィールド学習 (目標の設定) 社会・集団・家族心理学 I 社会・集団・家族心理学 II 感情・人格心理学	キャリアデザイン フィールド学習 (解決策の提案) 学習・言語心理学 発達心理学 I	心理統計法 心理学研究法 心理学実験 I フィールド学習 (解決策の実行) 臨床心理学概論	心理統計法演習 心理学調査法 心理学実験 II フィールド学習 (解決策の評価) 知覚・認知心理学
科目数	7	4	5	5
選択科目	社会学 精神疾患とその治療	環境論 神経・生理心理学 人体の構造と機能及び疾病 公認心理師の職責	司法・犯罪心理学 発達心理学 II 心理学特講 I (キャリア実践演習)	心理学的支援法 福祉心理学 教育心理学 心理学特講 V (環境心理学) 心理学特講 I (キャリア実践演習)
科目数	2	4	3	5
科目数計	14	13	12	14

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V 教養科目	英語 VI 教養科目	英語 VII 教養科目	英語 VIII 教養科目
科目数	2	2	2	2
必修科目	データ解析 心理的アセスメント I 心理的アセスメント II 心理学ゼミ	データ解析演習 心理学特別ゼミ	卒業論文 心理学論文講読	卒業論文 心理学論文講読演習
科目数	4	2	2	2
選択科目	心理学英語講読 カウンセリング特講 関係行政論 心理実習 I 産業・組織心理学	心理学英語演習 障害者・障害児心理学 健康・医療心理学 教育・学校心理学 心理演習 心理実習 I 心理学特講 II (心理学応用演習)	心理実習 II	心理実習 II
科目数	5	7	1	1
科目数計	11	10	5	5

社会福祉学科 社会福祉コース 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A類）30 単位以上、専門教育科目（B類）96 単位以上、計 126 単位以上です。
- ② 社会福祉コースの専門教育科目（B類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B類）		
必修科目	選択科目	計
31	65	96

- ③ 社会福祉コースの専門教育科目（B類）については別表Ⅲ－10 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 31 単位と選択科目から 65 単位以上を履修してください。
- ④ 高等学校教諭一種免許状（福祉）を取得しようとする者は、高一免（福祉）欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅲ－13、14 に記載の通り履修してください（Ⅲ－14 の科目は卒業要件に算入できません）。
- ⑤ 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、専門教育科目（B類）に記載の養護教諭欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅲ－15、16 に記載の通り履修してください（Ⅲ－16 の科目は卒業要件に算入できません）。
- ⑥ 社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑦ 精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、精神保健欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑧ 保育士の資格を取得しようとする者は、保育士欄に○印と△印の付いている科目を履修してください。
- なお、△印の付いている科目については、保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）あるいは保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）いずれかの組合せを選択し履修してください。
- ⑨ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑩ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 により、履修してください（卒業要件に算入することは出来ません）。
- ⑪ 単位を修得した場合（成績表に S・A・B・C・N と表記される）には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

チ エ ッ ク 欄	授業科目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	社 会 福 祉 士	精 神 保 健	高 一 免 (福 祉)	保 育 士	養 護 教 諭	履修年次								備考
										1		2		3		4		
										春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ ー ス 専 門 教 育 科 目	☐ 法学		2	○							○							
	☐ 社会学		2	○	○	○						○						
	☐ 倫理学		2	○							○							
	☐ 環境論		2															○
	☐ 社会福祉学Ⅰ		2	○	○	○	○	○		○								
	☐ 社会福祉学Ⅱ		2		○	○	○				○							
	☐ 社会保障論Ⅰ		2		○	○						○						
	☐ 社会保障論Ⅱ		2		○	○							○					
	☐ 諸外国の社会福祉Ⅰ		2	○			○							○				
	☐ 諸外国の社会福祉Ⅱ		2	○			○								○			
	☐ 社会福祉演習	演	2	○										○	○			
	☐ 卒業論文		3	○												○	○	
	☐ 社会調査法Ⅰ		2	○	○	○							○					
	☐ 社会調査法Ⅱ		2	○	○	○								○				
	☐ 保健医療制度論		2		○										○			
	☐ 医療ソーシャルワーク論		2														○	
	☐ ソーシャルワークの基盤と専門職		2		○	○	○			○								
	☐ ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)		2		○		○				○							
	☐ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2		○	○	○						○					
	☐ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2			○	○							○				
	☐ ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ		2			○	○								○			
	☐ ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ		2			○	○									○		
	☐ 社会福祉援助技術総論Ⅰ		2								○							
	☐ 社会福祉援助技術総論Ⅱ		2									○						
	☐ キャリアデザインⅠ	演	1	○							○							
	☐ キャリアデザインⅡ	演	1	○								○						
	☐ 保育原理Ⅰ		2						○			○						
	☐ 保育原理Ⅱ		2									○						
	☐ 保育者論		2						○		○							
	☐ 乳児保育Ⅰ	演	2						○			○						
	☐ 乳児保育Ⅱ	演	1						○				○					
	☐ 社会的養護Ⅰ		2						○				○					
	☐ 社会的養護Ⅱ	演	1						○					○				
	☐ 福祉計画論		2													○		
	☐ 社会福祉運営管理論		2			○								○				
	☐ 社会福祉行財政論		2										○					
	☐ 介護概論Ⅰ		2					○			○							
	☐ 介護概論Ⅱ		2									○						
	☐ 介護技術	演	1					○									○	
	☐ 児童福祉学Ⅰ		2	○	○			○	○				○					
	☐ 児童福祉学Ⅱ		2		○									○				
	☐ 地域福祉論Ⅰ		2		○	○									○			
	☐ 地域福祉論Ⅱ		2		○	○										○		
	☐ 公的扶助論		2		○										○			
	☐ 障害福祉論Ⅰ		2		○	○	○						○					
	☐ 障害福祉論Ⅱ		2		○	○								○				
	☐ 障害児保育	演	2						○						○			
	☐ 高齢者福祉論Ⅰ		2		○		○						○					
	☐ 高齢者福祉論Ⅱ		2		○									○				
	☐ 就労支援論		2												○			
☐ 更生保護制度論		2		○	○									○				
☐ 精神保健福祉の原理Ⅰ		2				○						○						
☐ 精神保健福祉の原理Ⅱ		2				○							○					
☐ 精神障害リハビリテーション論		2				○								○				
☐ 精神保健福祉制度論		2				○									○			
☐ ソーシャルワーク演習	演	1		○										○				
☐ 社会福祉援助技術演習Ⅰ	演	1		○											○			
☐ 社会福祉援助技術演習Ⅱ	演	2		○												◎		
☐ 社会福祉援助技術演習Ⅲ	演	1		○													○	
☐ 社会福祉援助技術現場実習	実	6		○		○										○	○	
☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		1		○		○									○			
☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		1		○		○										○		
☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ		1		○		○											○	

チ エ ッ ク 欄	授業科目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	社 会 福 祉 士	精 神 保 健	高 一 免 （ 福 祉 ）	保 育 士	養 護 教 諭	履修年次								備考	
										1		2		3		4			
										春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
コ ー ス 専 門 教 育 科 目	☐ 精神保健福祉援助演習（基礎）	演	1			○								○				健康 健康 人間関係 人間関係 環境 環境 言葉 言葉 音楽 音楽 造形 造形 保育所実習（必修） 施設実習（必修） 保育所実習（選択） 施設実習（選択） 事前・事後指導（必修） 事前・事後指導（選択） 事前・事後指導（選択） 音楽実技 音楽実技 音楽理論 音楽理論 図画工作 図画工作 専門体育 専門体育 児童文化 児童文化 児童文化	
	☐ 精神保健福祉援助演習Ⅰ	演	1			○									○				
	☐ 精神保健福祉援助演習Ⅱ	演	1			○										○			
	☐ 精神保健福祉援助演習Ⅲ	演	1			○											○		
	☐ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		1			○									○				
	☐ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		1			○										○			
	☐ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ		1			○											○		
	☐ 精神保健福祉援助実習	実	5			○									○	○			
	☐ 保育内容総論	演	1					○		○									
	☐ 保育内容指導法Ⅰ	演	1					○				○							健康 人間関係 環境 環境 言葉 言葉 音楽 音楽 造形 造形
	☐ 保育内容指導法Ⅱ	演	1					○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅲ	演	1					○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅳ	演	1					○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅴ	演	1					○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅵ	演	1					○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅶ	演	1					○					○						
	☐ 保育内容指導法Ⅷ	演	1					○						○					
	☐ 保育内容指導法Ⅸ	演	1					○							○				
	☐ 保育内容指導法Ⅹ	演	1					○								○			
	☐ 保育内容指導法ⅩⅠ	演	1					○								○			保育所実習（必修） 施設実習（必修） 保育所実習（選択） 施設実習（選択） 事前・事後指導（必修） 事前・事後指導（選択） 事前・事後指導（選択） 音楽実技 音楽実技 音楽理論 音楽理論 図画工作 図画工作 専門体育 専門体育 児童文化 児童文化 児童文化
	☐ 保育内容指導法ⅩⅡ	演	1					○								○			
	☐ 保育課程論		2					○				○							
	☐ 子育て支援	演	1					○							○				
	☐ 保育実習Ⅰ（保育所）	実	2					○						○					
	☐ 保育実習Ⅰ（施設）	実	2					○						○					
	☐ 保育実習Ⅱ（保育所）	実	2					△							○				
	☐ 保育実習Ⅲ（施設）	実	2					△							○				
	☐ 保育実習指導Ⅰ	演	2					○						○					
	☐ 保育実習指導Ⅱ（保育所）	演	1					△							○				
	☐ 保育実習指導Ⅲ（施設）	演	1					△							○				
	☐ 保育技能Ⅰ	実	2					○		○	○	○	○						
	☐ 保育技能Ⅱ	実	2					○						○	○	○	○		
	☐ 保育技能Ⅲ	演	1					○		○									
	☐ 保育技能Ⅳ	演	1					○			○								
	☐ 保育技能Ⅴ	演	1					○						○					
	☐ 保育技能Ⅵ	演	1					○						○					
	☐ 保育技能Ⅶ	演	1					○					○						
	☐ 保育技能Ⅷ	演	1					○						○					
	☐ 保育技能Ⅸ	演	1					○							○				
	☐ 保育技能Ⅹ	演	1					○								○			
	☐ 保育技能ⅩⅠ	演	1					○									○		
	☐ 保育実践演習	演	2						○								○		
	☐ 介護実習Ⅰ	実	2					○							○				
	☐ 医学一般Ⅰ		2	○	○	○	○				○								
	☐ 医学一般Ⅱ		2	○	○	○	○					○							
	☐ こころとからだのしくみⅠ		2					○					○						
☐ こころとからだのしくみⅡ		2					○						○						
☐ 精神医学Ⅰ		2				○						○							
☐ 精神医学Ⅱ		2				○							○						
☐ 精神保健学Ⅰ		2				○							○						
☐ 精神保健学Ⅱ		2				○								○					
☐ 子どもの保健		2						○					○						
☐ 子どもの健康と安全	実	1						○						○					
☐ 養護概説		2							○			○							
☐ 学校保健Ⅰ		2							○	○									
☐ 学校保健Ⅱ		2							○				○						
☐ 健康相談活動		2							○				○						
☐ 健康科学		2							○	○									
☐ 衛生学		2							○					○					
☐ 公衆衛生学		2							○					○					
☐ 免疫学		2							○						○				
☐ 解剖生理学		2							○	○									

	チ ェ ッ ク 欄	授業科目	授業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	社 会 福 祉 士	精 神 保 健	高 一 免 （ 福 祉 ）	保 育 士	養 護 教 諭	履修年次								備考			
											1		2		3		4					
											春	秋	春	秋	春	秋	春	秋				
コ ー ス 専 門 教 育 科 目	☐ 基礎看護		2							○	○											
	☐ 小児看護		2							○		○										
	☐ 成人看護		2							○		○										
	☐ 学校救急看護		2							○			○									
	☐ 精神看護		2							○				○								
	☐ 看護実習	実	1							○					○							
	☐ 精神保健		2							○				○								
	☐ 母性保健		2							○						○						
	☐ 心理学		2	○	○	○	○				○											
	☐ 保育の心理学		2						○				○									
	☐ 子ども家庭支援の心理学	演	2						○				○									
	☐ 子どもの理解と援助	演	1						○					○								
	☐ 発達心理学Ⅰ		2										○									★
	☐ 発達心理学Ⅱ		2										○									★
	☐ 教育心理学		2											○								
	☐ 家族援助論		2						○								○					
	☐ 栄養学		2							○						○						
	☐ 食品学		2							○				○								
	☐ 子どもの食と栄養		2						○								○					
	☐ 権利擁護と成年後見制度		2			○	○							○								
	☐ 教育原理		2						○				○									★
	☐ 社会福祉学特論Ⅰ		2														○					
	☐ 社会福祉学特論Ⅱ		2																	○		
	☐ 社会福祉学特論Ⅲ		2											○								
	計			31	72	70	44	70	37													

備考欄の★の科目は、発達心理学Ⅰ＝発達心理学、教育心理学＝教育心理学、教育原理＝教育基礎論の教職関係科目の単位として充当することが出来ます。

保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)いずれかの組合せを選択すること。

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。◎印は開講時期に週2コマの授業があることをさす。

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 社会福祉コース カリキュラムマップ

1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
福祉の世界をのぞいてみよう		福祉の専門的知識を身につけよう		福祉の専門性を理解しよう		福祉実践者としての総合力を高めよう	

実践能力を養う					社会福祉演習 保育実習指導Ⅰ（保育所・施設） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	社会福祉演習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） 介護実習Ⅰ 養護実習 看護実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 精神保健福祉援助実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ

対人援助・学校保健等の理論を学び、 技能を身につける	ソーシャルワークの基礎と専門職 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅲ 保育内容総論	ソーシャルワークの基礎と専門職（専門） 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅳ 介護技術	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅵ 保育内容指導法Ⅰ 保育内容指導法Ⅲ 保育内容指導法Ⅴ 保育内容指導法Ⅶ 子ども家庭支援の心理学	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅵ 保育技能Ⅶ 保育内容指導法Ⅱ 保育内容指導法Ⅳ 保育内容指導法Ⅵ 保育内容指導法Ⅷ 子ども健康と安全 社会福祉学特論Ⅲ	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ ソーシャルワーク演習 精神保健福祉援助演習（基礎） 障害児保育Ⅰ 保育技能Ⅱ、Ⅴ、Ⅸ 保育内容指導法Ⅸ、Ⅺ 子どもの健康と安全	ソーシャルワーク理論と方法（専門）Ⅱ 社会福祉援助技術演習Ⅰ 精神保健福祉援助演習Ⅰ 障害児保育Ⅱ 保育技能Ⅱ、Ⅹ 保育相談支援 保育内容指導法Ⅹ、Ⅻ 子どもの食と栄養 社会福祉学特論Ⅰ	医療ソーシャルワーク論 社会福祉援助技術演習Ⅲ 社会福祉援助技術演習Ⅱ 精神保健福祉援助演習Ⅱ 保育技能Ⅱ、Ⅺ	社会福祉援助技術演習Ⅲ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 教職実践演習（養護教諭） 保育技能Ⅱ 保育実践演習 社会福祉学特論Ⅱ

社会福祉・学校保健 の専門的な知識を学ぶ	学校保健Ⅰ 保育者論	養護概説 社会福祉学Ⅱ 介護概論Ⅱ 保育原理Ⅰ 保育原理Ⅱ 乳児保育Ⅰ 保育の心理学	社会保障論Ⅰ 高齢者福祉論Ⅰ 精神保健福祉の原理Ⅰ 保育課程論 乳児保育Ⅱ 学校救急看護 健康相談活動 障害福祉論Ⅰ 精神保健学Ⅰ こころとからだのしくみⅠ 生徒指導論	社会保障論Ⅱ 高齢者福祉論Ⅱ 権利養護と成年後見制度 精神保健学Ⅱ 社会的養護Ⅰ 教育相談 障害福祉論Ⅱ 社会福祉運営管理論 精神保健福祉の原理Ⅱ 子どもの保健 学校保健Ⅱ 障害児心理学 こころとからだのしくみⅡ	社会的養護Ⅱ 地域福祉論Ⅰ 公的扶助論 精神障害リハビリテーション論	更生保護制度論 地域福祉論Ⅱ 家族援助論 母性保健 保健医療制度論 精神保健福祉制度論		

社会福祉・学校保健 の基礎となる知識を学ぶ	社会福祉学Ⅰ 心理学 医学一般Ⅰ 介護概論Ⅰ 解剖生理学 基礎看護 健康科学 教職入門	法学 倫理学 成人看護 医学一般Ⅱ 発達心理学Ⅰ 教育原理 小児看護 教育基礎論	児童福祉学Ⅰ 精神医学Ⅰ 教育方法・情報通信技術活用論 社会調査法Ⅰ 社会学 発達心理学Ⅱ	児童福祉学Ⅱ 教育心理学 食品学 特別活動の指導法 精神看護 精神保健 社会調査法Ⅱ 精神医学Ⅱ 公衆衛生学 教育課程論 衛生学	諸外国の社会福祉Ⅰ 道徳教育の指導法 栄養学	諸外国の社会福祉Ⅱ 家族援助論 教育社会学	免疫学	環境論

学びの基礎を 身につける	英語Ⅰ 情報活用演習（基礎） 基礎専門体育Ⅰ スポーツと健康Ⅰ SEITOKU Academic LiteracyⅠ	英語Ⅱ 選択外国語Ⅰ 情報活用演習（教職） 基礎専門体育Ⅱ スポーツと健康Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅡ	英語Ⅲ 選択外国語Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅢ	英語Ⅳ 選択外国語Ⅲ	英語Ⅴ 選択外国語Ⅳ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ

人間性を高める	聖徳教育Ⅰ（FC・志賀高原） キャリアデザインⅠ	聖徳教育Ⅰ キャリアデザインⅡ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 小笠原流礼法基礎講座 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ（NZ研修） 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教養科目

教育目標	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	社会福祉に関する基礎を学ぶ	社会福祉の専門的知識を学ぶ	演習・実習を通して社会福祉専門職としての実践力を身につける	社会福祉専門職としての資質・能力を高める

社会の課題解決に貢献できる福祉・教育職

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 社会福祉コース SEITOKU Learning Outcomes

	1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期	学位授与の方針に掲げる学修成果
	福祉の世界をのぞいてみよう		福祉の専門的知識を身につけよう		福祉の専門性を理解しよう		福祉実践者としての総合力を高めよう		
実践能力を養う					他者と協働してより良い共生社会を築くための役割を示している		社会福祉実践等と政策の連関的な取り組みを説明できる		他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社会貢献ができる
対人援助・学校保健等の理論を学び、技能を身につける	対人援助等の基本的な支援方法を説明できる		福祉ニーズ等に応じた支援方法を説明できる		個人の尊厳を重視した支援ができる能力を示している		支援の展開にあたって多機関・多職種とのチームアプローチを理解し実践する能力を示している		福祉・教育の実践場で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・教育ニーズに応じたサービス提供を実践することができる
社会福祉・学校保健の専門的な知識を学ぶ	社会福祉実践に関わる理論・方法を説明できる		差別や社会的排除等の社会的問題を説明できる		福祉課題について解決策をプレゼンテーションすることができる				社会福祉学の専門的な理論・知識・態度を習得し、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら福祉・教育課題を探索し課題解決策を提示することができる
社会福祉・学校保健の基礎となる知識を学ぶ	社会福祉実践に関わる価値・倫理を説明できる		利用者・住民の特性をふまえた福祉課題を発見することができる						確かな人間性を有し福祉・教育の実践者としての資質を兼ね備えている
学びの基礎を身につける	社会福祉の基礎的な基礎的な知識を有している		社会福祉実践に必要な教養を身につけている						
人間性を高める	建学の精神「和」について、説明することができる		社会の多様性を受け入れ、尊重することができる		情操豊かで円満な女性として振舞うことができる		あらゆる場面において「和」の精神を発揮することができる		
教育目標	1 年次 社会福祉に関する基礎を学ぶ		2 年次 社会福祉の専門的知識を学ぶ		3 年次 演習・実習を通して社会福祉専門職としての実践力を身につける		4 年次 社会福祉専門職としての資質・能力を高める		

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I スポーツと健康 II 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	6	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	3	3	1
社会福祉、 精神保健福祉士	ソーシャルワークの基盤と専門職	社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)	社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I 障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 精神保健福祉の原理 I 精神医学 I 精神保健学 I	社会保障論 II ソーシャルワークの理論と方法 II 社会福祉運営管理論 児童福祉学 II 障害福祉論 II 高齢者福祉論 II 精神保健福祉の原理 II 精神医学 II 精神保健学 II 権利擁護と成年後見制度
科目数	1	2	7	10
科目数計	9	11	16	15

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
社会福祉、 精神保健福祉士	保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法 (専門) I 地域福祉論 I 公的扶助論 精神障害リハビリテーション論 ソーシャルワーク演習 社会福祉援助技術演習 I 精神保健福祉援助演習 (基礎)	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) II 地域福祉論 II 更生保護制度論 精神保健福祉制度論 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉援助技術現場実習指導 I 精神保健福祉援助演習 I 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 I	社会福祉援助技術演習 II 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 II 精神保健福祉援助演習 II 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 II	社会福祉援助技術演習 III 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 III 精神保健福祉援助演習 III 精神保健福祉援助実習指導 III
科目数	8	9	6	5
科目数計	12	12	7	6

社会福祉学科 社会福祉コース 免許・資格取得履修モデル
(社会福祉士・保育士 履修モデル)

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 幼保基礎専門体育 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I 幼保基礎専門体育 II 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	6	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	3	3	1
社会福祉士、保育士	ソーシャルワークの基盤と専門職 保育原理 I 保育者論 保育内容総論 保育技能 I 保育技能 III	社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門) 乳児保育 I 保育技能 I 保育技能 IV 保育の心理学 I 教育原理	社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I 障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 乳児保育 II 保育内容指導法 I 保育内容指導法 III 保育内容指導法 V 保育内容指導法 VII 保育課程論 保育技能 I 保育技能 V 保育技能 VII 子どもの保健 子ども家庭支援の心理学	社会保障論 II ソーシャルワークの理論と方法 II 社会福祉運営管理論 児童福祉学 II 障害福祉論 II 高齢者福祉論 II 権利擁護と成年後見制度 社会的養護 I 保育内容指導法 II 保育内容指導法 IV 保育内容指導法 VI 保育内容指導法 VIII 保育技能 I 保育技能 VI 保育技能 VIII 子どもの理解と援助
科目数	6	7	15	16
科目数計	14	16	22	21

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
社会福祉士、保育士	保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法 (専門) I 地域福祉論 I 公的扶助論 ソーシャルワーク演習 社会的養護 II 障害児保育 I 保育内容指導法 IX 保育内容指導法 X I 保育実習 I (保育所) 保育実習 I (施設) 保育実習指導 I 保育技能 II 保育技能 IX 子どもの食と栄養 家族援助論 子どもの健康と安全	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) II 地域福祉論 II 更生保護制度論 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉援助技術現場実習指導 I 障害児保育 II 保育内容指導法 X 保育内容指導法 X II 保育相談支援 保育実習 II または III 保育実習指導 II または III 保育技能 II 保育技能 X	社会福祉援助技術演習 II 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 II 保育技能 II 保育技能 X I	社会福祉援助技術演習 III 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 III 保育技能 II 保育実践演習
科目数	17	13	5	5
科目数計	21	16	6	6

社会福祉学科 社会福祉コース 免許・資格取得履修モデル
(社会福祉士・養護教諭 履修モデル)

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I スポーツと健康 II 教養科目 教養科目 情報活用演習 (教職)	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	4	3	1
社会福祉士、 養護教諭	ソーシャルワークの基盤と専門職 学校保健 I 解剖生理学 健康科学 基礎看護 教職入門	社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門) 養護概説 小児看護 成人看護 教育基礎論	社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I 障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 健康相談活動 衛生学 学校救急看護 精神保健 栄養学 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論 発達心理学	社会保障論 II ソーシャルワークの理論と方法 II 社会福祉運営管理論 児童福祉学 II 障害福祉論 II 高齢者福祉論 II 権利擁護と成年後見制度 学校保健 II 公衆衛生学 精神看護 食品学 障害児心理学 教育課程論 特別活動の指導法 教育相談 特別支援教育総論
科目数	6	6	12	16
科目数計	14	17	19	21

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
社会福祉士、 養護教諭	保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法 (専門) I 地域福祉論 I 公的扶助論 ソーシャルワーク演習 道徳教育の指導法 栄養学 総合的な学習の時間の指導法	ソーシャルワークの理論と方法 (専門) II 地域福祉論 II 更生保護制度論 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉援助技術現場実習指導 I 母性保健 教育社会学 養護実習 看護実習	社会福祉援助技術演習 II 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 II 免疫学	社会福祉援助技術演習 III 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 III 教職実践演習 (養護教諭)
科目数	8	9	4	4
科目数計	12	12	5	5

社会福祉学科 介護福祉コース 専門教育科目 履修要項

- ① **卒業所要単位数は、全学共通科目（A類）30 単位以上、専門教育科目（B類）96 単位以上、計 126 単位以上です。**
- ② 介護福祉コースの専門教育科目（B類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B類）		
必修科目	選択科目	計
31	65	96

- ③ 介護福祉コースの専門教育科目（B類）については別表Ⅲ－11 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 31 単位と選択科目から 65 単位以上を履修してください。
- ④ 介護福祉士受験資格を取得しようとする者は、介護福祉士欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑤ 高等学校教諭一種免許状（福祉）を取得しようとする者は、高一免（福祉）欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅲ－13、14 に記載の通り履修してください（Ⅲ－14 の科目は卒業要件に算入できません）。
- ⑥ 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、専門教育科目（B類）に記載の養護教諭欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅲ－15、16 に記載の通り履修してください（Ⅲ－16 の科目は卒業要件に算入できません）。
- ⑦ 社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑧ 精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、精神保健欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑨ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑩ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表Ⅷ－1、2、3、4、5 により、履修してください（卒業要件に算入することは出来ません）。
- ⑪ 単位を修得した場合（成績表に S・A・B・C・N と表記される）には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

チェック欄	授業科目	授業の方法	単位の位置	卒業必修	介護福祉士	社会福祉士	精神保健	高一免(福祉)	養護教諭	履修年次								備考	
										1		2		3		4			
										春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
コース専門教育科目	☐ 法学		2	○	○							○							
	☐ 社会学		2	○	○	○	○						○						
	☐ 倫理学		2	○	○							○							
	☐ 環境論		2																○
	☐ 社会福祉学Ⅰ		2	○	○	○	○	○		○									
	☐ 社会福祉学Ⅱ		2			○	○	○			○								
	☐ 社会保障論Ⅰ		2			○	○					○							
	☐ 社会保障論Ⅱ		2			○	○						○						
	☐ 諸外国の社会福祉Ⅰ		2	○					○						○				
	☐ 諸外国の社会福祉Ⅱ		2	○					○							○			
	☐ 社会福祉演習	演	2	○											○	○			
	☐ 卒業論文		3	○													○	○	
	☐ 社会調査法Ⅰ		2	○	○	○	○						○						
	☐ 社会調査法Ⅱ		2	○		○	○							○					
	☐ 保健医療制度論		2			○										○			
	☐ 医療ソーシャルワーク論		2														○		
	☐ ソーシャルワークの基盤と専門職		2				○	○	○		○								
	☐ ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)		2				○		○			○							
	☐ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2				○	○	○				○						
	☐ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2				○	○						○					
	☐ ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ		2				○	○							○				
	☐ ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ		2				○	○								○			
	☐ 社会福祉援助技術総論Ⅰ		2			○					○								
	☐ 社会福祉援助技術総論Ⅱ		2									○							
	☐ キャリアデザインⅠ	演	1	○								○							
	☐ キャリアデザインⅡ	演	1	○									○						
	☐ 福祉計画論		2														○		
	☐ 社会福祉運営管理論		2				○								○				
	☐ 社会福祉行財政論		2											○					
	☐ 介護概論Ⅰ		2			○				○									
	☐ 介護概論Ⅱ		2			○						○							
	☐ 介護福祉専門職論Ⅰ		2			○					○								
	☐ 介護福祉専門職論Ⅱ		2			○						○							
	☐ 介護福祉専門職論Ⅲ		2			○							○						
	☐ セーフティマネジメント論		2			○								○					
	☐ 介護技術	演	1							○				○					
	☐ 生活支援技術Ⅰ	演	1			○					○								
	☐ 生活支援技術Ⅱ	演	1			○						○							
	☐ 生活支援技術Ⅲ	演	1			○					○								
	☐ 生活支援技術Ⅳ	演	1			○						○							
	☐ 生活支援技術Ⅴ	演	1			○							○						
	☐ 生活支援技術Ⅵ	演	1			○										○			
	☐ 生活支援技術Ⅶ	演	1			○						○							
	☐ 生活支援技術Ⅷ	演	1			○									○				
	☐ 生活支援技術Ⅸ	演	1			○									○				
	☐ 生活支援技術Ⅹ	演	1			○									○				
	☐ 介護におけるコミュニケーションの基本Ⅰ	演	1			○					○								
	☐ 介護におけるコミュニケーションの基本Ⅱ	演	1			○						○							
	☐ 介護過程Ⅰ	演	1			○								○					
	☐ 介護過程Ⅱ	演	1			○									○				
☐ 介護過程Ⅲ	演	1			○										○				
☐ 介護事例研究Ⅰ	演	1			○											○			
☐ 介護事例研究Ⅱ	演	1			○												○		
☐ 介護福祉管理論	演	1			○											○			
☐ 児童福祉学Ⅰ		2	○	○	○			○				○							
☐ 児童福祉学Ⅱ		2				○							○						
☐ 地域福祉論Ⅰ		2				○	○							○					
☐ 地域福祉論Ⅱ		2				○	○								○				
☐ 公的扶助論		2			※	○								○					
☐ 障害福祉論Ⅰ		2			○	○	○	○				○							
☐ 障害福祉論Ⅱ		2					○						○						
☐ 高齢者福祉論Ⅰ		2			○	○		○				○							
☐ 高齢者福祉論Ⅱ		2			○	○							○						
☐ 就労支援論		2													○				
☐ 更生保護制度論		2				○	○									○			
☐ 精神保健福祉の原理Ⅰ		2					○					○							
☐ 精神保健福祉の原理Ⅱ		2					○						○						
☐ 精神障害リハビリテーション論		2					○							○					
☐ 精神保健福祉制度論		2					○								○				
☐ ソーシャルワーク演習	演	1				○									○				

※下記参照

チェック欄	授業科目	授業の方法	単位の位置	卒業必修	介護福祉士	社会福祉士	精神保健	高一免(福祉)	養護教諭	履修年次								備考
										1		2		3		4		
										春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コース専門教育科目	☐ 社会福祉援助技術演習Ⅰ	演	1			○									○			Ⅰ(訪問介護、通所介護、介護老人福祉施設) Ⅱ 障害者支援施設 Ⅲ 介護老人保健施設 Ⅳ 介護老人福祉施設
	☐ 社会福祉援助技術演習Ⅱ	演	2			○									◎			
	☐ 社会福祉援助技術演習Ⅲ	演	1			○										○		
	☐ 社会福祉援助技術現場実習	実	6			○		○							○	○		
	☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		1			○		○						○				
	☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		1			○		○							○			
	☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ		1			○		○								○		
	☐ 精神保健福祉援助演習(基礎)	演	1				○							○				
	☐ 精神保健福祉援助演習Ⅰ	演	1				○								○			
	☐ 精神保健福祉援助演習Ⅱ	演	1				○									○		
	☐ 精神保健福祉援助演習Ⅲ	演	1				○										○	
	☐ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		1				○								○			
	☐ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		1				○									○		
	☐ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ		1				○										○	
	☐ 精神保健福祉援助実習	実	5				○								○	○		
	☐ 介護実習Ⅰ	実	2		○				○				○	○				
	☐ 介護実習Ⅱ	実	2		○										○	○		
	☐ 介護実習Ⅲ	実	2		○										○	○		
	☐ 介護実習Ⅳ	実	4		○											○		
	☐ 介護総合演習Ⅰ	演	1		○								○					
	☐ 介護総合演習Ⅱ	演	1		○									○				
	☐ 介護総合演習Ⅲ	演	1		○										○			
	☐ 介護総合演習Ⅳ	演	1		○											○		
	☐ 医学一般Ⅰ		2	○	○	○	○	○	○		○							
	☐ 医学一般Ⅱ		2	○	○	○	○	○	○			○						
	☐ こころとからだのしくみⅠ		2		○				○				○					
	☐ こころとからだのしくみⅡ		2		○				○					○				
	☐ 医療的ケアⅠ		2		○										○			
	☐ 医療的ケアⅡ		2		○										○			
	☐ 医療的ケアⅢ		2		○											○		
	☐ 医療的ケアⅣ	演	1		○											○		
	☐ 精神医学Ⅰ		2				○						○					
	☐ 精神医学Ⅱ		2				○							○				
	☐ 精神保健学Ⅰ		2				○						○					
	☐ 精神保健学Ⅱ		2				○							○				
	☐ 養護概説		2							○		○						
	☐ 学校保健Ⅰ		2							○	○							
	☐ 学校保健Ⅱ		2							○				○				
	☐ 健康相談活動		2							○			○					
	☐ 健康科学		2							○	○							
	☐ 衛生学		2							○				○				
	☐ 公衆衛生学		2							○				○				
	☐ 免疫学		2							○							○	
	☐ 解剖生理学		2							○		○						
	☐ 基礎看護		2							○	○							
	☐ 小児看護		2							○		○						
	☐ 成人看護		2							○		○						
	☐ 学校救急看護		2							○				○				
	☐ 精神看護		2							○				○				
	☐ 看護実習	実	1							○					○	○		
☐ 精神保健		2							○				○					
☐ 母性保健		2							○						○			
☐ 心理学		2	○	○	○	○	○	○		○								
☐ 発達心理学Ⅰ		2									○						★	
☐ 発達心理学Ⅱ		2										○					★	
☐ 教育心理学		2											○					
☐ 高齢者の心理		2		○							○							
☐ 障害者の心理		2		○									○					
☐ 家族援助論		2		○											○			
☐ 栄養学		2							○					○				
☐ 食品学		2							○					○				
☐ 権利擁護と成年後見制度		2				○	○						○					
☐ 教育原理		2									○						★	
☐ 社会福祉学特論Ⅰ		2													○			
☐ 社会福祉学特論Ⅱ		2														○		
☐ 社会福祉学特論Ⅲ		2											○					
	計			31	87	72	70	44	37									

備考欄の★の科目は、発達心理学Ⅰ＝発達心理学、教育心理学＝教育心理学、教育原理＝教育基礎論の教職関係科目の単位として充当することが出来ます。

※「公的扶助論」生活保護法等重要な法案を学ぶ必要があるため、可能な限り履修してください。

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。◎印は開講時期に週2コマの授業があることをさす。

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 介護福祉コース カリキュラムマップ

1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
福祉・介護の世界をのぞいてみよう		福祉・介護の専門的知識を身につけよう		福祉・介護の専門性を理解しよう		福祉・介護教諭実践者としての総合力を高めよう	

実践能力を養う			介護総合演習Ⅰ 介護実習Ⅰ（通所介護） 介護実習Ⅰ（介護老人福祉施設）	介護総合演習Ⅱ 介護実習Ⅰ（訪問介護）	社会福祉演習 介護総合演習Ⅲ 介護実習Ⅱ（障害者支援施設） 介護実習Ⅲ（介護老人保健施設）	社会福祉演習 介護総合演習Ⅳ 介護実習Ⅳ（介護老人福祉施設） 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習 看護実習 看護実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 精神保健福祉援助実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ

対人援助・学校保健等の理論を学び、 技能を身につける	介護における コミュニケーションの基本Ⅰ ソーシャルワークの基礎と専門職 生活支援技術Ⅰ 生活支援技術Ⅲ 社会福祉援助技術総論Ⅰ	介護における コミュニケーションの基本Ⅱ ソーシャルワークの基礎と専門職（専門） 生活支援技術Ⅱ 生活支援技術Ⅳ 生活支援技術Ⅵ	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 生活支援技術Ⅴ	介護過程Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	介護過程Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ ソーシャルワーク演習 精神保健福祉援助演習（基礎） 生活支援技術Ⅷ 生活支援技術Ⅸ 生活支援技術Ⅹ	介護過程Ⅲ ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ 医療的ケアⅢ 医療的ケアⅣ 生活支援技術Ⅵ 精神保健福祉援助演習Ⅰ 社会福祉援助技術演習Ⅰ 社会福祉学特論Ⅰ	介護事例研究Ⅰ 医療ソーシャルワーク論 社会福祉援助技術演習Ⅱ 精神保健福祉援助演習Ⅱ	介護事例研究Ⅱ 社会福祉援助技術演習Ⅲ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 教職実践演習（看護教諭） 社会福祉学特論Ⅱ

社会福祉・学校保健 の専門的な知識を学ぶ	介護福祉専門職論Ⅰ 学校保健Ⅰ	介護概論Ⅱ 介護福祉専門職論Ⅱ 社会福祉学Ⅱ 看護概説	介護福祉専門職論Ⅲ 社会保険論Ⅰ 高齢者福祉論Ⅰ 精神保健福祉の原理Ⅰ 障害福祉論Ⅰ 精神保健学Ⅰ こころとからだのしくみⅠ 生徒指導論 健康相談活動 社会福祉行政論	セーフティマネジメント論 社会保険論Ⅱ 高齢者福祉論Ⅱ 権利保護と成年後見制度 精神保健学Ⅱ 教育相談 学校救急看護 障害福祉論Ⅱ 社会福祉運営管理論 精神保健福祉の原理Ⅱ 学校保健Ⅱ こころとからだのしくみⅡ 障害児心理学	医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ 地域福祉論Ⅰ 公的扶助論 精神障害リハビリテーション論	保健医療制度論 更生保護制度論 地域福祉論Ⅱ 母性保健 精神保健福祉制度論 介護福祉管理論		

社会福祉・学校保健 の基礎となる知識を学ぶ	介護概論Ⅰ 心理学 医学一般Ⅰ 社会福祉学Ⅰ 基礎看護 健康科学 教職入門 教職入門	法学 倫理学 医学一般Ⅱ 発達心理学Ⅰ 解剖生理学 小児看護 高齢者の心理 成人看護 教育基礎論	児童福祉学Ⅰ 精神医学Ⅰ 社会調査法Ⅰ 社会学 発達心理学Ⅱ 教育方法・情報通信技術活用論	児童福祉学Ⅱ 教育心理学 食品学 特別活動の指導法 精神看護 精神保健 社会調査法Ⅱ 精神医学Ⅱ 公衆衛生学 教育課程論 障害者の心理 衛生学	諸外国の社会福祉Ⅰ 道德教育の指導法 栄養学	諸外国の社会福祉Ⅱ 家族援助論 教育社会学	免疫学	環境論

学びの基礎を身につける	英語Ⅰ 情報活用演習（基礎） スポーツと健康Ⅰ SEITOKU Academic LiteracyⅠ	英語Ⅱ 選択外国語Ⅰ 情報活用演習（教職） 基礎専門体育Ⅱ スポーツと健康Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅡ	英語Ⅲ 選択外国語Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅢ	英語Ⅳ 選択外国語Ⅲ	英語Ⅴ 選択外国語Ⅳ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ

人間性を高める	聖徳教育Ⅰ（FC・志賀高原） キャリアデザインⅠ	聖徳教育Ⅰ キャリアデザインⅡ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 小笠原流礼法基礎講座 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ（NZ研修） 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教養科目

教育目標	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	社会福祉・介護福祉に関する基礎を学ぶ	社会福祉・介護福祉の専門的知識を学ぶ	演習・実習を通して社会福祉・介護福祉専門職としての実践力を身につける	社会福祉・介護福祉専門職としての資質・能力を高める

社会の課題解決に貢献できる福祉・教育職

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 介護福祉コース SEITOKU Learning Outcomes

	1 年次春学期 福祉の世界をのぞいてみよう	1 年次秋学期	2 年次春学期 福祉の専門的知識を身につけよう	2 年次秋学期	3 年次春学期 福祉の専門性を理解しよう	3 年次秋学期	4 年次春学期 福祉実践者としての総合力を高めよう	4 年次秋学期	学位授与の方針に 掲げる学修成果
実践能力を養う					他者と協働してより良い共生社会を築くための役割を示している		介護福祉実践と政策の連関的な取り組みを説明できる		他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社会貢献ができる
対人援助・学校保健等の理論を学び、技能を身につける	対人援助等の基本的な支援方法を説明できる		介護福祉ニーズに応じた支援方法を説明できる		個人の尊厳を重視した支援ができる能力を示している		支援の展開にあたって多機関・多職種とのチームアプローチを理解し実践する能力を示している		福祉・教育の実践場で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・教育ニーズに応じたサービス提供を実践することができる
社会福祉・学校保健の専門的な知識を学ぶ	社会福祉実践に関わる理論・方法を説明できる		差別や社会的排除等の社会的問題を説明できる		介護福祉課題について解決策をプレゼンテーションすることができる				社会福祉学の専門的な理論・知識・態度を習得し、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら福祉・教育課題を探索し課題解決策を提示することができる
社会福祉・学校保健の基礎となる知識を学ぶ	介護福祉実践に関わる価値・倫理を説明できる		利用者の特性をふまえた介護福祉課題を発見することができる						確かな人間性を有し福祉・教育の実践者としての資質を兼ね備えている
学びの基礎を身につける	介護福祉の基礎的な基礎的な知識を有している		介護福祉実践に必要な教養を身につけている						
人間性を高める	建学の精神「和」について、説明することができる		社会の多様性を受け入れ、尊重することができる		情操豊かで円満な女性として振舞うことができる		あらゆる場面において「和」の精神を発揮することができる		
教育目標	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
	社会福祉に関する基礎を学ぶ		社会福祉の専門的知識を学ぶ		演習・実習を通して社会福祉専門職としての実践力を身につける		社会福祉専門職としての資質・能力を高める		

社会福祉学科 介護福祉コース 免許・資格取得履修モデル
(介護福祉士・社会福祉士 履修モデル)

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I スポーツと健康 II 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	6	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	3	3	1
介護福祉士、社会福祉士	介護概論 I 介護福祉専門職論 I 生活支援技術 I 生活支援技術 II ソーシャルワークの基盤と専門職 介護におけるコミュニケーションの基本 I 社会福祉援助技術総論 I	介護概論 II 介護福祉専門職論 II 生活支援技術 III 生活支援技術 IV 生活支援技術 VII 介護実習 I 高齢者の心理 社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 介護福祉専門職論 III 生活支援技術 V 生活支援技術 VI 介護実習 I 介護総合演習 I こころとからだのしくみ I 社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I	セーフティマネジメント論 高齢者福祉論 II 介護過程 I 介護実習 I 介護総合演習 II こころとからだのしくみ II 障害者の心理 社会保障論 II ソーシャルワークの理論と方法 II 社会福祉運営管理論 児童福祉学 II 障害福祉論 II 権利擁護と成年後見制度
科目数	7	9	10	15
科目数計	15	18	17	20

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
介護福祉士、社会福祉士	生活支援技術 VIII 生活支援技術 IX 生活支援技術 X 介護過程 II 介護実習 II 介護実習 III 介護総合演習 III 医療的ケア I ～ 1 医療的ケア I ～ 2 保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法（専門） I 地域福祉論 I 公的扶助論 ソーシャルワーク演習	介護過程 III 介護実習 II 介護実習 III 介護実習 IV 介護総合演習 IV 医療的ケア II 医療的ケア III ソーシャルワークの理論と方法（専門） II 地域福祉論 II 更生保護制度論 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉援助技術現場実習指導 I	介護事例研究 I 社会福祉援助技術演習 II 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 II 社会福祉援助技術総論 I	介護事例研究 II 社会福祉援助技術演習 III 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 III 社会福祉援助技術総論 II
科目数	14	12	5	5
科目数計	18	15	6	6

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I スポーツと健康 II 教養科目 教養科目	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	6	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	3	3	1
介護福祉士、 精神保健福祉士	介護概論 I 介護福祉専門職論 I 生活支援技術 I 生活支援技術 II 介護におけるコミュニケーションの基本 I	介護概論 II 介護福祉専門職論 II 生活支援技術 III 生活支援技術 IV 生活支援技術 VII 介護におけるコミュニケーションの基本 II 高齢者の心理 社会福祉学 II	障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 介護福祉専門職論 III 生活支援技術 V 生活支援技術 VI 介護実習 I 介護総合演習 I こころとからだのしくみ I 社会保障論 I 精神保健福祉の原理 I 精神医学 I 精神保健学 I	セーフティマネジメント論 高齢者福祉論 II 介護過程 I 介護実習 I 介護総合演習 II こころとからだのしくみ II 障害者の心理 社会保障論 II 障害福祉論 II 精神保健福祉の原理 II 精神医学 II 精神保健学 II 権利擁護と成年後見制度
科目数	5	8	12	15
科目数計	13	17	19	20

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
介護福祉士、 精神保健福祉士	生活支援技術 VIII 生活支援技術 IX 生活支援技術 X 介護過程 II 介護実習 II 介護実習 III 介護総合演習 III 医療的ケア I ～ 1 医療的ケア I ～ 2 地域福祉論 I 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉援助演習 (基礎)	介護過程 III 介護実習 II 介護実習 III 介護実習 IV 介護総合演習 IV 医療的ケア II 医療的ケア III 地域福祉論 II 精神保健福祉制度論 精神保健福祉援助演習 I 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 I 更生保護制度論	介護事例研究 I 精神保健福祉援助演習 II 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 II 社会福祉援助技術総論 I	介護事例研究 II 精神保健福祉援助演習 III 精神保健福祉援助実習指導 III 社会福祉援助技術総論 II
科目数	12	13	5	4
科目数計	16	16	6	5

社会福祉学科 介護福祉コース 免許・資格取得履修モデル
(介護福祉士・養護教諭 履修モデル)

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I スポーツと健康 II 教養科目 教養科目 情報活用演習（教職）	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	4	3	1
介護福祉士、 養護教諭	介護概論 I 介護福祉専門職論 I 生活支援技術 I 生活支援技術 II 介護におけるコミュニケーションの基本 I 社会福祉援助技術総論 I 学校保健 I 健康科学 解剖生理学 基礎看護 教職入門	介護概論 II 介護福祉専門職論 II 生活支援技術 III 生活支援技術 IV 生活支援技術 VII 介護におけるコミュニケーションの基本 II 高齢者の心理 養護概説 小児看護 成人看護 教育基礎論	障害福祉論 I 高齢者福祉論 I 介護福祉専門職論 III 生活支援技術 V 生活支援技術 VI 介護実習 I 介護総合演習 I こころとからだのしくみ I 社会保障論 I 発達心理学 健康相談活動 衛生学 学校救急看護 精神保健 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論	セーフティマネジメント論 高齢者福祉論 II 介護過程 I 介護実習 I 介護総合演習 II こころとからだのしくみ II 障害者の心理 学校保健 II 公衆衛生学 精神看護 食品学 障害児心理学 教育課程論 特別活動の指導法 教育相談 特別支援教育総論
科目数	9	11	16	16
科目数計	17	22	23	21

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
介護福祉士、 養護教諭	生活支援技術 VIII 生活支援技術 IX 生活支援技術 X 介護過程 II 介護実習 II 介護実習 III 介護総合演習 III 医療的ケア I ～ 1 医療的ケア I ～ 2 栄養学 道徳教育の指導法 総合的な学習の時間の指導法	介護過程 III 介護実習 II 介護実習 III 介護実習 IV 介護総合演習 IV 医療的ケア II 医療的ケア III 母性保健 教育社会学 養護実習 看護実習	介護事例研究 I 免疫学 社会福祉援助技術総論 I	介護事例研究 II 教職実践演習（養護教諭） 社会福祉援助技術総論 II
科目数	12	11	3	3
科目数計	14	15	4	4

社会福祉学科 養護教諭コース 専門教育科目 履修要項

- ① **卒業所要単位数は、全学共通科目（A類）30 単位以上、専門教育科目（B類）96 単位以上、計 126 単位以上です。**
- ② 養護教諭コースの専門教育科目（B類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B類）		
必修科目	選択科目	計
31	65	96

- ③ 養護教諭コースの専門教育科目（B類）については別表Ⅲ－12 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 31 単位と「養護教諭」欄に○印の付いている科目 37 単位を含み 65 単位以上を履修してください。
- ④ 養護教諭一種免許状を取得しようとする者は、専門教育科目（B類）に記載の養護教諭欄に○印のある科目と、別表Ⅲ－16 の教職に関する科目を併せて履修してください。さらに、別表Ⅲ－15 に記載のとおり履修してください。なお、別表Ⅲ－16 の教職に関する科目の単位は、専門教育科目（B類）の選択科目の単位に計上することができます。
- ⑤ 高等学校教諭一種免許状（福祉）を取得しようとする者は、高一免（福祉）欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅲ－13, 14 に記載の通り履修してください（Ⅲ－14 の科目は卒業要件に算入できません）。
- ⑥ 社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑦ 精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、精神保健欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑧ 保育士の資格を取得しようとする者は、保育士欄に○印と△印の付いている科目を履修してください。
- なお、△印の付いている科目については、保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習指導Ⅱ（保育所）あるいは保育実習Ⅲ（施設）・保育実習指導Ⅲ（施設）いずれかの組合せを選択し履修してください。
- ⑨ 准学校心理士を取得しようとする者は、教員免許または保育士資格を取得のうえ、申請が必要になります。詳細は、別途オリエンテーションで説明します。
- ⑩ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表Ⅷ－1、2、3、4、5により、履修してください（卒業要件に算入することは出来ません）。
- ⑪ 単位を修得した場合（成績表に S・A・B・C・N と表記される）には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

チ ェ ッ ク 欄	授業科目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	養 護 教 諭	社 会 福 祉 士	精 神 保 健	高 一 免 (福 祉)	保 育 士	履修年次								備考
										1		2		3		4		
										春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ ー ス 専 門 教 育 科 目	☐ 法学		2	○								○						
	☐ 社会学		2	○		○	○						○					
	☐ 倫理学		2	○								○						
	☐ 環境論		2															○
	☐ 社会福祉学Ⅰ		2	○		○	○	○	○	○								
	☐ 社会福祉学Ⅱ		2			○	○	○				○						
	☐ 社会保障論Ⅰ		2			○	○						○					
	☐ 社会保障論Ⅱ		2			○	○							○				
	☐ 諸外国の社会福祉Ⅰ		2	○				○							○			
	☐ 諸外国の社会福祉Ⅱ		2	○				○								○		
	☐ 社会福祉演習	演	2	○											○	○		
	☐ 卒業論文		3	○													○	○
	☐ 社会調査法Ⅰ		2	○		○	○							○				
	☐ 社会調査法Ⅱ		2	○		○	○								○			
	☐ 保健医療制度論		2			○											○	
	☐ 医療ソーシャルワーク論		2														○	
	☐ ソーシャルワークの基盤と専門職		2				○	○	○		○							
	☐ ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)		2				○		○				○					
	☐ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2				○	○	○					○				
	☐ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2				○	○							○			
	☐ ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ		2				○	○								○		
	☐ ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ		2				○	○								○		
	☐ 社会福祉援助技術総論Ⅰ		2								○							
	☐ 社会福祉援助技術総論Ⅱ		2										○					
	☐ キャリアデザインⅠ		1	○							○							
	☐ キャリアデザインⅡ		1	○									○					
	☐ 保育原理Ⅰ		2							○	○							
	☐ 保育原理Ⅱ		2										○					
	☐ 保育者論		2							○	○							
	☐ 乳児保育Ⅰ		2							○		○						
	☐ 乳児保育Ⅱ	演	1							○					○			
	☐ 社会的養護Ⅰ		2							○					○			
	☐ 社会的養護Ⅱ	演	1							○						○		
	☐ 福祉計画論		2													○		
	☐ 社会福祉運営管理論		2				○								○			
	☐ 社会福祉行財政論		2											○				
	☐ 介護概論Ⅰ		2						○		○							
	☐ 介護概論Ⅱ		2										○					
	☐ 介護技術	演	1						○								○	
	☐ 児童福祉学Ⅰ		2	○			○		○	○				○				
	☐ 児童福祉学Ⅱ		2				○								○			
	☐ 地域福祉論Ⅰ		2				○	○								○		
	☐ 地域福祉論Ⅱ		2				○	○									○	
	☐ 公的扶助論		2				○									○		
	☐ 障害福祉論Ⅰ		2				○	○	○					○				
	☐ 障害福祉論Ⅱ		2				○	○							○			
	☐ 障害児保育	演	2							○						○		
☐ 高齢者福祉論Ⅰ		2				○		○					○					
☐ 高齢者福祉論Ⅱ		2				○								○				
☐ 就労支援論		2													○			
☐ 更生保護制度論		2				○	○									○		
☐ 精神保健福祉の原理Ⅰ		2						○					○					
☐ 精神保健福祉の原理Ⅱ		2						○						○				
☐ 精神障害リハビリテーション論		2						○							○			
☐ 精神保健福祉制度論		2						○								○		
☐ ソーシャルワーク演習	演	1				○									○			
☐ 社会福祉援助技術演習Ⅰ	演	1				○										○		
☐ 社会福祉援助技術演習Ⅱ	演	2				○										◎		
☐ 社会福祉援助技術演習Ⅲ	演	1				○											○	
☐ 社会福祉援助技術現場実習	実	6				○		○								○	○	
☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		1				○		○							○			
☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		1				○		○								○		
☐ 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ		1				○		○									○	

	チ エ ッ ク 欄	授業科目	授業 の 方法	単 位	卒 業 必 修	養 護 教 諭	社 会 福 祉 士	精 神 保 健	高 一 免 (福祉)	保 育 士	履修年次								備考		
											1		2		3		4				
											春	秋	春	秋	春	秋	春	秋			
コース専門教育科目	☐	精神保健福祉援助演習(基礎)	演	1				○								○					
	☐	精神保健福祉援助演習Ⅰ	演	1				○									○				
	☐	精神保健福祉援助演習Ⅱ	演	1				○										○			
	☐	精神保健福祉援助演習Ⅲ	演	1				○											○		
	☐	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		1				○									○				
	☐	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		1				○										○			
	☐	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ		1				○											○		
	☐	精神保健福祉援助実習	実	5				○									○	○			
養護教諭科目	☐	養護概説		2		○							○								
	☐	学校保健Ⅰ		2		○						○									
	☐	学校保健Ⅱ		2		○									○						
	☐	健康相談活動		2		○								○							
	☐	健康科学		2		○						○									
	☐	衛生学		2		○								○							
	☐	公衆衛生学		2		○								○							
	☐	免疫学		2		○												○			
	☐	解剖生理学		2		○						○									
	☐	基礎看護		2		○						○									
	☐	小児看護		2		○							○								
	☐	成人看護		2		○							○								
	☐	学校救急看護		2		○								○							
	☐	精神看護		2		○									○						
	☐	看護実習	実	1		○											○				
	☐	精神保健		2		○									○						
	☐	母性保健		2		○											○				
☐	栄養学		2		○										○						
☐	食品学		2		○									○							
コース専門教育科目	☐	保育内容総論	演	1						○	○										
	☐	保育内容指導法Ⅰ	演	1						○				○							
	☐	保育内容指導法Ⅱ	演	1						○					○						
	☐	保育内容指導法Ⅲ	演	1						○				○							
	☐	保育内容指導法Ⅳ	演	1						○					○						
	☐	保育内容指導法Ⅴ	演	1						○				○							
	☐	保育内容指導法Ⅵ	演	1						○					○						
	☐	保育内容指導法Ⅶ	演	1						○				○							
	☐	保育内容指導法Ⅷ	演	1						○					○						
	☐	保育内容指導法Ⅸ	演	1						○						○					
	☐	保育内容指導法Ⅹ	演	1						○							○				
	☐	保育内容指導法ⅩⅠ	演	1						○						○					
	☐	保育内容指導法ⅩⅡ	演	1						○							○				
	☐	保育課程論		2						○				○							
	☐	子育て支援	演	1						○							○				
	☐	保育実習Ⅰ(保育所)	実	2						○						○					
	☐	保育実習Ⅰ(施設)	実	2						○						○					
	☐	保育実習Ⅱ(保育所)	実	2						△							○				
	☐	保育実習Ⅲ(施設)	実	2						△							○				
	☐	保育実習指導Ⅰ	演	2						○						○					
	☐	保育実習指導Ⅱ(保育所)	演	1						△							○				
	☐	保育実習指導Ⅲ(施設)	演	1						△							○				
	☐	保育技能Ⅰ	実	2						○	○	○	○	○							
	☐	保育技能Ⅱ	実	2						○						○	○	○	○		
	☐	保育技能Ⅲ	演	1						○	○										
	☐	保育技能Ⅳ	演	1						○		○									
	☐	保育技能Ⅴ	演	1						○						○					
	☐	保育技能Ⅵ	演	1						○					○						
	☐	保育技能Ⅶ	演	1						○			○								
	☐	保育技能Ⅷ	演	1						○				○							
	☐	保育技能Ⅸ	演	1						○					○						
	☐	保育技能Ⅹ	演	1						○							○				
☐	保育技能ⅩⅠ	演	1						○								○				
☐	保育実践演習	演	2						○										○		
☐	介護実習Ⅰ	実	2					○								○					

チ ェ ッ ク 欄	授業科目	授業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	養 護 教 諭	社 会 福 祉 士	精 神 保 健	高 一 免 (福 祉)	保 育 士	履修年次								備考
										1		2		3		4		
										春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ ー ス 専 門 教 育 科 目	☐ 医学一般Ⅰ		2	○		○	○	○		○								
	☐ 医学一般Ⅱ		2	○		○	○	○			○							
	☐ こころとからだのしくみⅠ		2					○				○						
	☐ こころとからだのしくみⅡ		2					○					○					
	☐ 精神医学Ⅰ		2				○					○						
	☐ 精神医学Ⅱ		2				○						○					
	☐ 精神保健学Ⅰ		2				○					○						
	☐ 精神保健学Ⅱ		2				○						○					
	☐ 子どもの保健		2						○			○						
	☐ 子どもの健康と安全	実	1						○					○				
	☐ 心理学		2	○		○	○	○		○					○			
	☐ 保育の心理学		2						○		○							
	☐ 子ども家庭支援の心理学	演	2						○			○						
	☐ 子どもの理解と援助	演	1						○				○					
	☐ 発達心理学Ⅰ		2								○							★
	☐ 発達心理学Ⅱ		2									○						
	☐ 教育心理学		2										○					★
	☐ 家族援助論		2						○						○			
	☐ 子どもの食と栄養		2						○					○				
	☐ 権利擁護と成年後見制度		2				○	○					○					
	☐ 教育原理		2						○		○							★
	☐ 社会福祉学特論Ⅰ		2												○			
	☐ 社会福祉学特論Ⅱ		2														○	
	☐ 社会福祉学特論Ⅲ		2										○					
	計			31	37	72	70	44	70									

備考欄の★の科目は、発達心理学Ⅰ＝発達心理学、教育心理学＝教育心理学、教育原理＝教育基礎論の教職関係科目の単位として充当することが出来ます。

保育実習Ⅱ(保育所)・保育実習指導Ⅱ(保育所)または保育実習Ⅲ(施設)・保育実習指導Ⅲ(施設)いずれかの組合せを選択すること。

【授業の方法】演:演習、実:実験・実習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。◎印は開講時期に週2コマの授業があることをさす。

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 養護教諭コース カリキュラムマップ

1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
養護教諭・福祉の世界をのぞいてみよう		養護教諭・福祉の専門的知識を身につけよう		養護教諭・福祉の専門性を理解しよう		養護教諭・福祉実践者としての総合力を高めよう	

実践能力を養う					社会福祉演習 保育実習指導Ⅰ（保育所・施設） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	社会福祉演習 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） 介護実習Ⅰ 養護実習 看護実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 精神保健福祉援助実習	卒業論文 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助実習

対人援助・学校保健等の理論を学び、技能を身につける	ソーシャルワークの基盤と専門職 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅲ 保育内容総論	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門） 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅳ 介護技術	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅶ 保育内容指導法Ⅰ 保育内容指導法Ⅲ 保育内容指導法Ⅴ 保育内容指導法Ⅶ 子ども家庭支援の心理学	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 保育技能Ⅰ 保育技能Ⅶ 保育技能Ⅷ 保育内容指導法Ⅱ 保育内容指導法Ⅳ 保育内容指導法Ⅵ 保育内容指導法Ⅷ 子どもの理解と援助 社会福祉学特論Ⅲ	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ ソーシャルワーク演習 精神保健福祉援助演習（基礎） 障害児保育Ⅰ 保育技能Ⅱ、Ⅴ、Ⅸ 保育内容指導法Ⅸ、Ⅺ 子どもの健康と安全	ソーシャルワーク理論と方法（専門）Ⅱ 社会福祉援助技術演習Ⅰ 精神保健福祉援助演習Ⅰ 障害児保育Ⅱ 保育技能Ⅱ、Ⅹ 保育相談支援 保育内容指導法Ⅹ、Ⅻ 子どもの食と栄養 社会福祉学特論Ⅰ	医療ソーシャルワーク論 社会福祉援助技術演習Ⅱ 精神保健福祉援助演習Ⅱ 保育技能Ⅱ、Ⅺ	教職実践演習（養護教諭） 社会福祉援助技術演習Ⅲ 精神保健福祉援助演習Ⅲ 保育技能Ⅱ 保育実践演習 社会福祉学特論Ⅱ

社会福祉・学校保健の専門的な知識を学ぶ	学校保健Ⅰ 保育者論	養護概説 社会福祉学Ⅱ 介護概論Ⅱ 保育原理Ⅰ 保育原理Ⅱ 乳児保育Ⅰ 保育の心理学	社会保障論Ⅰ 高齢者福祉論Ⅰ 精神保健福祉の原理Ⅰ 保育課程論 乳児保育Ⅱ 学校救急看護 健康相談活動 障害福祉論Ⅰ 精神保健学Ⅰ こころとからだのしくみⅠ 生徒指導論	社会保障論Ⅱ 高齢者福祉論Ⅱ 権利養護と成年後見制度 精神保健学Ⅱ 社会的養護Ⅰ 教育相談 障害福祉論Ⅱ 社会福祉運営管理論 精神保健福祉の原理Ⅱ 子どもの保健 学校保健Ⅱ 障害児心理学 こころとからだのしくみⅡ	社会的養護Ⅱ 地域福祉論Ⅰ 公的扶助論 精神障害リハビリテーション論	更生保護制度論 地域福祉論Ⅱ 家族援助論 母性保健 保健医療制度論 精神保健福祉制度論		

社会福祉・学校保健の専門的な知識を学ぶ	社会福祉学Ⅰ 心理学 医学一般Ⅰ 介護概論Ⅰ 解剖生理学 基礎看護 健康科学 教職入門	法学 倫理学 成人看護 医学一般Ⅱ 発達心理学Ⅰ 教育原理 小児看護 教育基礎論	児童福祉学Ⅰ 精神医学Ⅰ 教育方法・情報通信技術活用論 社会調査法Ⅰ 社会学 発達心理学 発達心理学Ⅱ	児童福祉学Ⅱ 教育心理学 食品学 特別活動の指導法 精神看護 精神保健 社会調査法Ⅱ 精神医学Ⅱ 公衆衛生学 教育課程論 特別支援教育総論 衛生学	諸外国の社会福祉Ⅰ 道徳教育の指導法 栄養学 総合的な学習の時間の指導法	諸外国の社会福祉Ⅱ 家族援助論 教育社会学	免疫学	環境論

学びの基礎を身につける	英語Ⅰ 情報活用演習（基礎） 基礎専門体育Ⅰ スポーツと健康Ⅰ SEITOKU Academic LiteracyⅠ	英語Ⅱ 選択外国語Ⅰ 情報活用演習（教職） 基礎専門体育Ⅱ スポーツと健康Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅡ	英語Ⅲ 選択外国語Ⅱ SEITOKU Academic LiteracyⅢ	英語Ⅳ 選択外国語Ⅲ	英語Ⅴ 選択外国語Ⅳ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ

人間性を高める	聖徳教育Ⅰ（FC・志賀高原） キャリアデザインⅠ	聖徳教育Ⅰ キャリアデザインⅡ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 小笠原流礼法基礎講座 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ（NZ研修） 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教養科目	聖徳教育Ⅰ 聖徳教養科目

教育目標	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	社会福祉・養護教諭に関する基礎を学ぶ	社会福祉・養護教諭の専門的知識を学ぶ	演習・実習を通して社会福祉・養護教諭専門職としての実践力を身につける	社会福祉・養護教諭専門職としての資質・能力を高める

社会の課題解決に貢献できる福祉・教育職

聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 養護教諭コース SEITOKU Learning Outcomes

	1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期	学位授与の方針に掲げる学修成果
	福祉の世界をのぞいてみよう		福祉の専門的知識を身につけよう		福祉の専門性を理解しよう		福祉実践者としての総合力を高めよう		
実践能力を養う					他者と協働してより良い共生社会を築くための役割を示している		学校保健と政策の連関的な取り組みを説明できる		他業種間の連携を図り、地域社会づくりや福祉社会づくりなど社会貢献ができる
対人援助・学校保健等の理論を学び、技能を身につける	学校保健等の基本的な支援方法を説明できる		教育ニーズに応じた支援方法を説明できる		個人の尊厳を重視した支援ができる能力を示している		支援の展開にあたって多機関・多職種とのチームアプローチを理解し実践する能力を示している		福祉・教育の実践場で女性の立場から生活の視点を持ち、個々人の福祉・教育ニーズに応じたサービス提供を実践することができる
社会福祉・学校保健の専門的な知識を学ぶ	学校保健に関わる理論・方法を説明できる		差別や社会的排除等の社会的問題を説明できる		教育課題について解決策をプレゼンテーションすることができる				社会福祉学の専門的な理論・知識・態度を習得し、個人の尊厳と基本的人権を尊重しながら福祉・教育課題を探索し課題解決策を提示することができる
社会福祉・学校保健の基礎となる知識を学ぶ	学校保健に関わる価値・倫理を説明できる		児童・生徒の特性をふまえた教育課題を発見することができる						確かな人間性を有し福祉・教育の実践者としての資質を兼ね備えている
学びの基礎を身につける	教育・福祉の基礎的な知識を有している		学校保健に必要な教養を身につけている						
人間性を高める	建学の精神「和」について、説明することができる		社会の多様性を受け入れ、尊重することができる		情操豊かで円満な女性として振舞うことができる		あらゆる場面において「和」の精神を発揮することができる		
教育目標	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
	社会福祉に関する基礎を学ぶ		社会福祉の専門的知識を学ぶ		演習・実習を通して社会福祉専門職としての実践力を身につける		社会福祉専門職としての資質・能力を高める		

社会福祉学科 養護教諭コース 免許・資格取得履修モデル
(養護教諭・社会福祉士 履修モデル)

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I スポーツと健康 II 教養科目 教養科目 情報活用演習 (教職)	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	4	3	1
養護教諭、社会福祉士	学校保健 I 健康科学 解剖生理学 基礎看護 ソーシャルワークの基盤と専門職 教職入門	養護概説 小児看護 成人看護 社会福祉学 II ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門) 教育基礎論	衛生学 学校救急看護 健康相談活動 精神保健 栄養学 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論 発達心理学 社会保障論 I ソーシャルワークの理論と方法 I 障害福祉論 I 高齢者福祉論 I	学校保健 II 公衆衛生学 精神看護 食品学 障害児心理学 教育課程論 特別活動の指導法 教育相談 社会保障論 II ソーシャルワークの理論と方法 II 社会福祉運営管理論 児童福祉学 II 障害福祉論 II 高齢者福祉論 II 権利擁護と成年後見制度 特別支援教育総論
科目数	6	6	12	16
科目数計	14	17	19	21

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
養護教諭、社会福祉士	栄養学 道徳教育の指導法 総合的な学習の時間の指導法 保健医療制度論 ソーシャルワークの理論と方法 (専門) I 地域福祉論 I 公的扶助論 ソーシャルワーク 演習	母性保健 教育社会学 ソーシャルワークの理論と方法 (専門) II 地域福祉論 II 更生保護制度論 社会福祉援助技術演習 I 社会福祉援助技術現場実習指導 I 養護実習 看護実習	免疫学 社会福祉援助技術演習 II 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 II	教職実践演習 (養護教諭) 社会福祉援助技術演習 III 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉援助技術現場実習指導 III
科目数	8	9	4	4
科目数計	12	12	5	5

社会福祉学科 養護教諭コース 免許・資格取得履修モデル
(養護教諭・精神保健福祉士 履修モデル)

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I スポーツと健康 II 教養科目 教養科目 情報活用演習 (教職)	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	4	3	1
養護教諭、 精神保健福祉士	学校保健 I 健康科学 解剖生理学 基礎看護 教職入門	養護概説 小児看護 成人看護 社会福祉学 II 教育基礎論	衛生学 健康相談活動 学校救急看護 精神保健 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論 発達心理学 社会保障論 I 障害福祉論 I 精神保健福祉の原理 I 精神医学 I 精神保健学 I	学校保健 II 公衆衛生学 精神看護 食品学 障害児心理学 教育課程論 特別活動の指導法 教育相談 特別支援教育総論 社会保障論 II 障害福祉論 II 精神保健福祉の原理 II 精神医学 II 精神保健学 II 権利擁護と成年後見制度
科目数	5	5	12	15
科目数計	13	16	19	20

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
養護教諭、 精神保健福祉士	栄養学 総合的な学習の時間の指導法 道徳教育の指導法 地域福祉論 I 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉援助演習 (基礎)	母性保健 教育社会学 地域福祉論 II 精神保健福祉制度論 精神保健福祉援助演習 I 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 I 更生保護制度論 養護実習 看護実習	免疫学 精神保健福祉援助演習 II 精神保健福祉援助実習 精神保健福祉援助実習指導 II	教職実践演習 (養護教諭) 精神保健福祉援助演習 III 精神保健福祉援助実習指導 III
科目数	6	10	4	3
科目数計	10	13	5	4

社会福祉学科 養護教諭コース 免許・資格取得履修モデル
(養護教諭・保育士 履修モデル)

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 幼保基礎専門体育 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 英語 II 第 2 外国語 I 幼保基礎専門体育 II 教養科目 教養科目 情報活用演習 (教職)	SEITOKU Academic Literacy III 英語 III 第 2 外国語 II 教養科目	小笠原流礼法基礎講座 英語 IV 第 2 外国語 III 教養科目
科目数	4	7	4	4
学科必修科目	社会福祉学 I キャリアデザイン I 医学一般 I 心理学	法学 キャリアデザイン II 医学一般 II 倫理学	社会学 社会調査法 I 児童福祉学 I	社会調査法 II
科目数	4	4	3	1
養護教諭、保育士	学校保健 I 健康科学 解剖生理学 基礎看護 社会福祉援助技術総論 I 保育原理 I 保育者論 保育内容総論 保育技能 I 保育技能 III 教職入門	養護概説 小児看護 成人看護 乳児保育 I 保育技能 I 保育技能 IV 保育の心理学 教育原理 教育基礎論	健康科学 衛生学 学校救急看護 健康相談活動 精神保健 教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導論 乳児保育 II 保育内容指導法 I 保育内容指導法 III 保育内容指導法 V 保育内容指導法 VII 保育課程論 保育技能 I 保育技能 V 保育技能 VII 子どもの保健 子ども家庭支援の心理学 発達心理学	学校保健 II 公衆衛生学 精神看護 食品学 障害児心理学 教育課程論 特別活動の指導法 特別支援教育総論 教育相談 社会保障論 II 保育内容指導法 II 保育内容指導法 IV 保育内容指導法 VI 保育内容指導法 VIII 保育技能 I 保育技能 VI 保育技能 VIII 子どもの健康と安全 子どもの理解と援助
科目数	11	9	19	19
科目数計	19	20	26	24

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	第 2 外国語 IV 教養科目	教養科目		
科目数	2	1	0	0
学科必修科目	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 I	社会福祉演習 諸外国の社会福祉 II	卒業論文	卒業論文
科目数	2	2	1	1
養護教諭、保育士	栄養学 道徳教育の指導法 総合的な学習の時間の指導法 社会的養護内容 障害児保育 I 保育内容指導法 IX 保育内容指導法 X I 保育実習 I (保育所) 保育実習 I (施設) 保育実習指導 I 保育技能 II 保育技能 IX 子どもの食と栄養 家族援助論 子どもの健康と安全	母性保健 教育社会学 社会福祉援助技術演習 I 障害児保育 II 保育内容指導法 X 保育内容指導法 X II 保育相談支援 保育実習 II または III 保育実習指導 II または III 保育技能 II 保育技能 X 養護実習 看護実習	免疫学 保育技能 II 保育技能 X I	教職実践演習 (養護教諭) 保育技能 II 保育実践演習
科目数	15	13	3	3
科目数計	19	16	4	4

教職課程履修について〔高等学校教諭一種免許状 福祉〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許状」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅲ－１３

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	要履修が 科目必	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								保育士履修者は 「基礎専門体育Ⅰ、Ⅱ」で充当 します。
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○教科に関する科目

社会福祉学科各コースの専門教育科目(B類)に記載の高免(福祉)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表Ⅲ－１４

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	要 履 修 が 必 須	履修年次								備考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	教職入門		2	○	●	●								
☐	教育基礎論		2	○	●	●								
☐	発達心理学		2	○				○						
☐	特別支援教育総論		2	○				○						
☐	教育社会学Ⅰ		2	○						○				
☐	教育課程論		2	○			○							
☐	福祉科教育法Ⅰ	演	2	○					○					
☐	福祉科教育法Ⅱ	演	2	○						○				
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○					●	●				
☐	特別活動の指導法		2	○				○						
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○				○						
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○				○						
☐	教育相談		2	○				○						
☐	教職実践演習(中・高)	演	2	○								○		
☐	高等学校教育実習	実	3	○								○		
	計		31	31										

[注] 1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修すること。

2. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。

3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。

4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

教職課程履修について〔養護教諭一種免許状〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許状」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅲ－１５

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	履 修 が 必 要 な 科 目	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							春学期または秋学期に開講 保育士履修者は 「基礎専門体育Ⅰ、Ⅱ」で充当 します。
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「養護に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○養護に関する科目

社会福祉学科各コースの専門教育科目(B類)に記載の養護教諭一種欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の養護に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表Ⅲ－１６

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	要履修科目が必	履修年次								備考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	教職入門		2	○	●	●								
☐	教育基礎論		2	○	●	●								
☐	発達心理学		2	○			○							
☐	特別支援教育総論		2	○			○							
☐	教育社会学Ⅰ		2	○					○					
☐	教育課程論		2	○			○							
☐	道德教育の指導法		2	○					○					
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○					●	●				
☐	特別活動の指導法		2	○			○							
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○			○							
☐	生徒指導論		2	○			○							
☐	教育相談		2	○			○							
☐	教職実践演習(養護教諭)	演	2	○								○		
☐	養護実習	実	5	○					○					
	計		31	31										

〔注〕 1. 養護教諭一種免許状を取得する者は、○印を付された科目全部と△印を付された科目より1科目を履修しなければならない。

2. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。

3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。

4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

文学部 文学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部文学科は、特色ある複数学科を統合し、2013年に新たな学部として誕生しました。いつの時代においても普遍的な理念である聖徳太子の「和」の精神を建学理念とする女性総合大学の文学部として、円満な人格を備えた社会人・家庭人としての良き女性の育成を教育の根幹としています。したがって、文学部文学科は心豊かな人間性、その表象となる気品、幅広い教養と人文科学に関する各領域の専門性を育むことに重きを置く教育を行っています。

一方、現代社会は多くの問題を抱えています。それらは既成の知や技術のみによって解決を図ることは難しく、なによりも人間性への深い洞察に基づいた多文化社会に関する広い視野と優れた識見を必要としています。

文学部文学科は、そのような現代社会の要請にも応え、人文科学に関する専門領域別に、国際文化コミュニケーションコース、日本語・日本文学コース、歴史文化コース、書道文化コース、図書館情報コース、教養デザインコースの六コースを設け、専門性の高い人材育成を行っています。そして、さまざまな時代・地域の文学・文化・芸術に関する幅広く奥行きのある教養に基づき、時代や地域を超えて多様な他者の価値観を理解できる柔軟な思考力、社会の各領域において輝き続ける行動力を備えた人材を育成し、多くの問題を抱えた社会に広く貢献していきます。

以上の理念を具現化していくために、以下の三つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 伝統の本物教育を重視し、女性としての心豊かな教養と日本社会の気品の模範としての礼法を備えた人材を育成する。
2. 現代社会を生きるための総合的な人間力を備えた人材を育成する。
3. 文学・文化・芸術に関する各学問領域の専門的な知識を有し、自らの考えを適切に表現できる社会的・職業的に自立した人材を育成する。

上記の教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

【学習成果】

1. 伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、及び日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる。
2. グローバル社会を生きるための英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力を身につけ、実践できる。
3. 文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる。

文学部文学科では、以上の学習成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に卒業を認定し、学士（文学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

文学部文学科では、学習成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 学部共通科目

伝統の本物教育を具現化し、体験型・参加型教育を重視した科目を設置しており、それらの科目をRE(Reality Experience)科目と名付けています。RE科目の他、ゼミ、キャリア論、コミュニケーション技法を学部共通科目として設定することにより、学生自らが課題を発見し自ら主体的に学習成果を高め、課題探求力を身につけます。

2. コース別専門科目群

(1) 国際文化コミュニケーションコース

英米の文化・文学・歴史を学ぶとともに、日本(アジア圏)の文化・文学・歴史を学ぶことによって、世界の多様な文化を理解し、国際的なコミュニケーション力を育成する教育課程を編成しています。

(2) 日本語・日本文学コース

日本語を専門的に学ぶことによって、日本語の基本的な運用能力を養い、日本の文学作品の鑑賞・批評・創作を通じた自己表現力を育成する教育課程を編成しています。

(3) 歴史文化コース

歴史学・考古学・民俗学・美術史学の知識と専門理論を学び、歴史的に形成された現代社会の課題に多面的に取り組む力を育成する教育課程を編成しています。

(4) 書道文化コース

書道学を学ぶことによって、書の実相を理論と実技を通して理解し、書の真髄を見極め作品を創作する力を育成する教育課程を編成しています。

(5) 図書館情報コース

図書館情報学を学ぶことによって、図書館の機能と情報資源の多様性を理解し、情報技術を身につけて、現代図書館を運営する力を育成する教育課程を編成しています。

(6) 教養デザインコース

人文科学としての教養力の基盤の上に、相手志向で思いやるホスピタリティ力と、人・組織・会社・世界と円滑な関係を築き上げるコミュニケーション力を養い、実社会における総合的な人間力を育成する教育課程を編成しています。

【教育課程実施の方針】

文学部文学科では、全学共通科目と専門教育科目の教育課程を編成し、学習成果を効果的に達成するために、以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 伝統の本物教育を具現化し、体験型・参加型教育を重視した特別授業を開講し、学生自らが課題を発見し自ら主体的に学習成果を高める方法を重要視しています。それらの科目をRE(Reality Experience)科目と名付けています。

2. 文学・文化・芸術に関する各学問領域の専門科目では、作品・学習対象の鑑賞・批評・創作をチームによるアクティブ・ラーニングやプロジェクト学習等を活用し実施しています。
3. キャリア科目におけるインターンシップやフィールドワークをはじめ、実習など、現地現物主義によって実践的な能力を身につけられるよう実施しています。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学部文学科は、建学の理念である「和」の精神を理解し、文学・文化・芸術に関する学問領域に興味を持ち、将来、心豊かな教養と気品を持った女性として、社会の各分野で活躍したいという基本的資質をもった人を求めています。具体的には以下のような入学者を求めています。

1. 心豊かな女性として、気品ある行動を大切にできる人。
2. 協調性、誠実性、自主性を備え、自分の考えや気持ちを表現するなど、多様な人々と協働する意欲がある人。
3. 文学・文化・芸術に関する特定のテーマを掘り下げ深く学ぼうとする意欲がある人。
4. 高等学校等での学びを通して、文学部文学科での学習に必要な知識、技能、思考力、学ぶ力を身につけている人。

文学部文学科では、このような人を受け入れるために多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学習に必要な知識、技能、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の獲得状況を測る
手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

文学部学習到達ルーブリック

毎学期末

「人間性を高める」科目群の総合GPA

毎学期末

キャリア・アセスメントテスト

3年春

1. 伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、及び日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる。

文学部学習到達ルーブリック

毎学期末

「学びの基礎を身につける」科目群の総合GPA

毎学期末

「社会人として必要な能力を身につける」科目群の総合GPA

毎学期末

キャリア・アセスメントテスト

3年春

2. グローバル社会を生きるための英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力を身につけ、実践できる。

文学部学習到達ルーブリック

毎学期末

卒業研究ルーブリック

3年・4年学期末

「各学問領域の専門能力を身につける」科目群の総合GPA

毎学期末

各コースの専門・実践力を身につける科目群の総合GPA

毎学期末

【国際文化コミュニケーション】

「異文化を理解し英語の専門知識と4技能を身につける」

【日本語・日本文学】

「日本の言語と文学を理解し、その豊かさを味わい実践できる」

【歴史文化】

「日本の歴史と文化を理解する」

【書道文化】

「書道の理論と技法を学ぶ」

【図書館情報】

「図書館情報学を深く理解し、実践力を身につける」

【教養デザイン】

「ビジネス社会・グローバル社会で働く上で必要な知識・能力・態度を身につける」

資格免許・検定に関するロードマップの達成状況

各ロードマップに記載

3. 文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる。

文学部 文学科 全学共通科目 履修要項

- ① 文学部文学科各コースの卒業所要単位数は、下表のとおりです。

コース名	全学共通科目 (A類)	専門教育科目 (B類)	計
国際文化コミュニケーション	30単位	94単位	124単位
日本語・日本文学	30単位	94単位	124単位
歴史文化	30単位	94単位	124単位
書道文化	30単位	94単位	124単位
図書館情報	30単位	94単位	124単位
教養デザイン	30単位	94単位	124単位

- ② 文学部文学科の全学共通科目 (A類) の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

全学共通科目 (A類)				
聖徳教育 科目	教養科目、専門基礎科目及び 外国語科目	健康教育 科目	情報活用 科目	計
7	20	2	1	30

- ③ 文学部の学生は、全学共通科目 (A類) については、別表Ⅳ－１～８のとおり履修してください (同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目 (別表Ⅳ－１) はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目 (別表Ⅳ－２) は専門基礎科目、外国語科目と併せて 20 単位以上を修得すること (外国語は 8 単位以上)。
1 年次秋学期から開講しますので、各学期 2 科目程度を、A類～D類まで一つの群に集中することなくバランスよく履修してください。
D類の「日本国憲法」は、教育職員免許状を取得しようとする者は必修です。
- ⑥ 専門基礎科目は、別表Ⅳ－３の卒業必修欄に○印の付いている科目が必修です。
- ⑦ 外国語科目 (別表Ⅳ－５) は、英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ (4 単位) 及び選択外国語として、英語、フランス語、ドイツ語、中国語のうち 1 か国語 (4 単位)、計 8 単位が必修です。
- ⑧ 健康教育科目 (別表Ⅳ－６) 及び情報活用科目 (別表Ⅳ－７) は、備考に記載のとおり履修してください。
- ⑨ 単位を修得 (成績表に S・A・B・C・N と表記される) した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類)

聖徳教育科目

別表Ⅳ－1

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	小笠原流礼法基礎講座		2	○			●	●					● 春学期または秋学期に開講 △ 聖徳教育の詳細については、学生便覧を参照すること。
☐	聖徳教育Ⅰ	演	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅱ	演	1	○	○		○	○					
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅰ)	演	1	○	○								
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	○		○							
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	○			●	●					
	計		7										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教養科目

別表Ⅳ－2

	チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備 考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
A 類	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(芸術領域)		2			○	○	○					△ 教養科目と別表Ⅳ-3の専門基礎科目、別表Ⅳ-5の外国語科目を併せて20単位以上修得すること (外国語は8単位以上)
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文学領域)		2			○	○	○					
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(歴史領域)		2			○	○	○					
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅰ)		2			○	○	○					
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)	演	2						○	○			
B 類	☐	自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			○	○	○					△ 教養科目は表中のA類、B類、C類各類から、1科目以上必修。
	☐	自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			○	○	○					
	☐	自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			○	○	○					
	☐	自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			○	○	○					
C 類	☐	心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			○	○	○					△ 同じ科目(領域)を重複履修することはできません。
	☐	心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			○	○	○					
	☐	心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			○	○	○					
	☐	心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			○	○	○					
D 類	☐	日本国憲法		2		●	●							△ 日本国憲法は、教育職員免許状を取得する者は必ず修得すること。

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。又●印の付された授業科目は時間割編成上、春学期又は秋学期いずれかに配当されるので時間割を確認すること。

専門基礎科目

別表Ⅳ－3

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	ベーシックコミュニケーションⅠ		2	○	○									
☐	コンピュータ・コミュニケーションⅠ		1		○									
☐	コンピュータ・コミュニケーションⅡ		1				○							
☐	異文化コミュニケーション		2			○								
	計		6											

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

チェック欄	区分	授業科目	授業の方法	単 位	前 修 必 修	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	共通	ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅠ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	●	●	●	●	●				
☐		アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	●		●		●	●			
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅠ		2				●		●				
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					●		●			
☐		キャリア教育関連科目※												
☐	価値増幅型 マネジメント副専攻	現代社会におけるビジネスリテラシー		2		●	●	●	●					
☐		法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2				●		●				
☐		就活にも役立つメディアリテラシー		2		●		●						
☐		戦略的ビジネスマネジメント		2				●		●	●			
☐		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		●	●	●	●	●	●			
☐	グローバル 人材育成 副専攻	世界のニュースを読み解く ～国際社会問題を知る～		2				●		●		●		
☐		グローバルコミュニケーション		2				●		●		●		
☐		Practical English CommunicationⅠ		2			○							
☐		Practical English CommunicationⅡ		2				○						
☐		Practical English CommunicationⅢ		2						○				
☐	ビジネス 再生・創生 副専攻	新時代のリーダーシップデザイン		2			●		●					
☐		戦略的ビジネスプランニング		2		●		●		●	●			
☐		顧客価値を創出するマーケティング		2			●		●		●	●		
☐		SDGsを実現するGX&SXの基本		2			●		●		●	●		
☐		WEBテクノロジーの基礎と応用		2				●		●		●	●	
☐	ビジネス・データ サイエンス 副専攻	文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			●		●					
☐		ビジネス・データサイエンスⅠ		2		●		●		●				
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～1		2			●			●				
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～2		2		●	●	●	●	●	●	●		
☐		ビジネス・データサイエンスⅢ		2			●		●	●	●	●	●	
☐	社会活性化・ 価値創造	地域社会の価値を創造する実践論		2			●		●					
☐		行政の役割を体験するインターンシップ		2			●		●					
☐		行政の理解と試験対策		2			●		●		●			
☐		起業(事業創造)に向けた実践論		2			●		●		●	●		

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。

(但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ～1、Ⅱ～2、Ⅲ」及び「Practical English CommunicationⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は除く)

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。

※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。

修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

外国語科目配当表

別表Ⅳ-5

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の方法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備 考
					1	2	3	4					
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								△ 別表Ⅳ-2の教養科目と別表Ⅳ-3の専門基礎科目、 外国語科目を併せて20単位以上修得すること。
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	英語Ⅲ	演	1	○			○						
☐	英語Ⅳ	演	1	○				○					
☐	英語Ⅴ	演	1						○				△ 外国語科目は、卒業必修科目として英語Ⅰ、英 語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ(4単位)及び選択外国語 として(英語、フランス語、ドイツ語、中国語)のうち 1か国語(4単位)、計8単位以上が必修です。
☐	英語Ⅵ	演	1							○			
☐	英語Ⅶ	演	1								○		
☐	英語Ⅷ	演	1									○	
☐	フランス語Ⅰ	演	1			○							△ 「フランス語」、「ドイツ語」及び「中国語」は 各学期に週2回開講されるのでⅠとⅡ、 ⅢとⅣを同一学期に履修すること。
☐	フランス語Ⅱ	演	1			○							
☐	フランス語Ⅲ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅳ	演	1					○					
☐	フランス語Ⅴ	演	1						○				
☐	フランス語Ⅵ	演	1							○			
☐	フランス語Ⅶ	演	1								○		
☐	フランス語Ⅷ	演	1									○	
☐	ドイツ語Ⅰ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅱ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅲ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅳ	演	1					○					
☐	ドイツ語Ⅴ	演	1						○				
☐	ドイツ語Ⅵ	演	1							○			
☐	ドイツ語Ⅶ	演	1								○		
☐	ドイツ語Ⅷ	演	1									○	
☐	中国語Ⅰ	演	1			○							
☐	中国語Ⅱ	演	1			○							
☐	中国語Ⅲ	演	1				○						
☐	中国語Ⅳ	演	1					○					
☐	中国語Ⅴ	演	1						○				
☐	中国語Ⅵ	演	1							○			
☐	中国語Ⅶ	演	1								○		
☐	中国語Ⅷ	演	1									○	
			32										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

健康教育科目

別表Ⅳ-6

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	スポーツと健康Ⅰ	※	1	○	○								△ スポーツと健康Ⅰ・Ⅱを修得すること。
☐	スポーツと健康Ⅱ	※	1	○		○							
			2										

【授業の方法】無印:講義。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

情報活用科目

別表Ⅳ-7

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								△ 情報活用演習(基礎)が必修です。教育職員免許状を取得しようとする者は、情報活用演習(基礎)・(教職)の両科目とも修得すること。
☐	情報活用演習(教職)	演	1			○							
☐	情報活用演習(応用)	演	1						○				
☐	情報活用演習(統計)	演	1				○						
☐	情報活用演習(表現)	演	1					○					
			5										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

帰国子女科目

別表Ⅳ-8

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本語Ⅰ	演	1		○								△ 帰国子女科目は、教養科目又は外国語の単位に 替えることができる。
☐	日本語Ⅱ	演	1			○							
☐	日本語Ⅲ	演	1				○						
☐	日本語Ⅳ	演	1					○					
☐	日本語Ⅴ	演	1						○				
☐	日本語Ⅵ	演	1							○			
☐	日本の社会と歴史Ⅰ		2						○				
☐	日本の社会と歴史Ⅱ		2							○			
			10										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

文学科 国際文化コミュニケーションコース 専門教育科目 履修要項

①卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上です。

②英語・英文学コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B 類）			
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
47	22	25	94

③国際文化コミュニケーションコースの専門教育科目（B 類）については、別表Ⅳ－9 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 47 単位と選択必修科目 22 単位、そして別表Ⅳ－9 の選択科目及び別表Ⅳ－12、Ⅳ－15、Ⅳ－20、Ⅳ－23、Ⅳ－24 に記載されている科目から 25 単位以上を履修してください（同一科目を重複して履修することはできません）。

④中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者は、①に加えて、中一免（英語）、高一免（英語）欄に○印の付いている科目を全部と、△印の付いている科目より中学校教諭一種免許状（英語）の場合は 8 単位を、高等学校教諭一種免許状（英語）単位の場合は 12 単位以上を選択履修してください。併せて別表Ⅳ－10、11 に記載の通り履修してください。

⑤図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表Ⅷ－1～5（P.238～P.242）により履修してください（一部、卒業要件に算入できない科目があります）。

⑥単位を修得（成績表に S・A・B・C・N と表記）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等の体験

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7 日間の介護等の体験を行うことが必要です。

文学部 国際文化コミュニケーションコース 専門教育科目 (B類)

別表Ⅳ－9

区分	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	卒業必修	中一免 (英語)	高一免 (英語)	履 修 年 次								備考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学科必修科目	☐	人文科学入門Ⅰ (RE科目)		2	○			○								エアライン・ホテルプラチナP
	☐	人文科学入門Ⅱ (RE科目)		2	○				○							
	☐	ホスピタリティコミュニケーションⅠ		2	○				○							
	☐	女性キャリア論Ⅰ		2	○			○								
	☐	女性キャリア論Ⅱ		2	○				○							
	☐	キャリア戦略Ⅰ		2	○					○						
	☐	キャリア戦略Ⅱ		2	○						○					
	☐	専門ゼミ入門	演	1	○						○					
	☐	専門ゼミⅠ (3年次ゼミⅠ)	演	1	○							○				
	☐	専門ゼミⅡ (3年次ゼミⅡ)	演	1	○								○			
	☐	専門ゼミⅢ (4年次ゼミⅠ)	演	1	○									○		
	☐	専門ゼミⅣ (4年次ゼミⅡ)	演	1	○										○	
	☐	卒業研究		4	○										○	
	(小計)		23	23											学科必修科目 (計23単位)	
コース必修科目	☐	Reading Skills for Academic PurposesⅠ		2	○			○								SEEP
	☐	Reading Skills for Academic PurposesⅡ		2	○				○							SEEP
	☐	Communication SkillsⅠ		2	○	○	○	○								SEEP
	☐	Communication SkillsⅡ		2	○	△	△		○							SEEP
	☐	English CompositionⅠ		2	○			○								SEEP
	☐	English CompositionⅡ		2	○			○								SEEP
	☐	基礎英文法Ⅰ		2	○	△	△	○								
	☐	基礎英文法Ⅱ		2	○	△	△		○							
	☐	英語音声学Ⅰ		2	○	○	○	○								
	☐	英語音声学Ⅱ		2	○	○	○		○							
	☐	英米文学入門		2	○	○	○		○							
	☐	国際文化論		2	○			※		※						SEEP ※ 語学研修向け
		(小計)		24	24											コース必修科目 (計24単位)
コース選択必修科目	☐	Academic ReadingⅠ		2						○						SEEP
	☐	Academic ReadingⅡ		2							○					SEEP
	☐	Advanced EnglishⅠ		2								○				SEEP
	☐	Advanced EnglishⅡ		2									○			SEEP
	☐	Academic WritingⅠ		2						○						SEEP
	☐	Academic WritingⅡ		2							○					SEEP
	☐	Communication SkillsⅢ		2						○						SEEP
	☐	Communication SkillsⅣ		2							○					SEEP
	☐	Discussion and DebateⅠ		2								○				SEEP
	☐	Discussion and DebateⅡ		2									○			SEEP
	☐	英米文学		2		○	○				○					
	☐	応用言語学		2						○						
	☐	英語学入門Ⅰ		2		○	○			○						
	☐	英語学入門Ⅱ		2		○	○				○					
	☐	海外英語特講		2				※		※						SEEP ※ 語学研修
	☐	日本文化入門		2				○								
	☐	イギリス文学史Ⅰ		2		△	△					○				
	☐	イギリス文学史Ⅱ		2		△	△						○			
	☐	アメリカ文学史Ⅰ		2		△	△					○				
	☐	アメリカ文学史Ⅱ		2		△	△						○			
☐	Global CommunicationⅠ		2				○								SEEP	
☐	Global CommunicationⅡ		2					○							SEEP	
☐	English for Hospitality & TourismⅠ		2								○				SEEP	
☐	English for Hospitality & TourismⅡ		2									○			SEEP	
☐	メディア論入門		2				○									
	(小計)		50	22											コース選択必修科目 (計22単位)	
コース選択科目	☐	Discussion and DebateⅢ		2										○		SEEP
	☐	Discussion and DebateⅣ		2											○	SEEP
	☐	イギリスの歴史		2						○						
	☐	アメリカの歴史		2							○					
	☐	現代イギリス事情Ⅰ		1		○	○					○				
	☐	現代アメリカ事情Ⅰ		1		○	○						○			
	☐	現代イギリス事情Ⅱ		1		△	△					○				
	☐	現代アメリカ事情Ⅱ		1		△	△						○			
	☐	Global CommunicationⅢ		2						○						SEEP
	☐	Global CommunicationⅣ		2							○					SEEP
	☐	English for Hospitality & TourismⅢ		2										○		SEEP
	☐	English for Hospitality & TourismⅣ		2											○	SEEP

別表IV—9

【授業の方法】 演：演習、無印：講義をさす。
 【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。 ●印は教職課程履修者の推奨履修年次を示す。
 ※1 中一免（英語）取得希望者は中一免（英語）欄の△のうち8単位を修得すること。
 ※2 高一免（英語）取得希望者は高一免（英語）欄の△のうち12単位を修得すること。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 英語〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅳ－10

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	要 履 修 が 目 必	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							●は春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○教科に関する科目

国際文化コミュニケーションコースの専門教育科目(B類)に記載の中一免(英語)、高一免(英語) 欄にある○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ－11

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	中免	高免	履修年次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	○	●	●							●は春学期または秋学期に開講
☐	教育基礎論		2	○	○	●	●							
☐	教育心理学		2	△	△			●	●					△はいずれか1科目必修
☐	発達心理学		2	△	△					●	●			
☐	特別支援教育総論		2	○	○			●	●					
☐	教育社会学Ⅰ		2	○	○					●	●			
☐	教育課程論		2	○	○			●	●					
☐	英語科教育法Ⅰ	演	2	○	○			○						
☐	英語科教育法Ⅱ	演	2	○	○				○					
☐	英語科教育法Ⅲ	演	2	○						○				
☐	英語科教育法Ⅳ	演	2	○							○			
☐	道德教育の指導法		2	○						●	●			
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○	○					●	●			
☐	特別活動の指導法		2	○	○			●	●					
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○	○			●	●					
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○	○			●	●					
☐	教育相談		2	○	○			●	●					
☐	教職実践演習(中・高)	演	2	○	○								○	
☐	中学校教育実習	実	5	○						●	●			
☐	高等学校教育実習	実	3		○					●	●			
☐	介護体験実習	実	1	○				●	●					
	計		45	40	31									

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修すること。
 2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修すること。
 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特殊教育諸学校において、7日間の介護等体験を行うことが必要です。

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 国際文化コミュニケーションコース カリキュラムマップ

1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
学びの扉を開こう		専門的知識を身につけよう		考える力・創作力を養おう		実践力を養おう	

各学問領域の専門能力を身につける	教員	日本国憲法	教育方法・情報通信技術活用論	教育心理学	道徳活動の指導法	教育社会学Ⅰ	教職実践演習（中・高）
		教職入門	生徒指導（進路指導を含む）	特別支援教育総論		総合的な学習の時間の指導法	
		教育基礎論	教育相談	教育課程論			
		情報活用演習（教職）		特別活動の指導法			
			英語科教育法Ⅰ 介護体験実習	英語科教育法Ⅱ	英語科教育法Ⅲ	英語科教育法Ⅳ （中・高）教育実習	
				教職実践論基礎Ⅰ	教職実践論基礎Ⅱ	教職実践論Ⅰ	教職実践論Ⅱ

異文化を理解し英語の専門知識と4技能を身につける	専門知識	基礎英文法Ⅰ	基礎英文法Ⅱ	英語学入門Ⅰ	専門ゼミ入門	専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ	専門ゼミⅣ
		英語音声学Ⅰ	英語音声学Ⅱ	応用言語学	英語学入門Ⅱ	イギリス文学史Ⅰ	イギリス文学史Ⅱ	卒業研究	卒業研究
			英米文学入門	比較文学Ⅰ	英米文学	アメリカ文学史Ⅰ	アメリカ文学史Ⅱ		
		日本文化入門		イギリスの歴史	比較文学Ⅱ	現代イギリス事情Ⅰ	現代アメリカ事情Ⅰ		
				海外英語特講	アメリカの歴史	現代イギリス事情Ⅱ	現代アメリカ事情Ⅱ		
	4技能					国際機構論	国際関係論		
						日本事情Ⅰ	日本事情Ⅱ		
		Reading Skills for Academic PurposesⅠ	Reading Skills for Academic PurposesⅡ	Academic ReadingⅠ	Academic ReadingⅡ	Advanced EnglishⅠ	Advanced EnglishⅡ		
		Communication SkillsⅠ	Communication SkillsⅡ	Communication SkillsⅢ	Communication SkillsⅣ	Discussion & DebateⅠ	Discussion & DebateⅡ	Discussion & DebateⅢ	Discussion & DebateⅣ
		English CompositionⅠ	English CompositionⅡ	Academic WritingⅠ	Academic WritingⅡ				
		Global CommunicationⅠ	Global CommunicationⅡ	Global CommunicationⅢ	Global CommunicationⅣ				

社会人として必要な能力を身につける	基礎	女性キャリア論Ⅰ	女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ	キャリア戦略Ⅳ		
		ベーシックコミュニケーションⅠ	異文化コミュニケーション			キャリア・デザインⅠ	キャリア・デザインⅡ		
			ホスピタリティコミュニケーションⅠ	ホスピタリティコミュニケーションⅡ					
	企業就職	メディア論入門	ベーシックコミュニケーションⅡ	ホスピタリティマネジメントⅠ	ホスピタリティマネジメントⅡ				
		ホスピタリティ概論		プレゼンテーションⅠ	ホスピタリティ産業論Ⅱ	プレゼンテーションⅡ			
		学内フィールドワークⅠ	学内フィールドワークⅡ			English for Hospitality & TourismⅠ	English for Hospitality & TourismⅡ	English for Hospitality & TourismⅢ	English for Hospitality & TourismⅣ
						短期インターンシップ			

学びの基礎を身につける	人文科学入門Ⅰ（RE科目）	人文科学入門Ⅱ（RE科目）	国際文化論					
	コンピュータコミュニケーションⅠ		コンピュータコミュニケーションⅡ					
	英語Ⅰ	英語Ⅱ 外国語	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
	情報活用演習（基礎）	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	SEITOKU Academic LiteracyⅠ	SEITOKU Academic LiteracyⅡ	SEITOKU Academic LiteracyⅢ					

人間性を高める	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育Ⅱ（FC,学外研修Ⅰ）	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ（語学研修）	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	
	スポーツと健康Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座				

教育目標	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する



各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 国際文化Cコース 学びで得られる成果（Learning Outcomes）

学びの扉を開こう		専門的知識を身につけよう		考える力・創作力を身につけよう		実践力を養おう		学位授与の方針に掲げる学習成果	
1年次		2年次		3年次		4年次			
各学問領域の専門能力を身につける	教員	教員として必要な基礎的知識を身につける	中学・高校の教員として必要な基礎的知識・技能を身につける	中学・高校の英語科教員として必要な知識・技術を身につけ、それを実習の場で活用することができる	実習における課題を振り返り、自己の課題を発見することができる			文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる	
		英語の基礎的な知識・技能を身につける	英語の専門的な知識・技能を身につけ、自己の問題意識を発展させることができる	調査・研究の技能を身につけ、資料を読解し、自己の課題を深く探求することができる	自己の課題探求の成果を、論文としてまとめ、わかりやすく伝えることができる				
異文化に対する理解を深め英語の専門知識と4技能を身につける		文化の多様性を学び国際的視野を身につける	国際社会と日本の関係性を理解し、国際的な問題を自分事として捉えることができる	調査・研究の技能を身につけ、資料を読解し、国際的な視点から自己の課題を深く探求することができる	自己の課題探求の成果を、論文としてまとめ、わかりやすく伝えることができる			各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる	
		社会人として必要な能力を身につける	社会人として必要な資質を理解し、基礎的な知識・技能が身についている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのために必要な知識・技能について理解している	課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる				
学びの基礎を身につける		大学生として必要な教養を養うための学びの基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身につけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現できる						グローバル社会を生きるための英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力を身につけ、実践できる
		人間性を高める	建学の精神である「和」を理解し、「礼節」をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日本女性の模範としての「気品」とは何かを理解できる	身につけた「礼節」を応用し、実践できる。教養をさらに深め、それをさまざまな分野に応用できる	身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に応用できる			
教育目標		1年次	2年次	3年次	4年次				
		学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉ための技能を修得する	課題解決のための実践力を修得する				

文学科 国際文化コミュニケーションコース 教員免許取得履修モデル
 中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得する場合
 ※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II スポーツと健康 II 情報活用演習（教職）	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	6	4	3
コース必修科目・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I Reading Skills for Academic Purposes I Communication Skills I English Composition I 基礎英文法 I 英語音声学 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II Reading Skills for Academic Purposes II Communication Skills II English Composition II 基礎英文法 II 英語音声学 II 英米文学入門	キャリア戦略 I 国際文化論	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門
科目数	7	9	2	2
コース選択	日本文化入門		Academic Reading I Communication Skills III 英語学入門 I 海外英語特講	Academic Reading II Communication Skills IV 英語学入門 II 英米文学
科目数	1	0	4	4
選択コース				教職実践論基礎 I
科目数	0	0	0	1
教職科目		教職入門 教育基礎論	教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導（進路指導を含む） 教育相談 英語科教育法 I 介護体験実習	教育心理学 特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法 英語科教育法 II
科目数	0	2	5	5
科目数計	14	17	15	15

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
コース必修科目・	専門ゼミ I	専門ゼミ II	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
コース選択	イギリス文学史 I アメリカ文学史 I Discussion and Debate I	イギリス文学史 II アメリカ文学史 II Discussion and Debate II		
科目数	3	3	0	0
選択コース	現代イギリス事情 I 現代イギリス事情 II 教職実践論基礎 II キャリア・デザイン I	現代アメリカ事情 I 現代アメリカ事情 II 教職実践論 I キャリア・デザイン II	Discussion and Debate III 教職実践論 II	Discussion and Debate IV
科目数	4	4	2	1
教職科目	英語科教育法 III 道徳活動の指導法	教育社会学 I 英語科教育法 IV 総合的な学習の時間の指導法 （中・高）教育実習		教職実践演習（中・高）
科目数	2	4	0	1
科目数計	11	13	5	5

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II スポーツと健康 II	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	5	4	3
学科必修必修科目・科目数	人文科学入門 I 女性キャリア論 I Reading Skills for Academic Purposes I Communication Skills I English Composition I 基礎英文法 I 英語音声学 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II Reading Skills for Academic Purposes II Communication Skills II English Composition II 基礎英文法 II 英語音声学 II 英米文学入門	キャリア戦略 I 国際文化論	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門
科目数	7	9	2	2
コース選択科目	Global Communication I 日本文化入門	Global Communication II	Academic Reading I Academic Writing I Communication Skills III 応用言語学 英語学入門 I 海外英語特講	Academic Reading II Academic Writing II Communication Skills IV 英米文学 英語学入門 II
科目数	2	1	6	5
選択科目	学内フィールドワーク I	学内フィールドワーク II	Global Communication III イギリスの歴史 メディアの英語	Global Communication IV アメリカの歴史
科目数	1	1	3	2
教職科目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	16	16	15	12

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
学科必修必修科目・科目数	専門ゼミ I	専門ゼミ II	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
コース選択科目	Advanced English I Discussion and Debate I English for Hospitality & Tourism I	Advanced English II Discussion and Debate II English for Hospitality & Tourism II		
科目数	3	3	0	0
選択科目	現代イギリス事情 I 現代イギリス事情 II キャリア・デザイン I キャリア戦略 III 短期インターンシップ	現代アメリカ事情 I 現代アメリカ事情 II キャリア・デザイン II キャリア戦略 IV	Discussion and Debate III English for Hospitality & Tourism III	Discussion and Debate IV English for Hospitality & Tourism IV
科目数	5	4	2	2
教職科目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	10	9	5	5

文学科 日本語・日本文学コース 専門教育科目 履修要項

①卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上です。

②日本語・日本文学コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B 類）			
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
53	18	23	94

③日本語・日本文学コースの専門教育科目（B 類）については、別表Ⅳ－12 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 53 単位と選択必修科目 18 単位、そして別表Ⅳ－12 の選択科目及び別表Ⅳ－9、Ⅳ－15、Ⅳ－20、Ⅳ－23、Ⅳ－24 から 23 単位以上を履修してください（同一科目を重複して履修することはできません）。

④中学校教諭一種免許状（国語）、高等学校教諭一種免許状（国語）を取得しようとする者は、①に加えて、中一免（国語）、高一免（国語）欄に○印の付いている科目を全部履修してください。併せて別表Ⅳ－13、14 に記載の通り履修してください。

⑤図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表Ⅷ－1～5（P.238～P.242）により履修してください（一部、卒業要件に算入できない科目があります）。

⑥単位を修得（成績表に S・A・B・C・N と表記）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等の体験

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7 日間の介護等の体験を行う必要があります。

区分	チェック欄	授業科目	授業の方法	単 位	卒業 必修	中一免 (国語)	高一免 (国語)	履修年次								備考	
								1		2		3		4			
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
学科 必修 科目	☐	人文科学入門Ⅰ (RE科目)		2	○			○								学科必修科目 (計23単位)	
	☐	人文科学入門Ⅱ (RE科目)		2	○				○								
	☐	ホスピタリティコミュニケーションⅠ		2	○				○								
	☐	女性キャリア論Ⅰ		2	○			○									
	☐	女性キャリア論Ⅱ		2	○				○								
	☐	キャリア戦略Ⅰ		2	○					○							
	☐	キャリア戦略Ⅱ		2	○						○						
	☐	専門ゼミ入門	演	1	○						○						
	☐	専門ゼミⅠ (3年次ゼミⅠ)	演	1	○							○					
	☐	専門ゼミⅡ (3年次ゼミⅡ)	演	1	○								○				
	☐	専門ゼミⅢ (4年次ゼミⅠ)	演	1	○									○			
☐	専門ゼミⅣ (4年次ゼミⅡ)	演	1	○										○			
☐	卒業研究			4	○										○		
	(小計)			23	23												
コ ー ス 必修 科目	☐	日本文化入門		2	○			○								コース必修科目 (計30単位)	
	☐	国際文化論		2	○					○							
	☐	日本文学概説Ⅰ		2	○			○									
	☐	日本文学概説Ⅱ		2	○	○	○		○								
	☐	日本語概説Ⅰ		2	○	○	○	○									
	☐	日本語概説Ⅱ		2	○	○	○		○								
	☐	日本古典文学史Ⅰ		2	○	○	○			○							
	☐	日本古典文学史Ⅱ		2	○	○	○				○						
	☐	日本近現代文学史Ⅰ		2	○	○	○	○									
	☐	日本近現代文学史Ⅱ		2	○	○	○		○								
	☐	日本語の語法Ⅰ		2	○	○	○			○							
	☐	日本語の語法Ⅱ		2	○						○						
	☐	日本語の歴史Ⅰ		2	○	○	○			○							
	☐	日本語の歴史Ⅱ		2	○	○	○				○						
☐	日本古典文学の基礎Ⅰ	演	1	○	○	○	○										
☐	日本古典文学の基礎Ⅱ	演	1	○	○	○		○									
	(小計)			30	30												
コ ー ス 選 択 必修 科目	☐	日本文学特講Ⅰ		2										○		プレミアムRE プレミアムRE プレミアムRE コース選択必修科目 (計18単位)	
	☐	日本文学特講Ⅱ		2											○		
	☐	古典語の研究Ⅰ	演	1								○					
	☐	古典語の研究Ⅱ	演	1									○				
	☐	現代語の研究Ⅰ	演	1						○				○			
	☐	現代語の研究Ⅱ	演	1							○						
	☐	日本語学特講Ⅰ		2										○			
	☐	日本語学特講Ⅱ		2											○		
	☐	漢文学の基礎Ⅰ	演	1		○	○	○		●							
	☐	漢文学の基礎Ⅱ	演	1		○	○		○		●						
	☐	日本語表現法Ⅰ	演	1		○	○			○							
	☐	日本語表現法Ⅱ	演	1		○	○				○						
	☐	日本古典文学講読Ⅰ		2							○						
	☐	日本古典文学講読Ⅱ		2								○					
	☐	日本近現代文学講読Ⅰ		2							○		●				
	☐	日本近現代文学講読Ⅱ		2								○		●			
	☐	書写・書道Ⅰ	演	1		○		○									
	☐	書写・書道Ⅱ	演	1		○			○								
	☐	日本語の音声		2		○	○					○					
	☐	編集・ジャーナリズム論		2								○					
☐	文芸創作Ⅰ		2									○					
☐	文芸創作Ⅱ		2										○				
	(小計)			34	18												
コ ー ス 選 択 科目	☐	日本古典文学特講Ⅰ		2								○				プレミアムRE	
	☐	日本古典文学特講Ⅱ		2									○				
	☐	日本近現代文学特講Ⅰ		2									○				
	☐	日本近現代文学特講Ⅱ		2										○			
	☐	比較文学Ⅰ		2						○		●					
	☐	比較文学Ⅱ		2							○		●				
	☐	日本語の方言Ⅰ		2								○					
	☐	日本語の方言Ⅱ		2									○				
	☐	メディア論入門		2				○									
	☐	現代イギリス事情Ⅰ		1								○					
	☐	現代イギリス事情Ⅱ		1								○					
	☐	現代アメリカ事情Ⅰ		1									○				
	☐	現代アメリカ事情Ⅱ		1										○			
	☐	イギリス文学史Ⅰ		2								○					
	☐	イギリス文学史Ⅱ		2									○				
	☐	アメリカ文学史Ⅰ		2									○				
☐	アメリカ文学史Ⅱ		2										○				

区 分	チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	中 一 免 （ 国 語 ）	高 一 免 （ 国 語 ）	履 修 年 次								備 考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ ー ス 選 択 科 目	☐	イギリスの歴史		2						○						(4週～20週／4単位～20単位) (1～12週まで/1単位～12単位) (13週～／13単位～20単位) ※ 語学研修
	☐	アメリカの歴史		2							○					
	☐	日本史概説Ⅰ		2				○								
	☐	日本史概説Ⅱ		2					○							
	☐	日本古代史Ⅰ		2				○								
	☐	日本古代史Ⅱ		2					○							
	☐	日本中世史Ⅰ		2						○						
	☐	日本中世史Ⅱ		2							○					
	☐	日本近世史Ⅰ		2				○								
	☐	日本近世史Ⅱ		2					○							
	☐	日本近現代史Ⅰ		2						○						
	☐	日本近現代史Ⅱ		2							○					
	☐	古文書学Ⅰ		2								○				
	☐	古文書学Ⅱ		2									○			
	☐	書学入門		2				○								
	☐	ホスピタリティ産業論Ⅱ		2							○					
	☐	プレゼンテーションⅠ		2							○					
	☐	プレゼンテーションⅡ		2								○				
	☐	キャリア戦略Ⅲ		2									○			
	☐	キャリア戦略Ⅳ		2										○		
	☐	ベーシックコミュニケーションⅡ		2					○							
	☐	ビジネスコミュニケーションⅠ		2						○						
	☐	ビジネスコミュニケーションⅡ		2							○					
	☐	ビジネスコミュニケーションⅢ		2								○				
	☐	学内フィールドワークⅠ		2				○	○	○	○	○	○			
	☐	学内フィールドワークⅡ		2				○	○	○	○	○	○			
	☐	学内フィールドワークⅢ		2				○	○	○	○	○	○			
	☐	短期インターンシップ		2							○		○			
	☐	長期インターンシップ		20							○	○	○	○		
	☐	短期留学		12							○	○	○	○	○	
	☐	長期留学		20							○	○	○	○	○	
	☐	海外英語特講		2				※		※						
	☐	特別講義Ⅰ キャリア・デザインⅠ		2									○			
	☐	特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2										○		
	☐	特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2								○				
	☐	特別講義Ⅳ 教職実践論Ⅰ		2										○		
	☐	特別講義Ⅴ 教職実践論Ⅱ		2											○	
	☐	特別講義Ⅵ 芸術文化論		2				○								
	☐	特別講義Ⅶ 教職実践論基礎Ⅰ		2								○				
	☐	特別講義Ⅷ 教職実践論基礎Ⅱ		2									○			
☐	特別講義Ⅸ～ⅩⅩ															
☐	日本語教育の概要Ⅰ		2								○					
☐	日本語教育の概要Ⅱ		2									○				
☐	日本語教授法Ⅰ		2								○					
☐	日本語教授法Ⅱ		2									○				
☐	日本語教育教材研究Ⅰ	演	1								○					
☐	日本語教育教材研究Ⅱ	演	1									○				
☐	日本語教育演習Ⅰ	演	1										○			
☐	日本語教育演習Ⅱ	演	1											○		
☐	日本事情Ⅰ		2									○				
☐	日本事情Ⅱ		2										○			
☐	言語学概論Ⅰ		2								○					
☐	言語学概論Ⅱ		2									○				
	(小計)			176	23										コース選択科目（計23単位）	
		合 計		263	94											

【授業の方法】 演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。 ●印は教職課程履修者の推奨履修年次を示す。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 国語〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について
- 教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅳ－13

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	必修科目	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							●印は春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について
- 「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおり履修してください。
- 教科に関する科目
- 日本語・日本文学コースの専門教育科目(B類)に記載の中一免(国語)、高一免(国語)欄に○印のある科目を履修してください。
- 教職に関する科目
- 上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。
- 当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ－14

チェック欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	中 免	高 免	履修年次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	○	●	●							●印は春学期または秋学期に開講
☐	教育基礎論		2	○	○	●	●							
☐	教育心理学		2	△	△			●	●					△はいずれか1科目必修
☐	発達心理学		2	△	△					●	●			
☐	特別支援教育総論		2	○	○			●	●					
☐	教育社会学Ⅰ		2	○	○					●	●			
☐	教育課程論		2	○	○			●	●					
☐	国語科教育法Ⅰ	演	2	○	○			○						
☐	国語科教育法Ⅱ	演	2	○	○				○					
☐	国語科教育法Ⅲ	演	2	○						○				
☐	国語科教育法Ⅳ	演	2	○							○			
☐	道德教育の指導法		2	○	○					●	●			
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○	○					●	●			
☐	特別活動の指導法		2	○	○			●	●					
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○	○			●	●					
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○	○			●	●					
☐	教育相談		2	○	○			●	●					
☐	教職実践演習(中・高)	演	2	○	○								○	
☐	中学校教育実習	実	5	○						●	●			
☐	高等学校教育実習	実	3		○					●	●			
☐	介護体験実習	実	1	○				●	●					
	計		45	40	33									

[注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。

2. 高校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。

3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。

4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について
- 教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。
4. 介護体験について
- 小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特殊教育諸学校において、7日間の介護等体験を行うことが必要です。

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 日本語・日本文学コース カリキュラムマップ

1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
学びの扉を開こう		専門的知識を身につけよう		考える力・創作力を養おう		実践力を養おう	

各学問領域の専門能力を身につける	教員	書写・書道Ⅰ	書写・書道Ⅱ	教育方法・情報通信技術活用論	教育心理学	教育社会学Ⅰ	教職実践演習（中・高）
			日本国憲法	生徒指導（進路指導を含む）	特別支援教育総論	総合的な学習の時間の指導法（中・高）教育実習	
			教職入門	教育相談	教育課程論	道徳教育の指導法	
			教育基礎論		特別活動の指導法		
			情報活用演習（教職）	国語科教育法Ⅰ	国語科教育法Ⅱ	国語科教育法Ⅲ	国語科教育法Ⅳ
				介護体験学習			
	日本語教員				教職実践論基礎Ⅰ	教職実践論基礎Ⅱ	教職実践論Ⅰ
				日本語教育の概要Ⅰ	日本語教育の概要Ⅱ	日本語教育演習Ⅰ	日本語教育演習Ⅱ
				日本語教授法Ⅰ	日本語教授法Ⅱ	日本事情Ⅰ	日本事情Ⅱ
				日本語教育教材研究Ⅰ	日本語教育教材研究Ⅱ		
							教職実践論Ⅱ

日本の言語と文学を理解する	日本文化入門			専門ゼミ入門	専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ	専門ゼミⅣ
	日本文学概説Ⅰ	日本文学概説Ⅱ			文芸創作Ⅰ	文芸創作Ⅱ	卒業研究	卒業研究
	日本近現代文学史Ⅰ	日本近現代文学史Ⅱ	日本近現代文学講読Ⅰ	日本近現代文学講読Ⅱ	日本近現代文学特講Ⅰ	日本近現代文学特講Ⅱ	日本文学特講Ⅰ	日本文学特講Ⅱ
	日本古典文学の基礎Ⅰ	日本古典文学の基礎Ⅱ	日本古典文学史Ⅰ	日本古典文学史Ⅱ				
	漢文学の基礎Ⅰ	漢文学の基礎Ⅱ	日本古典文学講読Ⅰ	日本古典文学講読Ⅱ	日本古典文学特講Ⅰ	日本古典文学特講Ⅱ		
			日本語表現法Ⅰ	日本語表現法Ⅱ				
			比較文学Ⅰ	比較文学Ⅱ				
	日本語概説Ⅰ	日本語概説Ⅱ	日本語の語法Ⅰ	日本語の語法Ⅱ	古典語の研究Ⅰ	古典語の研究Ⅱ	日本語学特講Ⅰ	日本語学特講Ⅱ
			現代語の研究Ⅰ	現代語の研究Ⅱ	日本語の方言Ⅰ	日本語の方言Ⅱ		
			日本語の歴史Ⅰ	日本語の歴史Ⅱ	日本語の音声			

社会人として必要な能力を身につける	基礎	女性キャリア論Ⅰ	女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ	キャリア戦略Ⅳ	
		ベーシックコミュニケーションⅠ	異文化コミュニケーション			キャリア・デザインⅠ	キャリア・デザインⅡ	
			ホスピタリティコミュニケーションⅠ					
	企業就職	メディア論入門	ベーシックコミュニケーションⅡ	プレゼンテーションⅠ	編集・ジャーナリズム論 ホスピタリティ産業論Ⅱ	プレゼンテーションⅡ		
		学内フィールドワークⅠ	学内フィールドワークⅡ		English for Hospitality & TourismⅠ 短期インターンシップ	English for Hospitality & TourismⅡ	English for Hospitality & TourismⅢ	English for Hospitality & TourismⅣ

学びの基礎を身につける	人文科学入門Ⅰ（RE科目）	人文科学入門Ⅱ（RE科目）	国際文化論					
	コンピュータコミュニケーションⅠ		コンピュータコミュニケーションⅡ					
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ
	情報活用演習（基礎） SEITOKU Academic LiteracyⅠ	教養科目 SEITOKU Academic LiteracyⅡ	教養科目 SEITOKU Academic LiteracyⅢ	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目

人間性を高める	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育Ⅱ（FC、学外研修Ⅰ）	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ（海外研修）	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	
	スポーツと健康Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座				

教育目標	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する

各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 日本語・日本文学コース 学びで得られる成果（Learning Outcomes）

		学びの扉を開こう		専門的知識を 身につけよう	考える力・創作力 を身につけよう	実践力を養おう	学位授与の方針に掲げる 学習成果
		1年次	2年次	3年次	4年次		
各学問領域の専門能力を身につける	教員	教員として必要な基礎的知識が身についている	中学・高校の教員として必要な基礎的知識・技能が身についている	中学・高校の国語科教員として必要な知識・技術を身につけ、それを教科の指導に応用できる	実習における課題を振り返り、自己の課題を発見することができる		文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる
	日本語教員		日本語教育に関する基礎的な知識・技能を説明できる	日本語教育の専門的な知識・技能を身につけ、その応用的側面を学び、実践できる			
日本の言語と文学を理解し、その豊かさを味わい実践できる		日本文化の根底を成す日本語学・日本文学の基本的な概念を学び、説明できる	日本語学・日本文学の基礎を踏まえたうえで、その歴史的観点や異文化との比較の観点から、応用的側面を学び、身につける	日本語学・日本文学の学びの成果のうえに立って、対話的アプローチや主体的な調査研究を通して、その精髓に迫る	自己の課題探求の成果を、論文としてまとめ、わかりやすく伝えることができる		
社会人として必要な能力を身につける		社会人として必要な資質を理解し、基礎的な知識・技能が身についている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのために必要な知識・技能について理解している	課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる			グローバル社会を生きるための英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力を身につけ、実践できる
学びの基礎を身につける		大学生として必要な教養を養うための学びの基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身につけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現できる	課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる	現代社会の課題を認識し、社会に働きかけることができる		
人間性を高める		建学の精神である「和」を理解し、「礼節」をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日本女性の模範としての「気品」とは何かを理解できる	身につけた「礼節」を応用し、実践できる。教養をさらに深め、それをさまざまな分野に応用できる	身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に応用できる		伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる
教育目標		1年次 学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	2年次 専門分野の基礎を理解する	3年次 〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	4年次 課題解決のための実践力を 修得する		

各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

文学科 日本語・日本文学コース 教員免許取得履修モデル

中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（国語）を取得する場合

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II 中国語 I 中国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習（教職）	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III 中国語 III 中国語 IV コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	8	6	3
コース必修科目目・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 日本文化入門 日本文学概説 I 日本語概説 I 日本近現代文学史 I 日本古典文学の基礎 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II 日本文学概説 II 日本語概説 II 日本近現代文学史 II 日本古典文学の基礎 II	キャリア戦略 I 国際文化論 日本古典文学史 I 日本語の語法 I 日本語の歴史 I	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 日本古典文学史 II 日本語の語法 II 日本語の歴史 II
科目数	7	7	5	5
コース選択科目必修	書写・書道 I メディア論入門	書写・書道 II	日本古典文学講読 I 日本語表現法 I 漢文学の基礎 I	日本古典文学講読 II 日本語表現法 II 漢文学の基礎 II 教職実践基礎 I
科目数	2	1	3	4
教職科目		教職入門 教育基礎論	教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導（進路指導を含む） 教育相談 国語科教育法 I 介護体験実習	特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法 教育心理学 国語科教育法 II
科目数	0	2	5	5
科目数計	15	18	19	17

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目				
科目数	0	0	0	0
コース必修科目目・	専門ゼミ I	専門ゼミ II	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
コース選択科目必修	日本古典文学特講 I 古典語の研究 I 日本語の音声 比較文学 I 日本近現代文学講読 I キャリア・デザイン I 教職実践基礎 II	日本古典文学特講 II 古典語の研究 II 比較文学 II 日本近現代文学講読 II 教職実践論 I キャリア・デザイン II	日本文学特講 I 日本語学特講 I 教職実践論 II	日本文学特講 II 日本語学特講 II
科目数	7	6	3	2
教職科目	道徳活動の指導法 国語科教育法 III	教育社会学 I 国語科教育法 IV 総合的な学習の時間の指導法 （中・高）教育実習		教職実践演習（中・高）
科目数	2	4	0	1
科目数計	10	11	5	5

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II スポーツと健康 II	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	5	4	3
コース必修科目・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 日本文化入門 日本文学概説 I 日本語概説 I 日本近現代文学史 I 日本古典文学の基礎 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II 日本文学概説 II 日本語概説 II 日本近現代文学史 II 日本古典文学の基礎 II	キャリア戦略 I 国際文化論 日本古典文学史 I 日本語の語法 I 日本語の歴史 I	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 日本古典文学史 II 日本語の語法 II 日本語の歴史 II
科目数	7	7	5	5
選択科目・選択必修	メディア論入門 学内フィールドワーク I	ベーシックコミュニケーション II 学内フィールドワーク II	日本近現代文学講読 I 比較文学 I 現代語の研究 I 日本語表現法 I 日本古典文学講読 I プレゼンテーション I	日本近現代文学講読 II 比較文学 II 現代語の研究 II 日本語表現法 II 日本古典文学講読 II 編集・ジャーナリズム論 ホスピタリティ産業論 II
科目数	2	2	6	7
科目数計	15	14	15	15

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
コース必修科目・	専門ゼミ I	専門ゼミ II	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
選択科目・選択必修	日本近現代文学特講 I 文芸創作 I キャリア戦略 III プレゼンテーション II 短期インターンシップ キャリア・デザイン I	日本近現代文学特講 II 文芸創作 II キャリア戦略 IV キャリア・デザイン II	日本文学特講 I 日本語学特講 I	日本文学特講 II 日本語学特講 II
科目数	6	4	2	2
科目数計	8	6	5	5

文学科 歴史文化コース 専門教育科目 履修要項

①卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上です。

②歴史文化コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B 類）			
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
51	16	27	94

③歴史文化コースの専門教育科目（B 類）については、別表Ⅳ－15 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 51 単位と選択必修科目 16 単位、そして別表Ⅳ－15 の選択科目及び別表Ⅳ－9、Ⅳ－12、Ⅳ－20、Ⅳ－23、Ⅳ－24 から 27 単位以上を履修してください（同一科目を重複して履修することはできません）。

④中学校教諭一種免許状（社会）を取得しようとする者は、①に加えて、中一免（社会）欄に○印の付いている科目を全部と、△印の付いている科目のうち 6 単位を選択履修してください。併せて別表Ⅳ－16、17 に記載の通り履修してください。

⑤高等学校教諭一種免許状（地理歴史）を取得しようとする者は、①に加えて、高一免（地歴）欄に○印の付いている科目を全部と、△印の付いている科目のうち 4 単位を選択履修してください。併せて別表Ⅳ－18、19 に記載の通り履修してください。

⑥図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表Ⅷ－1～5（P.238～P.242）により、履修してください（一部、卒業要件に算入できない科目があります）。

⑦単位を修得（成績表に S・A・B・C・N と表記）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。

◎介護等の体験

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に関する法律に基づき、特別支援学校または社会福祉施設等において、7 日間の介護等の体験を行うことが必要です。

区分	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業 必修	中一免 (社会)	高一免 (地歴)	履 修 年 次								備考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学科必修科目	☐	人文科学入門Ⅰ (RE科目)		2	○			○								学科必修科目 (計23単位)
	☐	人文科学入門Ⅱ (RE科目)		2	○				○							
	☐	ホスピタリティコミュニケーションⅠ		2	○				○							
	☐	女性キャリア論Ⅰ		2	○			○								
	☐	女性キャリア論Ⅱ		2	○				○							
	☐	キャリア戦略Ⅰ		2	○					○						
	☐	キャリア戦略Ⅱ		2	○						○					
	☐	専門ゼミ入門 (2年次秋)	演	1	○						○					
	☐	専門ゼミⅠ (3年次ゼミⅠ)	演	1	○							○				
	☐	専門ゼミⅡ (3年次ゼミⅡ)	演	1	○								○			
	☐	専門ゼミⅢ (4年次ゼミⅠ)	演	1	○									○		
	☐	専門ゼミⅣ (4年次ゼミⅡ)	演	1	○										○	
	☐	卒業研究		4	○										○	
	(小計)		23	23												
コース必修科目	☐	国際文化論		2	○					○						コース必修科目 (計28単位)
	☐	歴史文化入門Ⅰ		2	○			○								
	☐	歴史文化入門Ⅱ		2	○				○							
	☐	日本史概説Ⅰ		2	○	○	○	○								
	☐	日本史概説Ⅱ		2	○	○	○		○							
	☐	日本古代史Ⅰ		2	○	△	○	○								
	☐	日本中世史Ⅰ		2	○	△	○			○						
	☐	日本近世史Ⅰ		2	○	△	○	○								
	☐	日本近現代史Ⅰ		2	○	△	○			○						
	☐	日本考古学Ⅰ		2	○		○			○						
	☐	民俗文化論Ⅰ		2	○					○						
	☐	日本美術史Ⅰ		2	○		○			○						
	☐	西洋史概説		2	○	○	○			○		●				
☐	東洋史概説		2	○	○	○				○		●				
	(小計)		28	28												
コース選択必修科目	☐	日本古代史Ⅱ		2		△	△		○							コース選択必修科目 (計16単位)
	☐	日本中世史Ⅱ		2		△	△				○					
	☐	日本近世史Ⅱ		2		△	△		○							
	☐	日本近現代史Ⅱ		2		△	△				○					
	☐	日本考古学Ⅱ		2			△				○					
	☐	民俗文化論Ⅱ		2							○					
	☐	日本美術史Ⅱ		2			△				○					
	☐	古文書学Ⅰ		2								○				
	☐	古文書学Ⅱ		2									○			
	☐	日本史特講Ⅰ		2								○				
	☐	日本史特講Ⅱ		2									○			
	☐	日本考古学特講		2									○			
	☐	民俗学特講		2									○			
	☐	芸術学特講		2								○				
	☐	地理学Ⅰ		2		○	○			○		●				
	☐	地理学Ⅱ		2		○	○				○		●			
	☐	地誌学		2		○	○					○				
コース選択科目	☐	社会学入門Ⅰ		2		○		○								コース選択科目 (計16単位)
	☐	宗教学入門		2		○		○								
	☐	倫理学入門		2		○				○		●				
	☐	政治学入門		2		○				○		●				
	☐	経済学入門		2		○					○		●			
		(小計)		44	16											
	☐	日本文化入門		2				○								
	☐	文化財研究Ⅰ		2									○			
	☐	文化財研究Ⅱ		2											○	
	☐	現代イギリス事情Ⅰ		1								○				
	☐	現代イギリス事情Ⅱ		1								○				
	☐	現代アメリカ事情Ⅰ		1									○			
	☐	現代アメリカ事情Ⅱ		1									○			
	☐	イギリスの歴史		2						○						
	☐	アメリカの歴史		2							○					
	☐	日本文学概説Ⅰ		2				○								
	☐	日本文学概説Ⅱ		2					○							
☐	日本語概説Ⅰ		2				○									
☐	日本語概説Ⅱ		2					○								
☐	日本古典文学の基礎Ⅰ	演	1				○									
☐	日本古典文学の基礎Ⅱ	演	1					○								
☐	漢文学の基礎Ⅰ	演	1				○									
☐	漢文学の基礎Ⅱ	演	1					○								

区分	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	中一免(社会)	高一免(地歴)	履 修 年 次								備考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コース選択科目	☐	日本古典文学史Ⅰ		2						○						
	☐	日本古典文学史Ⅱ		2							○					
	☐	日本近現代文学史Ⅰ		2				○								
	☐	日本近現代文学史Ⅱ		2					○							
	☐	日本語の歴史Ⅰ		2						○						
	☐	日本語の歴史Ⅱ		2							○					
	☐	書学入門		2				○								
	☐	日本書道史概説		2							○					
	☐	図書館概論		2				○								
	☐	図書館情報資源概論		2				○								
	☐	メディア論入門		2				○								
	☐	生涯学習概論		2				○								
	☐	博物館概論		2						○						
	☐	博物館経営論		2							○					
	☐	博物館資料論		2							○					
	☐	博物館資料保存論		2								○				
	☐	博物館展示論		2									○			
	☐	博物館情報・メディア論		2								○				
	☐	博物館教育論		2									○			
	☐	博物館実習	実	3								○	○			
	☐	キャリア戦略Ⅲ		2								○				
	☐	キャリア戦略Ⅳ		2									○			
	☐	ベーシックコミュニケーションⅡ		2						○						
	☐	プレゼンテーションⅠ		2							○					
	☐	プレゼンテーションⅡ		2								○				
	☐	ビジネスコミュニケーションⅠ		2							○					
	☐	ビジネスコミュニケーションⅡ		2								○				
	☐	ビジネスコミュニケーションⅢ		2									○			
	☐	English for Hospitality & TourismⅠ		2								○				
	☐	English for Hospitality & TourismⅡ		2									○			
	☐	English for Hospitality & TourismⅢ		2										○		
	☐	English for Hospitality & TourismⅣ		2											○	
	☐	Global CommunicationⅠ		2					○							
	☐	Global CommunicationⅡ		2						○						
	☐	Global CommunicationⅢ		2							○					
	☐	Global CommunicationⅣ		2								○				
	☐	学内フィールドワークⅠ		2					○	○	○	○	○	○		
	☐	学内フィールドワークⅡ		2					○	○	○	○	○	○		
	☐	学内フィールドワークⅢ		2					○	○	○	○	○	○		
	☐	短期インターンシップ		2							○		○			
☐	長期インターンシップ		20							○	○	○	○		(4週～20週／4単位～20単位)	
☐	短期留学		12							○	○	○	○	○	(1～12週まで/1単位～12単位)	
☐	長期留学		20							○	○	○	○	○	(13週～/13単位～20単位)	
☐	海外英語特講		2					※		※					※ 語学研修	
☐	特別講義Ⅰ キャリア・デザインⅠ		2									○				
☐	特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2										○			
☐	特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2								○					
☐	特別講義Ⅳ 教職実践論Ⅰ		2										○			
☐	特別講義Ⅴ 教職実践論Ⅱ		2											○		
☐	特別講義Ⅵ 芸術文化論		2					○								
☐	特別講義Ⅶ 教職実践論基礎Ⅰ		2								○					
☐	特別講義Ⅷ 教職実践論基礎Ⅱ		2									○				
☐	特別講義Ⅸ～ⅩⅩ															
	(小計)		177	27												
	合 計		272	94												
各2単位 コース選択科目 (計27単位)																

【授業の方法】 演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。●印は教職課程履修者の推奨履修年次を示す。

※1 中一免(社会)取得希望者は中一免(社会)欄の△の科目のうち6単位を選択履修すること。

※2 高一免(地理歴史)取得希望者は高一免(地歴)欄の△の科目のうち4単位を選択履修すること。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状 社会〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅳ—16

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	履修科目が 必要科目	履修年次								備考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	日本国憲法		2	○	●	●								●印は春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○									
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○								
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○									
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○								
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○									
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○								

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○教科に関する科目

歴史文化コースの専門教育科目(B類)に記載の中一免(社会)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ—17

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	中 免	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	●	●							●印は春学期または秋学期に開講 △はいずれか1科目必修
☐	教育基礎論		2	○	●	●							
☐	教育心理学		2	△			●	●					
☐	発達心理学		2	△					●	●			
☐	特別支援教育総論		2	○			●	●					
☐	教育社会学Ⅰ		2	○					●	●			
☐	教育課程論		2	○			●	●					
☐	社会科・地歴科教育法Ⅰ	演	2	○			○						
☐	社会科・地歴科教育法Ⅱ	演	2	○				○					
☐	社会科・公民科教育法Ⅰ	演	2	○					○				
☐	社会科・公民科教育法Ⅱ	演	2	○						○			
☐	道德教育の指導法		2	○					●	●			
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○					●	●			
☐	特別活動の指導法		2	○			●	●					
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○			●	●					
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○			●	●					
☐	教育相談		2	○			●	●					
☐	教職実践演習(中・高)	演	2	○								○	
☐	中学校教育実習	実	5	○					●	●			
☐	介護体験実習	実	1	○			●	●					
	計		42	40									

[注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
2. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
3. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特殊教育諸学校において、7日間の介護等体験を行うことが必要です。

教職課程履修について〔高等学校教諭一種免許状 地歴〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅳ—18

チ エ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	要 履 修 が 目 必	履修年次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							●印は春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○教科に関する科目

歴史文化コースの専門教育科目(B類)に記載の高一免(地歴)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ—19

チ エ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	高 免	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	●	●							●印は春学期または秋学期に開講 △はいずれか1科目必修
☐	教育基礎論		2	○	●	●							
☐	教育心理学		2	△			●	●					
☐	発達心理学		2	△					●	●			
☐	特別支援教育総論		2	○			●	●					
☐	教育社会学Ⅰ		2	○					●	●			
☐	教育課程論		2	○			●	●					
☐	社会科・地歴科教育法Ⅰ	演	2	○			○						
☐	社会科・地歴科教育法Ⅱ	演	2	○				○					
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○					●	●			
☐	特別活動の指導法		2	○			●	●					
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○			●	●					
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○			●	●					
☐	教育相談		2	○			●	●					
☐	教職実践演習(中・高)	演	2	○								○	
☐	高等学校教育実習	実	3	○					●	●			
	計		33	31									

[注] 1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。

2. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。

4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 歴史文化コース カリキュラムマップ

1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
学びの扉を開こう		専門的知識を身につけよう		考える力・創作力を養おう		実践力を養おう	

各学問領域の 専門能力を 身につける	教員	日本国憲法	教育方法・情報通信技術活用	教育心理学	道徳教育の指導法	教育社会学Ⅰ	教職実践演習（中・高）
		教職入門	生徒指導（進路指導を含む）	特別支援教育総論		総合的な学習の時間の指導法	
		教育基礎論	教育相談	教育課程論			
		情報活用演習（教職）		特別活動の指導法			
			社会科・地歴科教育法Ⅰ	社会科・地歴科教育法Ⅱ	社会科・公民科教育法Ⅰ	社会科・公民科教育法Ⅱ （中・高）教育実習	
			介護体験実習				
学芸員				教職実践論基礎Ⅰ	教職実践論基礎Ⅱ	教職実践論Ⅰ	教職実践論Ⅱ
		生涯学習概論	博物館概論	博物館経営論	博物館資料保存論	博物館展示論	
			博物館資料論	博物館情報・メディア論	博物館教育論		
				博物館実習			

日本の歴史と 文化を理解する	歴史文化入門Ⅰ	歴史文化入門Ⅱ		専門ゼミ入門	専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ	専門ゼミⅣ
	日本史概説Ⅰ	日本史概説Ⅱ	日本中世史Ⅰ	日本中世史Ⅱ	文化財研究Ⅰ	文化財研究Ⅰ	文化財研究Ⅱ	文化財研究Ⅱ
	日本古代史Ⅰ	日本古代史Ⅱ	日本近現代史Ⅰ	日本近現代史Ⅱ	古文書学Ⅰ	古文書学Ⅱ	卒業研究	卒業研究
	日本近世史Ⅰ	日本近世史Ⅱ	日本考古学Ⅰ	日本考古学Ⅱ	日本史特講Ⅰ	日本史特講Ⅱ		
			民俗文化論Ⅰ	民俗文化論Ⅱ	芸術学特講	日本考古学特講		
			日本美術史Ⅰ	日本美術史Ⅱ		民俗学特講		
			西洋史概説	東洋史概説				
			地理学Ⅰ	地理学Ⅱ	地誌学			
	社会学入門Ⅰ		倫理学入門					
	宗教学入門		政治学入門	経済学入門				

社会人として 必要な 能力を身につける	基礎	女性キャリア論Ⅰ	女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ	キャリア戦略Ⅳ		
		ベーシック コミュニケーションⅠ	異文化 コミュニケーション			キャリア・デザインⅠ	キャリア・デザインⅡ		
			ホスピタリティ コミュニケーションⅠ						
	企業 就職	メディア論入門	ベーシック コミュニケーションⅡ	プレゼンテーションⅠ		プレゼンテーションⅡ			
		学内フィールドワークⅠ	学内フィールドワークⅡ			English for Hospitality & TourismⅠ 短期インターンシップ	English for Hospitality & TourismⅡ	English for Hospitality & TourismⅢ	English for Hospitality & TourismⅣ

学びの基礎を 身につける	人文科学入門Ⅰ （RE科目）	人文科学入門Ⅱ （RE科目）	国際文化論					
	コンピュータ コミュニケーションⅠ		コンピュータ コミュニケーションⅡ					
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
		外国語	外国語					
	情報活用演習（基礎）	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目

人間性を高める	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育Ⅱ（FC、学外研修Ⅰ）	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ（海外研修）	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	
	スポーツと健康Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座				

教育目標	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する



各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 歴史文化コース 学びで得られる成果（Learning Outcomes）

		学びの扉を開こう 専門的知識を身につけよう 考える力・創造力を身につけよう 実践力を養おう				学位授与の方針に掲げる学習成果
		1年次	2年次	3年次	4年次	
各学問領域の専門能力を身につける	教員	教員として必要な基礎的知識が身についている	中学・高校の教員として必要な基礎的知識・技能が身についている	中学・高校の社会科教員として必要な知識・技術を身につけ、それを実習の場で活用することができる	実習における課題を振り返り、自己の課題を発見することができる	文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる
	学芸員		博物館・美術館に関する基礎的な知識・技能が身についている	専門的な知識・技能を身につけ、博物館・美術館における実習で活用することができる		
日本の歴史と文化を理解する		日本史学・考古学・民俗学・美術史学の基礎的な知識・技能が身についている	日本史学・考古学・民俗学・美術史学の専門的知識を身につけ、自己の問題意識を発展させることができる	調査・研究の技能を身につけ、資料を読解し、自己の課題を深く探求することができる	自己の課題探求の成果を、論文としてまとめ、わかりやすく伝えることができる	各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる
社会人として必要な能力を身につける		社会人として必要な資質を理解し、基礎的な知識・技能が身についている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのために必要な知識・技能について理解している	課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる		
学びの基礎を身につける		大学生として必要な教養を養うための学びの基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身につけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現できる			
人間性を高める		建学の精神である「和」を理解し、「礼節」をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日本女性の模範としての「気品」とは何かを理解できる	身につけた「礼節」を応用し、実践できる。教養をさらに深め、それをさまざまな分野に應用できる	身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に應用できる	
教育目標		1年次 学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	2年次 専門分野の基礎を理解する	3年次 〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	4年次 課題解決のための実践力を 修得する	

文学科 歴史文化コース 免許・資格取得履修モデル

中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地歴）を取得する場合

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II 中国語 I 中国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習（教職）	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III 中国語 III 中国語 IV コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	8	6	3
学科必修・選択必修科目	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 歴史文化入門 I 日本史概説 I 日本古代史 I 日本近世史 I 社会学入門 I 宗教学入門	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II 歴史文化入門 II 日本史概説 II 日本古代史 II 日本近世史 II	キャリア戦略 I 国際文化論 日本中世史 I 日本近現代史 I 日本考古学 I 日本美術史 I 民俗文化論 I	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 日本考古学 II 日本美術史 II 民俗文化論 II
科目数	8	7	7	5
選択科目				教職実践論基礎 I
科目数	0	0	0	1
教職科目		教職入門 教育基礎論	生徒指導（進路指導を含む） 教育相談 教育方法・情報通信技術活用論 社会科・地歴科教育法 I 介護体験実習	教育心理学 特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法 社会科・地歴科教育法 II
科目数	0	2	5	5
科目数計	14	17	18	14

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目				
科目数	0	0	0	0
学科必修・選択必修科目	専門ゼミ I 古文書学 I 西洋史概説 地理学 I 地誌学 倫理学入門 政治学入門	専門ゼミ II 古文書学 II 東洋史概説 地理学 II 経済学入門	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	7	5	2	2
選択科目	キャリア・デザイン I 教職実践論基礎 II	キャリア・デザイン II 教職実践論 I	文化財研究 II（通年） 教職実践論 II	文化財研究 II（通年）
科目数	2	2	2	1
教職科目	社会科・公民科教育法 I 道徳活動の指導法	社会科・公民科教育法 II 教育社会学 I 総合的な学習の時間の指導法 （中・高）教育実習		教職実践演習（中・高）
科目数	2	4	0	1
科目数計	11	11	4	4

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II スポーツと健康 II	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	5	4	3
学科必修・選択必修科目	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 歴史文化入門 I 日本史概説 I 日本古代史 I 日本近世史 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II 歴史文化入門 II 日本史概説 II	キャリア戦略 I 国際文化論 日本中世史 I 日本近現代史 I 日本考古学 I 日本美術史 I 民俗文化論 I	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 日本中世史 II 日本近現代史 II 日本考古学 II 日本美術史 II 民俗文化論 II
科目数	6	5	7	7
選択科目	学内フィールドワーク I メディア論入門 図書館情報資源概論	学内フィールドワーク II ベーシックコミュニケーション II	プレゼンテーション I	
科目数	3	2	1	0
科目数計	15	12	12	10

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
学科必修・選択必修科目	専門ゼミ I 日本史特講 I 芸術学特講 西洋史概説 政治学入門	専門ゼミ II 日本考古学特講 民俗学特講 東洋史概説 経済学入門	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	5	5	2	2
選択科目	キャリア戦略 III プレゼンテーション II 短期インターンシップ English for Hospitality & Tourism I キャリア・デザイン I	キャリア戦略 IV English for Hospitality & Tourism II キャリア・デザイン II	English for Hospitality & Tourism III	English for Hospitality & Tourism IV
科目数	5	3	1	1
科目数計	11	9	4	4

文学科 書道文化コース 専門教育科目 履修要項

①卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上です。

②書道文化コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B 類）			
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
49	8	37	94

③書道文化コースの専門教育科目（B 類）については、別表Ⅳ－20 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 49 単位と選択必修科目 8 単位、そしてⅣ－20 の選択科目及び別表Ⅳ－9、Ⅳ－12、Ⅳ－15、Ⅳ－23、Ⅳ－24 から 37 単位以上を履修してください（同一科目を重複して履修することはありません）。

④高等学校教諭一種免許状（書道）を取得しようとする者は、①に加えて、高一免（書道）欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅳ－21、22 に記載の通り履修してください。

⑤図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表Ⅷ－1～5（P.238～P.242）により、履修してください（一部、卒業要件に算入できない科目があります）。

⑥単位を修得（成績表に S・A・B・C・N と表記）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。

文学科 書道文化コース 専門教育科目 (B類)

別表Ⅳ—20

区分	チェック欄	授業科目	授業の方法	単 位	卒業 必修 修	高一免 (書道)	履修年次								備考
							1		2		3		4		
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学科必修科目	☐	人文科学入門Ⅰ (RE科目)		2	○		○								学科必修科目 (計23単位)
	☐	人文科学入門Ⅱ (RE科目)		2	○			○							
	☐	ホスピタリティコミュニケーションⅠ		2	○			○							
	☐	女性キャリア論Ⅰ		2	○		○								
	☐	女性キャリア論Ⅱ		2	○			○							
	☐	キャリア戦略Ⅰ		2	○			○							
	☐	キャリア戦略Ⅱ		2	○				○						
	☐	専門ゼミ入門 (2年次秋)	演	1	○				○						
	☐	専門ゼミⅠ (3年次ゼミⅠ)	演	1	○					○					
	☐	専門ゼミⅡ (3年次ゼミⅡ)	演	1	○						○				
	☐	専門ゼミⅢ (4年次ゼミⅠ)	演	1	○							○			
	☐	専門ゼミⅣ (4年次ゼミⅡ)	演	1	○								○		
	☐	卒業研究		4	○									○	
		(小計)		23	23										
コース必修科目	☐	国際文化論		2	○				○						コース必修科目 (計26単位)
	☐	書学入門		2	○	○	○								
	☐	日本書道史概説		2	○	○				○					
	☐	楷書の技法 (A) Ⅰ	演	1	○	○	○								
	☐	楷書の技法 (A) Ⅱ	演	1	○	○		○							
	☐	楷書の技法 (B) Ⅰ	演	1	○	○			○						
	☐	楷書の技法 (B) Ⅱ	演	1	○	○				○					
	☐	行書の技法Ⅰ	演	1	○	○			○						
	☐	行書の技法Ⅱ	演	1	○	○				○					
	☐	草書の技法Ⅰ	演	1	○	○					○				
	☐	草書の技法Ⅱ	演	1	○	○						○			
	☐	隷書の技法	演	1	○	○			○						
	☐	篆書の技法	演	1	○	○				○					
	☐	かなの技法Ⅰ	演	1	○	○			○						
	☐	かなの技法Ⅱ	演	1	○	○				○					
	☐	篆刻の技法Ⅰ	演	1	○						○				
	☐	篆刻の技法Ⅱ	演	1	○							○			
	☐	中国書道史概説		2	○	○			○						
	☐	書論・鑑賞		2	○	○						○			
	☐	漢文学の基礎Ⅰ	演	1	○	○	○								
☐	漢文学の基礎Ⅱ	演	1	○	○		○								
	(小計)		26	26											
コース選択必修	☐	漢字作品制作法Ⅰ		2							○				コース選択必修科目 (計8単位)
	☐	漢字作品制作法Ⅱ		2								○			
	☐	かな作品制作法Ⅰ		2							○				
	☐	かな作品制作法Ⅱ		2								○			
	☐	古文書学Ⅰ		2							○				
	☐	古文書学Ⅱ		2								○			
	☐	漢字かな交じり書法	演	1									○		
	☐	実用書道	演	1										○	
		(小計)		14	8										
コース選択科目	☐	日本文化入門		2			○								
	☐	現代イギリス事情Ⅰ		1							○				
	☐	現代イギリス事情Ⅱ		1							○				
	☐	現代アメリカ事情Ⅰ		1								○			
	☐	現代アメリカ事情Ⅱ		1								○			
	☐	イギリスの歴史		2					○						
	☐	アメリカの歴史		2						○					
	☐	日本文学概説Ⅰ		2			○								
	☐	日本文学概説Ⅱ		2				○							
	☐	日本語概説Ⅰ		2			○								
	☐	日本語概説Ⅱ		2				○							
	☐	日本古典文学史Ⅰ		2		○			○		●				
	☐	日本古典文学史Ⅱ		2		○				○		●			
	☐	日本近現代文学史Ⅰ		2		○	○				●				
	☐	日本近現代文学史Ⅱ		2		○		○				●			
	☐	日本語の語法Ⅰ		2					○						
	☐	日本語の語法Ⅱ		2						○					
☐	日本語の歴史Ⅰ		2						○			●			
☐	日本語の歴史Ⅱ		2							○			●		

区分	チェック欄	授業科目	授業の方法	単 位	卒業必修	高一免 (書道)	履修年次								備考
							1		2		3		4		
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コース 選択 科目	☐	日本古典文学の基礎Ⅰ	演	1			○				●				(4週～20週／4単位～20単位) (1～12週まで/1単位～12単位) (13週～/13単位～20単位) ※ 語学研修
	☐	日本古典文学の基礎Ⅱ	演	1				○				●			
	☐	日本語表現法Ⅰ	演	1					○						
	☐	日本語表現法Ⅱ	演	1						○					
	☐	日本古典文学講読Ⅰ		2					○						
	☐	日本古典文学講読Ⅱ		2						○					
	☐	書写・書道Ⅰ	演	1		○	○								
	☐	書写・書道Ⅱ	演	1		○		○							
	☐	日本語の音声		2							○				
	☐	漢文講読Ⅰ		2					○		●				
	☐	漢文講読Ⅱ		2						○		●			
	☐	日本史概説Ⅰ		2			○								
	☐	日本史概説Ⅱ		2				○							
	☐	日本古代史Ⅰ		2			○								
	☐	日本古代史Ⅱ		2				○							
	☐	日本中世史Ⅰ		2					○						
	☐	日本中世史Ⅱ		2						○					
	☐	日本近世史Ⅰ		2			○								
	☐	日本近世史Ⅱ		2				○							
	☐	日本近現代史Ⅰ		2					○						
	☐	日本近現代史Ⅱ		2						○					
	☐	東洋史概説		2						○		●			
	☐	図書館概論		2			○								
	☐	図書館情報資源概論		2			○								
	☐	日本語教育の概要Ⅰ		2					○						
	☐	日本語教育の概要Ⅱ		2						○					
	☐	日本語教授法Ⅰ		2					○						
	☐	日本語教授法Ⅱ		2						○					
	☐	日本語教育教材研究Ⅰ	演	1						○					
	☐	日本語教育教材研究Ⅱ	演	1							○				
	☐	日本語教育演習Ⅰ	演	1								○			
	☐	日本語教育演習Ⅱ	演	1									○		
	☐	日本事情Ⅰ		2							○				
	☐	日本事情Ⅱ		2								○			
	☐	言語学概論Ⅰ		2					○						
	☐	言語学概論Ⅱ		2						○					
	☐	キャリア戦略Ⅲ		2							○				
	☐	キャリア戦略Ⅳ		2								○			
	☐	ベーシックコミュニケーションⅡ		2					○						
	☐	プレゼンテーションⅠ		2						○					
	☐	プレゼンテーションⅡ		2							○				
	☐	ビジネスコミュニケーションⅠ		2						○					
	☐	ビジネスコミュニケーションⅡ		2							○				
	☐	ビジネスコミュニケーションⅢ		2								○			
	☐	学内フィールドワークⅠ		2			○	○	○	○	○	○			
☐	学内フィールドワークⅡ		2			○	○	○	○	○	○				
☐	学内フィールドワークⅢ		2			○	○	○	○	○	○				
☐	短期インターンシップ		2						○		○				
☐	長期インターンシップ		20						○	○	○	○			
☐	短期留学		12						○	○	○	○	○		
☐	長期留学		20						○	○	○	○	○		
☐	海外英語特講		2			※		※							
☐	特別講義Ⅰ キャリア・デザインⅠ		2								○				
☐	特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2									○			
☐	特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2							○					
☐	特別講義Ⅳ 教職実践論Ⅰ		2									○			
☐	特別講義Ⅴ 教職実践論Ⅱ		2										○		
☐	特別講義Ⅵ 芸術文化論		2				○								
☐	特別講義Ⅶ 教職実践論基礎Ⅰ		2						○						
☐	特別講義Ⅷ 教職実践論基礎Ⅱ		2							○					
☐	特別講義Ⅸ～ⅩⅩ														
		(小計)		190	37									コース選択科目 (計37単位)	
		合 計		253	94										

【授業の方法】 演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。 ●印は教職課程履修者の推奨履修年次を示す。

教職課程履修について〔高等学校教諭一種免許状 書道〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件と、教育職員免許状取得のための要件を満たしますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅳ—21

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	要履修科目が必	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							●印は春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の区別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○教科に関する科目

書道文化コースの専門教育科目(B類)に記載の高一免(書道)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

当該教職に関する科目の単位は、専門教育科目(B類)の選択科目の単位に計上することができます。

別表Ⅳ—22

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	高 免	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	●	●							●印は春学期または秋学期に開講
☐	教育基礎論		2	○	●	●							
☐	教育心理学		2	△			●	●					△はいずれか1科目必修
☐	発達心理学		2	△					●	●			
☐	特別支援教育総論		2	○			●	●					
☐	教育社会学Ⅰ		2	○					●	●			
☐	教育課程論		2	○			●	●					
☐	書道科教育法Ⅰ	演	2	○					○				
☐	書道科教育法Ⅱ	演	2	○						○			
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○					●	●			
☐	特別活動の指導法		2	○			●	●					
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○			●	●					
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○			●	●					
☐	教育相談		2	○			●	●					
☐	教職実践演習(中・高)	演	2	○								○	
☐	高等学校教育実習	実	3	○					●	●			
	計		33	31									

[注] 1. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。

2. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。

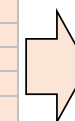
4. 履修年次欄に●印を付された通り履修すること。春学期または秋学期に開講する。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 書道文化コース カリキュラムマップ

		1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
		学びの扉を開こう		専門的知識を身につけよう		考える力・創作力を養おう		実践力を養おう	
各学問領域の専門能力を身につける	教員	書写・書道Ⅰ	日本国憲法 書写・書道Ⅱ	教育方法・情報通信技術活用論 生徒指導（進路指導を含む）	教育心理学 特別支援教育総論 教育課程論		教育社会学Ⅰ 総合的な学習の時間の指導法		教職実践演習（中・高）
			教職入門	教育相談	特別活動の指導法	書道科教育法Ⅰ	書道科教育法Ⅱ （高校）教育実習		
			教育基礎論						
			情報活用演習（教職）		教職実践論基礎Ⅰ	教職実践論基礎Ⅱ	教職実践論Ⅰ	教職実践論Ⅱ	
理論と技法を学ぶ	書学				専門ゼミ入門	専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ 卒業制作	専門ゼミⅣ 卒業制作
		書学入門		中国書道史概説	日本書道史概説		書論・鑑賞		
		日本文学概説Ⅰ	日本文学概説Ⅱ			日本古典文学史Ⅰ	日本古典文学史Ⅱ	日本語の歴史Ⅰ	日本語の歴史Ⅱ
		日本古典文学の基礎Ⅰ	日本古典文学の基礎Ⅱ			日本近現代文学史Ⅰ	日本近現代文学史Ⅱ		
		漢文学の基礎Ⅰ	漢文学の基礎Ⅱ		東洋史概説	漢文講読Ⅰ	漢文講読Ⅱ		
		日本語概説Ⅰ	日本語概説Ⅱ			古文書学Ⅰ	古文書学Ⅱ		
	技法	楷書の技法（A）Ⅰ	楷書の技法（A）Ⅱ	楷書の技法（B）Ⅰ	楷書の技法（B）Ⅱ	漢字作品制法Ⅰ	漢字作品制法Ⅱ	漢字かな交じり書法	実用書道
				行書の技法Ⅰ	行書の技法Ⅱ	草書の技法Ⅰ	草書の技法Ⅱ		
				隷書の技法	篆書の技法				
				かなの技法Ⅰ	かなの技法Ⅱ	かな作品制法Ⅰ	かな作品制法Ⅱ		
						篆刻の技法Ⅰ	篆刻の技法Ⅱ		
社会人として必要な能力を身につける	基礎	女性キャリア論Ⅰ ベーシックコミュニケーションⅠ	女性キャリア論Ⅱ 異文化コミュニケーション	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ キャリア・デザインⅠ	キャリア戦略Ⅳ キャリア・デザインⅡ		
			ホスピタリティコミュニケーションⅠ						
	企業就職	メディア論入門	ベーシックコミュニケーションⅡ	プレゼンテーションⅠ		プレゼンテーションⅡ			
		学内フィールドワークⅠ	学内フィールドワークⅡ			English for Hospitality & TourismⅠ 短期インターンシップ	English for Hospitality & TourismⅡ	English for Hospitality & TourismⅢ	English for Hospitality & TourismⅣ
学びの基礎を身につける		人文科学入門Ⅰ（RE科目）	人文科学入門Ⅱ（RE科目）	国際文化論					
		コンピュータコミュニケーションⅠ		コンピュータコミュニケーションⅡ					
		英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
			外国語	外国語					
		情報活用演習（基礎）	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
人間性を高める		SEITOKU Academic LiteracyⅠ	SEITOKU Academic LiteracyⅡ	SEITOKU Academic LiteracyⅢ					
		聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ（FC、学外研修Ⅰ）	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ（海外研修）	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅰ 聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
		スポーツと健康Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座					
教育目標		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
		学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確率する		専門分野の基礎を理解する		〈調べる・考える・創作する〉ための 技能を修得する		課題解決のための実践力を 修得する	



各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 書道文化コース 学びで得られる成果 (Learning Outcomes)

	学びの扉を開こう 専門的知識を身につけよう 考える力・創作力を養おう 実践力を養おう				学位授与の方針に掲げる学習成果
	1年次	2年次	3年次	4年次	
各学問領域の専門能力を身につける	教員として必要な基礎的知識が身についている	高校の教員として必要な基礎的知識・技術が身についている	高校の国語教員として必要な知識・技術を身につけて、それを教科の指導に応用できる	実習における課題を振り返り、自己の課題を発見することができる	
理論と技法を学ぶ	書道の基礎知識及び題材に使用する漢文の基礎知識を理解し習得する	書道史を理解し、古典文学や漢文と書道との関わりを理解することができる	書学と技法を身につけ、多角的な視点で作品を鑑賞・解説できる	書学と技法を身につけ、作品制作に結びつけることができる	文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる
	楷書の技法を理解できる	楷・行・隸・篆の四書体及びかなの特徴と技法を理解し、書くことができる	楷・行・草・隸・篆・かなに加え、篆刻の特徴と技法をも理解し、漢字・かな・篆刻の作品制作法を身につけることができる	書作品及び実用書道の書法を理解し、日常に応用できるようになる	
社会人として必要な能力を身につける	社会人として必要な教養とコミュニケーション能力が身につく	社会人として必要な教養と国際性を身につけ、その成果を発信できる	社会人として必要な論理的思考力を身につけ、それを表出する能力が養われる		グローバル社会を生きるための英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力を身につけ、実践できる
学びの基礎を身に付ける	大学生として必要な教養を養うための学びの基礎を身に付ける	教養を深め、高めるために必要な知識を身につけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現できる			
人間性を高める	建学の精神である「和」を理し、「礼節」をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる日本女性の模範としての「気品」とは何かを理解できる	身についた「礼節」を実践できる教養をさらに深め、それをさまざまな分野に応用できる	身についた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に応用できる	伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる
教育目標	1年次	2年次	3年次	4年次	
	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確率する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・創作する〉ための技能を修得する	課題解決のための実践力を修得する	



各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

文学科 書道文化コース 教員免許取得履修モデル

高等学校教諭一種免許状（書道）を取得する場合

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II 中国語 I 中国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習（教職）	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III 中国語 III 中国語 IV コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	8	6	3
コース必修科目・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 書学入門 楷書の技法（A） I 漢文学の基礎 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II 楷書の技法（A） II 漢文学の基礎 II	キャリア戦略 I 国際文化論 楷書の技法（B） I 行書の技法 I 隷書の技法 かなの技法 I 中国書道史概説	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 日本書道史概説 楷書の技法（B） II 行書の技法 II 篆書の技法 かなの技法 II
科目数	5	5	7	7
選択必修				
科目数	0	0	0	0
選択科目	書写・書道 I 日本文学概説 I 日本語概説 I	書写・書道 II 日本文学概説 II 日本語概説 II		教職実践論基礎 I
科目数	3	3	0	1
教職科目		教職入門 教育基礎論	生徒指導（進路指導を含む） 教育相談 教育方法・情報通信技術活用論	特別支援教育総論 教育課程論 特別活動の指導法 教育心理学
科目数	0	2	3	4
科目数計	14	18	16	15

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目				
科目数	0	0	0	0
コース必修科目・	専門ゼミ I 草書の技法 I 篆刻の技法 I	専門ゼミ II 草書の技法 II 篆刻の技法 II 書論・鑑賞	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	3	4	2	2
選択必修	漢字作品制作法 I かな作品制作法 I	漢字作品制作法 II かな作品制作法 II	漢字かな交じり書法	実用書道
科目数	2	2	1	1
選択科目	日本古典文学の基礎 I 日本古典文学史 I 日本近現代文学史 I 漢文講読 I キャリア・デザイン I 教職実践論基礎 II	日本古典文学の基礎 II 日本古典文学史 II 日本近現代文学史 II 漢文講読 II 東洋史概説 キャリア・デザイン II 教職実践論 I	日本語の歴史 I 教職実践論 II	日本語の歴史 II
科目数	6	7	2	1
教職科目	書道科教育法 I	教育社会学 I 書道科教育法 II 総合的な学習の時間の指導法 高等学校教育実習		教職実践演習（中・高）
科目数	1	4	0	1
科目数計	12	17	5	5

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 異文化コミュニケーション 英語 II 中国語 I 中国語 II スポーツと健康 II	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III 中国語 III 中国語 IV コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	7	6	3
学科必修科目・	人文科学入門 I 女性キャリア論 I 書学入門 楷書の技法（A） I 漢文学の基礎 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II 楷書の技法（A） II 漢文学の基礎 II	キャリア戦略 I 国際文化論 楷書の技法（B） I 行書の技法 I 隷書の技法 かなの技法 I 中国書道史概説	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 日本書道史概説 楷書の技法（B） II 行書の技法 II 篆書の技法 かなの技法 II
科目数	5	5	7	7
選択必修				
科目数	0	0	0	0
選択科目	書写・書道 I 日本文学概説 I 日本文化入門 学内フィールドワーク I	書写・書道 II 学内フィールドワーク II	日本古典文学購読 I 日本語教育の概要 I 漢文購読 I	日本古典文学購読 II 日本語教育の概要 II 漢文購読 II 東洋史概説
科目数	4	2	3	4
教職科目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	15	14	16	14

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目				
科目数	0	0	0	0
学科必修科目・	専門ゼミ I 草書の技法 I 篆刻の技法 I	専門ゼミ II 草書の技法 II 篆刻の技法 II 書論・鑑賞	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	3	4	2	2
選択必修	漢字作品制作法 I かな作品制作法 I 古文書学 I	漢字作品制作法 II かな作品制作法 II 古文書学 II	漢字かな交じり書法	実用書道
科目数	3	3	1	1
選択科目	日本古典文学史 I 日本近現代文学史 I 日本事情 I キャリア戦略 III 短期インターンシップ キャリア・デザイン I	日本古典文学史 II 日本近現代文学史 II 日本事情 II キャリア戦略 IV キャリア・デザイン II		
科目数	6	5	0	0
教職科目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	12	12	3	3

文学科 図書館情報コース 専門教育科目 履修要項

- ①卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上です。
- ②図書館情報コースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B 類）			
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
51	10	33	94

- ③図書館情報コースの専門教育科目（B 類）については、別表Ⅳ－23 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 51 単位と選択必修科目 10 単位、そして別表Ⅳ－23 の選択科目及び別表Ⅳ－9、Ⅳ－12、Ⅳ－15、Ⅳ－20、Ⅳ－24 から 33 単位以上を履修してください（同一科目を重複して履修することはありません）。
- ④図書館情報コースは、図書館司書資格取得が卒業必修となっており、卒業要件を満たすことにより図書館司書資格を取得することができます。
- ⑤社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表Ⅷ－2～5（P.238～P.242）により、履修してください（一部、卒業要件に算入できない科目があります）。
- ⑥単位を修得（成績表に S・A・B・C・N と表記）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。

区分	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業 必修	履 修 年 次								備考	
						1		2		3		4			
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
学 科 必 修 科 目	☐	人文科学入門Ⅰ（RE科目）		2	○	○									学科必修科目（計23単位）
	☐	人文科学入門Ⅱ（RE科目）		2	○		○								
	☐	ホスピタリティコミュニケーションⅠ		2	○		○								
	☐	女性キャリア論Ⅰ		2	○	○									
	☐	女性キャリア論Ⅱ		2	○		○								
	☐	キャリア戦略Ⅰ		2	○			○							
	☐	キャリア戦略Ⅱ		2	○			○							
	☐	専門ゼミ入門（2年次秋）	演	1	○			○							
	☐	専門ゼミⅠ（3年次ゼミⅠ）	演	1	○				○						
	☐	専門ゼミⅡ（3年次ゼミⅡ）	演	1	○					○					
	☐	専門ゼミⅢ（4年次ゼミⅠ）	演	1	○						○				
	☐	専門ゼミⅣ（4年次ゼミⅡ）	演	1	○								○		
☐	卒業研究		4	○									○		
	（小計）		23	23											
コ ー ス 必 修 科 目	☐	国際文化論		2	○			○							「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目 プレミアムRE コース必修科目（計28単位）
	☐	図書館概論		2	○	○									
	☐	生涯学習概論		2	○	○									
	☐	図書館情報資源概論		2	○	○									
	☐	情報資源組織論		2	○	○									
	☐	図書館情報技術論		2	○		○								
	☐	情報資源組織演習Ⅰ	演	1	○			○							
	☐	情報資源組織演習Ⅱ	演	1	○				○						
	☐	図書館サービス概論		2	○		○								
	☐	図書・図書館史		2	○			○							
	☐	情報サービス論		2	○		○								
	☐	情報サービス演習Ⅰ	演	1	○			○							
	☐	情報サービス演習Ⅱ	演	1	○				○						
	☐	児童サービス論		2	○			○							
☐	図書館サービス特論		2	○				○							
☐	図書館制度・経営論		2	○				○							
	（小計）		28	28											
コ ー ス 選 択 必 修 科 目	☐	図書館基礎特論		2						○					「学校司書」対応科目 プレミアムRE △ 図書館総合演習（プレミアムRE）・図書館実習は、どちらかを選択して履修すること。 「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目 「学校司書」対応科目
	☐	図書館施設論		2					○						
	☐	図書館情報資源特論		2							○				
	☐	図書館情報学特論Ⅰ		2				○							
	☐	図書館情報学特論Ⅱ		2						○					
	☐	未来図書館論		2							○				
	☐	原典講読		2								○			
	☐	図書館総合演習	演	1	△							○			
	☐	図書館実習	実	1	△								○		
	☐	学校経営と学校図書館		2					○						
	☐	学習指導と学校図書館		2					○						
	☐	読書と豊かな人間性		2							○				
	☐	情報メディアの活用		2							○				
	☐	古文書学Ⅰ		2							○				
☐	古文書学Ⅱ		2								○				
	（小計）		28	10											
コ ー ス 選 択 科 目	☐	メディア論入門		2		○									「学校司書」対応科目 「

区分	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コース 選択 科目	☐	イギリスの歴史		2				○						
	☐	アメリカの歴史		2				○						
	☐	書学入門		2		○								
	☐	編集・ジャーナリズム論		2				○						
	☐	日本語表現法Ⅰ	演	1				○						
	☐	日本語表現法Ⅱ	演	1				○						
	☐	日本古典文学の基礎Ⅰ	演	1		○								
	☐	日本古典文学の基礎Ⅱ	演	1			○							
	☐	漢文学の基礎Ⅰ	演	1		○								
	☐	漢文学の基礎Ⅱ	演	1			○							
	☐	日本古典文学史Ⅰ		2				○						
	☐	日本古典文学史Ⅱ		2					○					
	☐	日本近現代文学史Ⅰ		2		○								
	☐	日本近現代文学史Ⅱ		2			○							
	☐	日本語の語法Ⅰ		2				○						
	☐	日本語の歴史Ⅰ		2				○						
	☐	日本語の歴史Ⅱ		2					○					
	☐	民俗文化論Ⅰ		2				○						
	☐	民俗文化論Ⅱ		2					○					
	☐	日本美術史Ⅰ		2				○						
	☐	日本美術史Ⅱ		2					○					
	☐	歴史文化入門Ⅰ		2		○								
	☐	歴史文化入門Ⅱ		2			○							
	☐	日本史概説Ⅰ		2		○								
	☐	日本史概説Ⅱ		2			○							
	☐	博物館概論		2				○						
	☐	博物館経営論		2					○					
	☐	博物館資料論		2					○					
	☐	博物館資料保存論		2						○				
	☐	博物館展示論		2							○			
	☐	博物館情報・メディア論		2						○				
	☐	博物館教育論		2							○			
	☐	博物館実習	実	3						○	○			
	☐	日本語教育の概要Ⅰ		2				○						
	☐	日本語教育の概要Ⅱ		2					○					
	☐	日本語教授法Ⅰ		2				○						
	☐	日本語教授法Ⅱ		2					○					
	☐	日本語教育教材研究Ⅰ	演	1				○						
	☐	日本語教育教材研究Ⅱ	演	1					○					
	☐	日本語教育演習Ⅰ	演	1						○				
	☐	日本語教育演習Ⅱ	演	1							○			
	☐	日本事情Ⅰ		2						○				
	☐	日本事情Ⅱ		2							○			
	☐	言語学概論Ⅰ		2				○						
	☐	言語学概論Ⅱ		2					○					
	☐	学内フィールドワークⅠ		2			○	○	○	○	○	○		
☐	学内フィールドワークⅡ		2			○	○	○	○	○	○			
☐	学内フィールドワークⅢ		2			○	○	○	○	○	○			
☐	短期インターンシップ		2					○		○				
☐	長期インターンシップ		20					○	○	○	○			
☐	短期留学		12					○	○	○	○	○	○	
☐	長期留学		20					○	○	○	○	○	○	
☐	海外英語特講		2		※		※							
☐	特別講義Ⅰ キャリア・デザインⅠ		2						○					
☐	特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2							○				
☐	特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2					○						
☐	特別講義Ⅵ 芸術文化論		2				○							
☐	特別講義Ⅶ～ⅩⅩ													
	(小計)		205	33										
	(合計)		284	94										
各2単位 コース選択科目（計33単位）														

【授業の方法】 演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。

【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。

【「学校司書」対応科目】 この表中に表記された科目以外に必要な科目があります。

教職課程論、教育基礎論、発達心理学、教育心理学、特別支援教育総論です。発達心理学と教育心理学については、どちらか1科目を選択して履修してください。必ず、ライブラリアテンダント・学校司書履修モデルを見てください。

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 図書館情報コース カリキュラムマップ

1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
学びの扉を開こう		専門的知識を身につけよう		考える力・創作力を養おう		実践力を養おう	

各学問領域の 専門能力を身 につける	司書 資格	生涯学習概論		図書・図書館史					
		図書館概論	図書館情報技術論	図書館制度・経営論					
			図書館サービス概論	児童サービス論	図書館サービス特論				
			情報サービス論	情報サービス演習Ⅰ	情報サービス演習Ⅱ				
	学校 司書	図書館情報資源概論							
		情報資源組織論		情報資源組織演習Ⅰ	情報資源組織演習Ⅱ				
			教育基礎論		学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館	読書と豊かな人間性			
					特別支援教育総論				
					教育課程論				
					教育心理学				
		図書館情報学特論Ⅰ							

図書館情報学を深く理解し、実践力を身につける				専門ゼミ入門	専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ	専門ゼミⅣ
				図書館施設論	図書館基礎特論	未来図書館論	卒業研究	卒業研究
					図書館実習	図書館総合演習		
					図書館情報学特論Ⅱ	原典購読		
					情報メディアの活用	図書館情報資源特論		
					古文書学Ⅰ	古文書学Ⅱ		

社会人として 必要な 能力を身につける	基礎	女性キャリア論Ⅰ	女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア戦略Ⅲ	キャリア戦略Ⅳ		
		ベーシック コミュニケーションⅠ	異文化 コミュニケーション			キャリア・デザインⅠ	キャリア・デザインⅡ		
			ホスピタリティ コミュニケーションⅠ						
	企業 就職	メディア論入門	ベーシック コミュニケーションⅡ	ビジネス コミュニケーションⅠ	ビジネス コミュニケーションⅡ	ビジネス コミュニケーションⅢ			
				プレゼンテーションⅠ					
				ホスピタリティ産業論Ⅰ	ホスピタリティ産業論Ⅱ	English for Hospitality & TourismⅠ	English for Hospitality & TourismⅡ	English for Hospitality & TourismⅢ	English for Hospitality & TourismⅣ
学内フィールドワークⅠ		学内フィールドワークⅡ			短期インターンシップ				

学びの基礎を身につける	人文科学入門Ⅰ（RE科目）	人文科学入門Ⅱ（RE科目）	国際文化論					
	コンピュータコミュニケーションⅠ		コンピュータコミュニケーションⅡ					
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ
	情報活用演習（基礎）	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	SEITOKU Academic LiteracyⅠ	SEITOKU Academic LiteracyⅡ	SEITOKU Academic LiteracyⅢ					

人間性を高める	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育Ⅱ（FC、学外研修Ⅰ）	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ（海外研修）	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ		
	スポーツと健康Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座					

教育目標	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する



各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 図書館情報コース 学びで得られる成果（Learning Outcomes）

	学びの扉を開こう 専門的知識を身につけよう 考える力・創作力を身につけよう 実践力を養おう				学位授与の方針に掲げる学習成果
	1年次	2年次	3年次	4年次	
各学問領域の専門能力を身につける	図書館に関する基礎的な知識・技能が身についている	図書館に関する専門的な知識・技能が身についている	図書館に関する専門的な知識・技術を深めることができる		文学・文化・芸術に関する学問領域の基礎的な知識及び各領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる
図書館情報学を深く理解し、実践力を身につける		図書館情報学の専門的知識を身につけ、自己の問題意識を発展させることができる	図書館および図書館情報学に関する専門的な知識・技能を実習で活用することができる。また、調査・研究の技能を身につけ、資料を読解し、自己の課題を深く探求することができる	これまでの実践を通して自己の課題を再発見することができる。あわせて、自己の課題探求の成果を、論文としてまとめ、わかりやすく伝えることができる	
社会人として必要な能力を身につける	社会人として必要な資質を理解し、基礎的な知識・技能が身につけている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのために必要な知識・技能について理解している	課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる	現代社会の課題を認識し、社会に働きかけることができる	グローバル社会を生きるための英語コミュニケーション力をも有した総合的な人間力を身につけ、実践できる
学びの基礎を身につける	大学生として必要な教養を養うための学びの基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身につけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現できる			
人間性を高める	建学の精神である「和」を理解し、「礼節」をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日本女性の模範としての「気品」とは何かを理解できる	身につけた「礼節」を応用し、実践できる。教養をさらに深め、それをさまざまな分野に応用できる	身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に応用できる	伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる
教育目標	1年次 学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	2年次 専門分野の基礎を理解する	3年次 〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	4年次 課題解決のための実践力を 修得する	

各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

文学科 図書館情報コース 履修モデル
ライブラリーアテンダント、学校司書履修モデル

(○が司書資格科目、◎が学校司書モデルカリキュラム対応科目)
※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 異文化コミュニケーション 英語 II スポーツと健康 II 日本国憲法	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	5	4	3
コース選択必修科目・ 学科必修科目	人文科学入門 I 女性キャリア論 I ○図書館概論 ○生涯学習概論 ◎◎情報資源組織論 ◎◎図書館情報資源概論	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II ○図書館サービス概論 ◎◎情報サービス論 ◎◎図書館情報技術論	キャリア戦略 I 国際文化論 ◎◎情報サービス演習 I ○児童サービス論 ◎◎情報資源組織演習 I ○図書館制度・経営論 ○図書・図書館史 ◎図書館情報学特論 I	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 ◎◎情報資源組織演習 II ◎◎情報サービス演習 II ◎学習指導と学校図書館 ◎学校経営と学校図書館 図書館施設論 ○図書館サービス特論
科目数	6	6	8	8
選択科目	学内フィールドワーク I メディア論入門 ホスピタリティ概論	学内フィールドワーク II ベーシックコミュニケーション II	民俗文化論 I ビジネスコミュニケーション I プレゼンテーション I	民俗文化論 II ビジネスコミュニケーション II 編集・ジャーナリズム論
科目数	3	2	3	3
教職科目		◎教育基礎論		◎特別支援教育総論 ◎教育課程論 ◎教育心理学
科目数	0	1	0	3
科目数計	15	14	15	17

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
コース選択必修科目・ 学科必修科目	専門ゼミ I 図書館実習 ◎読書と豊かな人間性 図書館基礎特論 図書館情報学特論 II 情報メディアの活用	専門ゼミ II 未来図書館論 図書館情報資源特論	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	6	3	2	2
選択科目	ビジネスコミュニケーション III 短期インターンシップ キャリア・デザイン I	キャリア・デザイン II		
科目数	3	1	0	0
教職科目				
科目数	0	0	0	0
科目数計	10	5	3	3

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習 (基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 異文化コミュニケーション 英語 II スポーツと健康 II 日本国憲法	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 英語 III コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	5	4	3
コース選択必修科目・ 学科必修科目	人文科学入門 I 女性キャリア論 I ○図書館概論 ○生涯学習概論 ○情報資源組織論 ○図書館情報資源概論	人文科学入門 II 女性キャリア論 II ホスピタリティコミュニケーション I ○図書館サービス概論 ○情報サービス論 ○図書館情報技術論	キャリア戦略 I 国際文化論 ○情報サービス演習 I ○児童サービス論 ○情報資源組織演習 I ○図書館制度・経営論 ○図書・図書館史	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門 ○情報資源組織演習 II ○情報サービス演習 II ○図書館サービス特論 図書館施設論
科目数	6	6	7	6
選択科目	学内フィールドワーク I Communication Skills I ホスピタリティ概論 メディア論入門	学内フィールドワーク II Communication Skills II ベーシックコミュニケーション II	Communication Skills III ビジネスコミュニケーション I プレゼンテーション I ホスピタリティ産業論 I	Communication Skills IV ビジネスコミュニケーション II 編集・ジャーナリズム論 ホスピタリティ産業論 II
科目数	4	3	4	4
科目数計	16	14	15	13

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
コース選択必修科目・ 学科必修科目	専門ゼミ I 図書館情報学特論 II 図書館実習	専門ゼミ II 未来図書館論 原典購読 図書館情報資源特論	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	3	4	2	2
選択科目	キャリア戦略 III ビジネスコミュニケーション III 短期インターンシップ English for Hospitality & Tourism I キャリア・デザイン I	キャリア戦略 IV English for Hospitality & Tourism II キャリア・デザイン II	English for Hospitality & Tourism III	English for Hospitality & Tourism IV
科目数	5	3	1	1
科目数計	9	8	4	4

文学科 教養デザインコース 専門教育科目 履修要項

①卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）94 単位以上、計 124 単位以上です。

②教養デザインコースの専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は下表のとおりとします。

専門教育科目（B 類）			
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
23	40	31	94

③教養デザインコースの専門教育科目（B 類）については、別表Ⅳ－24 の通り卒業必修欄に○印の付いている科目 23 単位、ホスピタリティ・ヒューマン・ビジネス・グローバル・人文科学基礎の科目より 40 単位、そして別表Ⅳ－24 の選択科目及び別表Ⅳ－9、Ⅳ－12、Ⅳ－15、Ⅳ－20、Ⅳ－23 から 31 単位以上を履修してください（同一科目を重複して履修することはできません）。

④図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関連、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて、別表Ⅷ－1～5（P.238～P.242）により、履修してください（一部、卒業要件に算入できない科目があります）。

⑤単位を修得（成績表に S・A・B・C・N と表記）した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。

区分	チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業 必修	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学 科 必 修 科 目	☐	人文科学入門Ⅰ (RE科目)		2	○	○								エアライン・ホテルプラチナP
	☐	人文科学入門Ⅱ (RE科目)		2	○		○							
	☐	ホスピタリティコミュニケーションⅠ		2	○		○							
	☐	女性キャリア論Ⅰ		2	○	○								
	☐	女性キャリア論Ⅱ		2	○		○							
	☐	キャリア戦略Ⅰ		2	○			○						
	☐	キャリア戦略Ⅱ		2	○			○						
	☐	専門ゼミ入門 (2年次秋)	演	1	○			○						
	☐	専門ゼミⅠ (3年次ゼミⅠ)	演	1	○				○					
	☐	専門ゼミⅡ (3年次ゼミⅡ)	演	1	○					○				
	☐	専門ゼミⅢ (4年次ゼミⅠ)	演	1	○						○			
	☐	専門ゼミⅣ (4年次ゼミⅡ)	演	1	○							○		
	☐	卒業研究		4	○								○	
		(小計)		23	23									
コ ー ス 選 択 必 修 科 目		(ホスピタリティ)												エアライン・ホテルプラチナP
	☐	ホスピタリティ概論		2	△	○								
	☐	ホスピタリティコミュニケーションⅡ		2	△			○						エアライン・ホテルプラチナP
	☐	ホスピタリティマネジメントⅠ		2	△			○						エアライン・ホテルプラチナP
	☐	ホスピタリティマネジメントⅡ		2	△				○					エアライン・ホテルプラチナP
	☐	ホスピタリティ産業論Ⅰ		2	△			○						エアライン・ホテルプラチナP
	☐	ホスピタリティ産業論Ⅱ		2	△				○					
		(ヒューマン・コミュニケーション)												
	☐	ベーシックコミュニケーションⅡ		2	△		○							
	☐	プレゼンテーションⅠ		2	△			○						
	☐	プレゼンテーションⅡ		2	△					○				
	☐	ロジカルコミュニケーションⅠ		2	△			○						
	☐	ロジカルコミュニケーションⅡ		2	△					○				
		(ビジネス・コミュニケーション)												
	☐	キャリア戦略Ⅲ		2	△					○				エアライン・ホテルプラチナP/プレミアムRE
	☐	キャリア戦略Ⅳ		2	△						○			エアライン・ホテルプラチナP
	☐	ビジネスコミュニケーションⅠ		2	△			○						プレミアムRE
	☐	ビジネスコミュニケーションⅡ		2	△				○					
	☐	ビジネスコミュニケーションⅢ		2	△					○				
		(グローバル・コミュニケーション)												
	☐	English for Hospitality & TourismⅠ		2	△						○			SEEP
	☐	English for Hospitality & TourismⅡ		2	△							○		SEEP
	☐	English for Hospitality & TourismⅢ		2	△								○	
	☐	English for Hospitality & TourismⅣ		2	△									○
	☐	Global CommunicationⅠ		2	△	○								SEEP
	☐	Global CommunicationⅡ		2	△		○							SEEP
	☐	Global CommunicationⅢ		2	△			○						SEEP
	☐	Global CommunicationⅣ		2	△				○					SEEP
		(人文科学基礎)												
	☐	英米文学入門		2				○						
	☐	現代イギリス事情Ⅰ		1	△						○			
	☐	現代イギリス事情Ⅱ		1	△						○			
	☐	現代アメリカ事情Ⅰ		1	△							○		
	☐	現代アメリカ事情Ⅱ		1	△							○		
	☐	日本文学概説Ⅰ		2	△	○								
	☐	日本文学概説Ⅱ		2	△		○							
	☐	日本語概説Ⅰ		2	△	○								
	☐	日本語概説Ⅱ		2	△		○							
	☐	歴史文化入門Ⅰ		2	△	○								
	☐	歴史文化入門Ⅱ		2	△		○							
	☐	日本史概説Ⅰ		2	△	○								
	☐	日本史概説Ⅱ		2	△		○							
	☐	書学入門		2	△	○								
	☐	日本書道史概説		2	△				○					
	☐	図書館概論		2	△	○								
	☐	図書館情報資源概論		2	△	○								
	☐	図書館サービス概論		2	△		○							
	☐	メディア論入門		2	△	○								
	☐	編集・ジャーナリズム論		2	△				○					
	☐	情報サービス論		2	△		○							
	☐	児童サービス論		2	△			○						
		(小計)		88	40									

-181-

区 分	チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備 考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
コ ー ス 選 択 科 目		(図書館司書科目)												
	☐	情報資源組織論		2		○								
	☐	図書館情報技術論		2			○							
	☐	情報資源組織演習Ⅰ	演	1				○						
	☐	情報資源組織演習Ⅱ	演	1					○					
	☐	図書・図書館史		2				○						
	☐	情報サービス演習Ⅰ	演	1				○						
	☐	情報サービス演習Ⅱ	演	1					○					
	☐	図書館サービス特論		2					○					
	☐	図書館制度・経営論		2				○						
	☐	図書館情報資源特論		2							○			
	☐	図書館実習	実	1						○				
		(博物館学芸員科目)												
	☐	生涯学習概論		2		○								
	☐	博物館概論		2				○						
	☐	博物館経営論		2					○					
	☐	博物館資料論		2					○					
	☐	博物館資料保存論		2						○				
	☐	博物館展示論		2							○			
	☐	博物館情報・メディア論		2						○				
	☐	博物館教育論		2							○			
	☐	博物館実習	実	3						○	○			
		(インターンシップ)												
	☐	学内フィールドワークⅠ		2			○	○	○	○	○	○		
	☐	学内フィールドワークⅡ		2			○	○	○	○	○	○		
	☐	学内フィールドワークⅢ		2			○	○	○	○	○	○		
	☐	短期インターンシップ		2					○		○			
	☐	長期インターンシップ		20					○	○	○	○		(4週～20週／4単位～20単位)
		(留学)												
	☐	短期留学		12					○	○	○	○	○	○
	☐	長期留学		20					○	○	○	○	○	○
		(海外語学研修)												(13週～／13単位～20単位)
	☐	海外英語特講		2		※		※						※ 語学研修
	☐	国際文化論		2	○			○						※
		(特別講義)												
	☐	特別講義Ⅰ キャリア・デザインⅠ		2							○			
	☐	特別講義Ⅱ キャリア・デザインⅡ		2								○		
	☐	特別講義Ⅲ キャリアデザイン入門		2						○				
	☐	特別講義Ⅵ 芸術文化論		2				○						
	☐	特別講義Ⅶ～ⅩⅩ												
		(小計)		246	31									各2単位 コース選択科目 (計31単位)
			合 計		357	94								

【授業の方法】 演：演習、実：実験・実習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

※ 国際文化論については、学科の指導通りに履修すること。

（4週～20週／4単位～20単位）

（13週～／13単位～20単位）

※ 語学研修
※

各2単位
コース選択科目（計31単位）

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 教養デザインコース カリキュラムマップ

1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次春学期	2 年次秋学期	3 年次春学期	3 年次秋学期	4 年次春学期	4 年次秋学期
学びの扉を開こう		専門的知識を身につけよう		考える力・創作力を養おう		実践力を養おう	

各学問領域の 専門能力を身につける	ベーシック コミュニケーションⅠ 学内フィールドワークⅠ	ベーシック コミュニケーションⅡ 学内フィールドワークⅡ	学内フィールドワークⅢ		キャリア戦略Ⅲ	キャリア戦略Ⅳ	
					インターンシップ短期 インターンシップ長期		
			海外英語特講			特別講義 Ⅲ	
					現代イギリス事情Ⅰ 現代イギリス事情Ⅱ	現代アメリカ事情Ⅰ 現代アメリカ事情Ⅱ	
			日本語表現法Ⅰ	日本語表現法Ⅱ			

ビジネス社会・グローバル社会で働く 上で必要な知識・能力・態度を身につける	ビジネス	異文化 コミュニケーション	ロジカル コミュニケーションⅠ	専門ゼミ入門	専門ゼミⅠ ロジカル コミュニケーションⅡ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ 卒業研究	専門ゼミⅣ 卒業研究
			ビジネス コミュニケーションⅠ プレゼンテーションⅠ	ビジネス コミュニケーションⅡ	ビジネス コミュニケーションⅢ プレゼンテーションⅡ			
	グローバル	ホスピタリティ コミュニケーションⅠ	ホスピタリティ コミュニケーションⅡ					
		ホスピタリティ概論	ホスピタリティ産業論Ⅰ ホスピタリティ マネジメントⅠ	ホスピタリティ産業論Ⅱ ホスピタリティ マネジメントⅡ				
		Global CommunicationⅠ	Global CommunicationⅡ	Global CommunicationⅢ	Global CommunicationⅣ	English for Hospitality & TourismⅠ	English for Hospitality & TourismⅡ	English for Hospitality & TourismⅢ
		Communication SkillsⅠ	Communication SkillsⅡ	Communication SkillsⅢ	Communication SkillsⅣ	Discussion and DebateⅠ	Discussion and DebateⅡ	English for Hospitality & TourismⅣ

社会人として必要な 能力を身につける	女性キャリア論Ⅰ	女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ	キャリア・デザインⅠ	キャリア・デザインⅡ		
-----------------------	----------	----------	---------	---------	------------	------------	--	--

学びの基礎を 身につける	人文科学入門Ⅰ (RE科目)	人文科学入門Ⅱ (RE科目)	国際文化論					
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
	コンピュータ コミュニケーションⅠ	英米文学入門	メディアの英語 コンピュータ コミュニケーションⅡ	英米文学				
	日本文学概説Ⅰ	日本文学概説Ⅱ			文芸創作Ⅰ	文芸創作Ⅱ		
	日本近現代文学史Ⅰ	日本近現代文学史Ⅱ						
	基礎英文法Ⅰ	基礎英文法Ⅱ						
	メディア論入門	外国語	外国語					
	情報活用演習(基礎) SEITOKU Academic LiteracyⅠ	教養科目 SEITOKU Academic LiteracyⅡ	教養科目 SEITOKU Academic LiteracyⅢ	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目

人間性を高める	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育Ⅱ(FC, 学外研修Ⅰ)	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ(海外研修)	聖徳教育Ⅱ	聖徳教育Ⅱ	
	スポーツと健康Ⅰ	スポーツと健康Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座				

教育目標	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	専門分野の基礎を理解する	〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	課題解決のための実践力を 修得する

各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

令和7年度 聖徳大学 文学部 文学科 教養デザインコース 学びで得られる成果（Learning Outcomes）

学びの扉を開こう		専門的知識を身につけよう		考える力・創作力を身につけよう	実践力を養おう	学位授与の方針に掲げる学習成果
1年次		2年次		3年次	4年次	
各学問領域の専門能力を身につける		社会人としての基礎的知識が身についている 業界、業種、職種など働く上で必要な社会科学領域の基礎的な知識・技術が身についている ・課題に対する解答を論理的に導き出し、わかりやすく伝えることができる ・企業や団体での就業を通して職業意識を醸成し、企業、団体で働く上で必要な知識・技能・態度が身についている 現代社会の課題を認識し、主体的に社会に働きかける社会人基礎力が身についている				文学・文化・芸術等人文科学に関する基礎的な知識及びコミュニケーション力・プレゼンテーション力・ホスピタリティ領域の専門知識・能力を身につけ、社会で起こる様々な課題に対して積極的に取り組み、地域社会に貢献できる人材を育成する
ビジネス社会・グローバル社会で働く上で必要な知識・能力・態度を身につける	ビジネス	ビジネス社会に必要なコミュニケーション能力の基礎が身についている	諸課題について個人で考え発信し、チーム内議論を通して合意形成するために必要な技能・態度を身につけている	ビジネス社会における調査・研究の技能を身につけ、資料を読解し、自己の課題を深く探求することができる	調査・研究の成果を、論文としてまとめ、わかりやすく伝えることができる	
	グローバル	グローバル社会に必要なコミュニケーション能力の基礎が身についている	グローバル社会に必要な基礎的な英語力・コミュニケーション力及び多様な価値観を受入れ円滑な対人関係を構築する技術・態度が身についている	グローバル社会における調査・研究の技能を身につけ、資料を読解し、自己の課題を深く探求することができる		
社会人として必要な能力を身につける		社会人として必要な資質を理解し、基礎的な知識・技能が身についている	自己のキャリアビジョンを設定し、そのために必要な知識・技能について理解している			グローバル社会を生きるために必要な異文化対応力・英語力・コミュニケーション力を身に付け常に顧客思考とチームワークを意識して課題解決に取り組み、国際社会に貢献できる社会人基礎力の高い人材を育成する
学びの基礎を身につける		大学生として必要な教養を養うための学びの基礎を身につける	教養を深め、高めるために必要な知識を身につけ、学際的洞察力を踏まえて応用し、表現できる	身につけた教養を応用し、課題に対する解答を導き出し、わかりやすく伝えることができる		
人間性を高める		建学の精神である「和」を理解し、「礼節」をもって行動できる	「礼節」の基本を身につけ、実践できる。日本女性の模範としての「気品」とは何かを理解できる	身につけた「礼節」を応用し、実践できる。教養をさらに深め、それをさまざまな分野に活用できる	身につけた「気品」と「礼節」をいかなる場合にも、自由に活用できる	伝統の本物教育により女性としての心豊かな教養を養い、日本社会の気品の模範としての礼法を身につけ、実践できる人材を育成する
教育目標		1年次 学習の基礎を身につける 学習への姿勢を確立する	2年次 専門分野の基礎を理解する	3年次 〈調べる・考える・議論する〉ための 技能を修得する	4年次 課題解決のための実践力を 修得する	

各学問領域の専門能力を身につけ、主体的に課題を解決できる

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1年		2年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーションⅠ コンピュータ・コミュニケーションⅠ 英語Ⅰ スポーツと健康Ⅰ 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 異文化コミュニケーション 英語Ⅱ スポーツと健康Ⅱ	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 教養科目 英語Ⅲ コンピュータ・コミュニケーションⅡ	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語Ⅳ
科目数	6	4	5	3
学科必修科目	人文科学入門Ⅰ 女性キャリア論Ⅰ	人文科学入門Ⅱ ホスピタリティコミュニケーションⅠ 女性キャリア論Ⅱ	キャリア戦略Ⅰ	キャリア戦略Ⅱ 専門ゼミ入門
科目数	2	3	1	2
コース必修科目	ホスピタリティ概論 日本史概説Ⅰ 歴史文化入門Ⅰ メディア論入門 Global CommunicationⅠ	ベーシックコミュニケーションⅡ 日本史概説Ⅱ 歴史文化入門Ⅱ Global CommunicationⅡ	ホスピタリティコミュニケーションⅡ ホスピタリティ産業論Ⅰ ホスピタリティマネジメントⅠ プレゼンテーションⅠ Global CommunicationⅢ	ホスピタリティ産業論Ⅱ ホスピタリティマネジメントⅡ Global CommunicationⅣ
科目数	5	4	5	3
選択科目	English Composition I Reading Skills for Academic Purposes I 基礎英文法Ⅰ Communication SkillsⅠ 学内フィールドワークⅠ	English Composition II Reading Skills for Academic Purposes II 基礎英文法Ⅱ Communication SkillsⅡ 学内フィールドワークⅡ	Academic Writing I Academic Reading I Communication SkillsⅢ 海外英語特講	Academic Writing II Academic Reading II Communication SkillsⅣ
科目数	5	5	4	4
科目数計	18	16	15	12

	3年		4年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語Ⅴ	英語Ⅵ	英語Ⅶ	英語Ⅷ
科目数	1	1	1	1
学科必修科目	専門ゼミⅠ	専門ゼミⅡ	専門ゼミⅢ 卒業研究	専門ゼミⅣ 卒業研究
科目数	1	1	2	2
コース必修科目	キャリア戦略Ⅲ English for Hospitality & TourismⅠ 現代アメリカ事情Ⅰ	キャリア戦略Ⅳ English for Hospitality & TourismⅡ		
科目数	3	3	0	0
選択科目	Discussion and DebateⅠ 短期インターンシップ キャリア・デザインⅠ 短期留学	Discussion and DebateⅡ キャリア・デザインⅡ		
科目数	4	2	0	0
科目数計	9	7	3	3

※ 時間割の都合により、このモデル通りに履修できない場合があります。

	1 年		2 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	SEITOKU Academic Literacy I ベーシックコミュニケーション I コンピュータ・コミュニケーション I 英語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 異文化コミュニケーション 英語 II スポーツと健康 II	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目 教養科目 英語 III コンピュータ・コミュニケーション II	小笠原流礼法基礎講座 教養科目 英語 IV
科目数	6	4	5	3
学科必修科目	人文科学入門 I 女性キャリア論 I	人文科学入門 II ホスピタリティコミュニケーション I 女性キャリア論 II	キャリア戦略 I	キャリア戦略 II 専門ゼミ入門
科目数	2	3	1	2
コース必修選択科目	ホスピタリティ概論 日本史概説 I 歴史文化入門 I メディア論入門 図書館情報資源概論	ベーシックコミュニケーション II 日本史概説 II 歴史文化入門 II 情報サービス論	ホスピタリティコミュニケーション II ホスピタリティマネジメント I ホスピタリティ産業論 I プレゼンテーション I ビジネスコミュニケーション I	ホスピタリティマネジメント II ホスピタリティ産業論 II ビジネスコミュニケーション II 編集・ジャーナリズム論
科目数	5	4	6	4
選択科目	日本近現代文学史 I Communication Skills I 学内フィールドワーク I	日本近現代文学史 II Communication Skills II 学内フィールドワーク II	日本語表現法 I 日本語の歴史 I 現代語の研究 I Communication Skills III	日本語表現法 II 日本語の歴史 II 現代語の研究 II Communication Skills IV
科目数	3	3	4	4
科目数計	16	14	16	13

	3 年		4 年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学共通科目	英語 V	英語 VI	英語 VII	英語 VIII
科目数	1	1	1	1
学科必修科目	専門ゼミ I	専門ゼミ II	専門ゼミ III 卒業研究	専門ゼミ IV 卒業研究
科目数	1	1	2	2
コース必修選択科目	キャリア戦略 III 現代アメリカ事情 I English for Hospitality & Tourism I	キャリア戦略 IV 現代アメリカ事情 II English for Hospitality & Tourism II		
科目数	3	3	0	0
選択科目	Discussion and Debate I 短期インターンシップ キャリア・デザイン I	Discussion and Debate II 特別講義 III キャリア・デザイン II		
科目数	3	3	0	0
科目数計	8	8	3	3

人間栄養学部 人間栄養学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会、気候、生産など現代の食をとりまく環境は、大きく変化し続けています。この変化する世界へと巣立つ人間栄養学科の卒業生には、個人並びに集団への食事・栄養のマネジメント、食の教育を実践することが求められています。人間栄養学科では、「人に頼られ、喜ばれ、愛される栄養士・管理栄養士」を育成し、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現に貢献しています。

以上の理念を具現化するために、以下の四つの教育目標を設定し、この目的を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、学士（栄養学）の学位を授与します。

【教育目標】

1. 人間性：状況に応じて柔軟なチームワークを行うことのできる協調性と、他者を思いやる共感性を育成する。
2. 問題解決能力：食を提供、研究、教育する現場で問題点をいち早く見出し、解決案を示し、実践することのできる能力を育成する。
3. 知識、技能、思考の一体化：人の健康を維持するために必要な栄養の知識、提供するための技能、これらを一体化して適切な食をデザインするための思考能力を育成する。
4. 俯瞰力と決断力：広い視点に立ち、自らの意思で決断し、実行できる能力を育成する。

【学習成果】

1. 社会人になる：人間の栄養に携わる使命感を持ち、他の人と一緒に責任ある行動をすることができる。
2. おいしさと栄養を両立させた食事を提供できる：健康な人、保護や看護を必要とする人、全ての人に喜ばれる食事を提供し、社会全体の健康向上に貢献することができる。
3. 教育できる：栄養学の未来を見据え、自らが身につけた知識・考えを次の世代に伝えることができる。
4. 開発できる：社会で求められている食のあり方を分析し、新たな食を提案することができる。
5. 研究できる：人間の栄養に関して科学的に思考し、研究し、その結果を社会に還元できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

上記の学習成果が身につくように、建学の精神「和」に基づいた本学独自の教育を含む全学共通科目と、栄養を広く深く学ぶための専門教育科目を、以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

上記の学習成果が身につくように、建学の精神「和」に基づいた本学独自の教育を含む全学共通科目と、栄養を広く深く学ぶための専門教育科目を、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 全学共通科目には本学独自の聖徳教育である芸術鑑賞、礼法などが含まれています。

これらの科目により人間性の向上を目指します。

2. 全学共通科目には実業を担う講師によるビジネス系の科目が含まれています。これらの科目により1年次からキャリア意識を育てます。
3. 初年次に化学と生物学を配し、栄養を学ぶ基礎を支えます。
4. 「専門教育科目」や「人間栄養学調理実習」では多くの実習・演習を設け、課題解決能力・実践力を育てます。
5. 多種多様な分野での活動・資格免許取得のための科目群を設け、社会で貢献できる人を育てます。

【教育課程実施の方針】

1. 教職志望の学生を中心としたクラスを一年次から設け、教職関係科目と専門教育科目が共に修得しやすいカリキュラムを展開します。
2. 専門教育科目には多くの実験・実習、演習科目を設けます。チームワーク能力、情報抽出能力、問題解決能力を培います。
3. 2-3年次にかけて、医療、福祉、食品開発、研究など、それぞれを深く追求できる科目を配置し、カリキュラム選択の幅を広げています。

入学受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間栄養学科は、次のような人に入学して欲しいと考えています。

【求める人間像】

1. 食と健康に関心を持ち、関連する分野で社会に貢献したい、という強い意志を持っている人。
2. 生命に関係する科学が好きで、分析的なものの考え方ができる人。
3. 明朗活発で人との交流を大切にし、人間性豊かで、礼節を重んじる人。
4. 周囲の人と環境に常に関心を持ち、より良い社会を実現するために向上心をもって努力できる人。

このような人を受け入れるために、仲間と協働して学びを作っていく力、学習に必要な科学的な知識・技能、基礎学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力などについて、総合的に評価します。

人間栄養学部 人間栄養学科

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

自己評価

他者評価

あなたの学習成果の獲得状況を測る
手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

人間栄養学科ルーブリック

毎学年末

「社会と健康」
「栄養・代謝と疾患」
を学ぶ科目群のGPA

毎学期末

2. おいしさと栄養を両立させた食事を提供できる：健康な人、保護や看護を必要とする人、全ての人に喜ばれる食事を提供し、社会全体の健康向上に貢献することができる。

人間栄養学科ルーブリック

毎学年末

「食品と調理」
を学ぶ科目群のGPA

毎学期末

4. 開発できる：社会で求められている食のあり方を分析し、新たな食を提案することができる。

人間栄養学科ルーブリック

毎学年末

「教育」
を学ぶ科目群のGPA

毎学期末

3. 教育できる：栄養学の未来を見据え、自らが身につけた知識・考えを次の世代に伝えることができる。

人間栄養学科ルーブリック

毎学年末

「学びの基礎学力・応用力」
をつける科目群のGPA

毎学期末

5. 研究できる：人間の栄養に関して科学的に思考し、研究し、その結果を社会に還元できる。

人間栄養学科ルーブリック

毎学年末

「人間性」
を高める科目群のGPA

毎学期末

キャリア・アセスメントテスト

3年春

1. 社会人になる：人間の栄養に携わる使命感を持ち、他の人と一緒に責任ある行動をすることができる。

栄養士実力認定試験（全員3年秋）フードスペシャリスト試験（受験3年秋）、

教員採用試験（受験4年次）、公務員採用試験（受験4年次）、管理栄養士国家試験（受験4年秋）

人間栄養学部 人間栄養学科 全学共通科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）105 単位以上、計 135 単位以上です。
- ② 全学共通科目（A 類）については、別表Ⅴ－1、2、3、4、5、6、7、8 のとおり履修してください（同一科目を重複して履修することはできません）。
- ③ 全学共通科目（A 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

全 学 共 通 科 目（A 類）				
聖徳教育 科目	教養科目、専門基礎科目及び 外国語科目	健康教育 科目	情報活用 科目	計
7	20	2	1	30

- ④ 聖徳教育科目（別表Ⅴ－1）は、すべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目（別表Ⅴ－2）は、外国語科目と併せて 16 単位以上（外国語は 8 単位以上）が必修ですので、卒業までに 8 単位以上修得してください。
また、D 類の「日本国憲法」は、教育職員免許状を取得しようとする者は必修です。
- ⑥ 専門基礎科目（別表Ⅴ－4）は、「管理栄養士の化学基礎」、「管理栄養士の生物学基礎」の計 4 単位が必修です。
- ⑦ 外国語科目（別表Ⅴ－5）は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ、英語Ⅴ、英語Ⅵ、英語Ⅶ及び英語Ⅷの計 8 単位が必修です。
- ⑧ 健康教育科目（別表Ⅴ－6）及び情報活用科目（別表Ⅴ－7）は、備考の記載のとおり履修してください。
- ⑨ 単位を修得した場合（成績表に S・A・B・C・N と表記される）には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

全学共通科目(A類)

聖徳教育科目

別表V-1

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	小笠原流礼法基礎講座		2	○			●	●					● 春学期または秋学期に開講 △ 聖徳教育の詳細については、 学生便覧を参照すること。
☐	聖徳教育Ⅰ	演	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅱ	演	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅰ)	演	1	○	○								
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅱ)	演	1	○		○							
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic Literacy Ⅲ)	演	1	○			●	●					
	計		7										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

教養科目

別表V-2

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業 必修	履 修 年 次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	A 類	自分を見つめ・広げ・伝える(芸術領域)	2			○	○	○					△ 4科目以上(8単位)を履修すること (B類、C類から履修することが望ましい) 同じ科目(領域)を重複履修することはできません。
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文学領域)	2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(歴史領域)	2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅰ)	2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)	2			○	○	○					
☐		自分を見つめ・広げ・伝える(看護領域)	2			○	○	○					
☐	B 類	自然・社会・科学技術を考える(自然領域)	2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)	2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(社会領域)	2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(環境領域)	2			○	○	○					
☐		自然・社会・科学技術を考える(健康領域)	2			○	○	○					
☐	C 類	心とからだの美的本質を追求する(心の領域)	2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)	2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)	2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)	2			○	○	○					
☐		心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)	2			○	○	○					
☐	D類	日本国憲法	2		●	●							△ 日本国憲法は教育職員免許状を 取得しようとする者は必ず修得すること。

Business Field Linkageプログラム

別表V-3

チェック欄	区分	授業科目	授業の方法	単 位	副 専攻 必修	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	共通	ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅠ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	●	●	●	●	●				
☐		アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	●			●		●			
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅠ		2				●		●				
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					●		●			
☐		キャリア教育関連科目※												
☐	価値増幅型 マネジメント副専攻	現代社会におけるビジネスリテラシー		2		●	●	●	●					
☐		法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			●		●					
☐		就活にも役立つメディアリテラシー		2		●		●						
☐		戦略的ビジネスマネジメント		2				●		●		●		
☐		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		●	●	●	●	●				
☐	グローバル人材育成 副専攻	世界のニュースを読み解く ～国際社会問題を知る～		2				●		●		●		
☐		グローバルコミュニケーション		2			●		●		●			
☐		Practical English CommunicationⅠ		2			○							
☐		Practical English CommunicationⅡ		2				○						
☐		Practical English CommunicationⅢ		2						○				
☐	ビジネス 再生・創生 副専攻	新時代のリーダーシップデザイン		2			●		●					
☐		戦略的ビジネスプランニング		2		●		●		●		●		
☐		顧客価値を創出するマーケティング		2			●		●		●		●	
☐		SDGsを実現するGX・SXの基本		2				●		●		●		
☐		WEBテクノロジーの基礎と応用		2			●		●		●		●	
☐	ビジネス・データ サイエンス 副専攻	文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			●		●					
☐		ビジネス・データサイエンスⅠ		2		●		●		●				
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～1		2			●		●		●			
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～2		2		●		●		●		●		
☐		ビジネス・データサイエンスⅢ		2				●		●		●		●
☐	社会活性化・ 価値創造	地域社会の価値を創造する実践論		2			●		●					
☐		行政の役割を体験するインターンシップ		2				●		●				
☐		行政の理解と試験対策		2			●			●				
☐		起業(事業創造)に向けた実践論		2			●		●		●		●	

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。(但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ～1、Ⅱ～2、Ⅲ」

及び「Practical English CommunicationⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は除く) ※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。 ※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について> Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③ ①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

専門基礎科目

別表V-4

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	管理栄養士の化学基礎		2	○	○									
☐	管理栄養士の生物学基礎		2	○	○									
	計		4											

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

外国語科目

別表V-5

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								△ 別表V-2の教養科目と外国語科目を併せて 16単位以上修得すること。
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	英語Ⅲ	演	1	○			○						
☐	英語Ⅳ	演	1	○				○					
☐	英語Ⅴ	演	1	○					○				
☐	英語Ⅵ	演	1	○						○			
☐	英語Ⅶ	演	1	○							○		
☐	英語Ⅷ	演	1	○								○	
	計		8										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

健康教育科目

別表V-6

子 エ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備 考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	スポーツと健康Ⅰ	※	1	○	○									
☐	スポーツと健康Ⅱ	※	1	○		○								
	計		2											

【授業の方法】無印:講義。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

【受講区分】注:スポーツと健康Ⅰ・Ⅱいずれも履修すること。

情報活用科目

別表V-7

子 エ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履 修 年 次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								△ 情報活用科目の受講区分は注のとおり
☐	情報活用演習(教職)	演	1			○							
☐	情報活用演習(応用)	演	1							○			
☐	情報活用演習(統計)	演	1					○					
☐	情報活用演習(表現)	演	1						○				
	計		5										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

【受講区分】

注: 1) (基礎)必修。

2) 教育職員免許状を取得しようとする者は、(基礎)と(教職)必修。

3) 情報活用科目を2単位以上修得した場合の1単位のみは教養科目の単位に含めることができる。

帰国子女科目

別表Ⅴ－8

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本語Ⅰ	演	1		○								△ 帰国子女科目は、教養科目又は外国語の単位に 替えることができる。
☐	日本語Ⅱ	演	1			○							
☐	日本語Ⅲ	演	1				○						
☐	日本語Ⅳ	演	1					○					
☐	日本語Ⅴ	演	1						○				
☐	日本語Ⅵ	演	1							○			
☐	日本の社会と歴史Ⅰ		2						○				
☐	日本の社会と歴史Ⅱ		2							○			
	計		10										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

人間栄養学部 人間栄養学科 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目（A 類）30 単位以上、専門教育科目（B 類）105 単位以上、計 135 単位以上です。
- ② 専門教育科目（B 類）の最低卒業所要単位数の内訳は、下表のとおりとします。

専門教育科目（B 類）		
必修科目	選択科目	計
94	11	105

- ③ 専門教育科目（B 類）については、別表Ⅴ－9 の卒業必修欄に○印の付いている科目 94 単位と選択科目に記載されている科目から 11 単位以上を履修してください。
- ④ 中学校、高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得しようとする者は、①に加えて別表Ⅴ－9 の教免（家庭）欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅴ－10、11 に記載のとおり履修してください（別表Ⅴ－11 の科目は卒業要件に算入することは出来ません）。
- ⑤ 中学校、高等学校教諭一種免許状（保健）を取得しようとする者は、①に加えて別表Ⅴ－9 の教免（保健）欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅴ－12、13 に記載のとおり履修してください（別表Ⅴ－13 の科目は卒業要件に算入することは出来ません）。
- ⑥ フードスペシャリスト受験資格を取得しようとする者は、①に加えて別表Ⅴ－9 の FS 欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑦ 栄養教諭一種免許状を取得しようとする者は、①に加えて別表Ⅴ－9 の栄養教諭欄に○印の付いている科目を履修してください。併せて別表Ⅴ－14、15 に記載のとおり履修してください（別表Ⅴ－15 の科目は卒業要件に算入することは出来ません）。
- ⑧ 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得しようとする者は、①に加えて別表Ⅴ－9 の食品衛生欄に○印の付いている科目を履修してください。
- ⑨ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は、①に加えて別表Ⅷ－1～5により、履修してください（卒業要件に算入することは出来ません）。
- ⑩ 単位を修得した場合（成績表に S・A・B・C・N と表記される）には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

区分		チェック欄	科目名	授業の方法	単位数	卒業必修	管理栄養士	教免（家庭）	教免（保健）	栄養教諭	F S	食品衛生	履修年次								備考
													1		2		3		4		
													春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専門教育科目	人間栄養学基礎分野	☐ 人間と栄養	演	2	○								○								
		☐ 基礎化学実験	実	1	○								○	○							
		☐ 管理栄養士のための統計学	演	2	○									○							
		☐ キャリアプランニング	演	1	○										○						
		☐ 管理栄養士活動論	演	1	○													○			
	人間栄養学調理実習	☐ 調理学実習Ⅰ	実	1	○		○				○		○								
		☐ 調理学実習Ⅱ	実	1	○		○							○							
		☐ 調理学実習Ⅲ	実	1	○										○						
		☐ 調理学実習Ⅳ	実	1	○						○					○					
	専門基礎分野	社会・環境と健康	☐ 社会・環境と健康Ⅰ		2	○	○			○			○			○					
			☐ 社会・環境と健康Ⅱ		2	○	○			○				○			○				
			☐ 社会・環境と健康Ⅲ		2	○	○			○				○				○			
			☐ 公衆衛生学実習	実	1	○	○											○			
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	☐ 解剖学・生理学Ⅰ		2	○	○			○				○	○						
			☐ 解剖学・生理学Ⅱ		2	○	○			○				○		○					
			☐ 生化学Ⅰ		2	○	○							○			○				
			☐ 生化学Ⅱ		2		○										○				
			☐ 微生物学		2	○	○			○				○				○			
			☐ 臨床医学入門Ⅰ		2	○	○									○					
			☐ 臨床医学入門Ⅱ		2	○	○			○				○			○				
			☐ 臨床医学入門Ⅲ		2		○												○		
			☐ 解剖学実習	実	1	○	○							○		○					
			☐ 生理学実習	実	1	○	○									○					
			☐ 臨床医学実習	実	1		○											○			
			☐ 生化学実験Ⅰ	実	1	○	○							○			○				
		☐ 生化学実験Ⅱ	実	1		○										○					
		食べ物と健康	☐ 食品学		2	○	○	○					○	○		○					
			☐ 食品加工学		2	○	○	○					○	○			○				
			☐ 食品衛生学		2	○	○			○			○	○		○					
			☐ 調理学		2	○	○	○					○			○					
			☐ 食品学実験	実	1	○	○						○	○		○					
			☐ 食品加工学実験	実	1	○	○						○	○				○			
			☐ 食品衛生学実験	実	1	○	○							○			○				
			☐ 食事設計実習	実	1	○	○									○					
	専門分野	基礎栄養学	☐ 基礎栄養学Ⅰ		2	○	○	○				○	○		○						
			☐ 基礎栄養学Ⅱ		2	○	○	○					○			○					
			☐ 基礎栄養学実験	実	1	○	○						○		○						
		応用栄養学	☐ 応用栄養学Ⅰ		2	○	○	○					○			○					
			☐ 応用栄養学Ⅱ		2	○	○	○									○				
			☐ 応用栄養学Ⅲ		2	○	○											○			
			☐ 応用栄養学実習	実	1	○	○											○			
		栄養教育論	☐ 栄養教育論Ⅰ		2	○	○			○							○				
			☐ 栄養教育論Ⅱ		2	○	○											○			
			☐ 栄養教育論Ⅲ		2	○	○												○		
			☐ 栄養教育論実習	実	1	○	○			○									○		
		臨床栄養学	☐ 臨床栄養学Ⅰ		2	○	○			○							○				
			☐ 臨床栄養学Ⅱ		2	○	○			○				○				○			
			☐ 臨床栄養学Ⅲ		2	○	○			○									○		
			☐ 臨床栄養学Ⅳ		2	○	○													○	
	☐ 臨床栄養学実習Ⅰ		実	1	○	○			○								○				
	☐ 臨床栄養学実習Ⅱ		実	1	○	○												○			
	公衆栄養学	☐ 公衆栄養学Ⅰ		2	○	○	○						○			○					
		☐ 公衆栄養学Ⅱ		2	○	○											○				
		☐ 公衆栄養学実習	実	1	○	○												○			
	給食経営管理論	☐ 給食経営管理論Ⅰ		2	○	○									○						
		☐ 給食経営管理論Ⅱ		2	○	○										○					
		☐ 給食マネジメント実習	実	1	○	○											○				
		☐ 給食運営管理実習	実	1	○	○										○					

区分			チ エ ッ ク 欄	科目名	授業の方法	単 位 数	卒 業 必 修	管理栄養士	教 免 （家庭）	教 免 （保健）	栄養教諭	F S	食品衛生	履修年次								備考			
														1		2		3		4					
														春	秋	春	秋	春	秋	春	秋				
専門 教育 科目	専門 分野	臨地 実習	☐	臨地実習Ⅰ	実	1	○	○											○						
			☐	臨地実習Ⅱ	実	1	○	○												○					
			☐	臨地実習Ⅲ	実	1		○													○				
			☐	臨地実習Ⅳ	実	1		○													○				
			☐	臨地実習Ⅴ	実	1															○				
			☐	臨地実習Ⅰ・Ⅱ事前事後指導	演	1	○	○													○				
			☐	臨地実習Ⅲ・Ⅳ事前事後指導	演	1		○													○				
			☐	臨地実習Ⅴ事前事後指導	演	1															○				
		総合 演習	☐	総合演習Ⅰ	演	1	○	○														○			
			☐	総合演習Ⅱ	演	1	○	○														○			
			☐	総合演習Ⅲ	演	1		○																○	
			☐	総合演習Ⅳ	演	1		○																○	
	人間栄養学 専門研究	☐	卒業研究	演	4	○														○	○	○			
		☐	卒業論文	演	4															○	○	○			
	資格取得 関連科目	☐	フードスペシャリスト論		2								○							○					
		☐	食品官能評価・識別論		2								○							○					
		☐	食品産業マーケティング論		2								○							○					
		☐	フードコーディネート論		2								○			○									
		☐	食教育法Ⅰ		2							○		○											
		☐	食教育法Ⅱ		2							○			○										
		☐	家庭経営学(含家族関係学)		2				○											○					
		☐	生活経済学		2				○												○				
		☐	被服学(含被服実習)		2				○											○					
		☐	住居学		2				○													○			
		☐	保育学		2				○											○					
		☐	小児保健学		2						○											○			
		☐	児童保健学(学校保健)		2						○												○		
		☐	健康心理学・精神衛生		2						○									○					
		計						139																	

【授業の方法】演:演習、実:実習、無印:講義をさす。

◎別表Ⅴ-9に記載されている科目で、太字(ゴシック)になっている科目が進級基準の要件対象科目となります。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 家庭〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅴ－10

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	履修科目 必要な	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○教科に関する科目

人間栄養学科の専門教育科目(B類)に記載の教免(家庭)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表Ⅴ－11

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	中免	高免	履修年次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	○	●	●							△はいずれか1科目必修
☐	教育基礎論		2	○	○	●	●							
☐	教育心理学		2	△	△			●	●					
☐	発達心理学		2	△	△			●	●					
☐	特別支援教育総論		2	○	○			●	●					
☐	教育社会学		2	○	○					●	●			
☐	教育課程論		2	○	○			●	●					
☐	家庭科教育法Ⅰ	演	2	○	○					○				
☐	家庭科教育法Ⅱ	演	2	○	○						○			
☐	家庭科教育法Ⅲ	演	2	○							○			
☐	家庭科教育法Ⅳ	演	2	○								○		
☐	道徳教育の指導法		2	○						●	●			
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○	○					●	●			
☐	特別活動の指導法		2	○	○			●	●					
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○	○			●	●					
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○	○			●	●					
☐	教育相談		2	○	○			●	●					
☐	教職実践演習(中・高)	演	2	○	○								○	
☐	中学校教育実習	実	5	○								●	●	
☐	高等学校教育実習	実	3		○							●	●	
☐	介護体験実習	実	1	○				●	●					
	計		45	40	31									

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。
 5. ●は春学期または秋学期に開講

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護等の体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特別支援学校において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状 保健〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅴ－12

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	履修科目 必要な	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○教科に関する科目

人間栄養学科の専門教育科目(B類)に記載の教免(保健)欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表Ⅴ－13

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	中 免	高 免	履修年次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	○	●	●							△はいずれか1科目必修
☐	教育基礎論		2	○	○	●	●							
☐	教育心理学		2	△	△			●	●					
☐	発達心理学		2	△	△			●	●					
☐	特別支援教育総論		2	○	○			●	●					
☐	教育社会学		2	○	○					●	●			
☐	教育課程論		2	○	○			●	●					
☐	保健科教育法Ⅰ	演	2	○	○					○				
☐	保健科教育法Ⅱ	演	2	○	○						○			
☐	保健科教育法Ⅲ	演	2	○								○		
☐	保健科教育法Ⅳ	演	2	○									○	
☐	道徳教育の指導法		2	○						●	●			
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○	○					●	●			
☐	特別活動の指導法		2	○	○			●	●					
☐	教育方法・情報通信技術活用論		2	○	○			●	●					
☐	生徒指導(進路指導を含む)		2	○	○			●	●					
☐	教育相談		2	○	○			●	●					
☐	教職実践演習(中・高)	演	2	○	○								○	
☐	中学校教育実習	実	5	○								●	●	
☐	高等学校教育実習	実	3		○							●	●	
☐	介護体験実習	実	1	○				●	●					
	計		45	40	31									

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部と△印を付された科目のうち1科目以上を履修しなければならない。
 3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
 4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。
 5. ●は春学期または秋学期に開講

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護等の体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特別支援学校において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

教職課程履修について〔栄養教諭一種免許状〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教育職員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになります。下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅴ－14

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	科目 必要履修が	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2	○	●	●							春学期または秋学期に開講
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1	○		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1	○		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「栄養に係る教育に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○栄養に係る教育に関する科目

人間栄養学科の専門教育科目(B類)に記載の栄養教諭欄に○印のある科目を履修してください。

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、次表のとおり履修してください。

別表Ⅴ－15

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単位	栄養教諭	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	●	●							
☐	教育基礎論		2	○	●	●							
☐	発達心理学		2	○			●	●					
☐	特別支援教育総論		2	○			●	●					
☐	教育課程・方法論		2	○			●	●					
☐	道徳・特別活動論		2	○					●	●			
☐	総合的な学習の時間の指導法		2	○					●	●			
☐	生徒指導論		2	○			●	●					
☐	教育相談		2	○			●	●					
☐	教職実践演習(栄養教諭)	演	2	○								○	
☐	栄養教育実習	実	2	○							●	●	
	計		22	22									

〔注〕1. 栄養教諭一種免許状を取得する者は、栄養教諭欄に○印を付された科目全部を履修しなければならない。

2. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。

3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。

4. 履修年次欄に○印を付されたとおり履修すること。

5. 栄養教諭一種免許状の課程履修は、人間栄養学科の学生のみを対象とする。

6. ●は春学期または秋学期に開講

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

聖徳大学 人間栄養学部人間栄養学科 カリキュラムマップ

	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
	学びの基礎を身につけよう		栄養士・管理栄養士に必要な 知識・技能を身につけよう		栄養・食の専門家としての実力を 実社会で確かめよう		さあ、総仕上げ！	
Public Health Nutrition (社会と健康) を学ぶ*1,3			●社会・環境と健康Ⅰ 					

人に頼られる
↓
人に喜ばれる
↓
人に愛される
↓
科学的根拠に基づく「栄養の指導」ができる
↓
個人・社会のニーズに応じたおいしい食事を開発・提供できる
↓
すべての人々とコミュニケーションをとることができる

☆ 多様性社会で貢献する実践力のある栄養士・管理栄養士 ☆

* 1 医療・福祉コースにおける重点科目

* 2 食品開発コースにおける重点科目

* 3 学術・総合コースにおける重点科目

* 4 教職関係科目

聖徳大学 人間栄養学部人間栄養学科 学びで得られる成果（Learning Outcomes）

食に興味関心を持ち、自主的学習態度を身につける		科学的根拠を活用するための知識を身につける		科学的根拠を活用するための技能を身につける		科学的根拠を構築する活動をスタートする		学位授与の方針で掲げる学習成果	
1年次		2年次		3年次		4年次		学習成果	
Public Health Nutrition (社会と健康)を学ぶ		●保健・医療・福祉等について基礎知識並びに環境因子について理解できる。		●地域・国・地球レベルでの健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や活動について説明できる。 ●衛生行政、衛生法規、地域保健対策等について理解できる。 ●栄養管理の遂行に必要な食事摂取基準の活用法、食事調査法が理解できる。		●健康増進と疾病予防を目指す公衆栄養活動が理解できる。			
Clinical Nutrition and Dietetics (栄養・代謝と疾患)を学ぶ		●人体を生体成分、細胞、組織、臓器・器官系および個体のレベルで説明できる。 ●栄養素等の生体内での働き、それらの相互作用について理解できる。 ●食事組成や食事制限による生体変化を知り、栄養状態の変化が説明できる。 ●食事摂取基準を理解し、各指標の活用方法について説明できる。		●疾病の原因、病態、症候について人体の構造と機能に関連付けて理解し、診断、治療の概要について説明できる。 ●実験動物を用い、食事組成や食事制限による生体の変化を観察し、栄養状態の変化を概説できる。		●各ライフステージ、運動時における生活環境、食生活の栄養素摂取の特徴を理解し、栄養管理ができる。 ●各疾患・病態時の栄養管理プロセスを説明できる。 ●臨地実習で、実践トレーニングができる。（医療機関）		●医療機関、福祉施設の栄養管理、食事介助が理解できる	
Food Science and Food Service Management (食品と調理)を学ぶ		●食品の化学成分（栄養成分、嗜好成分、機能性成分）の構造・性質などの基礎知識を理解できる。 ●食品衛生・食品の安全性確保に関するリスクアナリシスの考え方について説明できる。 ●調理の意義を説明できる。 ●日常食の献立作成の基本（主食、主菜、副菜、汁物）と1食単位及び1日単位の食事設計と調理ができる。		●調理・加工による成分変化を理解できる。 ●食品の表示・安全性について理解できる。 ●給食施設における衛生管理・生産管理・危機管理ができる。 ●食事摂取基準を活用して、給食栄養目標量を決定できる。		●臨地実習前に給食マネジメントに関する実践トレーニングができる。		●食文化をふまえた調理ができる。 ●給食と経営管理が理解できる。 ●食品成分の機器分析を体験できる	
Teacher training (教育を学ぶ)		●家庭科教諭免許や栄養教諭免許の取得に必要な基礎的力をつけることができる。		●模擬授業等を通じて、家庭科教諭免許や栄養教諭免許の取得に必要な応用力をつけることができる。		●教育実習に必要な知識、能力を再確認し実践現場とのつながりを具体的に考えることができる。		●実際の教育の現場で子どもたちの教育に必要な能力や社会資源を確かめることができる。	
Basic/Applied Ability (学びの基礎力/応用力)を身につける		●生物や化学の基礎を学び生命科学の基本が理解できる。 ●実践栄養活動に必要な情報の統計的理解と表現ができる。		●食・栄養に関連した英語が理解ができる。		●食・栄養に関する専門的な英語が理解できる。		●食・栄養の専門英語を使うことができる。 ●栄養士、管理栄養士のための研究、統合学習をし、必要な能力を高めることができる。	
Humanity (人間性)を高める		●管理栄養士の職業倫理を理解し、自覚する。 ●大学の学びについて他者とコミュニケーションができる。 ●規則正しい団体生活とは何かを理解できる		●管理栄養士に関連するアメリカの教育、文化、生活について体験を通したレベルで理解できる。		●臨地実習にあたり他者とコミュニケーションができる。		●食に関わる専門職である管理栄養士として正しいマナーをすることができる。	
								☆ おいしさと栄養を両立させた食事を提供できる：健康な人、保護や看護を必要とする人、全てのの人に喜ばれる食事を提供し、社会全体の健康向上に貢献することができる。	
								☆ 開発できる：社会で求められている食のあり方を分析し、新たな食を提案することができる。	
								☆ 教育できる：栄養学の未来を見据え、自らが身につけた知識・考えを次の世代に伝えることができる。	
								☆ 研究できる：人間の栄養に関して科学的に思考し、研究し、その結果を社会に還元できる。	
								☆ 社会人になる：人間の栄養に携わる使命感を持ち、他の人と一緒に責任ある行動をすることができる。	

人に頼られる人、人に喜ばれる人、人に愛される人
↓
科学的根拠に基づく「栄養の指導」ができる
↓
個人のニーズに応じたおいしい食事を提供できる
↓
すべての人々と「コミュニケーション」をとることができる

☆ 多様性社会で貢献する実践力のある栄養士・管理栄養士 ☆

看護学部 看護学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学部看護学科は、本学の理念である「確かな人間性と洞察力を備えた専門性の高い実践力を有する自立した女性の育成」のもと、保健医療福祉分野における人材育成を目的に、2014年に設置されました。

看護学部看護学科は、本学の人間教育に基づき、自らを律し、自立した女性としてチームの中で主体的に考え実践できる、凛とした看護専門職を育成し、地域社会へ貢献します。

看護学部看護学科は、本学教育理念に基づいて、以下の三つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 高い人間的資質と倫理性を備え、高度な医療と地域の看護に従事できる凛とした看護専門職女性を育成する。
2. 地域医療体制の向上に寄与する。
3. 保健・医療・福祉に貢献できる実践的な教育研究を推進する。

【学習成果】

1. 看護専門職に必要な気品と実践力を備えている。
2. 看護実践に必要な専門的知識・技術を修得し、それに基づいた総合的な判断力と課題解決力を有し、対話による合意形成を行うことができる。
3. 保健・医療・福祉・教育などの多職種との連携を図り、どんな時代にも、どんな場所でも、寛容に対応でき、必要とされるケアが提供できる。
4. 地域の特性を踏まえて健康課題を探究し、実践できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学部看護学科では、建学の精神を具現化する核となる科目として全学共通科目と学部共通科目を配置し、その上に専門性の高い実践力を育む専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）による教育課程を編成しています。

学部共通科目と専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

1. 看護学部看護学科の教育課程のうち、学部共通科目、専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）は、四年間の教育を通じて看護専門職に必要な基礎的能力から看護実践に必要な総合的かつ専門的な知識と技能が修得できるように編成する。
2. 学部共通科目には、自己教育力の醸成や専門職としての基盤をつくるための1年次生から4年次生混合の少人数ゼミを配置する。
3. 専門教育科目：専門基礎科目には、根拠に基づく看護を展開するために必要な能力を身につける科目を配置する。
4. 専門教育科目：専門科目には、講義、演習、実習科目をおき、それらが有機的に連動する内容とする。

5. 専門科目には、看護学を学ぶ基礎としての「看護学原論」を置き、其々の専門分野の特性を理解するための各『総論』とのつながりを明確にする。さらに、一年次から四年次まで段階的に『看護実践シミュレーション演習』を配置し、『方法論』と連動させながら多様な場での看護実践力を身につける。さらに、『看護学実習』では、1年次の実習で地域や病院の理解を促し、2年次・3年次と多様な臨地での実習を行うことで、人々の健康や健康障害への理解と看護過程の展開を学べるような配置にする。加えて、1年次から4年次に実習の事前・事後に『実践演習』を配置し実習での体験を深める。
6. 保健師課程では、保健行政やヘルスケアマネジメント、ヘルスデータサイエンスを学び、公衆衛生看護活動を科学的根拠に基づき展開できるようにする。

【教育課程実施の方針】

1. 講義科目はアクティブ・ラーニングを取り入れて、学生が主体的に学べるように工夫し実施する。
2. 演習科目は『看護実践シミュレーション演習』と『方法論』及び『実践演習』を連動させて実施する。
3. 実習科目は、＜ライフステージ＞と＜場＞を意識した内容とし、事前事後の学びの評価を充実する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

看護学部看護学科では、本学の人間教育の実績を活かして、保健医療福祉分野に貢献できる看護専門職を育成するため、高い人間的資質と倫理性を備え、高度な医療と地域の看護に従事するために、看護への意欲を持つ人、他者と協働しながら課題に取り組むことを大切にする人、物事を冷静に論理的に捉えようと努力できる人の入学を求めています。具体的には以下の通りです。

1. 看護への意欲をもつ人
 - 1) 看護に関心があり、保健・医療・福祉分野に貢献したい人
 - 2) 看護師・保健師の資格取得に向けて努力できる人
2. 他者と協働しながら課題に取り組むことを大切にする人
 - 1) 他者への思いやりがあり、人間の弱さを共感的に理解できる人
 - 2) 他者の言葉に耳を傾け、気配りが行き届く優しい関係を築ける人
3. 物事を冷静に論理的に捉えようと努力できる人
 - 1) 生命の大切さ、人間の尊厳を理解できる人
 - 2) 文章読解力と冷静で的確な判断力をもった人

看護学部看護学科では、このような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意しています。具体的には、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の到達状況を測る
手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

学外研修ルーブリック

1春、2秋

課題探究学習セミナー I～IV
自己評価ルーブリック

1～4春

DP ルーブリック

毎学年末

人間を全人的に理解する能力に関する
科目のGPA

毎学年末

1. 看護専門職に必要な気品と
実践力を備えている

各科目シミュレーション演習 自己
評価

毎学年末

卒業時看護技術到達度チェック
自己評価

毎学年末

DP ルーブリック

毎学年末

人・ヒトを総合的に理解する能力
に関する科目のGPA

毎学年末

2. 看護実践に必要な専門的
知識・技術を習得し、それに基
づいた総合的な判断力と課題
解決力を有し、対話による合意
形成を行うことができる

根拠に基づく看護を計画的に実践
する基礎的能力に関する科目の
GPA

毎学年末

発達課題対応する看護実践能力
に関する科目のGPA

毎学年末

DP ルーブリック

毎学年末

多様なケア環境とチーム体制に関
する実践能力に関する科目の
GPA

毎学年末

専門職として研鑽し続ける基本的
能力に関する科目のGPA

毎学年末

根拠に基づく判断・看護実践能力
に関する臨地実習評価

毎学年末

3. 保健・医療・福祉・教育など
の多職種との連携を図り、どん
な時代にも、どんな場所でも、
寛容に対応でき、必要とされる
ケアが提供できる

キャリア・アセスメントテスト

3春

DP ルーブリック

毎学年末

根拠に基づく判断・看護実践能力
に関する臨地実習評価

毎学年末

4. 地域の特徴を踏まえて健康
課題を探究し、実践できる

看護学部 看護学科 履修要項

- (1) 看護学部看護学科の卒業所要単位数は、次表のとおり全学共通科目は18単位、学部共通科目は4単位、専門教育科目は109単位、合計131単位以上です。

全学共通科目					学部共通科目		専門教育科目				合計
聖徳 教育	外国語	情報 活用	教養	小計	課題探究 学習 セミナー	小計	必修科目		選択 科目	計	
							専門基礎 科目	専門 科目			
7	4	1	6	18	4	4	29	80	—	109	131

- (2) 看護学部看護学科の学生は、全学共通科目については、別表Ⅳ-1、Ⅳ-2、Ⅳ-3、Ⅳ-4、Ⅳ-5のとおり履修してください。
- ① 聖徳教育科目(別表Ⅵ-1)はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
 - ② 外国語科目(別表Ⅵ-2)は英語Ⅰ～Ⅳの4単位が必修です。
 - ③ 情報活用科目(別表Ⅵ-3)は情報活用演習(基礎)の1単位が必修です。
 - ④ 教養科目(別表Ⅵ-5)は、6単位以上選択必修です。
- (3) 学部共通科目(別表Ⅳ-6)は、課題探究学習セミナーⅠ～Ⅳの4単位が卒業必修です。
- (4) 専門教育科目については、別表Ⅵ-8のとおり卒業必修に○の付された専門基礎科目29単位と専門科目80単位の合計109単位が卒業必修となります。
- (5) 保健師国家試験受験資格取得希望者の選択については、選抜試験によって決定します。選抜試験は2年次の講義が終了した以降に実施する予定です。なお、選抜試験詳細はガイダンスで説明します。
- (6) 単位を取得(成績表にS/A/B/C/Nと表記)した場合には、各別表の履修チェック欄に印をつけ、履修漏れの防止に努めてください。
- ※ 保健師課程履修希望者のうち、保健師資格取得後に養護教諭二種免許状の申請を予定している学生は、下記の4科目について、必ず在学中に履修し取得しておくこと。
- スポーツと健康Ⅰ
 - スポーツと健康Ⅱ
 - 情報活用演習(教職)
 - 日本国憲法
- ※ 卒業後に社会福祉主事任用資格の取得を希望する学生は、下記の3科目を在学中に履修し取得しておくこと。
- 公衆衛生学
 - 社会保障論
 - 看護学原論
- (7) 2年次から3年次へ進級基準については、卒業要件単位数のうち、進級基準要件の科目を修得しなければなりません。詳細は2ページに記載されている⑧進級基準についてを確認してください。

[全学共通科目]

聖徳教育科目

別表Ⅵ-1

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	聖徳教育Ⅰ	演	1	○	○	○	○	○	○	○	○	聖徳教育の詳細については、学生便覧、シラバスを参照すること。(通年履修)	
☐	聖徳教育Ⅱ	演	1	○	○			○					
☐	SEITOKU Academic LiteracyⅠ	演	1	○	○								
☐	SEITOKU Academic LiteracyⅡ	演	1	○	○	○							
☐	SEITOKU Academic LiteracyⅢ	演	1	○			●	●					
☐	小笠原流礼法基礎講座		2	○		○							
計			7										

外国語科目

別表Ⅵ-2

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								外国語科目については、卒業必修科目として英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ(4単位)必修。
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	英語Ⅲ	演	1	○			○						
☐	英語Ⅳ	演	1	○				○					
☐	英語Ⅴ	演	1						○				
☐	英語Ⅵ	演	1						○				
☐	英語Ⅶ	演	1								○		
☐	英語Ⅷ	演	1									○	
☐	フランス語Ⅰ	演	1			○							
☐	フランス語Ⅱ	演	1			○							
☐	フランス語Ⅲ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅳ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅴ	演	1							○			
☐	フランス語Ⅵ	演	1							○			
☐	フランス語Ⅶ	演	1								○		
☐	フランス語Ⅷ	演	1								○		
☐	ドイツ語Ⅰ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅱ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅲ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅳ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅴ	演	1							○			
☐	ドイツ語Ⅵ	演	1							○			
☐	ドイツ語Ⅶ	演	1								○		
☐	ドイツ語Ⅷ	演	1								○		
☐	イタリア語Ⅰ	演	1			○							
☐	イタリア語Ⅱ	演	1			○							
☐	イタリア語Ⅲ	演	1				○						
☐	イタリア語Ⅳ	演	1				○						
☐	イタリア語Ⅴ	演	1							○			
☐	イタリア語Ⅵ	演	1							○			
☐	イタリア語Ⅶ	演	1								○		
☐	イタリア語Ⅷ	演	1								○		
☐	中国語Ⅰ	演	1			○							
☐	中国語Ⅱ	演	1			○							
☐	中国語Ⅲ	演	1				○						
☐	中国語Ⅳ	演	1				○						
☐	中国語Ⅴ	演	1							○			
☐	中国語Ⅵ	演	1							○			
☐	中国語Ⅶ	演	1								○		
☐	中国語Ⅷ	演	1								○		
☐	韓国語Ⅰ	演	1			○							
☐	韓国語Ⅱ	演	1			○							
☐	韓国語Ⅲ	演	1				○						
☐	韓国語Ⅳ	演	1				○						
☐	韓国語Ⅴ	演	1							○			
☐	韓国語Ⅵ	演	1							○			
☐	韓国語Ⅶ	演	1								○		
☐	韓国語Ⅷ	演	1								○		
計			48										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

情報活用科目

別表Ⅵ－3

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								(※)保健師課程で養護教諭二種免許取得希望者は、情報活用演習(教職)を必ず履修すること。
☐	情報活用演習(教職)(※)	演	1			○							
☐	情報活用演習(応用)	演	1					○					
☐	情報活用演習(統計)	演	1					○					
☐	情報活用演習(表現)	演	1					○					
計			5										

帰国子女科目

別表Ⅵ－4

デ ィ ツ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	履 修 年 次	履 修 年 次								備考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	日本語Ⅰ	演	1		○									
☐	日本語Ⅱ	演	1			○								
☐	日本語Ⅲ	演	1				○							
☐	日本語Ⅳ	演	1					○						
☐	日本語Ⅴ	演	1						○					
☐	日本語Ⅵ	演	1							○				
☐	日本の社会と歴史Ⅰ		2						○					
☐	日本の社会と歴史Ⅱ		2							○				
計			10											

教養科目

別表Ⅵ－5

	チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
A 類	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(芸術領域)		2	☆	○								☆印を付した教養科目より 6単位以上選択必修。 同じ科目(領域)を重複履 修することはできません。
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文学領域)		2	☆	○								
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(歴史領域)		2	☆	○								
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅰ)		2	☆	○								
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)		2	☆	○								
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(看護領域)		2	☆	○								
B 類	☐	自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2	☆	○								
	☐	自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2	☆	○								
	☐	自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2	☆	○								
	☐	自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2	☆	○								
	☐	自然・社会・科学技術を考える(健康領域)		2	☆	○								
C 類	☐	心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2	☆	○								
	☐	心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2	☆	○								
	☐	心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2	☆	○								
	☐	心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2	☆	○								
	☐	心とからだの美的本質を追求する(ケア領域)		2	☆	○								
D 類	☐	日本国憲法 (※)		2		○							(※)保健師課程で養護教諭 二種免許取得希望者は必 ず履修すること。	
	☐	スポーツと健康Ⅰ (※)	※	1		○								
	☐	スポーツと健康Ⅱ (※)	※	1			○							
計				46										

【学部共通科目】

別表Ⅵ－6

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	卒業必修	履 修 年 次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	課題探究学習セミナーⅠ(自己教育力の基盤)	演	1	○	○								4単位必修
☐	課題探究学習セミナーⅡ(自己研鑽の方法)	演	1	○			○						
☐	課題探究学習セミナーⅢ(キャリアデザインの構想)	演	1	○					○				
☐	課題探究学習セミナーⅣ(専門性の探究)	演	1	○							○		
計			4										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

チェック欄	区分	授業科目	授業の方法	単 位	副専攻必修	履修年次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	共通	ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅠ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	●	●	●	●	●	●			
☐		アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	●		●		●		●		
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅠ		2				●		●				
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					●		●			
☐		キャリア教育関連科目※												
☐	価値増幅型 マネジメント 副専攻	現代社会におけるビジネスリテラシー		2		●	●	●	●					
☐		法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			●		●					
☐		就活にも役立つメディアリテラシー		2		●		●						
☐		戦略的ビジネスマネジメント		2				●		●		●		
☐		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		●	●	●	●	●	●			
☐	グローバル 人材育成 副専攻	世界のニュースを読み解く ～国際社会問題を知る～		2					●		●		●	
☐		グローバルコミュニケーション		2				●		●		●		
☐		Practical English CommunicationⅠ		2			○							
☐		Practical English CommunicationⅡ		2					○					
☐		Practical English CommunicationⅢ		2							○			
☐	ビジネス 再生・創生 副専攻	新時代のリーダーシップデザイン		2			●		●					
☐		戦略的ビジネスプランニング		2		●		●		●		●		
☐		顧客価値を創出するマーケティング		2			●		●		●		●	
☐		SDGsを実現するGX&SXの基本		2			●		●		●		●	
☐		WEBテクノロジーの基礎と応用		2			●		●		●		●	
☐	ビジネス・ データサイエ ンス 副専攻	文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			●		●					
☐		ビジネス・データサイエンスⅠ		2		●		●		●				
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～1		2			●		●		●			
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～2		2		●	●	●	●	●	●	●	●	
☐		ビジネス・データサイエンスⅢ		2				●	●	●	●	●	●	
☐	社会活性 化・ 価値創造 副専攻	地域社会の価値を創造する実践論		2			●		●					
☐		行政の役割を体験するインターンシップ		2				●		●				
☐		行政の理解と試験対策		2			●		●		●			
☐		起業(事業創造)に向けた実践論		2			●		●		●		●	

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※修得単位は、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。

但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ～1、Ⅱ～2、Ⅲ」及び「Practical English CommunicationⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は除く

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。

※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

Business Field Linkageプログラムにおける副専攻の履修方法は下記の通りです。

修了要件を満たした場合は卒業時に副専攻修了証が授与されます。

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。

詳細は教育支援課にて確認してください。

[専門教育科目]

別表Ⅵ-8

		チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	① 卒業必修	② 保健師	履修年次								備考
								1		2		3		4		
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専門 教育科目	専門 基礎科目	☐ 形態機能学Ⅰ(呼吸器・循環器他)		2	○		○								※看護師課程のみの 学生も選択可。	
		☐ 形態機能学Ⅱ(消化器・神経他)		2	○		○									
		☐ 形態機能学Ⅲ(内分泌・泌尿器他)		2	○			○								
		☐ 看護のための生化学		1	○		○									
		☐ 看護のための薬理学		2	○			○								
		☐ 看護のための病理学		1	○			○								
		☐ 看護のための感染症学		1	○		○									
		☐ 生物入門		1			○									
		☐ 疾病治療論Ⅰ(呼吸器・循環器他)		2	○				○							
		☐ 疾病治療論Ⅱ(消化器・内分泌他)		2	○				○							
		☐ 疾病治療論Ⅲ(神経・運動器他)		2	○				○							
		☐ 疾病治療論Ⅳ(精神・老年)		1	○					○						
		☐ 疾病治療論Ⅴ(母子)		1	○					○						
		☐ 臨床栄養学		2	○					○						
		☐ 疫学 ※		2		○				○						
		☐ 保健統計と健康		2	○	○			○							
		☐ 公衆衛生学		1	○			○								
		☐ 臨床心理学		1	○			○								
		☐ 臨床検査法		1	○					○						
		☐ 社会保障論		2	○		○									
		☐ 保健医療福祉システム論Ⅰ(保健・医療行政) ※		2		○				○						
		☐ 保健医療福祉システム論Ⅱ(福祉行政) ※		1		○				○						
		☐ 医療安全学		1	○					○						
		計		35												

	チ エ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	① 卒 業 必 修	② 保 健 師	履修年次								備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
							1		2		3		4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
専門 教育 科目	専 門 科 目	☐ 看護学原論		2	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

	チ ェ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	① 卒 業 必 修	② 保 健 師	履修年次								備考
							1		2		3		4		
							春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	☐ 精神看護学総論		1	○					○					
		☐ 精神看護学方法論	演	2	○					○					
		☐ 老年看護学総論		1	○				○						
		☐ 成人・老年看護学方法論Ⅲ (QOL維持期)	演	2	○					○					
		☐ 公衆衛生看護活動論Ⅰ (対象別の支援)		2		○				○					
		☐ 公衆衛生看護活動論Ⅱ (保健指導の技術)	演	2		○				○					
		☐ データヘルスプロモーション理論・実践論		2		○				○					
		☐ 公衆衛生看護政策論		2		○							○		
		☐ クリティカルケア論		1									○		
		☐ 災害看護論		1	○								○		
		☐ 専門職連携活動論		1	○								○		
		☐ 国際看護論		1									○		
		☐ 看護倫理学		1	○					○					
		☐ 看護マネジメント論		2	○								○		
		☐ 感染看護学		1	○					○					
		☐ 看護情報学		1										○	
		☐ 看護研究の基礎		1	○				○						
		☐ 看護研究方法論	演	1	○					○					
		☐ 看護研究ゼミナールⅠ (研究計画)	演	1	○						○				
		☐ 看護研究ゼミナールⅡ (卒業研究)	演	1	○								○		
		☐ 実践演習Ⅰ (看護実践の基礎)	演	1	○				○						
		☐ 実践演習Ⅱ (根拠に基づいた看護実践)	演	1	○					○					
		☐ 実践演習Ⅲ (看護実践への準備・まとめ)	演	2	○								○		
		☐ 実践演習Ⅳ (多様なケア環境への実践)	演	1	○									○	
		☐ 看護入門実習	実	1	○				○						
		☐ コミュニティ看護実習Ⅰ (生活者)	実	1	○				○						
		☐ コミュニティ看護実習Ⅱ (要支援者)	実	1	○					○					
		☐ 看護基盤実習	実	2	○					○					
		☐ 療養生活看護実習Ⅰ (急性期)	実	2	○								○		
		☐ 療養生活看護実習Ⅱ (回復期)	実	2	○								○		
		☐ 療養生活看護実習Ⅲ (慢性期)	実	2	○								○		
		☐ 精神保健看護実習	実	2	○								○		
		☐ 地域・在宅看護実習	実	2	○									○	
		☐ 育成看護実習Ⅰ (小児)	実	2	○								○		
		☐ 育成看護実習Ⅱ (母性)	実	2	○								○		
		☐ 外来看護実習	実	1	○								○		
		☐ 健康増進訪問実習	実	1	○									○	
		☐ 看護統合実習	実	2	○									○	
		☐ 公衆衛生看護コミュニティ実習	実	2		○								○	
		☐ 公衆衛生看護マネジメント実習	実	3		○								○	
		単 位 計		97											

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次欄の○印は開講時期をさす。

◎別表Ⅵ-Ⅷに記載されている科目で、太字(ゴシック)になっている科目は、進級基準要件の科目となります。

令和7年度入学生 聖徳大学 看護学部看護学科 カリキュラムマップ(看護師+保健師資格)

人への理解を深め、円滑な人間関係を築く能力を強化しよう

アセスメント力を重点的に高めよう

アセスメントに基づいた看護の実践力を高めよう

地域に目を向け感性豊かな看護実践者をめざそう

	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
人間を全人的に理解する基礎的能力	全学共通科目（A領域：自分を見つめ・広げ・伝える領域、B領域：自然・社会・科学技術を考える領域、C領域：心とからだの美的本質を追求する領域）から6単位以上選択必修							
	全学共通科目（D領域：スポーツと健康Ⅰ、スポーツと健康Ⅱ、日本国憲法、Business Field Linkag、くさび型教養科目：3,4年生）							
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
	情報活用演習（基礎）	情報活用演習（教職）						
	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ				
	SEITOKU Academic LiteracyⅠ		SEITOKU Academic LiteracyⅢ					
人・ヒトを総合的に理解する能力	形態機能学Ⅰ	形態機能学Ⅲ	疾病治療論Ⅰ	疾病治療論Ⅳ				
	形態機能学Ⅱ	看護のための薬理学	疾病治療論Ⅱ	疾病治療論Ⅴ				
	看護のための生化学	看護のための病理学	疾病治療論Ⅲ	臨床栄養学				
	看護のための感染症学							
根拠に基づく看護を計画的に実践する基礎的能力	看護学原論	公衆衛生学	保健統計と健康	疫学				
			保健医療福祉システム論Ⅰ	保健医療福祉システム論Ⅱ				
	基礎看護技術Ⅰ	基礎看護技術Ⅱ	基礎看護技術Ⅲ	健康行動・健康教育論				
			ヘルスアセスメント	臨床検査法				
			看護過程論					
		看護実践シミュレーションⅠ	看護実践シミュレーションⅡ-1	看護実践シミュレーションⅡ-2	看護実践シミュレーションⅢ-1	看護実践シミュレーションⅢ-2	看護実践シミュレーションⅣ-1	看護実践シミュレーションⅣ-2
	課題探究学習セミナーⅠ		課題探究学習セミナーⅡ	課題探究学習セミナーⅢ			課題探究学習セミナーⅣ	
発達課題に対応する看護実践能力		成人看護学総論	老年看護学総論	小児看護学総論	小児看護学方法論			
		臨床心理学	家族看護学の基礎	精神看護学総論	母性看護学方法論			
			母性看護学総論	精神看護学方法論				
専門職として研鑽し続ける基本的能力	実践演習Ⅰ		実践演習Ⅱ	看護史と看護理論概説		実践演習Ⅲ	実践演習Ⅳ	看護情報学
				医療安全学			看護マネジメント論	
				看護倫理学				
				感染看護学				
多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力		看護研究の基礎		看護研究方法論	看護研究ゼミナールⅠ		看護研究ゼミナールⅡ	
	社会保障論		公衆衛生看護学総論	地域・在宅看護総論	地域・在宅看護方法論		専門職連携活動論	
			成人・老年看護学方法論Ⅰ（急性・回復期）	成人・老年看護学方法論Ⅱ（慢性・終末期）	成人・老年看護学方法論Ⅲ（QOL維持期）		災害看護論	
		コミュニケーション論					国際看護論	
根拠に基づく判断・看護実践能力							クリティカルケア論	
	看護入門実習		看護基盤実習			外来看護実習	健康増進訪問実習	
	コミュニティ看護実習Ⅰ		コミュニティ看護実習Ⅱ			精神保健看護実習	看護統合実習	
						療養生活看護実習Ⅰ（急性期）	地域・在宅看護実習	
						療養生活看護実習Ⅱ（回復期）	公衆衛生看護マネジメント実習	
						療養生活看護実習Ⅲ（慢性期）	公衆衛生看護コミュニティ実習	
						育成看護実習Ⅰ（小児）		
公衆衛生看護の実践能力			保健統計と健康	健康行動・健康教育論	データヘルスプロモーション理論・実践論			
				健康行動・健康教育論	公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護活動論Ⅱ	公衆衛生看護政策論	
				疫学				
			保健医療福祉システム論Ⅰ	保健医療福祉システム論Ⅱ				

地域に貢献する
凜とした看護専門職者

聖徳大学 看護学部看護学科（看護師課程+保健師課程）学びで得られる学習成果（Learning Outcomes）

	人への理解を深め、円滑な人間関係を築く能力を強化しよう	アセスメント力を重点的に高めよう	アセスメントに基づいた看護の実践力を高めよう	地域に目を向け感性豊かな看護実践者をめざそう	学位授与の方針で掲げる学習成果
	1年次	2年次	3年次	4年次	学習成果
人間を全人的に理解する基礎的能力	人間理解のための知識が身についている	グローバル社会におけるコミュニケーション力が身についている	グローバル社会におけるコミュニケーション力が身についている	グローバル社会におけるコミュニケーション力が身についている	1.看護専門職に必要な気品と実践力を備えている
人・ヒトを総合的に理解する能力	人体の構造と機能、主な疾患について説明できる	主な疾患と対象の病態生理について説明できる			2.看護実践に必要な専門的知識・技術を修得し、それに基づいた総合的な判断力と課題解決力を有し、対話による合意形成を行うことができる
根拠に基づく看護を計画的に実践する基礎的能力	看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度の一部が身についている	看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度が身についている	看護実践に必要な課題別の知識・技術・態度が身についている	多様な環境に合わせた看護実践に必要な知識・技術・態度が身についている	
発達課題に対応する看護実践能力	成人期の発達課題、人の心理について説明できる	各期の発達課題等について説明できる	看護実践に必要な総合的かつ専門的な知識・技術・態度が身についている		
専門職として研鑽し続ける基本的能力	看護を実践的・研究的に学ぶための準備ができる	看護を実践的・研究的に学び、多面的な視点から説明できる	看護を実践的・研究的に学び、具体的な方法が身についている	看護職としての看護管理の視点を持ち、看護ケアの質の向上のための研究の基礎が身についている	3.保健・医療・福祉・教育などの多職種との連携を図り、どんな時代にも、どんな場所でも、寛容に対応でき、必要とされるケアが提供できる
多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力	多様なケア環境で多職種と連携できる知識・技術・態度の一部が身についている	多様なケア環境で多職種と連携できる知識・技術・態度の一部が身についている	多様なケア環境で多職種と連携できる知識・技術・態度が身についている	多様なケア環境で多職種と連携できる知識・技術・態度が身についている	
根拠に基づく判断・看護実践能力	病院・施設等での看護の機能と役割が説明できる	病院や施設における対象の看護の必要性を説明できる	病院や施設において対象の発達段階および健康の段階に応じた看護を実践できる	地域の特性と健康課題を探究し、看護の実際の場面での課題解決ができる実践力が身についている	
公衆衛生看護の実践能力		保健医療福祉システム等について説明できる	地域ケアの質の管理を説明できる	公衆衛生看護の展開方法を説明できる	4.地域の特性を踏まえて健康課題を探究し、実践できる

地域に貢献する**凛**とした看護専門職者

令和7年度入学生 聖徳大学 看護学部看護学科 カリキュラムマップ(看護師資格)

人への理解を深め、円滑な人間関係を築く能力を強化しよう

アセスメント力を重点的に高めよう

アセスメントに基づいた看護の実践力を高めよう

地域に目を向け感性豊かな看護実践者をめざそう

	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期	4年次春学期	4年次秋学期
人間を全人的に理解する基礎的能力	全学共通科目（A領域：自分を見つめ・広げ・伝える領域、B領域：自然・社会・科学技術を考える領域、C領域：心とからだの美的本質を追求する領域）から6単位以上選択必修							
	全学共通科目（D領域：スポーツと健康Ⅰ、スポーツと健康Ⅱ、日本国憲法、Business Field Linkag、くさび型教養科目：3,4年生）							
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ				
	情報活用演習（基礎）	情報活用演習（教職）						
	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ	聖徳教育Ⅰ
	聖徳教育Ⅱ	小笠原流礼法基礎講座		聖徳教育Ⅱ				
	SEITOKU Academic LiteracyⅠ		SEITOKU Academic LiteracyⅢ					
人・ヒトを総合的に理解する能力	形態機能学Ⅰ	形態機能学Ⅲ	疾病治療論Ⅰ	疾病治療論Ⅳ				
	形態機能学Ⅱ	看護のための薬理学	疾病治療論Ⅱ	疾病治療論Ⅴ				
	看護のための生化学	看護のための病理学	疾病治療論Ⅲ	臨床栄養学				
	看護のための感染症学							
根拠に基づく看護を計画的に実践する基礎的能力	看護学原論	公衆衛生学	保健統計と健康	疫学				
			保健医療福祉システム論Ⅰ	保健医療福祉システム論Ⅱ				
	基礎看護技術Ⅰ	基礎看護技術Ⅱ	基礎看護技術Ⅲ	健康行動・健康教育論				
			ヘルスアセスメント	臨床検査法				
			看護過程論					
		看護実践シミュレーションⅠ	看護実践シミュレーションⅡ-1	看護実践シミュレーションⅡ-2	看護実践シミュレーションⅢ-1	看護実践シミュレーションⅢ-2	看護実践シミュレーションⅣ-1	看護実践シミュレーションⅣ-2
	課題探究学習セミナーⅠ		課題探究学習セミナーⅡ		課題探究学習セミナーⅢ		課題探究学習セミナーⅣ	
発達課題に対応する看護実践能力		成人看護学総論	老年看護学総論	小児看護学総論	小児看護学方法論			
		臨床心理学	家族看護学の基礎	精神看護学総論	母性看護学方法論			
			母性看護学総論		精神看護学方法論			
専門職として研鑽し続ける基本的能力	実践演習Ⅰ		実践演習Ⅱ	看護史と看護理論概説		実践演習Ⅲ	実践演習Ⅳ	看護情報学
				医療安全学			看護マネジメント論	
				看護倫理学				
				感染看護学				
多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力		看護研究の基礎		看護研究方法論	看護研究ゼミナールⅠ		看護研究ゼミナールⅡ	
	社会保障論		公衆衛生看護学総論	地域・在宅看護総論	地域・在宅看護方法論		専門職連携活動論	
			成人・老年看護学方法論Ⅰ（急性・回復期）	成人・老年看護学方法論Ⅱ（慢性・終末期）	成人・老年看護学方法論Ⅲ（QOL維持期）		災害看護論	
		コミュニケーション論					国際看護論	クリティカルケア論
根拠に基づく判断・看護実践能力	看護入門実習		看護基盤実習			外来看護実習	健康増進訪問実習	
	コミュニティ看護実習Ⅰ		コミュニティ看護実習Ⅱ			精神保健看護実習	看護統合実習	
						療養生活看護実習Ⅰ（急性期）	地域・在宅看護実習	
						療養生活看護実習Ⅱ（回復期）		
						療養生活看護実習Ⅲ（慢性期）		
						育成看護実習Ⅰ（小児）		
						育成看護実習Ⅱ（母性）		

地域に貢献する凜とした看護専門職者

聖徳大学 看護学部看護学科（看護師課程） 学びで得られる学習成果（Learning Outcomes）

	人への理解を深め、円滑な人間関係を築く能力を強化しよう	アセスメント力を重点的に高めよう	アセスメントに基づいた看護の実践力を高めよう	地域に目を向け感性豊かな看護実践者をめざそう	学位授与の方針で掲げる学習成果
	1年次	2年次	3年次	4年次	学習成果
人間を全人的に理解する基礎的能力	人間理解のための知識が身についている	グローバル社会におけるコミュニケーション力が身についている	グローバル社会におけるコミュニケーション力が身についている	グローバル社会におけるコミュニケーション力が身についている	1.看護専門職に必要な気品と実践力を備えている
人・ヒトを総合的に理解する能力	人体の構造と機能、主な疾患について説明できる	主な疾患と対象の病態生理について説明できる			2.看護実践に必要な専門的知識・技術を修得し、それに基づいた総合的な判断力と課題解決力を有し、対話による合意形成を行うことができる
根拠に基づく看護を計画的に実践する基礎的能力	看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度の一部が身についている	看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度が身についている	看護実践に必要な課題別の知識・技術・態度が身についている	多様な環境に合わせた看護実践に必要な知識・技術・態度が身についている	
発達課題に対応する看護実践能力	成人期の発達課題、人の心理について説明できる	各期の発達課題等について説明できる	看護実践に必要な総合的かつ専門的な知識・技術・態度が身についている		
専門職として研鑽し続ける基本的能力	看護を実践的・研究的に学ぶための準備ができる	看護を実践的・研究的に学び、多面的な視点から説明できる	看護を実践的・研究的に学び、具体的な方法が身についている	看護職としての看護管理の視点を持ち、看護ケアの質の向上のための研究の基礎が身についている	3.保健・医療・福祉・教育などの多職種との連携を図り、どんな時代にも、どんな場所でも、寛容に対応でき、必要とされるケアが提供できる
多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力	多様なケア環境で多職種と連携できる知識・技術・態度の一部が身についている	多様なケア環境で多職種と連携できる知識・技術・態度の一部が身についている	多様なケア環境で多職種と連携できる知識・技術・態度が身についている	多様なケア環境で多職種と連携できる知識・技術・態度が身についている	
根拠に基づく判断・看護実践能力	病院・施設等での看護の機能と役割が説明できる	病院や施設における対象の看護の必要性を説明できる	病院や施設において対象の発達段階および健康の段階に応じた看護を実践できる	地域の特性と健康課題を探索し、看護の実際の場面での課題解決ができる実践力が身についている	
					4.地域の特性を踏まえて健康課題を探究し、実践できる

地域に貢献する**凜**とした看護専門職者

音楽学部 音楽学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

音楽学部にあつては、これまでにすぐれた音楽家や質の高い音楽教員、音楽療法士、音楽指導員など音楽にかかわる専門的職業人を中心とした多くの人材を輩出し、音楽文化の発展に寄与してきました。

音楽は社会や人々をつなぎ生活を豊かにする重要な文化であり、その発展に貢献できる人材の育成に社会の期待が寄せられています。音楽学科では、総合大学の中にある音楽学部音楽学科という他にはない学科の特質を活かし、優れた感性と表現能力をもち音楽文化の発展に貢献できる音楽家や、音楽を広く総合的視野からとらえ専門的職業人に必要な理論と能力、人間力をもった音楽教員などの指導者、音楽療法士、音楽関連企業人の育成を目指し、次のような目標を掲げ教育を行います。

【教育目標】

1. 音楽や音楽キャリアに関わる豊かで専門的な知識や技能を身につけた人材の育成。
2. 自己の音楽的課題を明確にし、主体的、創造的、協働的に学ぶことができる人材の育成。
3. 音楽家や音楽教育者、音楽療法士、音楽関連企業人などの専門的職業人を目指し生涯にわたって学び続ける使命感、責任感を有した人材の育成。
4. 社会を生きる総合的な人間力を備えている人材の育成。

こうした教育目標に基づき、以下のような学習成果を設定します。

【学習成果】

1. 豊かな音楽表現力や音楽キャリアに関わる専門的能力をもつことができる。
2. 主体的、創造的、協働的に学ぶことができる。
3. 専門的職業人としての使命感、責任感をもちつことができる。
4. 音楽活動に関する英語コミュニケーション力をも有した総合的人間力をもつことができる。

以上のような学習成果に基づいて編成された教育課程を履修し、修了した人に学士（音楽）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

学位授与の方針に則して、音楽学部音楽学科においては、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果の達成のために次の科目群を設定します。

1. 専門的な知識、理論、技能を高める科目群や音楽キャリアにかかわる科目群
2. 主体的、創造的、協働的に学ぶ科目群
3. 専門的職業人としての使命感、責任感を高める科目群
4. 人間力を高める科目群

これらの科目群に沿って配置された次のような授業により教育課程を編成し、学習成果及び教育目標を達成します。

1. 音楽専門実技や理論、音楽教育関連科目、音楽療法関連科目を学習することにより、自らの目指す音楽キャリアに関する専門的な能力を身につける。
2. 音楽の専門実技及び演習、音楽教育、音楽療法にかかわる演習・実技関連科目の学習を通して、主体的、創造的、協働的に学ぶ力を身につける。
3. 学内発表、卒業研究、教育実習、音楽療法実習、インターシップなどの学習を通して、専門的職業人としての使命感、責任感を身につける。
4. 聖徳教育科目、教養科目、外国語科目、健康教育科目、情報活用科目、及び音楽キャリア教育関連科目の学習を通して、社会を生きる総合的な人間力を養う。

専門科目を中心としたこれらの教育課程は、初年次教育、教養教育、キャリア教育とも密接な関係をもって編成されます。人間力の基礎ともなる学外研修を含んだ「聖徳教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を中心とした初年次教育や教養教育の学習、コミュニケーション力を養う英語や演奏に必要なイタリア語等の外国語の学習、専門的職業人へ向けた使命感形成の基礎となる音楽キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲを中心とした音楽キャリア教育関連科目等が音楽専門科目と緊密な関係を持ちつつ編成されます。

【教育課程実施の方針】

教育課程については、自ら課題を発見し解決を図るという主体的、創造的な方法で実施します。また、演奏や舞台を協働してつくるチーム基盤的な学習などのアクティブ・ラーニング的手法も取り入れながら教育課程を実施します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

音楽が社会や人をつなぐ豊かな絆であるということが再認識されています。音楽学部音楽学科では、そうした音楽の発展に音楽家として貢献できる人材を育成しています。そのような人材に必要な力はディプロマ・ポリシーで示しています。

こうした目的を理解し、目的を達成できる資質をもった人を音楽学部音楽学科では求めています。具体的には、次のような入学者を求めています。

1. 音楽が好きで、音楽家、音楽教員や音楽療法士、音楽関連企業人として社会に貢献する夢をもっている人。
2. 音楽実技や理論など音楽に関する授業や音楽キャリアに関する授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことのできる人。
3. 学内外での音楽活動や実習などで必要となるコミュニケーション力など基礎的な力をもっている人。

音楽学部音楽学科では、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、本学科での学習に必要な音楽的な知識、技能、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的に考え表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、実技試験、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価しま

学習成果の獲得状況を測る手法と時期

あなたの学習成果の修得状況を測る
手法と測定時期

卒業時に身に付く学習成果

自己評価

他者評価

レッスン記録票

毎レッスン時

学びの達成度実感調査(在学生)

1,2,3春

卒業研究ループブック

4年次末

「音楽の専門的な知識・理論を身につける」科目群総合GPA

「演奏表現・創作のスキルを身につける」科目群総合GPA

「音楽教育の知識とスキルを身につける」総合GPA

「音楽療法の知識とスキルを身につける」総合GPA

毎学期末

1. 豊かな音楽表現力や音楽キャリアに関わる専門的能力を持つ。

新入生オリエンテーションループブック

新オリ直後

学びの達成度実感調査(在学生)

1,2,3春

学外研修ループブック

学外研修直後

「音楽を主体的・創造的・協働的に学ぶ」科目群総合GPA

毎学期末

キャリア・アセスメントテスト

3 春

2. 主体的、創造的、協働的に学ぶことができる。

学びの達成度実感調査(在学生)

1,2,3春

「専門的職業人としての使命感・責任感を高める」科目群総合GPA

毎学期末

実習録

実習後

3. 専門的職業人としての使命感、責任感を持つ。

学びの達成度実感調査(卒年生)

4年次末

学びの記録

主に面談時

「学びの基礎力を養い、人間力を高める」科目群総合GPA

毎学期末

4. 音楽活動に関する総合的な人間力を持つ。

音楽学部 音楽学科 全学共通科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目(A類)30単位以上、専門教育科目(B類)94単位以上、計124単位以上です。
- ② 音楽学部の全学共通科目(A類)の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

全学共通科目 (A類)				
聖徳教育	教養科目と 外国語	健康教育	情報活用	計
7	20	2	1	30

- ③ 音楽学部の学生は、全学共通科目(A類)については、別表Ⅶ-1、2、3、4、5、6のとおり履修してください(同一科目を重複して履修することはできません)。
- ④ 聖徳教育科目(別表Ⅶ-1)はすべて卒業必修です。授業内容の詳細については、学生便覧及びシラバスを参照してください。
- ⑤ 教養科目(別表Ⅶ-2)は外国語科目と併せて20単位以上が必修です(外国語は8単位以上必修)。1年次秋学期から開講しますので、各学期2科目程度を、A類～C類まで一つの類に集中することなくバランスよく履修してください。
D類の「日本国憲法」は教育職員免許状を取得する者は必修です。
- ⑥ 外国語科目(別表Ⅶ-3)は、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ(4単位)及び選択外国語として、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語のうち1か国語(4単位)、計8単位以上が必修です。
- ⑦ 健康教育科目(別表Ⅶ-4)は欄外の受講区分に従い履修してください。
- ⑧ 情報活用科目(別表Ⅶ-5)は欄外の受講区分に従い履修してください。
- ⑨ 単位を修得した場合(成績表にS・A・B・Cと表記される)には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

デ エ ン ク 欄	授業科目	授業 の方法	単 位	卒 業 必 修	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	小笠原流礼法基礎講座		2	○			●	●					●春学期または秋学期に開講 △聖徳教育の詳細については、学生便覧、シラバスを参照すること。
☐	聖徳教育Ⅰ	演	1	○	○	○	○	○	○	○	○		
☐	聖徳教育Ⅱ	演	1	○	○				○				
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅠ)	演	1	○	○								
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅡ)	演	1	○		○							
☐	聖徳教育Ⅲ(SEITOKU Academic LiteracyⅢ)	演	1	○			●	●					
	計		7										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

教養科目

区 分	デ エ ン ク 欄	授業科目	授業 の方法	単 位	卒 業 必 修	履修年次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
A 類	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(芸術領域)		2			○	○	○					△教養科目と別表Ⅶ-3外国語科目を併せて20単位以上を修得すること(外国語は8単位以上を修得すること)
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文学領域)		2			○	○	○					
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(歴史領域)		2			○	○	○					
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅰ)		2			○	○	○					
	☐	自分を見つめ・広げ・伝える(文化領域Ⅱ・インターンシップ)	演	2										
B 類	☐	自然・社会・科学技術を考える(自然領域)		2			○	○	○				△教養科目は表中のA類、B類及びC類から1科目以上選択し、12単位以上修得すること。また同じ科目(領域)を重複履修することはありません。	
	☐	自然・社会・科学技術を考える(科学技術領域)		2			○	○	○					
	☐	自然・社会・科学技術を考える(社会領域)		2			○	○	○					
	☐	自然・社会・科学技術を考える(環境領域)		2			○	○	○					
C 類	☐	心とからだの美的本質を追求する(心の領域)		2			○	○	○				△日本国憲法は、教育職員免許状を取得する者は必ず修得すること。	
	☐	心とからだの美的本質を追求する(からだの領域)		2			○	○	○					
	☐	心とからだの美的本質を追求する(栄養領域)		2			○	○	○					
	☐	心とからだの美的本質を追求する(スポーツ領域)		2			○	○	○					
D 類	☐	日本国憲法		2		●	●							
				28										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。また●印を付された授業科目は時間割編成上、春学期または秋学期いずれかに配当されるので時間割を確認すること。

Business Field Linkageプログラム

デ エ ン ク 欄	区分	授業科目	授業 の方法	単 位	副 専 攻 必 修	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	共通	ビジネス・フィールド・リンケージ原論		1	必修	●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅠ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ自由研究ゼミⅡ		1		●	●	●	●					
☐		ビジネス・コミュニケーション・スキル		2	必修	●	●	●	●	●				
☐		アントレプレナーシップ(起業家精神)概論		2	必修	●		●		●		●		
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅠ		2				●		●				
☐		ビジネス・フィールド・リンケージ近未来価値創造ゼミⅡ		2					●		●			
☐		キャリア教育関連科目※												
☐	価値増幅 型 マネジメン ト副専攻	現代社会におけるビジネスリテラシー		2		●	●	●	●					
☐		法律・健康知識で身を守るセルフマネジメント		2			●		●					
☐		就活にも役立つメディアリテラシー		2		●		●						
☐		戦略的ビジネスマネジメント		2				●		●		●		
☐		AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論		2		●	●	●	●	●	●			
☐	グローバ ル人材育 成 副専攻	世界のニュースを読み解く ～国際社会問題を知る～		2				●		●		●		
☐		グローバルコミュニケーション		2				●		●		●		
☐		Practical English CommunicationⅠ		2			○							
☐		Practical English CommunicationⅡ		2				○						
☐		Practical English CommunicationⅢ		2						○				
☐	ビジネス 再生・創 生 副専攻	新時代のリーダーシップデザイン		2			●		●					
☐		戦略的ビジネスプランニング		2		●		●		●		●		
☐		顧客価値を創出するマーケティング		2			●		●		●		●	
☐		SDGsを実現するGX&SXの基本		2			●		●		●		●	
☐		WEBテクノロジーの基礎と応用		2			●		●		●		●	
☐	ビジネス・ データ サイエン ス 副専攻	文系人材のためのDX・AIリテラシー		2			●		●					
☐		ビジネス・データサイエンスⅠ		2		●		●		●				
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～1		2			●		●		●			
☐		ビジネス・データサイエンスⅡ～2		2		●	●	●	●	●	●	●	●	
☐		ビジネス・データサイエンスⅢ		2				●	●	●	●	●	●	
☐	社会活性 化・ 価値創造	地域社会の価値を創造する実践論		2			●		●					
☐		行政の役割を体験するインターンシップ		2				●		●				
☐		行政の理解と試験対策		2			●		●		●			
☐		起業(事業創造)に向けた実践論		2			●		●		●		●	

※キャリア教育関連科目は各学部学科教育課程の設定による。

※○は配当年次を示す。●はいずれかの学期で履修することを示す。なお、配当年次・学期の上位学年についてはいずれの科目も任意に履修できる。

※修得単位については、教養科目の単位に6単位まで充当することができます。(但し「ビジネス・データサイエンスⅠ、Ⅱ～1、Ⅱ～2、Ⅲ」

及び「Practical English CommunicationⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は除く) ※副専攻を希望しない場合でも、BFL科目の履修は可能です。

※履修する科目はキャップ制の対象外とします。 ※履修状況については、各学期の成績表において履修済みの科目の成績を確認することができます。

<副専攻履修について>

副専攻修了要件:①自分の目標とするキャリアに合わせた副専攻を上記5つの副専攻から選択し、その副専攻に配当されているすべての科目の単位を修得すること。

②共通科目「ビジネス・フィールド・リンケージ原論」、「ビジネス・コミュニケーション・スキル」及び「アントレプレナーシップ(起業家精神)概論」の単位を修得すること。

③①、②の修得単位に加えて共通科目及び他の副専攻科目から選択履修し、合計で20単位を以上を修得すること。

なお、在学中に副専攻の修了要件を満たした場合は、BFLプログラム単位修得証明書を発行することができます。詳細は教育支援課にて確認してください。

外国語科目

別表Ⅶ-3

チ ェ ッ ク 欄	授業科目	授業 の 方 法	単 位	卒 業 必 修	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	英語Ⅰ	演	1	○	○								△別表Ⅶ-2教養科目と外国語科目を併せて20単位以上を修得すること。
☐	英語Ⅱ	演	1	○		○							
☐	英語Ⅲ	演	1	○			○						
☐	英語Ⅳ	演	1	○				○					△外国語科目は、8単位以上を修得すること。英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ（各1単位）は必修です。また、選択外国語として【英語（Ⅴ～Ⅷ）、フランス語（Ⅰ～Ⅳ）、ドイツ語（Ⅰ～Ⅳ）、イタリア語（Ⅰ～Ⅳ）】のうち1か国語（4単位）を修得すること。
☐	英語Ⅴ	演	1					○					
☐	英語Ⅵ	演	1						○				
☐	英語Ⅶ	演	1								○		△各学科で指定している外国語科目については、指示のとおり履修すること。
☐	英語Ⅷ	演	1									○	
☐	フランス語Ⅰ	演	1			○							
☐	フランス語Ⅱ	演	1			○							△英語・イタリア語以外の外国語のⅠ～Ⅳは、ⅠとⅡ、ⅢとⅣで週2コマ開講されるので同時に履修すること。
☐	フランス語Ⅲ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅳ	演	1				○						
☐	フランス語Ⅴ	演	1					○					
☐	フランス語Ⅵ	演	1						○				
☐	フランス語Ⅶ	演	1							○			
☐	フランス語Ⅷ	演	1								○		
☐	ドイツ語Ⅰ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅱ	演	1			○							
☐	ドイツ語Ⅲ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅳ	演	1				○						
☐	ドイツ語Ⅴ	演	1					○					
☐	ドイツ語Ⅵ	演	1						○				
☐	ドイツ語Ⅶ	演	1							○			
☐	ドイツ語Ⅷ	演	1								○		
☐	イタリア語Ⅰ	演	1		○								
☐	イタリア語Ⅱ	演	1			○							
☐	イタリア語Ⅲ	演	1				○						
☐	イタリア語Ⅳ	演	1					○					
☐	イタリア語Ⅴ	演	1						○				
☐	イタリア語Ⅵ	演	1							○			
☐	イタリア語Ⅶ	演	1								○		
☐	イタリア語Ⅷ	演	1									○	
	計		32										

【授業の方法】演：演習、無印：講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

健康教育科目

別表Ⅶ-4

チェック欄	授業科目	授業の方法	単位	卒業必修	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	スポーツと健康Ⅰ	※	1		○								△健康教育科目の受講区分は注のとおり。
☐	スポーツと健康Ⅱ	※	1			○							
☐	スポーツと健康Ⅰ（小免）	※	1		○								
☐	スポーツと健康Ⅱ（小免）	※	1			○							
	計		4										

【授業の方法】無印:講義をさす。※印は講義及び実技科目をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

【受講区分】[注] 1) 小学校教諭免許状を取得しようとする学生は、スポーツと健康Ⅰ・Ⅱ(小免)を履修すること。

2) 上記以外の学生は、スポーツと健康Ⅰ・Ⅱを履修すること。

情報活用科目

別表Ⅶ-5

チ エ ッ ク 欄	授業科目	授業の方法	単位	卒業必修	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○	○								△情報活用科目の受講区分は注のとおり。
☐	情報活用演習(教職)	演	1			○							
☐	情報活用演習(応用)	演	1						○				
☐	情報活用演習(統計)	演	1				○						
☐	情報活用演習(表現)	演	1					○					
	計		5										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

【受講区分】[注] 1) 教育職員免許状または音楽療法士(1種)を取得しようとする者は、(基礎)と(教職)両科目とも必修です。

2) 情報活用科目を2単位以上修得した場合の1単位のみは教養科目の単位に含めることができる。

帰国子女科目

別表Ⅶ-6

チェック欄	授業科目	授業の方法	単位	卒業必修	履修年次								備考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本語Ⅰ	演	1		○								△帰国子女科目は、教養科目または外国語の単位に替えることができる。
☐	日本語Ⅱ	演	1			○							
☐	日本語Ⅲ	演	1				○						
☐	日本語Ⅳ	演	1					○					
☐	日本語Ⅴ	演	1						○				
☐	日本語Ⅵ	演	1							○			
☐	日本の社会と歴史Ⅰ		2						○				
☐	日本の社会と歴史Ⅱ		2							○			
	計		10										

【授業の方法】演:演習、無印:講義をさす。

【履修年次】履修年次の○印は開講時期をさす。

音楽学部 音楽学科 専門教育科目 履修要項

- ① 卒業所要単位数は、全学共通科目(A類)30単位以上、専門教育科目(B類)94単位以上、計124単位以上です。
- ② 音楽学部の専門教育科目(B類)の最低卒業所要単位数の内訳は、下記のとおりとします。

専門教育科目 (B類)		
必修科目	選択科目	計
30	64	94

- ③ 音楽療法士(1種)を取得しようとする者は、別表Ⅶ-7の卒業必修欄に○印のついている科目及び音楽療法士(1種)欄に○印のついている科目を加えて、①のとおり履修してください。また、認定音楽療法士受験資格を取得しようとする者は、別表Ⅶ-7の卒業必修欄に○印のついている科目及び認定音楽療法士受験資格欄に○印のついている科目を加えて、①のとおり履修してください。
- なお、音楽療法士(1種)及び認定音楽療法士受験資格を取得しようとする者は、別表Ⅶ-12の教職に関する科目の〔注〕6に記載の科目も加えて履修してください。
- ④ 中学校教諭一種免許状(音楽)及び高等学校教諭一種免許状(音楽)を取得しようとする者は、別表Ⅶ-10、11、12に記載の科目を含めて、①とおり履修してください。(別表Ⅶ-11の科目は卒業所要単位数に選択科目として算入することができます)
- ⑤ 中学校教諭一種免許状(音楽)及び高等学校教諭一種免許状(音楽)に加えて、小学校教諭免許状(一種・二種)を取得しようとする者は、①④に加えて別途配布する資料のとおり履修してください。音楽学部においては、小学校教諭免許状(一種・二種)のみを取得することはできません。(小学校教諭免許状取得のための科目は卒業所要単位数に算入することはできません)
- ⑥ 図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、学芸員、レクリエーション関係、日本語教員養成講座の資格を取得しようとする者は①に加えて、別表Ⅷ-1、2、3、4、5により、履修してください(これらの科目は卒業要件に算入することはできません)。
- ⑦ 単位を修得した場合(成績表にS・A・B・Cと表記される)には、各別表の履修チェック欄に印をつけ履修漏れの防止に努めてください。

音楽学科 専門教育科目(B類)

別表Ⅶ-7

チ エ ッ ク 欄	授業科目	単 位	授 業 の 方 法	卒 業 必 修	音 楽 療 法 士 1 種	認 定 音 楽 療 法 士	教 員 免 許 必 修	標準履修年次								備 考	
								1		2		3		4			
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
音 楽 学 科 ス タ ー ト ア ッ プ 科 目	☐ 音楽文化概論	2		○				○								▲a 教員免許の取得を希望する場合は音楽実技A-1かB-1を声楽 音楽実技A-ⅡかB-Ⅱを器楽 で履修すること。	
	☐ 音楽基礎理論Ⅰ	2		○	○	○	○	○									
	☐ ソルフェージュⅠ	2	演	○	○	○	○	○									
	☐ 音楽キャリアデザインⅠ	2		○					○								
	☐ 合唱（第九）Ⅰ	2	演	○	○	○	○	○									
	☐ 合唱（第九）Ⅱ	2	演	○	○				○								
	☐ 西洋音楽史	2		○	○	○	○	○									
	☐ 音楽実技A-Ⅰ	2	演	○	○	▲b	▲a	○									
	☐ 音楽実技A-Ⅱ	2	演	○	○	▲b	▲a		○								
	☐ 音楽実技B-Ⅰ	1	演	○	○	▲b	▲a	○									
☐ 音楽実技B-Ⅱ	1	演	○	○	▲b	▲a		○									
☐ 音楽リ・クジョブⅠ（オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱）	1	演						○									
☐ 音楽リ・クジョブⅡ（オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱）	1	演							○								
音 楽 学 科 共 通 科 目	☐ 音楽実技A-Ⅲ	2	演	○	○	▲b				○						▲b 認定音楽療法士受験資格を希望する場合は音楽実技Aか音楽実技Bで 「声楽」「器楽（ピアノ）」「器楽（管・弦・打楽器）」の3種目をそれぞれ2単位以上履修すること。なお、「器楽（管・弦・打楽器）」に「ギター演習」を充てることができる。	
	☐ 音楽実技A-Ⅳ	2	演	○	○	▲b					○						
	☐ 音楽実技A-Ⅴ	2	演									○					
	☐ 音楽実技A-Ⅵ	2	演										○				
	☐ 音楽実技A-Ⅶ	2	演											○			
	☐ 音楽実技A-Ⅷ	2	演												○		
	☐ 音楽実技B-Ⅲ	1	演							○							
	☐ 音楽実技B-Ⅳ	1	演								○						
	☐ 音楽実技B-Ⅴ	1	演									○					
	☐ 音楽実技B-Ⅵ	1	演										○				
	☐ 音楽実技B-Ⅶ	1	演											○			
	☐ 音楽実技B-Ⅷ	1	演												○		
	☐ 応用実技Ⅰ	4	演					○	○								
	☐ 応用実技Ⅱ	4	演							○	○						
	☐ 応用実技Ⅲ	4	演									○	○				
	☐ 応用実技Ⅳ	4	演											○	○		
	☐ 演奏特論Ⅰ	4						○	○								
	☐ 演奏特論Ⅱ	4								○	○						
	☐ 演奏特論Ⅲ	4										○	○				
	☐ 演奏特論Ⅳ	4												○	○		
	☐ 音楽リ・クジョブⅢ（オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱）	1	演							○							
	☐ 音楽リ・クジョブⅣ（オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱）	1	演								○						
	☐ 音楽リ・クジョブⅤ（オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱）	1	演									○					
	☐ 音楽リ・クジョブⅥ（オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱）	1	演										○				
	☐ 音楽リ・クジョブⅦ（オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱）	1	演											○			
	☐ 音楽リ・クジョブⅧ（オペラ・ミュージカル・吹奏楽・合唱）	1	演												○		
	☐ アンサンブル研究Ⅰ（声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル）	2	演								○						
	☐ アンサンブル研究Ⅱ（声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル）	2	演									○					
	☐ アンサンブル研究Ⅲ（声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル）	2	演										○				
	☐ アンサンブル研究Ⅳ（声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル）	2	演											○			
	☐ アンサンブル研究Ⅴ（声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル）	2	演												○		
	☐ アンサンブル研究Ⅵ（声楽・鍵盤・管弦打・ミュージカル）	2	演												○		
	☐ 音楽表現演習A-Ⅰ（声楽）	2	演					○									イタリア歌曲 イタリア歌曲 日本歌曲 日本歌曲 ドイツ歌曲 ドイツ歌曲 フランス歌曲 フランス歌曲
	☐ 音楽表現演習A-Ⅱ（声楽）	2	演						○								
	☐ 音楽表現演習A-Ⅲ（声楽）	2	演							○							
	☐ 音楽表現演習A-Ⅳ（声楽）	2	演								○						
	☐ 音楽表現演習A-Ⅴ（声楽）	2	演									○					
	☐ 音楽表現演習A-Ⅵ（声楽）	2	演										○				
	☐ 音楽表現演習A-Ⅶ（声楽）	2	演											○			
	☐ 音楽表現演習A-Ⅷ（声楽）	2	演												○		
☐ 音楽表現演習B-Ⅰ（ダンス）	2	演							○								
☐ 音楽表現演習B-Ⅱ（ダンス）	2	演								○							
☐ 音楽表現演習B-Ⅲ（ダンス）	2	演									○						
☐ 音楽表現演習B-Ⅳ（ダンス）	2	演										○					
☐ 音楽表現演習B-Ⅴ（ダンス）	2	演											○				
☐ 音楽表現演習B-Ⅵ（ダンス）	2	演												○			
☐ 音楽表現演習C-Ⅰ（バレエ）	2	演							○								
☐ 音楽表現演習C-Ⅱ（バレエ）	2	演								○							
☐ 音楽表現演習C-Ⅲ（バレエ）	2	演									○						
☐ 音楽表現演習C-Ⅳ（バレエ）	2	演										○					
☐ 音楽表現演習C-Ⅴ（バレエ）	2	演											○				
☐ 音楽表現演習C-Ⅵ（バレエ）	2	演												○			

チ エ ッ ク 欄	授業科目	単 位	授 業 の 方 法	卒 業 必 修	音 楽 療 法 士 1 種	認 定 音 楽 療 法 士	教 免 必 修	標準履修年次								備 考	
								1		2		3		4			
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
音 楽 学 科 共 通 科 目	□ 音楽表現演習D-I (ピアノ)	2	演					○								※1～4年通年科目	
	□ 音楽表現演習D-II (ピアノ)	2	演						○								
	□ 音楽表現演習D-III (ピアノ)	2	演							○							
	□ 音楽表現演習D-IV (ピアノ)	2	演								○						
	□ 音楽表現演習D-V (ピアノ)	2	演									○					
	□ 音楽表現演習D-VI (ピアノ)	2	演										○				
	□ 音楽表現演習E-I (ピアノ)	2	演					○									
	□ 音楽表現演習E-II (ピアノ)	2	演						○								
	□ 音楽表現演習E-III (ピアノ)	2	演							○							
	□ 音楽表現演習E-IV (ピアノ)	2	演								○						
	□ 音楽表現演習E-V (ピアノ)	2	演									○					
	□ 音楽表現演習E-VI (ピアノ)	2	演										○				
	□ 音楽表現演習F-I (ピアノ)	2	演							○							
	□ 音楽表現演習F-II (ピアノ)	2	演								○						
	□ 音楽表現演習F-III (ピアノ)	2	演									○					
	□ 音楽表現演習F-IV (ピアノ)	2	演										○				
	□ 音楽表現演習F-V (ピアノ)	2	演											○			
	□ 音楽表現演習F-VI (ピアノ)	2	演												○		
	□ 音楽表現演習G-I (電子オルガン)	2	演							○							
	□ 音楽表現演習G-II (電子オルガン)	2	演								○						
	□ 音楽表現演習G-III (電子オルガン)	2	演									○					
	□ 音楽表現演習G-IV (電子オルガン)	2	演										○				
	□ 音楽表現演習G-V (電子オルガン)	2	演											○			
	□ 音楽表現演習G-VI (電子オルガン)	2	演												○		
	□ 音楽表現演習H-I (パイプオルガン)	2	演							○							
	□ 音楽表現演習H-II (パイプオルガン)	2	演								○						
	□ 音楽表現演習H-III (パイプオルガン)	2	演									○					
	□ 音楽表現演習H-IV (パイプオルガン)	2	演										○				
	□ 音楽表現演習H-V (パイプオルガン)	2	演											○			
	□ 音楽表現演習H-VI (パイプオルガン)	2	演												○		
	□ 音楽表現演習I-I (管弦楽)	2	演					○									
	□ 音楽表現演習I-II (管弦楽)	2	演						○								
	□ 音楽表現演習I-III (管弦楽)	2	演							○							
	□ 音楽表現演習I-IV (管弦楽)	2	演								○						
	□ 音楽表現演習I-V (管弦楽)	2	演									○					
	□ 音楽表現演習I-VI (管弦楽)	2	演										○				
	□ 音楽表現特別演習	2	演					○	○	○	○	○	○	○	○		
	□ 音楽基礎理論Ⅱ	2			○	○			○								
	□ ソルフェージュⅡ	2	演						○								
	□ ソルフェージュⅢ	2	演							○							
	□ ソルフェージュⅣ	2	演								○						
	□ ソルフェージュⅤ	2	演									○					
	□ ソルフェージュⅥ	2	演										○				
	□ 和声法Ⅰ	2		○		○				○							
	□ 和声法Ⅱ	2									○						
	□ 和声法Ⅲ	2										○					
	□ 和声法Ⅳ	2											○				
	□ 作曲(含む教材編曲法)Ⅰ	2	演				○					○					
	□ 作曲(含む教材編曲法)Ⅱ	2	演										○				
	□ 対位法Ⅰ	2	演											○			
	□ 対位法Ⅱ	2	演												○		
	□ コンピュータ音楽Ⅰ	2	演							○							
	□ コンピュータ音楽Ⅱ	2	演								○						
	□ 電子楽譜制作法	2	演									○					
	□ ポピュラー作曲法(含む編曲法)Ⅰ	2	演							○							
	□ ポピュラー作曲法(含む編曲法)Ⅱ	2	演								○						
	□ 管弦楽史	2									○					(隔年開講)	
	□ 鍵盤音楽史	2									○						
	□ 声楽史	2										○					
	□ ポピュラー音楽概論	2										○					
	□ 民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽)	2				○	○		○							(隔年開講)	
	□ 音楽療法概論	2			○	○		○									
	□ 音楽心理学	2			○	○							○				
	□ 楽器と環境	2								○							

音楽学科 専門教育科目(B類)

別表Ⅶ-7

	チェック欄	授業科目	単位	授業の方法	卒業必修	音楽療法士1種	認定音楽療法士	教免必修	標準履修年次								備考
									1		2		3		4		
									春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
音楽学科 共通科目	☐	音楽家のためのリテラシー	2				○						●	●			●印 卒業研究（演奏・作品・論文） において論文を選択する場合は、 春学期または秋学期いずれかで履修 （音声学：隔年開講） ▲c 認定音楽療法士受験資格希望者は どちらか一つは履修すること （隔年開講） （隔年開講） ピアノ（隔年開講） 吹奏楽（隔年開講） 合唱（隔年開講） ▲d 2年次春学期・秋学期のいずれかに 2週間実施
	☐	音声学	2											○			
	☐	障害児と音楽	2						○								
	☐	成人・高齢者と音楽	2							○							
	☐	音楽療法の理論と技法Ⅰ	2			○	○				○						
	☐	音楽療法の理論と技法Ⅱ	2			○	○					○					
	☐	音楽療法各論A	2			○	○				○						
	☐	音楽療法各論B	2			○	○							○			
	☐	音楽療法各論C	2			○	○					○					
	☐	医学概論	2			○	○				○						
	☐	臨床医学各論Ⅰ	2			○	○						○				
	☐	臨床医学各論Ⅱ	2			○	○							○			
	☐	臨床心理学Ⅰ	2			○	○					○					
	☐	臨床心理学Ⅱ	2			○	○						○				
	☐	社会福祉概論	2			○	○				○						
	☐	ギター演習	2	演			▲c						○				
	☐	リトミック	2	演			▲c					○					
	☐	バロックダンス	2	演								○					
	☐	伴奏法Ⅰ	2	演					○				○				
	☐	伴奏法Ⅱ	2	演										○			
	☐	即興演奏	2	演							○						
	☐	指揮法	2	演		○	○	○				○					
	☐	日本音楽演習A（歌唱）	2	演		○	○	○					○				
	☐	日本音楽演習B（和楽器）	2	演				○						○			
	☐	合奏	2	演		○	○	○				○					
	☐	音楽キャリアデザインⅡ	2									○					
	☐	音楽キャリアデザインⅢ	2										○				
	☐	音楽指導法A	2									○					
	☐	音楽指導法B	2									○					
	☐	音楽指導法C	2										○				
	☐	教職演習Ⅰ	2	演									○				
	☐	教職演習Ⅱ	2	演										○			
☐	障害児教育論	2			○	○				○							
☐	介護概論	2			○	○							○				
☐	音楽療法技能A	2	演		○	○				○							
☐	音楽療法技能B	2	演				○						○				
☐	音楽療法技能C	2	演		○	○					○						
☐	音楽療法演習	2	演			○					○						
☐	施設実習	2	実		○	○				▲d	▲d						
☐	音楽療法実習Ⅰ	1	実		○	○						○					
☐	音楽療法実習Ⅱ	1	実		○	○							○				
☐	音楽療法実習Ⅲ	1	実		○	○								○			
☐	音楽療法実習Ⅳ	1	実			○									○		
☐	卒業研究	4	演	○			○							○	○		
計		344			30												

【授業の方法】 演：演習、実：実習、無印：講義をさす。

【履修年次】 履修年次の○印は開講時期をさす。

音楽療法士(1種)資格取得に関する科目

別表Ⅶ-8

分野		科目例示	授業科目	単位
①音楽分野(30単位)	I. 理論 (8単位)	音楽理論	音楽基礎理論Ⅰ	2
		音楽理論	音楽基礎理論Ⅱ	2
		音楽心理学	音楽心理学	2
		音楽史	西洋音楽史	2
	II. 実技 (22単位)	指揮法	指揮法	2
		合唱	合唱(第九)Ⅰ	2
		合唱	合唱(第九)Ⅱ	2
		声楽	日本音楽演習A(歌唱)または音楽実技A、音楽実技B＊1	
		ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	2
		アンサンブル	合奏	2
②音楽療法分野(16単位)		器楽(鍵盤)	＊1	
		器楽(管弦打)	＊1	
③音楽療法関連分野(20単位)	教育	音楽療法概論	音楽療法概論	2
		音楽療法各論・演習 (基礎、臨床、技法等)	音楽療法各論A	2
	音楽療法各論B		2	
	音楽療法各論C		2	
	音楽療法技能A(歌唱・伴奏)		2	
	音楽療法技能C(作曲、編曲、アンサンブル、指揮)		2	
	音楽療法の理論と技法Ⅰ		2	
	音楽療法の理論と技法Ⅱ		2	
	福祉	音楽科教育法	音楽科教育法Ⅰ(教職)	2
		障害児教育	障害児教育論	2
	医学・看護	社会福祉概論	社会福祉概論	2
		介護概論・介護実技	介護概論	2
		医学概論	医学概論	2
	心理	臨床医学	臨床医学各論Ⅰ	2
臨床医学		臨床医学各論Ⅱ	2	
臨床心理学		臨床心理学Ⅰ	2	
臨床心理学		臨床心理学Ⅱ	2	
④音楽療法実習(5単位)	発達心理学	発達心理学(教職)	2	
	施設介護実習	施設実習	2	
	音楽療法実習	音楽療法実習Ⅰ	1	
	音楽療法実習	音楽療法実習Ⅱ	1	
⑤教養関連科目＊2	音楽療法実習	音楽療法実習Ⅲ	1	
	語学	英語、その他外国語	8	
	情報処理	情報活用演習(基礎)	1	
	情報処理	情報活用演習(教職)	1	
計				81

*1 音楽実技は鍵盤楽器、声楽、管弦打を含む10単位必要である。管弦打にはギター演習を当てることができる。

*2 その他、一般教育科目を上記⑤のものを含めて24単位以上になるよう履修すること。

*3 音楽領域18単位、音楽療法領域8単位、音楽療法関連科目領域12単位、音楽療法実習3単位を取得することで、音楽療法士(2種)の資格を取得することが可能である。

認定音楽療法士受験資格に関する科目

別表Ⅶ-9

分野		規定科目	単位	授業科目	単位
①音楽分野 (32単位)	Ⅰ. 理論	音楽理論／通論	4	音楽基礎理論Ⅰ、Ⅱ	2、2
		和声学	2	和声法Ⅰ	2
		音楽心理学	2	音楽心理学	2
		音楽教育学	2	音楽科教育法Ⅰ(教職)	2
		西洋音楽史	2	西洋音楽史	2
		日本の音楽	2	日本音楽演習A(歌唱)	2
		民族音楽学	2	民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽)	2
	Ⅱ. 実技 「副科を含む」	ソルフェージュ	2	ソルフェージュⅠ	2
		ピアノ	2	音楽実技A-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、音楽実技B-Ⅰ、Ⅱより選択	2
		声楽	2	音楽実技A-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、音楽実技B-Ⅰ、Ⅱより選択	2
		器楽(管、弦、打楽器)	2	音楽実技A-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、音楽実技B-Ⅰ、Ⅱより選択	2
		合唱	2	合唱(第九)Ⅰ	2
		合奏	2	合奏	2
		指揮法	2	指揮法	2
		ギター	2	ギター演習	2
②音楽療法分野 (30単位)		音楽療法概論	2	音楽療法概論	2
		音楽療法の理論と技法	4	音楽療法の理論と技法Ⅰ、Ⅱ	2、2
		音楽療法各論Ⅰ	2	音楽療法各論A	2
		音楽療法各論Ⅱ	2	音楽療法各論B	2
		音楽療法各論Ⅲ	2	音楽療法各論C	2
		音楽療法技能Ⅰ	2	音楽療法技能A	2
		音楽療法技能Ⅱ	2	音楽療法技能B	2
		音楽療法技能Ⅲ	2	音楽療法技能C	2
		音楽療法演習	2	音楽療法演習	2
		音楽療法実習	6	施設実習	2
				音楽療法実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	4
		卒業論文	4	卒業研究	4
③医学・心理学分野 (10単位)		医学概論	2	医学概論	2
		臨床医学各論Ⅰ	2	臨床医学各論Ⅰ	2
		臨床医学各論Ⅱ	2	臨床医学各論Ⅱ	2
		臨床心理学Ⅰ	2	臨床心理学Ⅰ	2
		臨床心理学Ⅱ	2	臨床心理学Ⅱ	2
④福祉・教育分野 (8単位)		社会福祉概論	2	社会福祉概論	2
		発達心理学	2	発達心理学(教職)	2
		障害児教育	2	障害児教育論	2
		介護概論	2	介護概論	2
⑤語学 (8単位)			8	英語、その他外国語	8
計			88	計	88

*1 音楽実技(管弦打楽器)にはギター演習を当てることができる。その場合は、「ギター演習またはリトミック」でリトミックを選択すること。

教職課程履修について〔中学校教諭一種免許状（音楽）、高等学校教諭一種免許状（音楽）〕

教育職員免許状を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定める所定の単位及び本学で定める単位を修得する必要があります。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については下記のとおりです。理解を深めて授業に臨んでください。

なお、教育職員免許状を取得するための課程を選択履修する学生は、課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程は別途指示があります。

1. 全学共通科目の履修について

教養科目、外国語科目、健康教育科目及び情報活用科目は、卒業要件を充足することと、教員免許状取得のための要件を満たすことを共有することになりますが、下記の科目を必ず含んで履修してください。

別表Ⅶ-10

チェック欄	授業科目	授業の方法	単位	履修年次								備考
				1		2		3		4		
				春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	日本国憲法		2		○							
☐	英語Ⅰ	演	1	○								
☐	英語Ⅱ	演	1		○							
☐	スポーツと健康Ⅰ	講、実	1	○								
☐	スポーツと健康Ⅱ	講、実	1		○							
☐	情報活用演習(基礎)	演	1	○								
☐	情報活用演習(教職)	演	1		○							

2. 「専門教育科目」の履修について

「教科に関する科目」、「教職に関する科目」といった「専門教育科目」については、学則に規定する卒業要件としての必修・選択等の別にかかわらず、下記のとおり履修してください。

○教科に関する科目

教科に関する科目については、下表のとおり履修してください

別表Ⅶ-11

チェック欄	授業科目	授業の方法	単位	履修年次								備考
				1		2		3		4		
				春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	音楽基礎理論Ⅰ		2	○								} ▲a 音楽実技A-Ⅰ かB-Ⅰ を声楽 音楽実技A-Ⅱ かB-Ⅱ を器楽で 履修する。
☐	ソルフェージュⅠ	演	2	○								
☐	合唱(第九)Ⅰ	演	2	○								
☐	民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽)		2		○							
☐	伴奏法Ⅰ	演	2					○				
☐	作曲(含む教材編曲法)Ⅰ	演	2					○				
☐	日本音楽演習A(歌唱)	演	2					○				
☐	日本音楽演習B(和楽器)	演	2						○			
☐	音楽実技A-Ⅰ	演	2	▲a								
☐	音楽実技A-Ⅱ	演	2		▲a							
☐	音楽実技B-Ⅰ	演	1	▲a								
☐	音楽実技B-Ⅱ	演	1		▲a							
☐	西洋音楽史		2		○							
☐	合奏	演	2			○						
☐	指揮法	演	2				○					

○教職に関する科目

上記の教科に関する科目に加えて、下表のとおり履修してください。

別表Ⅶ-12

チェック欄	授業科目	方授業 法の	単位	中免	高免	履修年次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	教職入門		2	○	○	○								[注]6.参照 [注]6.参照 [注]6.参照 <

- [注] 1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、中免欄に○印を付された科目全部を履修しなければならない。
2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、高免欄に○印を付された科目全部を履修しなければならない。
3. 授業の方法欄の「演」は演習、「実」は実習、空欄は講義をさす。
4. 履修年次欄の○印は開講時期をさす。
また●印を付された授業科目は時間割編成上、春学期または秋学期いずれかに配当されるので時間割を確認すること。
5. 教職に関する科目は卒業要件に算入することができる。
6. 音楽療法士(1種)、認定音楽療法士受験資格を取得する者は、「教育基礎論」(認定音楽療法士受験資格のみ)、「発達心理学」、「音楽科教育法Ⅰ」を必ず履修すること。

3. 教育実習について

教育職員免許状を取得しようとする学生は、大学において、免許状に必要な授業科目の単位を修得するほか、教育実習を行う必要があります。教育実習については別途指示があります。

4. 介護体験について

小学校・中学校教諭の免許状を取得しようとする場合は、教育職員免許法の特例等に基づき、社会福祉施設等及び特殊教育諸学校において、7日間の介護等の体験を行うことが必要です。

令和7年度入学生 聖徳大学 音楽学部 音楽学科 カリキュラムマップ

* 網掛けは必修科目

DPに対応する科目群		1 年次春学期		1 年次秋学期		2 年次春学期		2 年次秋学期		3 年次春学期		3 年次秋学期		4 年次春学期		4 年次秋学期		
		音楽の基本を学ぼう				より専門的な学びに踏み込もう				自分の力を試してみよう				自立した音楽職業人へ				
①知識・技能 科目群	音楽の専門的な知識・理論を修得する	音楽文化概論			鍵盤音楽史（隔年開講） 管弦楽史（隔年開講）	声楽史（隔年開講） ポピュラー音楽概論（隔年開講）												
		西洋音楽史		民族音楽学概論 （含む日本の伝統音楽）		指揮法		伴奏法Ⅰ		伴奏法Ⅱ								
		音楽基礎理論Ⅰ		音楽基礎理論Ⅱ		和声法Ⅰ 即興演奏	和声法Ⅱ		和声法Ⅲ		和声法Ⅳ				対位法Ⅰ		対位法Ⅱ	
		ソルフェージュⅠ		ソルフェージュⅡ		ソルフェージュⅢ	ソルフェージュⅣ		作曲（含む教材編曲法）Ⅰ		作曲（含む教材編曲法）Ⅱ							
						楽器と環境（隔年開講）	パロックダンス（隔年開講） リトミック（隔年開講）		ソルフェージュⅤ		ソルフェージュⅥ							
		障害児と音楽		成人・高齢者と音楽					ギター演習		音楽心理学							
											音声学（隔年開講）							
	演奏表現・創作のスキルを身につける		応用実技Ⅰ			応用実技Ⅱ			応用実技Ⅲ			卒業研究（通年）			応用実技Ⅳ			
			演奏特論Ⅰ				演奏特論Ⅱ				演奏特論Ⅲ				演奏特論Ⅳ			
			音楽実技A-Ⅰ		音楽実技A-Ⅱ		音楽実技A-Ⅲ		音楽実技A-Ⅳ		音楽実技A-Ⅴ		音楽実技A-Ⅵ		音楽実技A-Ⅶ		音楽実技A-Ⅷ	
			音楽実技B-Ⅰ		音楽実技B-Ⅱ		音楽実技B-Ⅲ		音楽実技B-Ⅳ		音楽実技B-Ⅴ		音楽実技B-Ⅵ		音楽実技B-Ⅶ		音楽実技B-Ⅷ	
			音楽表現演習A-Ⅰ （伊歌曲）		音楽表現演習A-Ⅱ （伊歌曲）		音楽表現演習A-Ⅲ （日歌曲）		音楽表現演習A-Ⅳ （日歌曲）		音楽表現演習A-Ⅴ （独歌曲） 音楽表現演習A-Ⅶ （仏歌曲）		音楽表現演習A-Ⅵ （独歌曲） 音楽表現演習A-Ⅷ （仏歌曲）					
							音楽表現演習B（ダンス）-Ⅰ		音楽表現演習B-Ⅱ		音楽表現演習B-Ⅲ		音楽表現演習B-Ⅳ		音楽表現演習B-Ⅴ		音楽表現演習B-Ⅵ	
							音楽表現演習C（バレエ）-Ⅰ		音楽表現演習C-Ⅱ		音楽表現演習C-Ⅲ		音楽表現演習C-Ⅳ		音楽表現演習C-Ⅴ		音楽表現演習C-Ⅵ	
			音楽表現演習-D（ピアノ）Ⅰ		音楽表現演習D-Ⅱ		音楽表現演習D-Ⅲ		音楽表現演習D-Ⅳ		音楽表現演習D-Ⅴ		音楽表現演習D-Ⅵ					
							音楽表現演習E（ピアノ）-Ⅰ		音楽表現演習E-Ⅱ		音楽表現演習E-Ⅲ		音楽表現演習E-Ⅳ		音楽表現演習E-Ⅴ		音楽表現演習E-Ⅵ	
							音楽表現演習F（ピアノ）-Ⅰ		音楽表現演習F-Ⅱ		音楽表現演習F-Ⅲ		音楽表現演習F-Ⅳ		音楽表現演習F-Ⅴ		音楽表現演習F-Ⅵ	
							音楽表現演習G（EO）-Ⅰ		音楽表現演習G-Ⅱ		音楽表現演習G-Ⅲ		音楽表現演習G-Ⅳ		音楽表現演習G-Ⅴ		音楽表現演習G-Ⅵ	
							音楽表現演習H（PO）-Ⅰ		音楽表現演習H-Ⅱ		音楽表現演習H-Ⅲ		音楽表現演習H-Ⅳ		音楽表現演習H-Ⅴ		音楽表現演習H-Ⅵ	
							音楽表現演習（管弦楽）-Ⅰ		音楽表現演習-Ⅱ		音楽表現演習-Ⅲ		音楽表現演習-Ⅳ		音楽表現演習-Ⅴ		音楽表現演習-Ⅵ	
							コンピュータ音楽Ⅰ		コンピュータ音楽Ⅱ		ポピュラー作曲法Ⅰ		ポピュラー作曲法Ⅱ					
											電子楽譜制作法							
	音楽教育の知識とスキルを身につける					音楽科教育法Ⅰ 合奏		音楽科教育法Ⅱ		音楽科教育法Ⅲ 日本音楽演習A（歌唱）		音楽科教育法Ⅳ 日本音楽演習B（和楽器）						
						音楽指導法A（隔年開講） 音楽指導法B（隔年開講）		音楽指導法C（隔年開講）				教職演習			教職演習Ⅱ			
						教職科目（教育実習を含む）												
	音楽療法の知識とスキルを身につける		音楽療法概論	医学概論		音楽療法の理論と技法Ⅰ		音楽療法の理論と技法Ⅱ		臨床医学各論Ⅰ		臨床医学各論Ⅱ						
						【発達心理学（教職）】		臨床心理学Ⅰ		臨床心理学Ⅱ								
				社会福祉概論		音楽療法各論A		音楽療法各論C		介護概論		音楽療法各論B						
				音楽療法技能A				音楽療法技能C		音楽療法技能B								
				障害児教育論		【教育基礎論（教職）】												
	②協働的に学ぶ 科目群	音楽を主体的・創造的・協働的に学ぶ	合唱（第九）Ⅰ		合唱（第九）Ⅱ													
						アンサンブル研究Ⅰ		アンサンブル研究Ⅱ		アンサンブル研究Ⅲ		アンサンブル研究Ⅳ		アンサンブル研究Ⅴ		アンサンブル研究Ⅵ		
音楽ワークショップⅠ				音楽ワークショップⅡ		音楽ワークショップⅢ		音楽ワークショップⅣ		音楽ワークショップⅤ		音楽ワークショップⅥ		音楽ワークショップⅦ		音楽ワークショップⅧ		
③使命感・責任 感科目群	専門的職業人としての使命感・責任感を高める			音楽キャリアデザインⅠ		音楽キャリアデザインⅡ				音楽キャリアデザインⅢ								
									音楽家のための リテラシー		音楽家のための リテラシー（春学期と夏学期）							
						施設実習（2年次に2週間）										音楽表現特別演習		
							音楽療法演習		音楽療法実習Ⅰ		音楽療法実習Ⅱ		音楽療法実習Ⅲ		音楽療法実習Ⅳ			
④人間力科目群	学びの基礎力を養い、人間力を高める	英語Ⅰ 外国語		英語Ⅱ 外国語		英語Ⅲ 外国語		英語Ⅳ 外国語										
		情報活用演習（基礎）																
		聖徳教育Ⅰ				聖徳教育Ⅱ				聖徳教育Ⅲ				聖徳教育Ⅳ				
		SEITOKU Academic LiteracyⅠ		SEITOKU Academic LiteracyⅡ		SEITOKU Academic LiteracyⅢ		SEITOKU Academic LiteracyⅣ		SEITOKU Academic LiteracyⅤ		SEITOKU Academic LiteracyⅥ		SEITOKU Academic LiteracyⅦ		SEITOKU Academic LiteracyⅧ		
						教養科目A類（文学領域） 小豆原流礼法基礎講座		教養科目B類（社会領域） 教養科目A類（芸術領域）		教養科目C類（歴史領域） 教養科目B類（自然領域）		教養科目D類（国際領域） 教養科目C類（心の領域）		教養科目E類（健康領域） 教養科目D類（芸術領域）		教養科目F類（スポーツ領域） 教養科目E類（音楽領域）		
		スポーツと健康Ⅰ		スポーツと健康Ⅱ														
教育目標		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				
		優れた音楽人に必要な知識と技能の基礎を教授する				音楽を学ぶ喜びと共に、専門的能力の大切さを教授する				体得させた知識と技能を基に、実践力を開発する				音楽人として自立し、 社会に貢献できる応用力を持った人材を育成する				

音楽の発展に貢献できる優れた音楽的能力と人間力のある音楽家、音楽職業人を目指して

令和7年度入学生 聖徳大学 音楽学部 音楽学科 学びで得られる成果 (Learning Outcomes)

年次別学習テーマ		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業認定・学位授与の方針に掲げる学習成果
		音楽の基本を学ぼう	より専門的な学びに踏み込もう	自分の力を試してみよう	自立した音楽職業人へ	
①知識・技能科目群	音楽の専門的な知識・理論を修得する	音楽の専門的な知識・理論の基礎が身についている	音楽の専門的な知識・理論の基礎的な力を応用することができる	音楽の専門的な知識・理論をさまざまな場面に応用することができる	音楽に関するさらに高度な知識・理論を身につけている	①豊かな音楽専門現 能力や音 楽キャリア に関わる 音楽の知識や理論に関わる専門的能力をもつことができる 音楽表現や音楽制作に関わる専門的能力をもつことができる 音楽キャリア（音楽教育関係）に関わる専門的能力をもつことができる 音楽キャリア（音楽療法関係）に関わる専門的能力をもつことができる
	演奏表現・創作のスキルを身につける	音楽表現・創作スキルの基礎が身についている	音楽表現・創作スキルの、より専門的な力が身についている	音楽表現・創作スキルの、さらに高度な力が身についている	それまでに身につけた音楽表現・創作スキルを豊かに活用することができる	
	音楽教育の知識とスキルを身につける		音楽教育者としてのキャリアに関わる専門的能力の基礎が身についている	音楽教育者としてのキャリアに関わる専門的能力を持つことができる	音楽教育者としてのキャリアに関わる専門的能力をじゅうぶん身につけている	
	音楽療法の知識とスキルを身につける	音楽療法士としてのキャリアに関わる専門的能力の基礎が身についている	音楽療法士としてのキャリアに関わる専門的能力を持つことができる	音楽療法士としてのキャリアに関わる専門的能力をじゅうぶん身につけている	音楽療法士としてのキャリアに関わる専門的能力をじゅうぶん身につけている	
②協働的に学ぶ科目群	音楽を主体的・創造的・協働的に学ぶ	創造的、協働的な学びに、主体的に関わることができる	自分の役割を理解し、主体的、創造的、協働的な学びを展開することができる	主体的、創造的、協働的な学びのリーダーとして活動することができる	主体的、創造的、協働的な学びから、豊かな成果を上げることができる	②主体的、創造的、協働的に学ぶことができる
③使命感・責任感科目群	専門的職業人としての使命感・責任感を高める	専門的職業人の使命について理解することができる	専門的職業人の使命について深く理解するとともに、現場を知り、責任を自覚することができる	専門的職業人の使命感、責任感について、理論と実践をとおして実感することができる	専門的職業人としての使命感、責任感を持つことができる	③専門的職業人としての使命感、責任感をもつことができる
④人間力科目群	学びの基礎力を養い、人間力を高める	音楽職業人に求められる基礎的な理解力、外国語力と健康が身についている	音楽職業人に求められる多様な教養や理解力、外国語力と礼儀作法が身についている	多様な経験から、音楽職業人にふさわしい総合的な人間力を身につけることができる	多様な経験から、音楽職業人にふさわしい総合的な人間力をじゅうぶん身につけている	④音楽活動に関する英語コミュニケーション力も育した総合的な人間力をもつことができる
教育目標		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
		優れた音楽人に必要な知識と技能の基礎を教授する	音楽を学ぶ喜びと共に、専門的能力の大切さを教授する	体得させた知識と技能を基に、実践力を開発する	音楽人として自立し、社会に貢献できる応用力を持った人材を育成する	

音楽の発展に音楽献家、音楽優れた音楽目的指能力と人間力のある

		1年		2年	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 (A類) 共通科目	必修科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 外国語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 教養科目1 英語 II 外国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習(教職)	教養科目2 小笠原流礼法基礎講座 英語 III 外国語 III	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目3 教養科目4 教養科目5 英語 IV 外国語 IV
	科目数	5	7	4	6
音楽学科専門教育科目 (B類)	必修科目	*音楽文化概論 *音楽基礎理論 I *ソルフェージュ I *合唱(第九) I *音楽実技A-I *音楽実技B-I	*音楽キャリアデザイン I *合唱(第九) II *西洋音楽史 *音楽実技A-II *音楽実技B-II	音楽実技A-III 和声法 I	音楽実技A-IV
	科目数	6	5	2	1
	選択科目	応用実技 I 演奏特論 I 音楽表現演習D-I	応用実技 I 演奏特論 I 音楽表現演習D-II	応用実技 II 演奏特論 II アンサンブル研究 I 音楽表現演習E-I	応用実技 I 演奏特論 II アンサンブル研究 II 音楽表現演習E-II
	科目数	3	3	4	4
科目数計		14	15	10	11

		3年		4年	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
共通全学 (A類) 科目	必修科目				
	科目数	0	0	0	0
音楽学科専門教育科目 (B類)	必修科目			卒業研究	卒業研究
	科目数	0	0	1	1
	選択科目	応用実技 III 演奏特論 II 音楽実技A-V アンサンブル研究 III 音楽表現演習F-I	応用実技 III 演奏特論 II 音楽実技A-VI アンサンブル研究 IV 音楽表現演習F-II	応用実技 IV 演奏特論 II 音楽実技A-VII アンサンブル研究 V	応用実技 IV 演奏特論 II 音楽実技A-VIII アンサンブル研究 VI 音楽表現特別演習
	科目数	5	5	4	5
科目数計		5	5	5	6

表中の*印はスタートアップ・プログラムです。
外国語はイタリア語・ドイツ語・フランス語から選択します。表の外国語はイタリア語の例です。

		1年		2年	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学（A類） 共通科目	必修科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 外国語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 教養科目1 英語 II 外国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習（教職）	教養科目2 小笠原流礼法基礎講座 英語 III 外国語 III	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目3 教養科目4 教養科目5 英語 IV 外国語 IV
	科目数	5	7	4	6
音楽学科専門教育科目（B類）	必修科目	* 音楽文化概論 * 音楽基礎理論 I * ソルフェージュ I * 合唱(第九) I * 音楽実技A-I * 音楽実技B-I	* 音楽キャリアデザイン I * 合唱(第九) II * 西洋音楽史 * 音楽実技A-II * 音楽実技B-II	音楽実技A-III 和声法 I	音楽実技A-IV
	科目数	6	5	2	1
	選択科目	音楽ワークショップ I 音楽表現演習A-I	音楽ワークショップ II 音楽表現演習A-II	音楽ワークショップ III 音楽実技B-III アンサンブル研究 I 音楽表現演習A-III コンピュータ音楽 I 音楽キャリアデザイン II	音楽ワークショップ IV 音楽実技B-IV アンサンブル研究 II 音楽表現演習A-IV リトミック 声楽史
	科目数	2	2	6	6
科目数計		13	14	12	13

		3年		4年	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
共通全学（A類） 科目	必修科目				
	科目数	0	0	0	0
音楽学科専門教育科目（B類）	必修科目			卒業研究	卒業研究
	科目数	0	0	1	1
	選択科目	音楽ワークショップ V 音楽実技A-V 音楽実技B-V アンサンブル研究 III 音楽表現演習A-V 電子楽譜制作法	音楽ワークショップ VI 音楽実技A-VI 音楽実技B-VI アンサンブル研究 IV 音楽表現演習A-VI バロックダンス	音楽ワークショップ VII 音楽実技A-VII 音楽実技B-VII アンサンブル研究 V 音楽表現演習A-VII	音楽ワークショップ VIII 音楽実技A-VIII 音楽実技B-VIII アンサンブル研究 VI 音楽表現演習A-VIII 音楽表現特別演習
	科目数	6	6	5	6
科目数計		6	6	6	7

表中の*印はスタートアップ・プログラムです。
外国語はイタリア語・ドイツ語・フランス語から選択します。表の外国語はイタリア語の例です。

		1年		2年	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学 (A類 共通科目)	必修科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 外国語 I スポーツと健康 I 情報活用演習(基礎)	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 教養科目1 英語 II 外国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習(教職)	教養科目2 小笠原流礼法基礎講座 英語 III 外国語 III	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目3 教養科目4 教養科目5 英語 IV 外国語 IV
	科目数	5	7	4	6
音楽学科専門教育科目 (B類)	必修科目	*音楽文化概論 *音楽基礎理論 I *ソルフェージュ I *合唱(第九) I *音楽実技A-I *音楽実技B-I	*音楽キャリアデザイン I *合唱(第九) II *西洋音楽史 *音楽実技A-II *音楽実技B-II	音楽実技A-III 和声法 I	音楽実技A-IV
	科目数	6	5	2	1
	選択科目	音楽ワークショップ I ○教職入門 ○教育基礎論	音楽ワークショップ II ○民族音楽学概論(含む日本の伝統音楽)	音楽ワークショップ III 音楽実技B-III コンピュータ音楽 I 音楽キャリアデザイン II ○合奏 ○発達心理学 ○音楽科教育法 I ○教育方法学 ○生徒指導(進路指導を含む) ○介護体験実習	音楽ワークショップ IV 音楽実技B-IV 和声法 II ○指揮法 ○特別支援教育総論 ○教育課程論 ○音楽科教育法 II ○特別活動の指導法 ○教育相談
	科目数	3	2	10	9
科目数計		14	14	16	16

		3年		4年	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
共通全学 (A類 共通科目)	必修科目				
	科目数	0	0	0	0
音楽学科専門教育科目 (B類)	必修科目			卒業研究	卒業研究
	科目数	0	0	1	1
	選択科目	音楽ワークショップ V 音楽実技B-V ○作曲(含む教材編曲法) I ○伴奏法 I ○日本音楽演習A(歌唱) ○音楽科教育法 III ○道德教育の指導法 ○総合的な学習の時間の指導法	音楽ワークショップ VI 音楽実技B-VI 作曲(含む教材編曲法) II 教職演習 I ○日本音楽演習B(和楽器) ○教育社会学 I ○音楽科教育法 IV	音楽ワークショップ VII 音楽実技B-VII 教職演習 II ○教育実習(中・高)	音楽ワークショップ VIII 音楽実技B-VIII ○教職実践演習(中・高)
	科目数	8	7	4	3
科目数計		8	7	5	4

表中の*印はスタートアップ・プログラムです。

表中の○印は教職(中・高免許)科目です。

外国語はイタリア語・ドイツ語・フランス語から選択します。表の外国語はイタリア語の例です。

		1年		2年	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
全学（A共通科目）	必修科目	SEITOKU Academic Literacy I 英語 I 外国語 I スポーツと健康 I 情報活用演習（基礎）	SEITOKU Academic Literacy II 日本国憲法 教養科目1 英語 II 外国語 II スポーツと健康 II 情報活用演習（教職）	教養科目2 小笠原流礼法基礎講座 英語 III 外国語 III	SEITOKU Academic Literacy III 教養科目3 教養科目4 教養科目5 英語 IV 外国語 IV
	科目数	5	7	4	6
音楽学科専門教育科目（B類）	必修科目	*音楽文化概論 *音楽基礎理論 I *ソルフェージュ I *合唱(第九) I *音楽実技A- I *音楽実技B- I	*音楽キャリアデザイン I *合唱(第九) II *西洋音楽史 *音楽実技A- II *音楽実技B- II	音楽実技A-III 和声法 I	音楽実技A-IV
	科目数	6	5	2	1
	選択科目	音楽ワークショップ I 障害児と音楽 ◎音楽療法概論 ◎教育基礎論	音楽ワークショップ II 成人・高齢者と音楽 ◎音楽基礎理論 II ◎民族音楽学概論（含む日本の伝統音楽） ◎医学概論 ◎社会福祉概論 ◎障害児教育論 ◎音楽療法技能A	音楽ワークショップ III 音楽実技B-III 音楽キャリアデザイン II コンピュータ音楽 I ◎音楽療法の理論と技法 I ◎音楽療法各論A ◎合奏 ◎施設実習 ◎発達心理学 ◎音楽科教育法 I	音楽ワークショップ IV 音楽実技B-IV 和声法 II ◎音楽療法の理論と技法 II ◎音楽療法各論C ◎臨床心理学 I ◎指揮法 ◎音楽療法技能C ◎音楽療法演習
	科目数	4	8	10	9
科目数		15	20	16	16

		3年		4年	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
共通全学（A類）	必修科目				
	科目数	0	0	0	0
音楽学科専門教育科目（B類）	必修科目			卒業研究	卒業研究
	科目数	0	0	1	1
	選択科目	音楽ワークショップ V 作曲（含む教材編曲法） I 伴奏法 I 音楽キャリアデザイン III ◎臨床医学各論 I ◎臨床心理学 II ◎介護概論 ◎音楽療法技能B ◎音楽療法実習 I ◎日本音楽演習A（歌唱） ◎音楽家のためのリテラシー ◎ギター演習	音楽ワークショップ VI 作曲（含む教材編曲法） II ◎音楽療法各論B ◎臨床医学各論 II ◎音楽療法実習 II ◎音楽心理学	音楽ワークショップ VII ◎音楽療法実習 III	音楽ワークショップ VIII ◎音楽療法実習 IV
	科目数	12	6	2	2
科目数計		12	6	3	3

表中の＊印はスタートアップ・プログラムです。

表中の◎印は音楽療法士の資格に必要な科目です。

外国語はイタリア語・ドイツ語・フランス語から選択します。表の外国語はイタリア語の例です。

各種免許・資格課程の履修について

各種資格を取得するためには、各学科の卒業要件を満たすほか、資格ごとに所定の単位並びに本学で定める科目を履修する必要があります。

資格を取得するために必要な授業科目及び単位数、並びにその履修方法については、下記のとおりです。
理解を深めて授業に臨んでください。

1. 「取得できる免許・資格」について

本学で取得できる資格は下記のとおりです。

免許・資格名		履修費	登録できる学部・学科(○印が可能)							備考	
			教育学部		文学部	心理・福祉学部		人間栄養学部	看護学部		音楽学部
			児童学科	教育学科	文学科	心理学科	社会福祉学科	人間栄養学科	看護学科		音楽学科
教員免許状	幼稚園教諭一種免許状	40,000	○※	(○)							※幼稚園教員コースは必修 ※1 中高免とあわせて取得可能 ※中高免とあわせて取得可能
	小学校教諭一種免許状	60,000	(○)	○						○※1	
	小学校教諭二種免許状	30,000								○※	
	中学校教諭一種免許状	60,000	(○)	(○)			(○)	○		○	
	中学校教諭一種免許状	40,000			○	(○)					
	高等学校教諭一種免許状	60,000	(○)	(○)			○	○		○	
	高等学校教諭一種免許状	40,000			○	(○)					
	特別支援学校教諭一種免許状	30,000	(○)	○※							
	養護教諭一種免許状	40,000					○				
栄養教諭一種免許状	20,000						○			※小免とあわせて取得可能	
国家資格	社会福祉士(受験資格)	60,000					○				
	精神保健福祉士(受験資格)	60,000					○				
	保育士	60,000	○※2					○※3			
	介護福祉士(受験資格)	100,000					○※				
	公認心理師(受験資格)	別途指示					○※4				
	社会福祉主事(任用資格)	-	○					○			○※
	児童福祉司(任用資格)	-	○	○				○			
	児童指導員(任用資格)	-	○	○				○			
	社会教育主事(任用資格)	50,000	○	○	○	○	○	○		○	
	図書館司書	20,000	○	○	○※	○	○	○		○	
	学校図書館司書教諭	20,000	○	○	○	○	○	○		○	
	学芸員	60,000	○	○	○	○	○	○		○	
	管理栄養士(受験資格)	-						○			
	栄養士	-						○※			
	食品衛生管理者(任用資格)	-						○			
	食品衛生監視員(任用資格)	-						○			
	看護師(受験資格)	-							○※		
保健師(受験資格)	60,000							○		※必修 ※必修	
民間資格	フードスペシャリスト(受験資格)	-						○			
	レクリエーションインストラクター	20,000	○	○	○	○	○	○			○
	キャンプインストラクター	20,000	○	○	○	○	○	○			○
	認定心理士	-	○			○					
	ピアヘルパー(受験資格)	-	○				○				○
	音楽療法士(1種)	別途指示									○
	認定音楽療法士(受験資格)	別途指示									○
	ジュニアスポーツ指導員(受験資格)	別途指示		○							
	初級バラスポーツ指導員	別途指示		○							
健康運動実践指導者(受験資格)	別途指示		○								
	日本語教員養成講座	60,000	○	○	○	○	○	○		○	

[注] ①学校図書館司書教諭の修了証書は、学校の教諭の免許状を有するものについてその効力が生じる資格です。

②学校図書館司書教諭と図書館司書の両資格取得希望者の履修費は、合わせて20,000円です。

③学芸員の資格については、3年次に実習配属が確定してから別途連絡します。

④小・中学校教諭免許状を取得する場合には、介護等の体験が必要です。

「介護等の体験を要する者」は、別途、介護等体験実習費10,000円が必要になります。

⑤【看護学部】保健師(受験資格)の資格取得については、3年次より履修します。

2年次秋学期に説明会を実施します。

※4 卒業後、大学院において公認心理師法で定められた科目を修めてその課程を修了するか、定められた実習施設にて2年以上の実務経験が必要です。

2. 「他学科開設科目の履修について」

上記の資格を取得するためには、他学科において開設する科目を履修することができます。

3. 「実習」について

一部の資格を取得するためには実習が必要です。実習については別途指示があります。

4. 「免許・資格課程の履修登録」について

各種免許・資格を取得するための課程を履修する学生は、次のとおり課程履修登録をする必要があります。原則として2年次春学期に手続きします。詳しい日程等は別途指示があります。

(1) 手続き方法

指定の期日までに申請手続きをしてください。別途手続きの案内があります。

登録できる免許・資格は、卒業要件となっているものを除き、原則として2種類以内です。

なお、1年次の成績(GPA)が、一定の水準に達した場合は、3種類以上取得可能です。

なお、免許・資格の取得が、所属学科・コースの卒業要件となっている課程は、教育支援課で一括登録を行うので、手続きは必要ありません。

(2) 手続き期間

原則として2年次春学期に手続きしてください。詳しい日程等は、別途掲示で連絡いたします。

(3) その他の注意事項

①履修登録の届けをしないで履修しても、免許・資格は取得できません。

②履修途中において課程登録を取り消す場合は、保証人連署の課程履修取り消し願いをクラス担任および科目担当教員の了承を得て指定期日までに教育支援課に提出してください。

③希望する全ての免許・資格が卒業までに取得できるとは限りません。

④夜間主の学生で、卒業要件とならない免許・資格を取得するには、昼間(9:00～17:55)の時間帯の科目の履修が必要となります。

⑤各免許及び資格に必要な科目の受講については、課程の登録にかかわらず授業開始日より受講してください。

[図書館司書 学校図書館司書教諭 科目一覧]

別表Ⅷ－1

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	司 書	司 教	履 修 年 次								備考
						1		2		3		4		
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	生涯学習概論		2	○		○								
☐	図書館概論		2	○		○								
☐	図書館情報技術論		2	○			○							
☐	図書館制度・経営論		2	○				○						
☐	図書館サービス概論		2	○					○					
☐	情報サービス論		2	○			○							
☐	児童サービス論		2	○				○						
☐	情報サービス演習Ⅰ	演	1	○				○						
☐	情報サービス演習Ⅱ	演	1	○					○					
☐	図書館情報資源概論		2	○	○		○							
☐	情報資源組織論		2	○	○	○								
☐	情報資源組織演習Ⅰ	演	1	○				○						
☐	情報資源組織演習Ⅱ	演	1	○					○					
☐	図書館基礎特論		2	△						○				
☐	図書館サービス特論		2	△					○					
☐	図書館情報資源特論		2	△							○			
☐	図書・図書館史		2	△				○						
☐	図書館施設論		2	△						○				
☐	図書館総合演習	演	1	△							○			
☐	学校経営と学校図書館		2		○			○						
☐	学習指導と学校図書館		2		○				○					
☐	読書と豊かな人間性	※	2		○					○				
☐	情報メディアの活用		2		○						○			
	計		41											

【履修上の注意】

1. 図書館司書の資格を取得する者は、司書欄に○印を付された科目全部と、△印を付された科目のうち2科目以上を履修しなければならない。
2. 学校図書館司書教諭の資格を取得する者は、司教欄に○印を付された科目を履修しなければならない。なお、司書教諭の修了証書の効力は、学校の教員免許を取得した時点から生じることになる。
3. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。
4. 授業の方法欄の「演」は演習科目、※を付された科目は講義及び実技科目。空欄は講義科目。
5. 原則として履修年次欄に○印を付された通り履修すること。
6. 図書館司書について、文文学科の学生は学科の履修要項のとおり履修してください。

[社会教育主事任用資格関係科目]

別表Ⅷ－2

チ エ ッ ク 欄	授 業 科 目	授 業 の 方 法	単 位	必 修	履修年次								備 考
					1		2		3		4		
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
☐	生涯学習論Ⅰ		2	○			○						
☐	生涯学習論Ⅱ		2	○				○					
☐	生涯学習支援論Ⅰ		2	○			○						
☐	生涯学習支援論Ⅱ		2	○				○					
☐	社会教育経営論Ⅰ		2	○					○				
☐	社会教育経営論Ⅱ		2	○						○			
☐	家庭教育と社会教育Ⅰ		2				○						A群:8単位選択必修
☐	家庭教育と社会教育Ⅱ		2					○					
☐	図書館概論		2				○						
☐	博物館概論		2				○						
☐	教育基礎論		2				○						
☐	教育原理		2		○								
☐	特別支援教育総論		2			○							
☐	教育社会学Ⅰ		2							○			
☐	博物館情報・メディア論		2							○			
☐	文化財の保護		2							○			
☐	社会教育実習Ⅰ	実	1	○					○				B群:3単位選択必修
☐	社会教育演習Ⅰ	演	1						○				
☐	社会教育演習Ⅱ	演	1							○			
☐	社会教育実習Ⅱ	実	1							○			
☐	社会教育課題研究Ⅰ	演	1								○		
☐	社会教育課題研究Ⅱ	演	1									○	
	計		38										

【履修上の注意】

1. 社会教育主事任用資格を取得する者は、必修欄に○印を付された科目全部とA群より8単位、B群より3単位を含み、24単位を履修すること。
2. 上記の科目は、卒業所要単位数に算入しない。但し、各学科専門教育科目として履修した場合は、この限りではない。
3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
4. 原則として履修年次欄に○印を付された通り履修すること。

[学芸員関係科目]

別表Ⅷ－3

チェック欄	授 業 科 目	授業の方法	単 位	A 欄	履修年次								備考	
					1		2		3		4			
					春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	生涯学習概論		2	○			○							
☐	博物館概論		2	○			○							
☐	博物館経営論		2	○				○						
☐	博物館資料論		2	○				○						
☐	博物館資料保存論		2	○					○					
☐	博物館展示論		2	○						○				
☐	博物館情報・メディア論		2	○					○					
☐	博物館教育論		2	○						○				
☐	博物館実習	実	3	○					○	○				
	計		19											

【履修上の注意】

1. 学芸員の資格を取得する者は、A欄に○印を付された科目全部を履修しなければならない。
2. 上記の科目は、卒業所要単位数には算入しない。但し、各学科専門教育科目として履修した場合この限りではない。
3. 授業の方法欄の「実」は実習科目、空欄は講義科目。
4. ①博物館実習は、博物館の見学、実務実習などを合算して履修する。
②博物館実習は次の各号に該当しなければ受講することができない。
ア. 受講年次以前に配当された科目は、履修済であること。
イ. 当該年次に配当された科目は、履修見込みであること。
③博物館実習の受講許可人員は年20～30名までとする。
5. 原則として履修年次欄に○印を付された通り履修すること。

[レクリエーション関係科目]

別表Ⅷ－4

チ ェ ッ ク 欄	授 業 科 目	授業 の 方法	単 位	レクリエーション		履修年次								備 考	
				ライ ク ン ス ー ト	キ ャ ン プ	1		2		3		4			
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
☐	野外活動論		2	○	○			○							
☐	レクリエーション概論		2	○			○								
☐	レクリエーション基礎演習Ⅰ	演	1	○				○							
☐	レクリエーション実習Ⅰ	実	1	※	※				○						
☐	レクリエーション実習Ⅱ	実	1	※	※				○						
☐	レクリエーション事業参加	☆	1	○											
	計		8												

【履修上の注意】

1. レクリエーションインストラクター、キャンプインストラクターの資格を取得する者は、各資格該当に○印を付された科目すべてと、※印を付された科目をどちらか1科目履修しなければならない。
2. 上記の科目は、卒業所要単位に算入しない。但し、各学科専門教育科目として履修した場合この限りではない。
3. 授業の方法欄の「演」は演習科目、「実」は実習科目、空欄は講義科目。
4. 原則として履修年次欄に○印を付された通り履修すること。
5. ☆印の科目については別途指示があります。

[日本語教員養成講座(全学科)]

この講座は、外国人に対する日本語教員の資質向上を目的として行われる「日本語教育能力検定試験」の出題領域科目を主体として編成する日本語教員志望の養成講座である。

上記の検定試験は、現在資格付与ということはないが合格者には合格証書が交付される。なお、本講座の
 本学相当科目は、ほとんどが文学科に開設されているが、他学科の者も履修することができる。
 修了した者には修了証明書が交付される。

別表Ⅷ－5

標準教育内容(出題領域)	チェック欄	本学相当科目			履修要項
領域区分		科目名	必要単位	選択単位	
日本語の構造に関する体系的・具体的な知識	☐	日本語概説Ⅰ	2		
	☐	日本語概説Ⅱ	2		
	☐	日本語学特講Ⅰ	2		
	☐	日本語学特講Ⅱ	2		
	☐	日本語の語法Ⅰ		2	
	☐	日本語の語法Ⅱ		2	
	☐	現代語の研究Ⅰ	1		
	☐	現代語の研究Ⅱ	1		
	☐	日本語表現法Ⅰ	1		
	☐	日本語表現法Ⅱ	1		
	☐	日本語の音声	2		
	☐	小計	(14)		
日本人の言語生活等に関する知識	☐	日本語の歴史Ⅰ	2		
	☐	日本語の歴史Ⅱ	2		
	☐	小計	(4)		
日本事情(古典と文芸を含む)	☐	日本事情Ⅰ	2		
	☐	日本事情Ⅱ	2		
	☐	日本文化入門		2	
	☐	日本文学概説Ⅰ		2	
	☐	日本文学概説Ⅱ		2	
	☐	日本文学特講Ⅰ		2	
	☐	日本文学特講Ⅱ		2	
	☐	小計	(4)		
言語学的知識・能力	☐	言語学概論Ⅰ	2		
	☐	言語学概論Ⅱ	2		
	☐	日本語の方言Ⅰ		2	
	☐	日本語の方言Ⅱ		2	
	☐	小計	(4)		
日本語の教授に関する知識・能力	☐	日本語教育の概要Ⅰ	2		
	☐	日本語教育の概要Ⅱ	2		
	☐	日本語教授法Ⅰ	2		
	☐	日本語教授法Ⅱ	2		
	☐	日本語教育教材研究Ⅰ	1		
	☐	日本語教育教材研究Ⅱ	1		
	☐	日本語教育演習Ⅰ	1		
	☐	日本語教育演習Ⅱ	1		
	☐	小計	(12)		
計		本学所要最低単位	38		



SEITOKU UNIVERSITY

部

科

コース

年

クラス

学籍番号

—

氏名
